

# 若宮八幡宮遺跡

## 第1次発掘調査

～上野ヶ丘中学校の校舎建替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

2006年3月

大分市教育委員会

# 若宮八幡宮遺跡

## 第1次発掘調査

～上野ヶ丘中学校の校舎建替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

2006年3月

大分市教育委員会



空から見た調査地点（西より）



空から見た調査地点（東より）



調査区全景





SH135 遺物出土状況（北より）



SH220 遺物出土状況（東より）



SH135・SH140 出土製塩土器



SH135 出土ミニチュア土器



SH135 出土玉類成品・未成品



SH220 出土玉類成品・未成品

## 序 文

本書は、平成15年度に大分市教育委員会が、上野ヶ丘中学校校舎の建替えに伴い実施しました若宮八幡宮遺跡第1次調査の報告書です。

大分市は、県都として、さらに中核都市としての風格を備えた魅力あふれるまちづくりを推進し、本市の基本構想である「心かよい 緑あふれる 躍動都市」の実現に、鋭意努めているところであります。市教委では、調査・保存・指定・管理・公開等の事業を推進しながら、「自然と史跡を生かした」21世紀の都市づくりに向けて努力いたしております。

若宮八幡宮遺跡は、多数の竪穴住居跡・掘立柱建物跡によって形成される古墳時代を中心とする集落遺跡であることが分かりました。とくに、本市では初例となる曲玉などの玉づくり工房跡の発見は、大変注目される成果となりました。

しかし、学校内の調査のためグラウンドが長期間にわたり使用できず、子どもたちの教育環境に大きな影響を与えることとなりました。これも、貴重な文化財を記録保存する必要な措置であり、ご理解いただきたいと存じます。また、授業の一環である総合学習の時間を利用した、豊の都市大分っ子「すこやか体験活動」の教材として、発掘体験、遺跡の説明会、遺物の展示などの取り組みも併せて行ない、生徒の皆さんが、文化財保護の大切さについて学習できたことも意義深いことであつたと考えております。

なお、玉づくりの工房跡については遺構の保存を図ることとし、遺構表示や解説パネルなどの設置も併せて行うことにしました。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にあたり特段のご配慮・ご協力を賜りました関係機関・各位ならびに諸先生方には、衷心より感謝申し上げます。

平成18年3月31日

大分市教育委員会

教育長 秦 政 博

## 例 言

1. 本書は、平成15年度に大分市教育委員会が、同学校整備課の委託を受け実施した上野ヶ丘中学校の校舎建て替え工事に伴う、埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査及び報告書作成の費用は、同学校整備課が負担した。
3. 発掘調査は、後藤典幸・上野淳也・水町裕子・吉本明弘・秦さとしがこれを主体となっておこない、調査のサポート業務を大分市教育委員会の委託を受けて九州埋蔵文化財リサーチがおこなった。
4. 本書の執筆は、第Ⅰ章を後藤が、第Ⅱ章を上野が、第Ⅲ章を水町が、第Ⅳ章を古環境研究所が、第Ⅴ章Ⅰを萩幸二が、Ⅱを上野が、第Ⅵ章を水町がそれぞれ担当した。なお、第Ⅲ章の製塩土器は上野が執筆し、石器・土鍾は萩が、SD120弥生早期の遺物は井口あけみが実測・執筆をおこなった。出土遺物の整理については、小野裕子・神力哲子・神崎順子・武藤由紀子（臨時職員）がおこなった。
5. 本書の編集は、水町がおこなった。
6. 発掘調査および調査における遺構の写真撮影は、調査員および大分市教育委員会の委託を受けて九州埋蔵文化財リサーチがおこなった。
7. 発掘調査における調査区の航空写真撮影は、大分市教育委員会の委託を受け、九州航空がおこなった。
8. 遺構写真は、大分市教育委員会の委託を受け、大分コピーが、スライドフィルムからデジタルスキャニングをおこなった。
9. 遺物の写真撮影は、石器・土鍾を萩・水町が、大分市教育委員会の委託を受けて玉願（顕微鏡による）を古環境研究所が、前述以外の遺物を鎖西カラーおよび辻多洋一氏がおこなった。
10. 本書における遺構の実測は、一部を大分市教育委員会の委託を受け、九州埋蔵文化財リサーチ、九州航空がおこない、その他を調査員、臨時職員がおこなった。
11. 本書における遺物の実測・製図作業は、一部を大分市教育委員会の委託を受け、九州埋蔵文化財サポートシステム、雅企画がおこない、その他を大分市文化財課職員、嘱託・臨時職員がおこなった。
12. 本書におけるトレースは、小野裕子・武藤由紀子および一部を大分市教育委員会の委託を受け、大分コピーがおこなった。
13. 本書における石器石材鑑定の一部は、野田雅之氏（大分県地質学会会長）に委託した。
14. 出土遺物、記録資料は、大分市顕徳町文化財資料室（大分市顕徳町3丁目2-43）に収蔵・保管している。
15. 発掘調査及び報告書作成に際して、下記の方々に指導・御助言を頂いた。

大久保徹也氏（徳島文理大学）、河野光男氏（金池南一丁目自治会長）、小林義孝氏（大阪府教育委員会）、植山 洋氏（大阪市文化財協会）、竹原伸次氏（大阪府教育委員会）、田中裕介氏（大分県教育委員会）、野島 稔氏（四條市教育委員会）、加見泰彦氏（和歌山県立紀伊風土記の丘）、宮崎泰史氏（大阪府教育委員会）

また、遺物の実測・製図作業トレース作業等に関しては、多くの御援助をいただいた。下記に記して、感謝を表します。

佐白めぐみ・杉山英世子・高橋真千代・武田真知子・辻本 彩・堤美智代・野地川賢二・中山麻理子・中山光歩・神田智美・日野 広

## 凡 例

1. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N.）である。また、基準点の座標値は国土調査法第Ⅱ座標系による。
2. 本書に用いた遺構略号は、SB：掘立建物跡、SD：溝状遺構、SE：井戸遺構、SF：道路状遺構、SH：竪穴建物跡、SK：土坑、SP：柱穴跡、SX：性格不明遺構を表している。
3. 土器・陶磁器の編年・種別分類の内、須恵器は田辺昭三氏の編年<sup>1</sup>、13世紀以前の白磁・青磁は太宰府市教育委員会編の分類<sup>2</sup>、それ以降の白磁は森田勉氏<sup>3</sup>、青磁は上田秀夫氏の分類<sup>4</sup>、中国産染付は小野正敏氏の分類<sup>5</sup>、肥前系陶磁器は大橋康二氏<sup>6</sup>の編年、備前焼は栗岡実氏<sup>7</sup>の編年をそれぞれ用いた。また、日本貿易陶磁学会分類の変更箇所に関しては、日本貿易陶磁学会の活動<sup>8</sup>に、肥前系陶磁器の編年の変更箇所に関しては、九州近世陶磁学会の活動<sup>9</sup>に負った。
4. 土器・陶磁器の編年・種別分類の表記方法に関しては、13世紀以前の白磁・青磁は「大宰府分類●類」、14世紀以降の白磁は「森田分類●群」、青磁は「上田分類●類」、中国産染付は「小野分類●群」、肥前系陶磁器は「大橋編年●期」、備前焼は「栗岡編年●期」と表記する。
5. 本書において石器事実記載に際して用いられる、表裏および上下左右の表現は、図版上での表裏、上下左右を示すものである。
6. 石材名に関しては、考古学的に一般的に通用している名称に即して、荻が肉眼及び顕微鏡観察によって判断したが、一部は野田氏に肉眼及び顕微鏡観察による鑑定を依頼した。石材名としては、黒曜石・サヌカイト・安山岩・角閃石安山岩・頁岩・チャート・鉄石英・玉髓・メノウ・石英・凝灰岩・砂岩・水晶・軽石・泥岩・天草石・細粒花崗岩・結晶片岩・雲母片岩・緑泥片岩・蛇紋岩類・粘板岩・千枚岩の23種を使用した。黒曜石については、乳白色のものを大分県延岡産、黒色・透明質のものは腰岳・牟田産のものと判断し、後者については判別が困難なため腰岳系と一括した。サヌカイトについては良質で表面にひび状の風化の浮かぶものを経験的に香川県金山産、紡錘車に選別的に用いられたものを野田氏の教示に従って豊後大野市大野町産と称し、他の産地不明のものは単に「サヌカイト」と既述した。なお、大野町産については、荻が産地で同種の石材を採取して、補足的に確認した。安山岩については、一般的な安山岩とガラス質安山岩に細分した。凝灰岩に関しては、均質・良質で雄城台を中心とする七瀬川流域に産するものを「雄城台産」として、他の凝灰岩と区別した。結晶片岩・緑泥片岩・雲母片岩・蛇紋岩類に関しては、野田氏の教示と荻による採取石材との比較から、佐賀関から丹生台地に延びる大分市東端地域の片岩類の岩脈に産するものと判断し、総称的に佐賀関産と称した。蛇紋岩類については濃緑色～黒色を呈し、変成を受けた蛇紋岩と、蛇紋岩・滑石が変成を受ける前の石材で、淡緑色を示すカンラン石に細分されると野田氏から教示を受けた。研磨して玉類に製作されると区別の困難なものも多く存在するが、両者の色の違いと、石器器種によって蛇紋岩とカンラン石を選択するものがあること、また石質の差異から同種の玉類であっても製作技術に差異が生じることから、蛇紋岩類を蛇紋岩とカンラン石に細分することとした。石器器種・石材別組成表において記載した石材の一部については、略号化ないしは総合化した。以下に記す。Ob＝黒曜石 Sn＝サヌカイト An＝安山岩 蛇紋岩類＝蛇紋岩・千枚岩・粘板岩 安山岩類＝安山岩・ガラス質安山岩
7. 本書における時期表記方法に関しては、世紀を初頭・前葉・中葉・後葉・末葉形の5区分で表記する。また、必要に応じて、前・後期および四半世紀表記などをおこなう

<sup>1</sup> 田辺昭三 1981『須恵器大成』

<sup>2</sup> 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV 陶磁器分類編』

<sup>3</sup> 森田 勉 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会



- <sup>4</sup> 上田秀夫 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- <sup>5</sup> 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付陶、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- <sup>6</sup> 大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社
- <sup>7</sup> 栗岡 実 2000 「備前焼播鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』中近世備前焼研究会
- <sup>8</sup> 日本貿易陶磁研究会 2000 『城館出土の貿易陶磁器』貿易陶磁研究集會 四国大会資料集 日本貿易陶磁研究会－織豊前夜の西国大名と貿易－
- <sup>9</sup> 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』

# 目 次

|                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| 第I章 はじめに                          | 1   |
| 1. 調査にいたる経過                       | 1   |
| 2. 調査期間                           | 1   |
| 3. 調査組織                           | 1   |
| 第II章 遺跡の立地と環境                     | 3   |
| 第III章 調査報告                        | 11  |
| 1. 弥生時代                           | 15  |
| 溝状遺構 (SD)                         | 16  |
| 井戸遺構 (SE)                         | 34  |
| 竪穴建物跡 (SH)                        | 37  |
| 土坑 (SK)                           | 37  |
| 柱穴跡 (SP)                          | 43  |
| 2. 古墳時代                           | 44  |
| 掘立柱建物跡 (SB)                       | 44  |
| 溝状遺構 (SD)                         | 64  |
| 道路状遺構 (SF)                        | 67  |
| 竪穴建物跡 (SH)                        | 70  |
| 土坑 (SK)                           | 128 |
| 柱穴跡 (SP)                          | 132 |
| 3. 近世                             | 136 |
| 溝状遺構 (SD)                         | 137 |
| 性格不明遺構 (SX)                       | 137 |
| 近世の遺構に帰属しない出土遺物                   | 144 |
| 4. 近・現代                           | 148 |
| 溝状遺構                              | 148 |
| 5. 時期不明遺構                         | 150 |
| 土坑                                | 150 |
| 6. グリッド出土遺物および一括遺物                | 152 |
| 7. 出土土鍾                           | 160 |
| 第IV章 自然科学分析                       | 189 |
| 1. 若宮八幡宮遺跡第1次調査から出土した土器等の蛍光X線分析   | 189 |
| 第V章 考察                            | 199 |
| 1. 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点出土の石器について        | 199 |
| 2. 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点出土の大阪湾沿岸製塩土器について | 219 |
| 第VI章 まとめ                          | 232 |
| 1. 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点の遺構変遷            | 232 |
| 2. 古墳時代の若宮八幡宮遺跡第1次調査地点            | 236 |
| 3. 結び                             | 241 |

# 図 版 目 次

|        |                                                   |        |        |                                     |        |
|--------|---------------------------------------------------|--------|--------|-------------------------------------|--------|
| 第 1 図  | 調査地周辺地形分類図(『大分市史』上 一部<br>改変)および道路分布図 (1/40000) …… | 3      | 第 43 図 | SB003出土遺物実測図 (1/4、1/2) ……           | 47     |
| 第 2 図  | 調査地周辺道路分布図 (1/40000) ……                           | 5      | 第 44 図 | SB004遺構実測図 (1/50) ……                | 48     |
| 第 3 図  | 調査地周辺地形図・微地形分類図複合図<br>(『大分市史』上 一部改変)(1/6000) ……   | 8      | 第 45 図 | SB004出土遺物実測図 (1/4) ……               | 48     |
| 第 4 図  | 調査地周辺地形図・現代地図複合図<br>(1/6000) ……                   | 9      | 第 46 図 | SB005遺構実測図 (1/50) ……                | 49     |
| 第 5 図  | 遺構配置図 (1/250) ……                                  | 11, 12 | 第 47 図 | SB006出土遺物実測図 (1/4) ……               | 49     |
| 第 6 図  | 土層柱状模式図 ……                                        | 11, 12 | 第 48 図 | SB006遺構実測図 (1/50) ……                | 50     |
| 第 7 図  | 遺構実測図 (1/200) ……                                  | 13, 14 | 第 49 図 | SB007遺構実測図 (1/50) ……                | 51     |
| 第 8 図  | 弥生時代遺構配置図 (1/400) ……                              | 15     | 第 50 図 | SB007出土遺物実測図 (1/2、1/4) ……           | 51     |
| 第 9 図  | SD120c遺構実測図 (1/60) ……                             | 16     | 第 51 図 | SB008遺構実測図 (1/50) ……                | 52     |
| 第 10 図 | SD120出土遺物実測図① (1/4) ……                            | 16     | 第 52 図 | SB008出土遺物実測図 (1/2、3/4、1/4)<br>…………… | 52     |
| 第 11 図 | SD120b遺構実測図 (1/60) ……                             | 17     | 第 53 図 | SB009遺構実測図 (1/50) ……                | 53     |
| 第 12 図 | SD120a遺構実測図 (1/60) ……                             | 18     | 第 54 図 | SB010遺構実測図 (1/50) ……                | 54     |
| 第 13 図 | SD120出土遺物実測図② (1/3) ……                            | 19     | 第 55 図 | SB011出土遺物実測図 (1/4) ……               | 54     |
| 第 14 図 | SD120出土遺物実測図③ (1/3) ……                            | 21     | 第 56 図 | SB011遺構実測図 (1/50) ……                | 55     |
| 第 15 図 | SD120出土遺物実測図④ (1/3) ……                            | 22     | 第 57 図 | SB012遺構実測図 (1/50) ……                | 55     |
| 第 16 図 | SD120出土遺物実測図⑤ (1/3) ……                            | 23     | 第 58 図 | SB012出土遺物実測図 (1/4) ……               | 56     |
| 第 17 図 | SD120出土遺物実測図⑥ (1/3) ……                            | 24     | 第 59 図 | SB013遺構実測図 (1/50) ……                | 56     |
| 第 18 図 | SD120出土遺物実測図⑦ (1/3) ……                            | 25     | 第 60 図 | SB013出土遺物実測図 (1/4) ……               | 56     |
| 第 19 図 | SD120出土遺物実測図⑧ (1/3) ……                            | 26     | 第 61 図 | SB014遺構実測図 (1/50) ……                | 57     |
| 第 20 図 | SD120出土遺物実測図⑨ (1/3) ……                            | 27     | 第 62 図 | SB014出土遺物実測図 (1/4) ……               | 57     |
| 第 21 図 | SD120出土遺物実測図⑩<br>(3/2、1/1、1/2、3/4) ……             | 30     | 第 63 図 | SB015遺構実測図 (1/50) ……                | 58     |
| 第 22 図 | SD120出土遺物実測図⑪ (3/4、1/1) ……                        | 32     | 第 64 図 | SB016遺構実測図 (1/50) ……                | 59     |
| 第 23 図 | SD120出土遺物実測図⑫ (1/2、3/4) ……                        | 33     | 第 65 図 | SB017遺構実測図 (1/50) ……                | 60     |
| 第 24 図 | SD598遺構実測図 (1/40) ……                              | 34     | 第 66 図 | SB017出土遺物実測図 (1/4) ……               | 60     |
| 第 25 図 | SD598出土遺物実測図 (1/4) ……                             | 34     | 第 67 図 | SB018遺構実測図 (1/50) ……                | 61     |
| 第 26 図 | SE096遺構実測図 (1/20) ……                              | 35     | 第 68 図 | SB019遺構実測図 (1/50) ……                | 62     |
| 第 27 図 | SE096出土遺物実測図① (1/4) ……                            | 36     | 第 69 図 | SB020遺構実測図 (1/50) ……                | 62     |
| 第 28 図 | SE096出土遺物実測図② (1/4、1/1、1/2)<br>……………              | 37     | 第 70 図 | SB020出土遺物実測図 (1/2、1/4) ……           | 62     |
| 第 29 図 | SH125遺構実測図 (1/50) ……                              | 38     | 第 71 図 | 溝状遺構配置図 (1/400) ……                  | 64     |
| 第 30 図 | SK115遺構実測図 (1/30) ……                              | 39     | 第 72 図 | SD270遺構実測図 (1/60) ……                | 65     |
| 第 31 図 | SK115出土遺物実測図① (1/4) ……                            | 40     | 第 73 図 | SD270出土遺物実測図 (1/4) ……               | 65     |
| 第 32 図 | SK115出土遺物実測図② (1/2、3/4、1/4)<br>……………              | 41     | 第 74 図 | SD306遺構実測図 (1/40) ……                | 66     |
| 第 33 図 | SK390遺構実測図 (1/40) ……                              | 42     | 第 75 図 | SD306出土遺物実測図 (1/4) ……               | 66     |
| 第 34 図 | SK390出土遺物実測図 (1/3) ……                             | 42     | 第 76 図 | SD550遺構実測図 (1/40) ……                | 66     |
| 第 35 図 | SK1009遺構実測図 (1/20) ……                             | 42     | 第 77 図 | SD550出土遺物実測図 (1/4) ……               | 66     |
| 第 36 図 | SK1009出土遺物実測図 (1/4) ……                            | 42     | 第 78 図 | 道路状遺構配置図 (1/400) ……                 | 67     |
| 第 37 図 | SP764遺構実測図 (1/20) ……                              | 43     | 第 79 図 | SF200遺構実測図 (1/50) ……                | 68     |
| 第 38 図 | SP764出土遺物実測図 (1/3) ……                             | 43     | 第 80 図 | SF200出土遺物実測図 (1/4) ……               | 68     |
| 第 39 図 | 掘立柱建物跡遺構配置図 (1/400) ……                            | 44     | 第 81 図 | 竪穴建物跡遺構配置図 (1/400) ……               | 70     |
| 第 40 図 | SB001遺構実測図 (1/50) ……                              | 46     | 第 82 図 | 竪穴建物跡遺構実測図 (1/200) ……               | 71, 72 |
| 第 41 図 | SB002遺構実測図 (1/50) ……                              | 47     | 第 83 図 | SH100遺構実測図 (1/50) ……                | 74     |
| 第 42 図 | SB003遺構実測図 (1/50) ……                              | 47     | 第 84 図 | SH100出土遺物実測図① (1/2、1/4) ……          | 75     |
|        |                                                   |        | 第 85 図 | SH100出土遺物実測図② (3/4、1/1) ……          | 76     |
|        |                                                   |        | 第 86 図 | SH105遺構実測図 (1/50) ……                | 77     |
|        |                                                   |        | 第 87 図 | SH105出土遺物実測図 (3/2、1/2、1/4) ……       | 78     |
|        |                                                   |        | 第 88 図 | SH110遺構実測図① (1/50) ……               | 79     |
|        |                                                   |        | 第 89 図 | SH110遺構実測図② (1/50) ……               | 80     |

|       |                                              |       |                                                   |
|-------|----------------------------------------------|-------|---------------------------------------------------|
| 第90図  | SH110出土遺物実測図(1/1、3/4、1/4) … 81               | 第136図 | SK230遺構実測図(1/20) ……129                            |
| 第91図  | SH130遺構実測図①(1/50) ……82                       | 第137図 | SK230出土遺物実測図(1/4) ……130                           |
| 第92図  | SH130遺構実測図②(1/50) ……83                       | 第138図 | SK985遺構実測図(1/20) ……131                            |
| 第93図  | SH130出土遺物実測図(3/2、3/4、1/4) … 83               | 第139図 | 柱穴跡遺構配置図(1/400) ……132                             |
| 第94図  | SH135遺構実測図(1/50) ……85                        | 第140図 | SP049遺構実測図(1/20) ……133                            |
| 第95図  | SH135出土遺物実測図①(1/4) ……86                      | 第141図 | SP049出土遺物実測図(1/4) ……133                           |
| 第96図  | SH135出土遺物実測図②(1/4) ……88                      | 第142図 | SP055・SP213・SP262・SP570<br>出土遺物実測図(1/2、1/4) ……133 |
| 第97図  | SH135出土遺物実測図③(1/2、1/4) … 89                  | 第143図 | SP623遺構実測図(1/20) ……134                            |
| 第98図  | SH135出土遺物実測図④(1/2) ……90                      | 第144図 | SP623出土遺物実測図(1/4) ……134                           |
| 第99図  | SH135出土遺物実測図⑤(1/1、3/2) … 92                  | 第145図 | SP950遺構実測図(1/20) ……134                            |
| 第100図 | SH135出土遺物実測図⑥<br>(3/4、1/1、1/2) ……94          | 第146図 | SP950出土遺物実測図(1/2) ……134                           |
| 第101図 | SH135出土遺物実測図⑦(3/4) ……95                      | 第147図 | SP983遺構実測図(1/20) ……135                            |
| 第102図 | SH140遺構実測図(1/50) ……96                        | 第148図 | SP983出土遺物実測図(1/4) ……135                           |
| 第103図 | SH140出土遺物実測図①(1/4) ……98                      | 第149図 | SP1008出土遺物実測図(1/4) ……135                          |
| 第104図 | SH140出土遺物実測図②<br>(1/2、1/1、3/4、1/4) ……99      | 第150図 | 近世遺構配置図(1/400) ……136                              |
| 第105図 | SH145遺構実測図(1/50) ……101                       | 第151図 | SD149出土遺物実測図(1/3) ……137                           |
| 第106図 | SH145出土遺物実測図(3/4、1/2、1/4) … 101              | 第152図 | SX300遺構実測図(1/300) ……138                           |
| 第107図 | SH150遺構実測図(1/50) ……102                       | 第153図 | SX300土層断面図(1/50) ……139, 140                       |
| 第108図 | SH150出土遺物実測図(1/2、1/1、1/4)<br>……………103        | 第154図 | SX300縦断面図(1/150) ……139, 140                       |
| 第109図 | SH155遺構実測図(1/50) ……104                       | 第155図 | SX300出土遺物実測図①(1/3) ……141                          |
| 第110図 | SH155出土遺物実測図(1/4) ……104                      | 第156図 | SX300出土遺物実測図②(1/2、1/3) … 142                      |
| 第111図 | SH160遺構実測図(1/50) ……105                       | 第157図 | SX300出土遺物実測図③(1/3) ……143                          |
| 第112図 | SH160出土遺物実測図(1/1、1/4) ……106                  | 第158図 | SX300出土遺物実測図④<br>(1/1、1/2、3/4) ……145              |
| 第113図 | SH170遺構実測図(1/50) ……106                       | 第159図 | 近世の遺構に属しない出土遺物実測図<br>(3/4、1/2、1/1) ……147          |
| 第114図 | SH210遺構実測図(1/50) ……107                       | 第160図 | 近・現代遺構配置図(1/400) ……148                            |
| 第115図 | SH220遺構実測図①(1/50) ……109                      | 第161図 | SD005出土遺物実測図(1/1) ……149                           |
| 第116図 | SH220遺構実測図②(1/20) ……110                      | 第162図 | 時期不明遺構配置図(1/400) ……150                            |
| 第117図 | SH220出土遺物実測図①(1/4) ……111                     | 第163図 | SK347遺構実測図(1/20) ……151                            |
| 第118図 | SH220出土遺物実測図②<br>(1/2、3/2、1/1、3/4、1/4) ……112 | 第164図 | SK347出土遺物実測図(1/2) ……151                           |
| 第119図 | SH220出土遺物実測図③(3/4、1/1) … 113                 | 第165図 | グリッド出土遺物および一括遺物実測図①<br>(1/2、1/3) ……153            |
| 第120図 | SH220出土遺物実測図④(3/4、1/2) … 114                 | 第166図 | グリッド出土遺物および一括遺物実測図②<br>(3/2、3/4、1/1) ……154        |
| 第121図 | SH280遺構実測図(1/50) ……116                       | 第167図 | グリッド出土遺物および一括遺物実測図③<br>(3/4、1/2、1/1) ……156        |
| 第122図 | SH280出土遺物実測図(1/4) ……116                      | 第168図 | グリッド出土遺物および一括遺物実測図④<br>(1/1、3/4、1/2) ……157        |
| 第123図 | SH360・SD380遺構実測図(1/50) … 117, 118            | 第169図 | グリッド出土遺物および一括遺物実測図⑤<br>(3/4、1/1、1/2) ……158        |
| 第124図 | SH360出土遺物実測図①(1/4) ……119                     | 第170図 | 出土土壌実測図(1/2) ……160                                |
| 第125図 | SH360出土遺物実測図②(1/4) ……120                     | 第171図 | 紡錘車の製作工程 ……201                                    |
| 第126図 | SH360出土遺物実測図③(1/2、1/4) … 121                 | 第172図 | 管玉の製作工程(2/3) ……202                                |
| 第127図 | SD380出土遺物実測図(3/4、1/4) ……122                  | 第173図 | SH135出土の勾玉関連品(1/1) ……203                          |
| 第128図 | SH370遺構実測図(1/50) ……123                       | 第174図 | 勾玉の製作工程 ……204                                     |
| 第129図 | SH370出土遺物実測図(1/2、1/1、1/4) … 123              | 第175図 | 蛇紋岩製白玉の製作工程 ……205                                 |
| 第130図 | SH555出土遺物実測図(1/4) ……124                      | 第176図 | カンラン石製白玉の製作工程 ……206                               |
| 第131図 | SH555遺構実測図(1/50) ……125                       | 第177図 | 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点の石材環境                               |
| 第132図 | SH660遺構実測図(1/50) ……126                       |       |                                                   |
| 第133図 | SH670遺構実測図(1/50) ……126                       |       |                                                   |
| 第134図 | SH1000遺構実測図(1/50) ……127                      |       |                                                   |
| 第135図 | 土坑遺構配置図(1/400) ……128                         |       |                                                   |

|                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| と周辺遺跡                                | 213 |
| 第178図 植田市出土の玉および関連遺物<br>〔植田市遺跡〕より    | 214 |
| 第179図 園遺跡出土の玉類〔園遺跡〕より                | 215 |
| 第180図 清太郎遺跡3号住居跡出土の玉類<br>〔清太郎遺跡〕より   | 215 |
| 第181図 福岡県牛ガ熊遺跡臼玉製作工程復原図<br>〔牛ガ熊遺跡〕より | 216 |
| 第182図 分類案対照図(1/8)                    | 219 |
| 第183図 若宮八幡宮遺跡製塩土器出土遺構配置図<br>(1/400)  | 220 |
| 第184図 河内・和泉・紀伊製塩土器出土遺跡分布図            | 221 |
| 第185図 若宮八幡宮遺跡SH135出土遺物(1/3)          | 222 |

|                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 第186図 西庄遺跡出土遺物②2-SB出土遺物(1/3)       | 223 |
| 第187図 西庄遺跡出土遺物②(1/3)               | 224 |
| 第188図 小島東遺跡出土遺物(1/3)               | 224 |
| 第189図 藤原北遺跡出土遺物(1/3)               | 225 |
| 第200図 弥生時代遺構変遷図(1/800)             | 232 |
| 第201図 古墳時代遺構変遷図①(1/800)            | 233 |
| 第202図 古墳時代遺構変遷図②(1/800)            | 234 |
| 第203図 古墳時代終末期～近・現代遺構変遷図<br>(1/800) | 235 |
| 第204図 SH135遺構実測図(1/50)             | 237 |
| 第205図 掘立柱建物跡建物軸別遺構配置図(1/800)       | 240 |

## 表 目 次

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 第1表 遺跡地名表                    | 5   |
| 第2表 塩漬記載一覧(増補訂正編年大友史料より)     | 7   |
| 第3表 SD120出土弥生早期土器組成表         | 28  |
| 第4表 掘立柱建物跡一覧表                | 45  |
| 第5表 道路状遺構一覧表                 | 68  |
| 第6表 竪穴建物跡一覧表                 | 73  |
| 第7表 出土土器観察表                  | 161 |
| 第8表 出土土器観察表                  | 183 |
| 第9表 出土土器観察表                  | 183 |
| 第10表 出土土器観察表                 | 184 |
| 第11表 出土白土・小玉・紡錘車観察表          | 185 |
| 第12表 出土管玉観察表                 | 185 |
| 第13表 出土土器器種・石材別組成集計表<br>弥生時代 | 186 |
| 第14表 出土土器器種・石材別組成集計表<br>古墳時代 | 187 |
| 第15表 出土土器器種・石材別組成集計表<br>時期不明 | 188 |
| 第16表 若宮八幡宮遺跡における蛍光X線分析結果     | 191 |
| 第17表 若宮八幡宮遺跡第1次調査出土のガラス玉     |     |

|                                           |     |
|-------------------------------------------|-----|
| 第18表 SH220出土の石器の器種・石材組成                   | 199 |
| 第19表 若宮八幡宮遺跡第1次調査出土ガラス玉の成分                | 200 |
| 第20表 SD120・SH100出土の管玉製作に関わる石器<br>類の組成     | 202 |
| 第21表 SH135・130出土の臼玉関連遺物                   | 204 |
| 第22表 古墳時代の遺構から出土した燧石の属性                   | 207 |
| 第23表 SH135・220から出土した台石の属性                 | 208 |
| 第24表 SH100・135・220から出土した磁石の属性             | 209 |
| 第25表 若宮八幡宮遺跡第1次調査における各時期の<br>玉類製作の器種と石材   | 212 |
| 第26表 植田市遺跡における各時期の玉類製作の器種<br>と石材          | 215 |
| 第27表 若宮八幡宮遺跡出土丸底1式出土点数                    | 219 |
| 第28表 若宮八幡宮遺跡SH135出土在地系土器・<br>製塩土器蛍光X線分析結果 | 227 |
| 第29表 古墳時代遺構変遷表                            | 233 |
| 第30表 竪穴建物跡施設および出土遺物一覧                     | 239 |

## グラフ目次

|                                                                               |     |
|-------------------------------------------------------------------------------|-----|
| Fig. 1 掘立柱建物跡建物軸方位①                                                           | 45  |
| Fig. 2 掘立柱建物跡建物軸方位②                                                           | 45  |
| Fig. 3 竪穴建物跡建物軸方位                                                             | 73  |
| Fig. 4 若宮八幡宮遺跡における蛍光X線分析結果                                                    | 192 |
| Fig. 5 若宮八幡宮遺跡から出土した土器のK <sub>2</sub> O-CaO<br>分布図およびRb <sub>2</sub> O-SrO分布図 | 193 |
| Fig. 6 蛍光X線分析結果①                                                              | 195 |

|                                                                                             |     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| Fig. 7 蛍光X線分析結果②                                                                            | 196 |
| Fig. 8 蛍光X線分析結果③                                                                            | 197 |
| Fig. 9 蛍光X線分析結果④                                                                            | 198 |
| Fig. 10 SH130・135出土臼玉の大きさ                                                                   | 206 |
| Fig. 11 若宮八幡宮遺跡SH135出土在地系土器・製<br>塩土器のK <sub>2</sub> O-CaO分布図およびRb <sub>2</sub> O-SrO<br>分布図 | 227 |

## 第Ⅰ章 はじめに

### 1. 調査にいたる経過

大分市教育委員会では、教育機能の充実と教育環境の改善を図るため、上野ヶ丘中学校校舎の全面改築を計画し、本年度は、校舎建設を予定しているグラウンド北部分の埋蔵文化財発掘調査を実施した。

調査地周辺は、遺物が表面採集されることから若宮八幡宮遺跡として周知されていたが、いままで発掘調査が行なわれることはなく、今回の調査が初めての本格的調査となった。

### 2. 調査期間

本 調 査      平成15年7月28日～平成16年3月31日

### 3. 調査組織

調査主体者      大分市教育委員会

調査責任者      大分市教育委員会 教育長    秦    政博

事 務 局      大分市教育委員会

平成15年度      帯刀 修一（文化財課課長）  
木村幾多郎（文化財課参事兼大分市歴史資料館館長）  
玉永 光洋（同上 参事）  
讃岐 和夫（同上 課長補佐兼文化財係長）  
久多羅岐明（同上 管理係長）  
平野 勝敏（同上 主査）  
姫野 公徳（同上 指導主事）  
桑原 治（同上 主任）  
安部 一成（同上 主任）  
三浦 亜紀（同上 主事）

調 査 担 当      後藤 典幸（同上 指導主事）  
上野 淳也（同上 嘱託）  
水町 裕子（同上 嘱託）  
吉本 明弘（同上 嘱託）  
秦 さとみ（同上 嘱託）

調 査 必 要      小住 武史（同上 嘱託）

発掘作業員

宇都宮幸子・坂本亜矢子・高田 昇（以上、別府大学学生）

森 祐樹（大東文化大学学生）

麻生 貴文・安部いつよ・岩本 逸雄・上村 隆康・後藤 康子

島田 栄子・清水ヤス子・白岩 令子・杉山美世子

高橋真千代・武田真知子・津田 悦子・西田 勝子・半田 豊馬

古谷 哲男・茂藤 秋男・茂藤佐津美・八木 友美・幸 将志

内山ツネ子・梅木 好子・大塚たま子・大山 末喜・川野 久明

加藤香代子・吉良 二・古長 静代・田島 正美・霍間 幸子

友田スイ子・中村 淑・松本 道子・三浦ミヨ子・水島千枝子

宮迫喜久雄・姫野 学・幸 富蔵・佐藤 広子・田中 一崇

宮崎 共紘・直野 俱枝・草野扶美子・富永 妙子・井野和歌子

深津イツ子・後藤 春美・森田 秀夫・森田 秀夫・加藤 芳男

柴田アイ子・薬師寺設子・桜井モモエ・村上サヨ子

小浦 伊策・石井 功江・佐藤 之義・一宮 安男・後藤トシ子

御幣 晴男・広岡サヨ子

整理作業員

神崎 順子・神力 哲子・武藤由紀子・小野 裕子（同上 臨時職員）



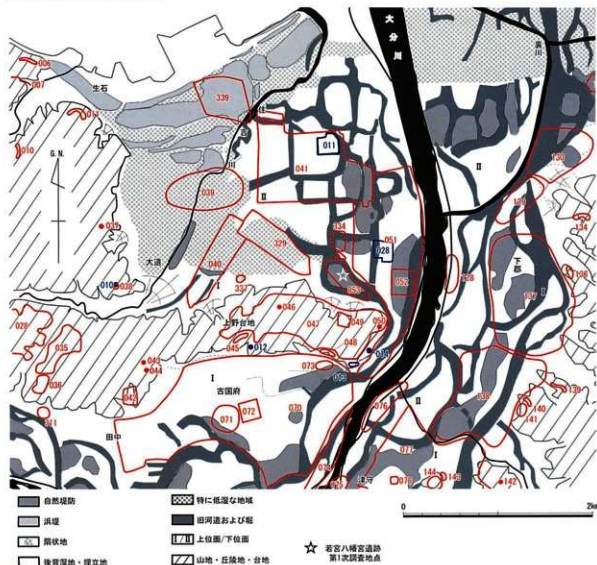


## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 若宮八幡宮遺跡を取り囲む地理的環境

若宮八幡宮遺跡第1次調査地点は、大分平野を流れる大分川左岸の沖積平野上に位置する。大分平野は、大分川・大野川が流れ込む別府湾を北に臨み、三方を山地に囲まれる。大分平野には、主として第四系堆積物が分布し、その堆積物の侵食・堆積作用によって、丘陵、台地、段丘、沖積面が形成されている。縄文海進最盛期(7400年前)には、海岸線が古国府や玉沢地区付近にまで及んでおり、大分川流域の沖積面は、縄文海進以後に形成されたとされている。

大分平野の西を流れる大分川流域の沖積面は、上野台地を境に南北で様相を異にする。南側は、河道変遷が著しく、旧河道や微高地が複雑に入りくむ。一方、上野台地北側はデルタ地帯となっていた。縄文海進以降、住吉川左岸～生石、萩原東方では海岸に並行して浜堤列が発達したことにより、住吉川(毘沙門川)や裏川の流が阻害され、浜堤の背後には後背湿地が広がる。そして、早くに段丘化し、安定した上野台地南側に比べ、北側は遅くまで氾濫原が広がり、低湿であったとされている。しかし、大分川右岸付近では、旧河道を含む河川によって、微高地が形成されている。



第1図 調査地周辺地形分類図(『大分市史』上 一部改変)および遺跡分布図(1/40000)

当調査地は、上野台地北側のデルタ地帯に位置する。上野台地北側断では、弥生時代以降、台地の縁辺に沿うようなかたちで、旧河道や溝状遺構が廻っていたことが、近年の発掘調査から明らかとなってきた。これらの旧河道などに囲まれた標高約6mの微高地上に、若宮八幡宮遺跡第1次調査地点は位置する。

## 若宮八幡宮遺跡を取り囲む歴史的環境

昭和30年の『大分市史』によると、若宮八幡宮遺跡の発掘調査は、若宮八幡社の南側畑地で弥生時代遺物が表層されることから、大分師範学校により執りおこなわれた調査を嚆矢とする。この調査では、弥生時代中期の住居跡が発見されたことから、当調査が実施されるまでは、弥生時代の遺跡として周知されていた。

大分川下流域における人間の居住環境は、上野台地を取り囲む大分川の河道変遷により形成された。この氾濫原には、河道変遷の痕跡として、自然堤防が微高地となって取り残されている。大分県教育委員会の遺跡地図と微地形分類図を重ね合わせると、現在、発掘調査において定住遺構が確認される範囲は、その大半が微地形復元図に微高地として評価されている河川起源の自然堤防や海洋起源の浜堤上に位置することが分かる。大分平野における、それらの定住遺構に関しては、傾向として、弥生中期～古墳時代を初源とする場合が多い。代表的なものとして、東田室遺跡や、当報告書における若宮八幡宮遺跡が挙げられる。ただし、上野台地と沖積低地の境界付近に立地する当遺跡においては、その初源を縄文後期～弥生早期に求めることができる点で、若干の先行性が見受けられる。

大分川下流域左岸では、旧石器・縄文時代の遺物が、庄ノ原台地上に広がる庄ノ原遺跡で確認されている。弥生時代も中期に入ると、台地上に加え沖積面上においても集落が確認され始める。その西側に位置する城南遺跡では、竪穴建物跡と貯蔵穴跡から構成される弥生中期～後期の集落が確認されている。尼ヶ城遺跡では、竪穴建物跡と台地上先端を走る溝状遺構によって構成される弥生時代終末～古墳時代初頭の集落跡があり、瀬戸内地域との交流を示唆する製塩土器が出土していることは注目される。台地北に広がる沖積面の自然堤防上に形成された東田室遺跡では、下城式土器などが出土し、弥生時代前期に遡ると考えられる土坑群が確認されている。上野台地上の上野遺跡群では、祭祀遺構と考えられる隅丸方形溝状遺構、竪穴建物跡、それらを囲む溝状遺構から構成される弥生時代中期の集落跡が発見されている。

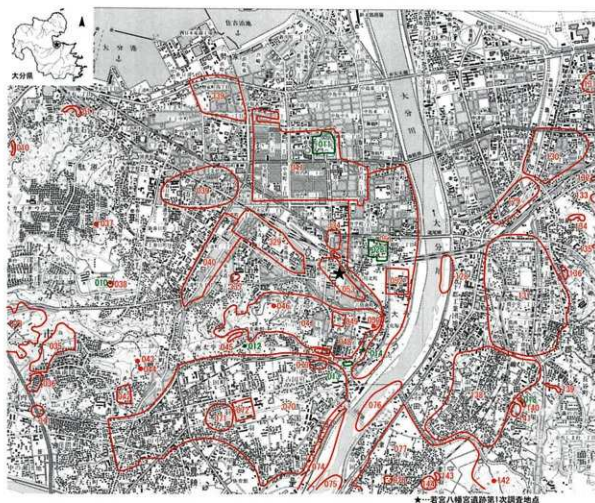
古墳時代に入ると、大分平野の首長墓と目される墳丘墓が、大分川下流域左岸の台地上に次々と造営される。椎迫丘陵上には、4世紀後半に比定される亀甲山古墳が築かれる。円墳もしくは前方後円墳とされており、主体部の箱式石棺からは、椿井人塚山古墳と関連が指摘される三角縁神獣鏡をはじめ、重岡文鏡、碧玉製管玉、ガラス小玉、鉄剣、土師器片が出土している。その後、5世紀代の築造と考えられる全長約50mの前方後円分墳、大臣塚古墳が上野台地上に出現する。古墳は、葺石・周濠を有し、台風被害に起因する。江戸時代に行われた復旧作業では、箱式石棺の中に、人骨、刀、甲冑が納められたとされている。

永興台地上には、5世紀後半、推定全長約47mの千人塚古墳が築かれる。周溝や葺石が確認され、割板式石棺の破片が出土している。同台地南側斜面には、6世紀末～7世紀に比定される、腰石に巨石を配した横穴式石室を有する弘法穴古墳も存在する。

また、6世紀代になると大分川下流域兩岸の丘陵斜面に蟹喰横穴墓群・穴蟹喰横穴群・生石横穴墓群が、上野台地南側斜面に岩屋寺横穴墓群・南太平寺横穴群が形成される。

集落跡としては、上野台地北側の東田室遺跡で古墳時代前期後半～中期を中心とする竪穴建物跡などが検出され、須恵器、土師器、製塩土器などが出土している。

この後、7世紀前半～中頃にかけては、人間の生活痕跡が急激に減少する。その原因としては、遺跡立地の変更が考えられるが、この傾向には、何らかの危機要因、もしくは気候要因、政治要因等の共通因子が作用しているものと考えられる。



第2図 調査地周辺遺跡分布図 (1/40000)

第1表 遺跡地名表

|         |           |     |           |     |             |
|---------|-----------|-----|-----------|-----|-------------|
| 010 038 | 古宮古墳      | 046 | 飯盛塚古墳     | 131 | 松平忠直萩原館推定地  |
| 012     | 伽藍石仏      | 047 | 上野遺跡群     | 132 | 松栄山横穴墓群     |
| 013     | 岩屋寺石仏     | 048 | 岩屋寺横穴墓群   | 133 | 高城石棺群       |
| 014     | 元町石仏      | 049 | 上野大友館跡    | 134 | 下郡横穴墓群      |
| 028     | 大友氏館跡     | 050 | 大臣塚古墳     | 135 | 北下郡横穴墓群     |
| 006     | 蟹喰横穴墓群    | 051 | 中世大友府内町跡  | 136 | 穴井前横穴墓群     |
| 007     | 作原八幡宮参道石畳 | 052 | 荷山万寿寺跡    | 137 | 下郡遺跡群       |
| 010     | 穴喰横穴墓群    | 053 | 若宮八幡宮遺跡   | 138 | 羽田遺跡        |
| 011     | 生石横穴墓群    | 070 | 古国府遺跡群    | 139 | 長谷横穴墓群      |
| 028     | 庄ノ原遺跡     | 071 | 羽屋園遺跡     | 140 | 滝尾百穴横穴墓群    |
| 035     | 城南遺跡      | 072 | 金剛宝戒寺跡    | 141 | 岩屋遺跡        |
| 036     | 尼ヶ城遺跡     | 073 | 岩屋寺跡      | 142 | 津守古墳        |
| 037     | 龜甲山古墳     | 074 | 大分川河川敷1遺跡 | 143 | 碓山横穴墓群      |
| 039     | 東田室遺跡     | 075 | 大分川河川敷2遺跡 | 144 | 碓山山頂遺跡      |
| 040     | 大道条里跡     | 076 | 大分川河川敷3遺跡 | 311 | 佐隈杉下遺跡      |
| 041     | 府内城・城下町   | 077 | 津守遺跡      | 329 | 大道遺跡群       |
| 042     | 永興遺跡      | 078 | 松平忠直津守館跡  | 334 | 南金池遺跡       |
| 043     | 千人塚古墳     | 128 | 大分川河川敷4遺跡 | 337 | 東大道遺跡       |
| 044     | 弘法穴古墳     | 129 | 牧六分遺跡     | 339 | 沖浜遺跡        |
| 045     | 南太平寺横穴墓群  | 130 | 牧遺跡       |     | 上野町遺跡・顕徳寺遺跡 |

以下に紹介する7世紀段階の初期官衙的な施設は、いずれも短期のものである。上野台地南側沖積面の自然堤防上に展開する羽屋園遺跡では、堅穴建物跡、土坑などから構成される5～6世紀代の集落跡が確認され、有孔

円盤、白土、滑石加工品、土製模造鏡などが出土している。また、羽屋園遺跡の北西約250mに位置する羽屋井戸遺跡では、4世紀後半～5世紀初頭の竪穴建物跡や6世紀代の溝状遺構が確認されている。これら羽屋園・羽屋井戸遺跡は、「古国府」という地区の西側に位置する。同地区には、印籠社が存在することから、豊後国府推定地として提唱されてきた土地である。この地区に隣接する前述の羽屋井戸・羽屋園遺跡では、7世紀後半～8世紀初頭の計画的に配置された掘立柱建物跡が検出されている。8世紀前半の成立とされる『豊後国風土記』大分郡条には、「大分河 郡の南にあり」という記述が存在するが、掘立柱建物跡群の7世紀後半という帰属年代から、「郡衙」に先行する「評」に関連する施設との可能性が指摘されている。しかし、「古国府」という地区を包括する古国府遺跡群内においては、条里状地割が見受けられるにもかかわらず、国府との関連を示唆するような遺構群は未確認である。一方、これに続くと考えられる高国府地区には、7世紀後半～8世紀初頭頃に始まる国府に関連すると考えられる遺構群が竜王畑遺跡において確認されている。これらの遺構群は、「曹司」跡である可能性が指摘されるもので、区画施設である築地跡や溝跡は、上野台地上にグリッドプランが展開し始める時期を示唆する。

これら国府関連施設として、上野廃寺や総社円寿寺（岩屋寺）跡などの古代寺院跡の存在を挙げることができる。上野廃寺に関しては、豊前・筑前・肥前・肥後という古代寺院密集地域域外の豊後南部における寺院史の始まりを告げる遺跡で、偏向唐草文の軒平瓦や百済系軒丸瓦、豊後国分寺と同汎の複弁式軒丸瓦等が出土している。また、先学によって国分尼寺の前身として評価されてきた永興寺跡からも古代瓦が採集される。上野廃寺が国府関連の寺院と位置付けられるのに対して、永興寺跡に関しては丑殿古墳（6世紀後半）、大分国造の墳墓とされる「石棚」を持つ千代丸古墳（7世紀初）、弘法穴古墳などに続く地域豪族の私寺としての位置付けが考えられる。また、先述の城南遺跡においては、7世紀後半～8世紀の方形周溝遺構が確認されており、墓制の変遷に関して重要な一視点を投げている。

一方、古墳時代～古代初頭までは、最初に上野台地上に、後には南斜面に墳墓が築かれる傾向にあるが、突如として上野台地と谷を挟んで北に位置する椎迫丘陵に7世紀中頃～後半の築造とされる九州唯一の石棺式石室を持つ古宮古墳が築かれる。古宮古墳は、672年の「壬申の乱」に関係する人物、「大分君恵尺」の墓であると言われるものである。

古代の官衙的遺跡群は、この古宮古墳以降展開し始めたものであり、この古墳築造は律令体制が次の段階に入ったことを示すものと捉えることができる。大宝元（701）年に達成されるその段階は、全国に国家を支える徴税対象生産地を大規模且つ計画的に整備し、大分にも大道・古国府・植田等に条里が展開した。それは、居住には適さない未開の地を、開発の対象地として見据えなおすという視点の変化であったことを指摘することができる。上野台地周辺における条里跡に関しては、北側に大道条里遺跡を、南側に古国府遺跡群を挙げることができ、前者は居住には適さない湿地帯、後者は安定した沖積地に形成されている。

そのような時流の中、権力の視点は、台地上から北側の低地へと次第に遷移してゆくのである。

大道条里の水源の一つと考えられる平野の西南隅から流れ出る住吉川（豊沙門川）は、人間の御しやすい規模の河川として重要なものであった。微地形分類図によると、この川の流域は、そのほとんどが湿地帯として評価されている。これは、大分川による堆積が住吉川の河川運動を制限したためである。すなわち、東へと流れ出ることができなくなったため、大分川の堆積物を迂回して、勢家の浜堤の裏を抜けて、別府湾へと注ぐことになったと考えられる。古宮古墳は、その湿地帯の水源である住吉川を見守るように佇んでいる。

## 上野台地北部の環境歴史学的位置付け

水際の環境（若宮八幡宮遺跡・南金池遺跡・勢久世宇）

高地从り低地へと見下げられた権力の視点移動は、海と陸地の境界域への進出を意味し、水際線への進出であっ

第2表 塩漬記載一覧(増補訂正編年大友史料より)

|         | 年 号     | 西 暦  | 記 述                                | 文 書 名                   |
|---------|---------|------|------------------------------------|-------------------------|
| 古 代     | 久安元年    | 1145 | 八幡山原宮御供(料)塩漬参段子細之状、                | 山原宮御供院清解状               |
|         | 永万元年    | 1165 | 山原宮御供(料)塩漬参段事、                     | 某下文                     |
|         | 嘉祿三年    | 1171 | 八幡山原宮御供塩漬三段子細状、                    | 山原宮御供院清解状               |
|         | 嘉祿二年    | 1226 | 山原宮御供塩漬(漬)参段事、                     | 豊後國留守下文                 |
| 鎌 倉 時 代 | 正安元年    | 1299 | 笠和郷宮成名、勢久世宇屋敷塩漬事、                  | 沙彌阿法志賀朝朝状案              |
|         | 正安元年    | 1299 | 給所笠和郷宮成名内、座敷塩漬事、                   | 大友頼泰書下                  |
|         | 嘉祥二年    | 1327 | 一丁塩漬<br>寺護押領之、                     | 加来社宮主僧源清議状案             |
|         | 建武元年    | 1334 | 同国笠和郷宮成名、勢久世宇屋敷塩漬事、                | 後醍醐天皇輪旨                 |
| 室 町 時 代 | 康永元年    | 1342 | 同国笠和郷宮成名、勢久世宇屋敷、并、塩漬、              | 沙彌正玄志賀忠能議状案             |
|         | 貞和四年    | 1348 | 同国笠和郷勢久世宇屋敷并塩漬、                    | 源志賀頼房議状                 |
|         | 永得(徳)三年 | 1383 | 同国笠和郷勢久世宇屋敷并塩漬、                    | 志賀氏房議状                  |
|         | 応永五年    | 1398 | 同国笠和郷勢久世宇屋敷并塩漬、                    | 志賀親昌議状                  |
|         | 年末詳     |      | 笠和郷内 山原御神領志をは三段事、                  | 加来社家中次<br>志賀親賢・佐保永智連署書状 |
|         | 長禄元年    | 1457 | 一所、笠和郷宮成名内世久勢(字)村、<br>在家二間、塩漬二間之事、 | 志賀親明正文                  |

たとも言える。微地形図を参照すると、かつて大分川左岸の沖積地は、微高地と幾筋もの旧河道が複雑に絡み合いながら形成されており、現在からは想像もつかない起伏にとんだ地形を呈していたことを窺い知ることができる。河川運動と気候変動という二つの因子に左右される海水と淡水の水際線は、この起伏に富んだ地形の中において流動的であり、中世に入ってから緩やかに繰り返される海水面上の上下運動の中、人々は、この水際線に適した生業を行っていたようである。

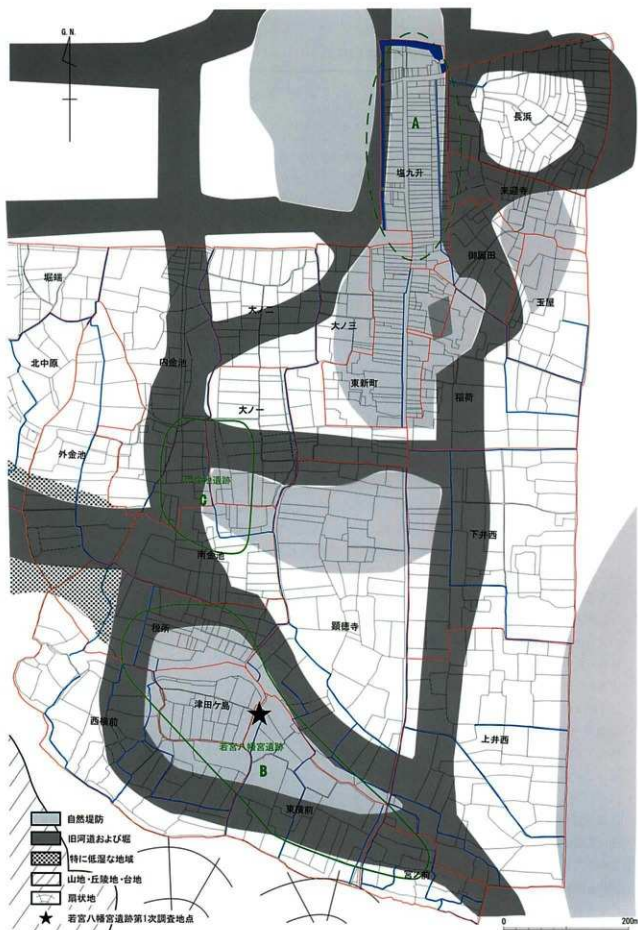
「南金地」と、その南に接する「税所」の両地籍にまたがる南金地遺跡からは、発掘調査により古代(9世紀前半)の製塩土器が大量に出土している。この近辺に位置する尼ヶ城遺跡(弥生)、東田家遺跡・若宮八幡宮遺跡(古墳)からも製塩土器が出土しているが、まとまって出土したのは南金地遺跡のみである。

製塩業という視点を用いると、海水との距離関係が重要となるが、製塩土器の大量出土は、遺跡がかつて水際近くに位置していたことを示すものである。「税所」という土地名称からは、租税の対象物としての「塩」の存在を連想させるが、そのような意味においては、水際線を物資の集積地、或いは買納路としての評価を示す。

古代・中世において大分川左岸の内、上野台地以北に関しては、笠和郷と呼ばれた土地である。古代末〜中世の文書からは、笠和郷宮成名に「塩漬」が存在したことを示す記載を見付けることができる(第2表)。「塩漬」があったのは、「勢久世字」という土地で、その地は近世府内城下町における「塩九升町(ショクジョウ)」に比定される土地である。

「勢久世字」は、古代〜中世に笠和郷に含まれた土地で、古くは久安元(1145)年に宇佐宮領系の「八幡山原宮御供(料)塩漬参段」という記述が確認され、同様の記載が嘉禄元(1226)年まで確認される。この塩漬と同様に、宇佐宮に領されていた勝津留内に位置する岩屋寺石仏、元町石仏は、この平安後期に造営されたものである。この塩漬は、中世に入ると正安元(1299)年以降、「笠和郷宮成名、勢久世宇屋敷塩漬事」として長禄元(1457)年に到るまで、一貫して志賀氏に安堵されていることを把握することができる(第2表)。

海水面の変化は、気候変動の中において、塩漬等、製塩場の維持・運営に大きな影響を及ぼすと考えられるが、逆に製塩遺跡立地の遷移過程は、海水面レベルの上下変動をよく反映するものであると考えられる。近世府内城下町の「塩九升町」に関しては、第3図中のAに当たる。「塩九升町」という呼称の起源となる「勢久世宇屋敷塩漬」という地名の記述が差すものも辺りに比定される。この地は、第3図中Bの若宮八幡宮遺跡から若干の距離を置いて北側に位置し、前述の南金地遺跡は両地点の中間であるC地点に位置する。千田氏の微地形分類図を参照すると(第3図)、この土地は、旧河道が機能していた時期に形成された南北に長い砂丘の北端部右岸に位置する。



第3図 調査地周辺地籍図・微地形分類図複合図（『大分市史』上 一部改変）（1/6000）



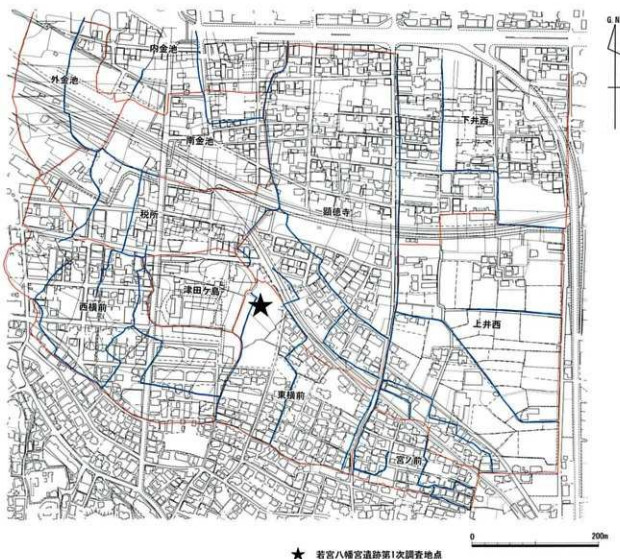
製塩遺跡としての評価に関しては、より詳細な検討が必要であるが、出土製塩土器の帰属年代や古文書の記述から把握できる変遷として、(南) 若宮八幡宮遺跡(古墳時代)→南金池遺跡(古代)→勢久世字塩浜(古代末～中世)(北)というように、次第に北へと変遷していったようにも伺える。

## 水際環境から境界の地へ

若宮八幡宮遺跡→南金池遺跡→勢久世字塩浜という配置を、微地形分類図にプロットすると、それが旧河道沿いに南北に連なるものであることが判明する。この事象は、これらの地点が古墳時代から中世にかけて、海水を追って下っていった事象を示すものであると考えられる。

地籍図における大字境には、これら流路跡や水路跡などが反映される場合が多いが、前述の水際ラインは、現に旧河道として字境沿いに展開する。実際、上野町遺跡・顕徳寺遺跡からは、古代の投網の姿を想像させる大量の土罫が出土している。このことは、この土地が魚撈の場であったことを伝えるものである。

明治初頭の地籍図を参照すると(第4図)、「津田ヶ島」周辺には北から時計回りに、「税所」、「顕徳寺」、「東横前」、「西横前」という字名が確認される。「顕徳寺」という字名は、中世～戦国時代にかけて豊後国守護大友



第4図 調査地周辺地籍図・現代地図複合図 (1/6000)

氏の治める町である「府内町」に建設されたキリスト教関連施設名に由来する。「税所」という字名は、物資・租税の集積地、もしくはそれらを徴税する立場の人物が領有する土地であったと考えられる。「東横前」・「西横前」という地名は、その南側に断崖を挟んで接する大友氏の居館の一つである「御屋敷」（上原館跡）の東西斜め前方という意味であると捉えることができよう。因みに「東横前」には、遺跡名称の由縁たる若宮八幡社が存在する。これら4つの大字は、「津田ヶ島」を中心に取り囲むように旧河川路により画されており、この旧河川は一部自然流路として活用されていたようである。

近世に描かれた「府内古図」は、戦国時代末期の都市景観を描くことを主題とした絵図資料である。「顕徳寺」エリアは、上町・中町・下町として描かれている。しかし、「税所」・「東横前」・「西横前」地域には何も描かれておらず、これらの土地が都市景観外にあったことを示す。これらの土地は、都市景観と農村景観を画する「境界」の土地であったことが指摘できる。因みに、「南金池」には村落景観と思しき景観が表現されている。

「境界」の西側は、駅南の再開発総合整備に関わる発掘調査によって徐々に明らかとなってきた。境界以西においては、弥生時代に始まる流路利用や溝跡が多く確認され、古墳時代・古代に展開しはじめる計画的な導水を伴う農業的生産の場であったと思われる。

大分川によって形成された自然堤防上の面積は、低地と比較して狭小なものであるが、その安定した地盤は早い段階から、開発の対象であり居住に適した地であった。

一方、微高地以外の低地が、居住の対象となるのは、15・16世紀を待たなければならなかったことが、近年の中世大友府内町の発掘調査成果により判明しつつある。

#### 参考文献

- 大分県教育委員会 1993 『大分県内遺跡地図』  
大分県農政部耕地課 1978 『土地分類基本調査 大分・佐賀県』  
大分県教育委員会 2002 『東大道遺跡（B地区）』  
大分市教育委員会 1996～2004 『大分市埋蔵文化財調査年報』vol. 7（1995年度）～vol.15（2003年度）  
大分市教育委員会 1992 『関遺跡』  
大分市史編纂審議会 1955 『大分市史 上』  
大分市史編纂委員会 1987 『大分市史 上』  
後藤宗俊 1985 『「天武紀」の大分君との関係をめぐって』『大分県地方史』第117号  
後藤宗俊 1995 「豊後における古道と駅制」『風土記の考古学4 豊後国風土記の巻』  
讃岐和夫 1995 「古宮古墳と大分君」『風土記の考古学4 豊後国風土記の巻』  
高橋 学 2005 「大分川・七瀬川流域平野の地形環境分析」『玉沢地区条里跡 第8次発掘調査報告書』大分市教育委員会  
田北 学 1962～1971 『増補訂正編年大友史料』  
橋 昌信 1995 『日本の古代遺跡 大分』  
千田 界 1986 「大分川下流域の地形」『大分川流域』大分大学教育学部  
1987 「大分平野のなりたち」『大分市史 上』大分市史編纂委員会  
1987 「大分平野西部の完新世における地形発達」『地理学評論』第60巻7号 日本地理学会  
1988 「地形」『大分県史 地誌篇』

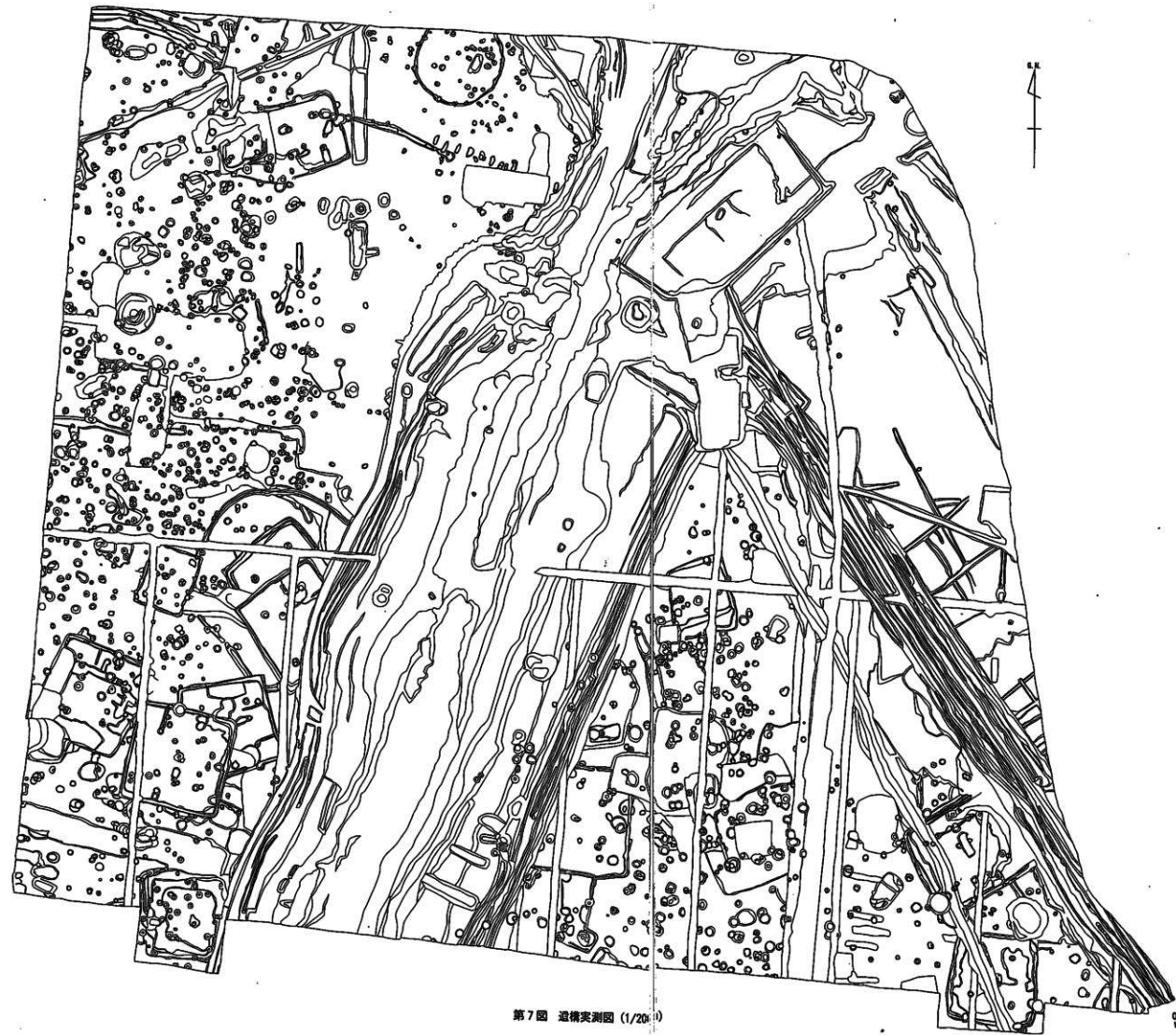




第5図 遺構配置図 (1/250)



第6図 土層柱状模式図

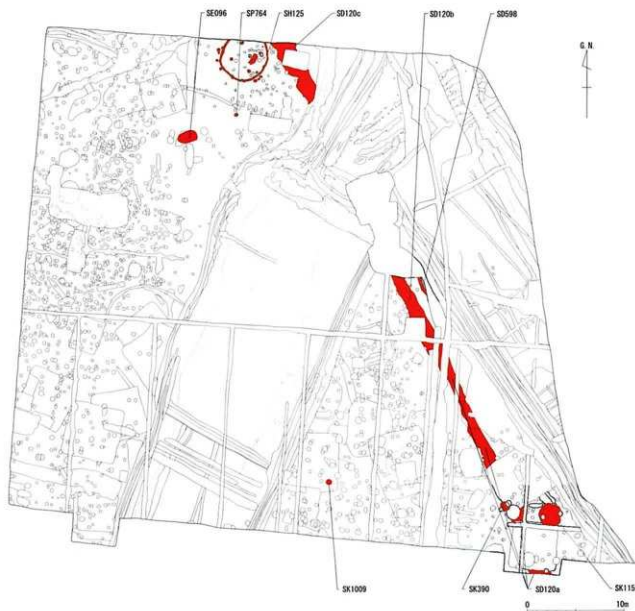


4

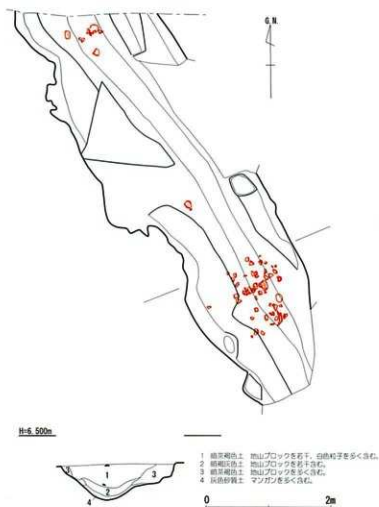
### 第三章 調査報告

#### 1. 弥生時代

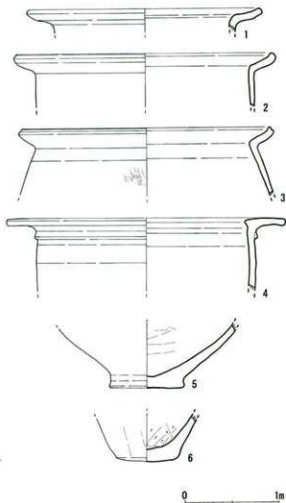
当該期の遺構は少なく、溝状遺構2条、井戸遺構1基、竪穴建物跡1基、土坑3基、柱穴跡1基を数えるのみである。分布域は、SD120近辺に偏る傾向にある。SD120、SK390、SP764からは、弥生時代早期と考えられる遺物が出土する。その他からは、弥生時代中期～後期の遺物が出土しており、出土遺物の時期に大きな断絶がある。SH125は、遺構の遺存状況が悪く、出土遺物からの時期比定はできなかったが、円形の竪穴建物跡であることから、今回、弥生時代の節で報告することとした。第8図に遺構番号を明記し、図示している。



第8図 弥生時代遺構配置図 (1/400)



第9図 SD120 c 遺構実測図 (1/60)



第10図 SD120出土遺物実測図① (1/4)

## 溝状遺構

### SD120

SD120は、調査区を斜めに縦断する溝状遺構である。土層観察からは、ラミナ構造等の流水や堆水の痕跡は確認されていない。上層からは弥生時代中期の土器が出土しており、最終埋没時期は、当該期以降と考えられる。埋土からは、大量の弥生時代早期の土器片が出土しており、廃棄時期は弥生時代早期の可能性が高い。しかし、120 a・bの第1層においては、弥生時代早期の土器片と中期の土器片が同レベルで出土し、また、弥生時代早期に比定される土器の多くが破片であることから、周辺からの流れ込みによる可能性が高い。

### SD120 c (第9図)

当遺構の北西部分は、調査区外に延びている。また、南東部分に関しては、調査区中央の水田遺構などに削平されており、現状で長さ6.9m分を検出した。規模は、幅1.8m、深さ56cmを測る。出土遺物は、第1～3層より出土し、第10図1～4は第1層の暗茶褐色土より出土したものである。

### SD120 b (第11図)

遺構の両端は、水田遺構や現在の溝状遺構によって、削平されている。現状で長さ11.8m分を検出しており、

規模は、幅1.3m、深さ64cmを測る。  
出土遺物は、全層から出土する。第1層の暗茶褐色土層においては、弥生時代早期と中期の土器が混在して出土するが、第2層の茶褐色土においては、弥生時代早期の土器の出土量が多い。

#### SD120 a (第12図)

SD120 aは、現代の溝状遺構に削平されており、南端は調査区外に延びる。当遺構は、SB001、SH110、SH105、SK390との遺構の重複状況から、(古)SK390→SD120→SB001、SH110、SH105(新)となっている。現状で長さ21m分を検出しており、幅1.2m、深さ58cmを測る。

#### 出土遺物 (第10図・第13～23図)

1～4は弥生土器甕である。1～3は逆「L」字状口縁で、2・3は口縁端部を跳ね上げている。4は鋤先口縁で、口縁部下に貼り付け突帯を有する。5・6は弥生土器壺の底部である。

7～248は縄文時代～弥生時代早期に比定される土器および土製品である。これらの遺物は、縄文時代晩期末～弥生時代早期に比定される深鉢、浅鉢、鉢、壺などの土器片が総数3840点と、かなりまとまった量で出土した。出土遺物は、口縁部に一条の刻目突帯文を巡らす下黒野式の良い資料である。下黒野式に先行すると考えられている

口縁部に1条の無刻目突帯を施す深鉢も見られる。多少の時期差も想定されるが、取り上げレベルに差はなく、同じような堆積層から出土している点から、同時期である可能性が高い。弥生時代早期の土器として、深鉢、浅鉢、壺の分類を試みた。

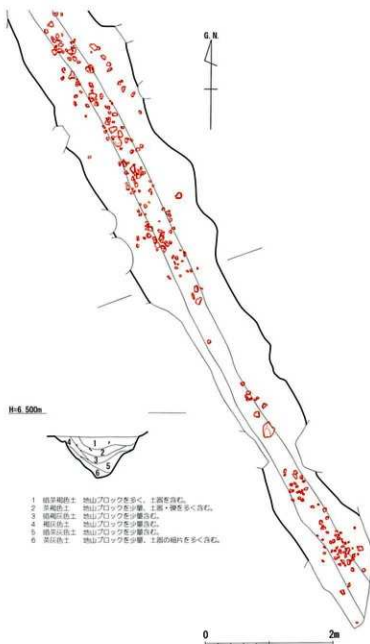
(1) 深鉢口縁部(7～132)は、内・外面に二枚貝による条痕が認められるが、条痕の上から、最終段階にナデ仕上げを施すものも見られる。以下のように6類に分類する。

**深鉢Ⅰ類** 口縁部外面に無刻目突帯を一条巡らす深鉢。内・外面貝殻条痕調整のものと、貝殻条痕後ナデ調整のものが見られる。

Ⅰ-a 口縁部外面に無刻目突帯を一条巡らし、器壁が薄く、丁寧なナデ調整で、精製深鉢と考えられるもの。7～17が該当する。

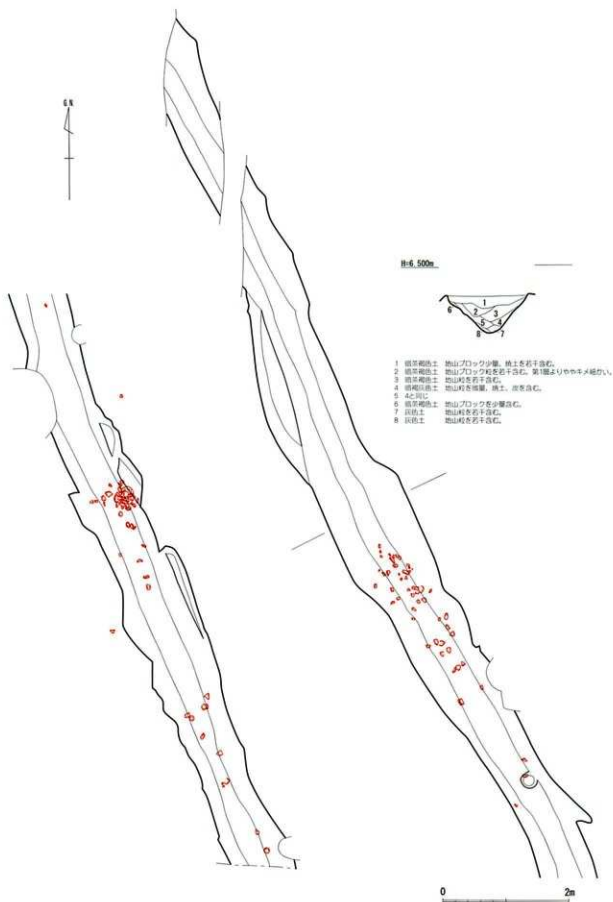
Ⅰ-b 口縁部外面に無刻目突帯を一条巡らし、器壁が厚く粗製深鉢と考えられるもの。

18～36が該当する。

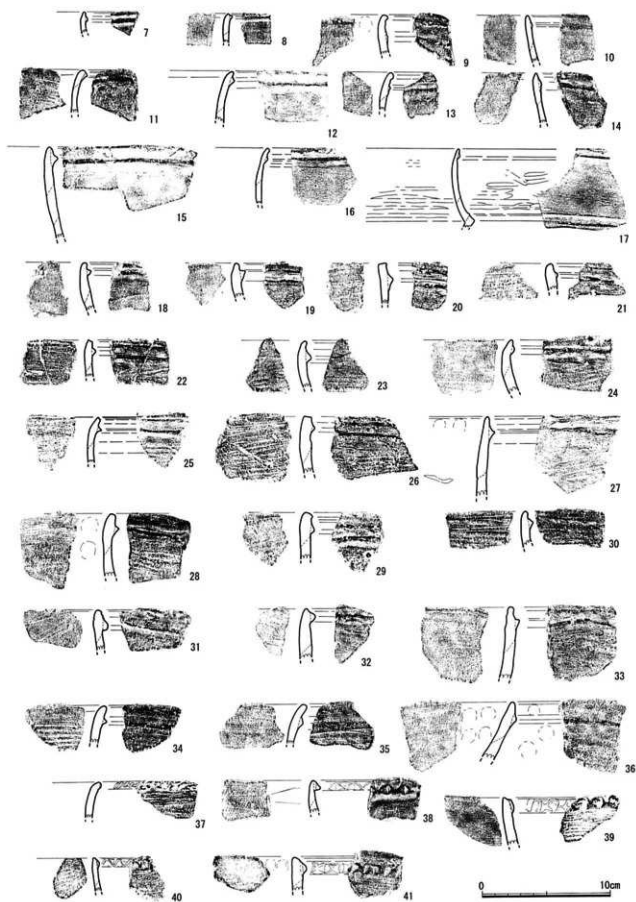


第11図 SD120 b 遺構実測図 (1/60)

- 1 暗茶褐色土 地山ブロックを多く、土器を多く。
- 2 茶褐色土 地山ブロックを少量、土器・破片を多く含む。
- 3 暗茶褐色土 地山ブロックを少量含む。
- 4 暗茶褐色土 地山ブロックを少量含む。
- 5 暗茶褐色土 地山ブロックを少量含む。
- 6 茶褐色土 地山ブロックを少量、土器の破片を多く含む。



第12図 SD120 a 遺構実測図 (1/60)



第13图 SD120出土遺物実測図② (1/3)

**深鉢Ⅱ類** 口縁部外面に刻目突帯を一条巡らす深鉢。38、40～44、47～50、52～54、58～60、65、66、68～70、75、76、79、81、77、83、86～88、90、91、93～99、102、104、106～109、111～114、118の刻目は指(爪)により施されている。37、39、45、46、51、55～57、61～64、67、71～74、77、78、80、82、85、89、92、101、103、105、110、105、119の刻目は工具によって施されている。63、92、101、116の工具は貝殻によるものか。37、56、57は瀬戸内的な属性を有するものである。比率としては指(爪)が61%、工具39%になる。

Ⅱ-a 口縁部上端部に刻目突帯を施すもの。

37～53が該当する。

Ⅱ-b 口縁部下位に刻目突帯を施すもの。

54～116が該当する。106の刻目には指による刻目を施したときの指紋が明瞭に認められる。

**深鉢Ⅲ類** 口縁部外面と屈曲部に各一条の刻目を施すもの。

118が該当する。118の深鉢は、胎土に長石、石英、赤色粒子を含み、色調は内・外面浅黄褐色を呈し、内面は貝殻条痕後ナデ、外面はナデ調整が施され、復元口径は17.6cmを測る。刻目は二条とも爪による施文である。

**深鉢Ⅳ類** 内傾する口縁部の下に刻目突帯を巡らすもの。

119が該当する。

**深鉢Ⅴ類** 内・外面の器面をナデ調整し、口縁部外面に数条の沈線文様を施すもの。

122～127・129～131が該当する。122の深鉢は口縁部下に内・外面の両方向からの焼成後穿孔を施している。

**深鉢Ⅵ類** 無文で内・外面ミガキ調整を施した精製深鉢。

132が該当する。その他120・121・128のように突帯や沈線も無く、内・外面条痕調整の口縁部も存在する。

**深鉢底部** 133～156は深鉢底部。133は内・外面に指頭圧痕が認められる手握ねの底部である。ほとんどの底部径は約9～11cmに収まり、内面ナデ、外面貝殻条痕後ナデ調整のものが主流を占める。

(2) **浅鉢口縁部(157～225)** 内・外面ナデやミガキによる調整のものが主流を占める。以下の9類に分類する。

**浅鉢Ⅰ類** 口縁部と屈曲部に刻目突帯を施すもの。

Ⅰ-a類 口縁部と屈曲部に各一条の刻目を施すもの。

157～161が該当する。159は突帯が一周せず、珍しいタイプの浅鉢である。160の口縁部は指、屈曲部は爪によって刻目が施されている。161の浅鉢は胎土に、石英、角閃石、雲母を含み、色調は内・外面浅黄褐色を呈し、内面ナデ、外面貝殻条痕後ナデ調整で、復元口径は25.2cmを測る。また、口縁部の刻目の内部に木目状の条線が認められる部位があり、工具の原体が木口を持つ木製工具であった事を示している。屈曲部の刻目は爪によるものか。

Ⅰ-b類 屈曲部に刻目を施すもの。

162が該当する。162の浅鉢は、胎土に長石、角閃石、石英、白色粒子を含み、色調は内・外面暗灰色を呈し、内・外面貝殻条痕後ナデ調整で、復元口径は31.4cmを測る。刻目は工具によるものである。

**浅鉢Ⅱ類** 内傾もしくは外傾気味に屈曲する口縁部を持つ浅鉢。口縁端部に一条の沈線を施すものも見られる。

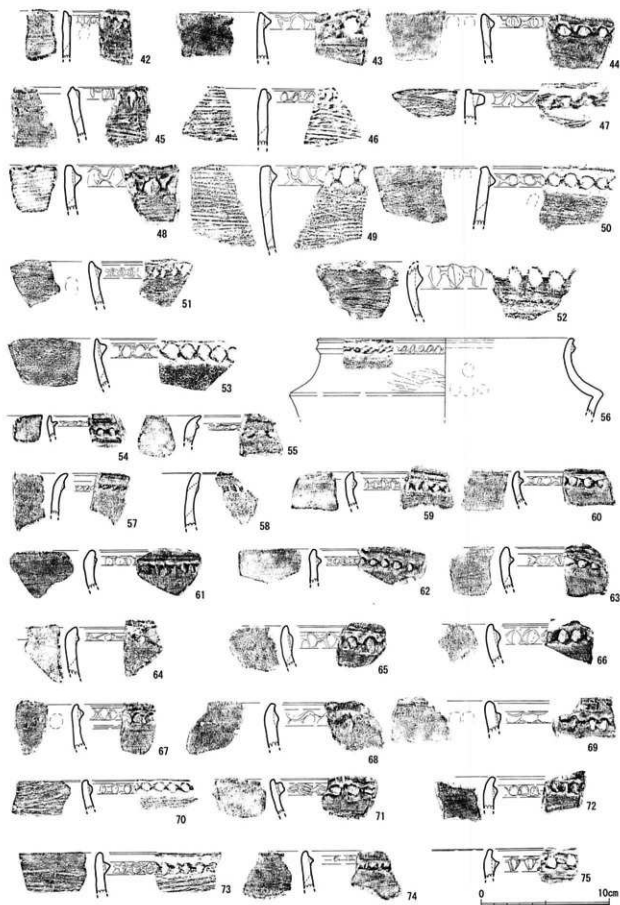
Ⅱ-a類 湾曲気味の口縁部がやや内傾もしくは直立するもの。

163～173、175、177が該当する。163、166は内・外面に、170は外面に赤色顔料塗布が認められる。

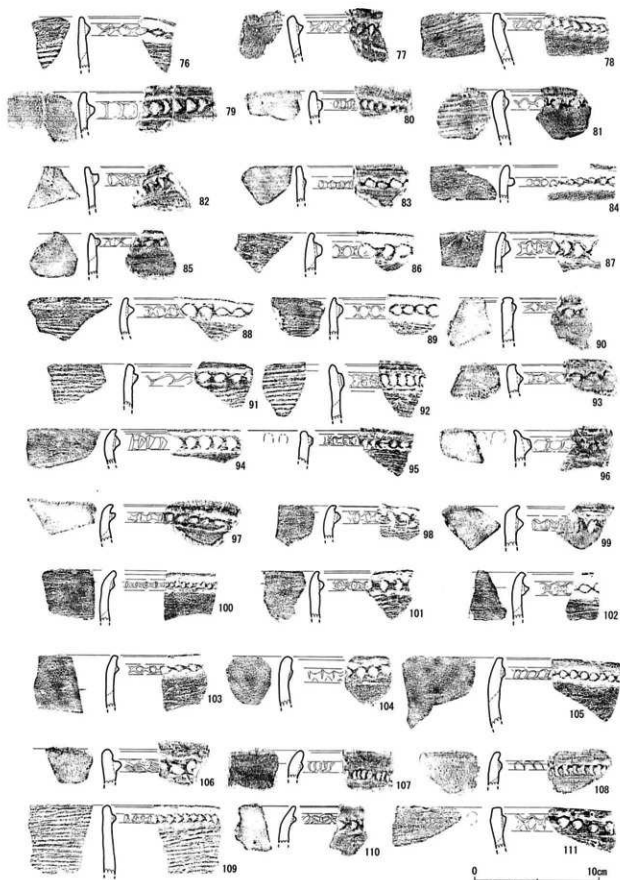
Ⅱ-b類 口縁部がやや外反する「く」字状口縁を有するもの。

174、176、178、179が該当する。176の浅鉢は、胎土に角閃石、長石、石英、雲母、白色粒子

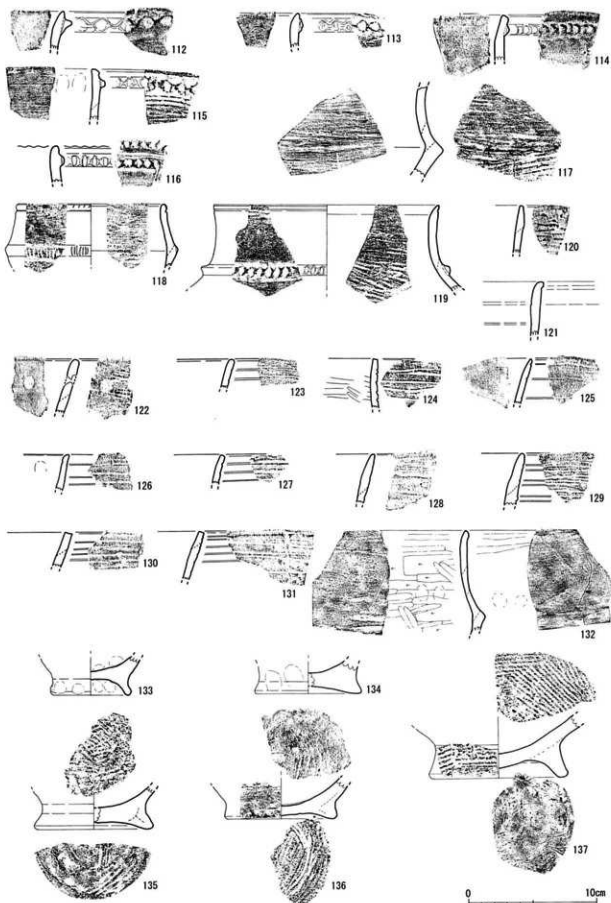




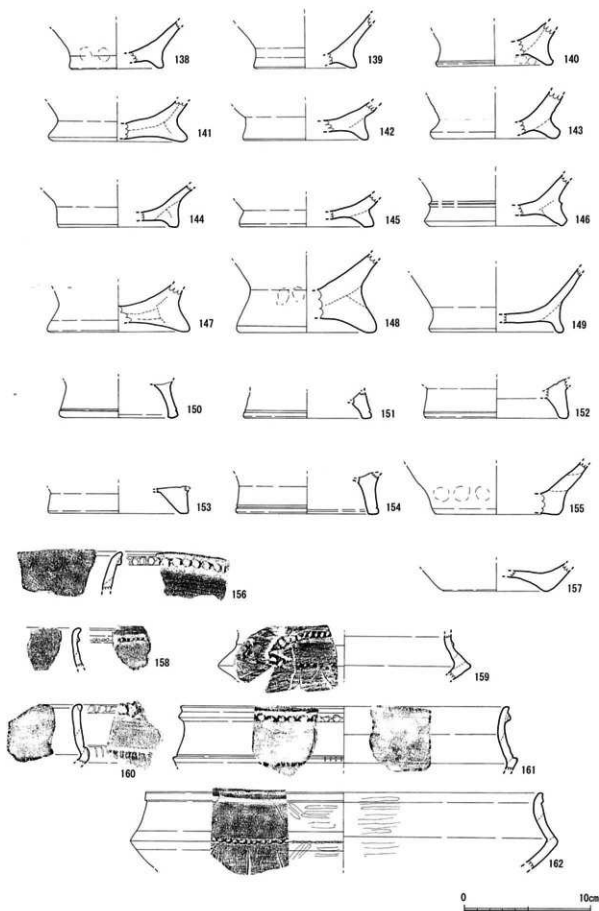
第14圖 SD120出土遺物実測図③ (1/3)



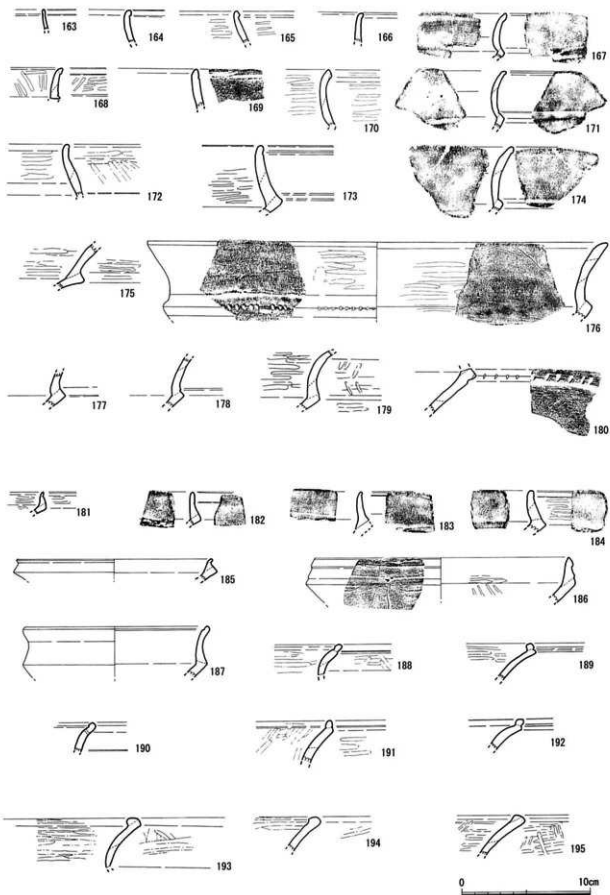
第15图 SD120出土物实测图④ (1/3)



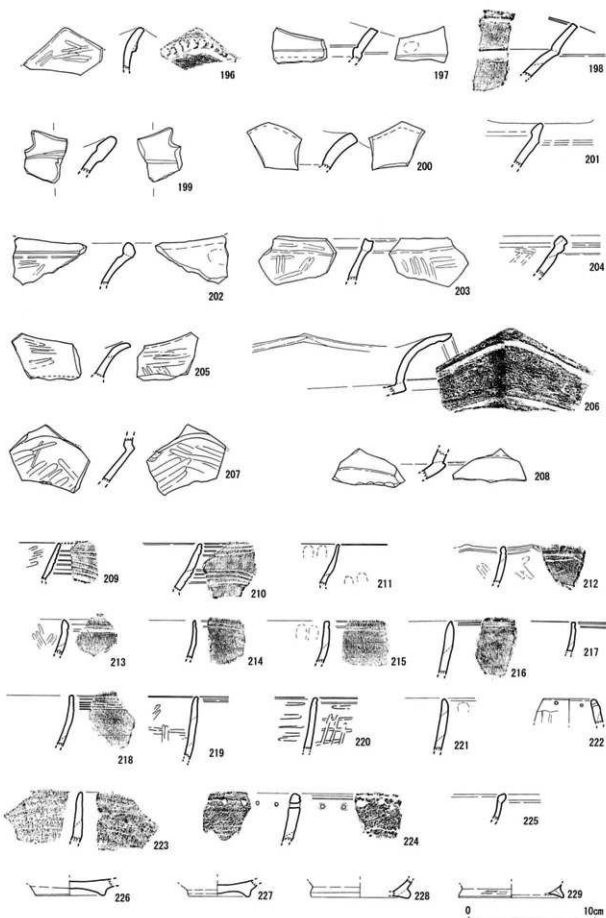
第16図 SD120出土遺物実測図⑤ (1/3)



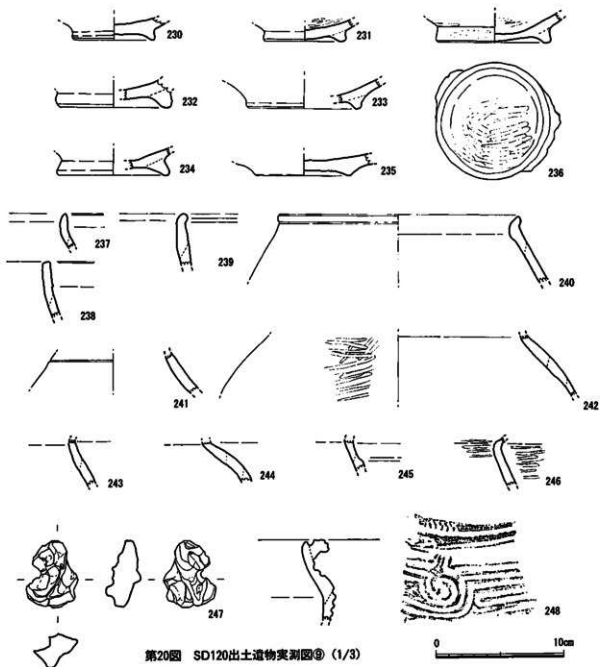
第17图 SD120出土遺物実測图⑥ (1/3)



第18図 SD120出土遺物実測図⑦ (1/3)



第19图 SD120出土遺物実測図B (1/3)



第20図 SD120出土遺物実測図⑨ (1/3)

を含み、色調は内・外面褐色を呈し、内・外面貝殻条痕後ナデ調整で、復元口径は36.0cmを測る。外面に赤色顔料塗布が認められる。178は胴部屈曲部に浅い刻目を施しているものの、器形からⅠ-b類ではなくⅡ-b類に分類をした。178の浅鉢の外面にも赤色顔料塗布が認められる。

浅鉢Ⅲ類 断面尖り気味の短い口縁部を持つもの。

Ⅲ-a類 口縁部がはなはだ短く、ほぼ直立に立ち上がるもの。

181、185が該当する。181の浅鉢は、胎土に石英、角閃石、白色粒子を含み、色調は内・外面灰黄褐色～褐灰色を呈し、内・外面貝殻条痕後平滑ナデ調整で、復元口径は15.6cmを測る。

Ⅲ-b類 口縁部はⅢ-a類より長めで内傾するもの。

182～184、186が該当する。186の浅鉢は、胎土に長石、角閃石、石英、白色粒子を含み、色調は内面浅黄褐色～褐灰色・外面浅黄褐色を呈し、内面ミガキ・外面ナデ調整である。口径19.8cmを測り、外面に赤色顔料の塗布が認められる。

第3表 SD120出土弥生早期土器組成表

| 器 種 |        |   | 口縁部     | 頸 部   | 屈曲部    | 刻目有り | 胴 部      | 底 部 | 手づくね | 合 計      |
|-----|--------|---|---------|-------|--------|------|----------|-----|------|----------|
| 深 鉢 | I 類    | a | 20(1)   |       |        |      |          |     |      | 20(1)    |
|     |        | b | 45      |       |        |      |          |     |      | 45       |
|     | II 類   | a | 34      |       |        |      |          |     |      | 34       |
|     |        | b | 160     |       | 1      |      |          |     |      | 161      |
|     | III 類  |   | 1       |       |        |      |          |     |      | 1        |
|     | IV 類   |   | 14      |       |        |      |          |     |      | 14       |
|     | V 類    |   | 23      |       |        |      | 22       |     |      | 45       |
|     | VI 類   |   | 2       |       |        |      |          |     |      | 2        |
|     |        |   |         |       | 102    | 6    |          | 107 |      | 215      |
| 小 計 |        |   | 299(1)  |       | 103    | 6    | 22       | 107 |      | 537(1)   |
| 浅 鉢 | I 類    | a | 7(2)    |       |        |      |          |     |      | 7(2)     |
|     |        | b | 1       |       |        |      |          |     |      | 1        |
|     | II 類   | a | 31(4)   |       | 2      |      |          |     |      | 33(4)    |
|     |        | b | 3(1)    |       | 2(1)   |      |          |     |      | 5(2)     |
|     | III 類  | a | 3       |       |        |      |          |     |      | 3        |
|     |        | b | 12(2)   |       |        |      |          |     |      | 12(2)    |
|     | IV 類   |   | 3       |       |        |      |          |     |      | 3        |
|     | V 類    |   | 6       |       |        |      |          |     |      | 6        |
|     | VI 類   |   | 5       |       |        |      |          |     |      | 5        |
|     | VII 類  |   | 20(5)   | 6     | 4      |      |          |     |      | 30(5)    |
|     | VIII 類 |   | 4       |       |        |      |          |     |      | 4        |
|     | IX 類   | a | 12(2)   |       |        |      |          |     |      | 12(2)    |
|     |        | b | 8       |       |        |      |          |     |      | 8        |
|     |        |   | 3       | 15    | 73     | 12   | 19       | 28  |      | 150      |
| 小 計 |        |   | 118(16) | 21    | 81(1)  | 12   | 19       | 28  |      | 279(17)  |
| 壺   |        |   | 4       | 6(6)  |        |      |          |     |      | 10(6)    |
| その他 |        |   | 3       | 15    |        |      | 2995(62) |     | 1(1) | 3014(63) |
| 合 計 |        |   | 424(17) | 42(6) | 184(1) | 18   | 3036(62) | 135 | 1(1) | 3840(87) |

( ) は赤色顔料塗布

IV 類 外湾する口縁部の内面に沈線を施したもの。

187・188・190が該当する。187の浅鉢は、胎土に長石、角閃石、石英、赤色粒子を含み、色調は内面暗灰色・外面淡灰色を呈する。内・外面は平滑ナデ調整が施され、復元口径は14.2cmを測る。190には口縁部に外面から内面への焼成前穿孔が認められる。

V 類 外反する口縁で、端部外面に浅い凹線か沈線を巡らすもの。

189、191、192が該当する。内・外面ミガキ調整である。

VI 類 口縁端部の内側が肥厚したもの。

193～195が該当する。これらも内・外面ミガキ調整である。

VII 類 方形浅鉢の器形を呈するもの。

196～208が該当する。197、200、202、204、206の外面には、赤色顔料の塗布が認められる。

VIII 類 尖り気味な口縁を有し口縁部外面に数条の沈線による文様を施すもの。

209～211が該当する。211は沈線による文様は認められないが、同様な器形と考えられるためVIII類に分類した。

IX 類 器形が丸い鉢状をした浅鉢。

IX-a 口縁部外面に沈線を施している鉢。

212～220が該当する。内・外面平滑ナデやミガキ調整である。217・212に関しては、内・外面に赤色顔料の塗布が認められる。



#### IX-b 無文の鉢

221～225が該当する。221・224・225は内・外面ナデ調整、222は内面ナデ・外面貝殻条痕後ナデ調整、223は内・外面貝殻条痕後ナデ調整である。222は復元口径4.2cmを測る小形の鉢である。224は口縁部直下に2箇所、孔径約3mmを測る外面からの焼成前穿孔が認められる。孔列文土器か。

浅鉢底部 凹状の形態を持つものが主流を占める。内・外面はナデやミガキ調整である。

226～236が該当する。235は内・外面に、236は外面に赤色顔料の塗布が認められる。

#### (3) 壺

237～246が該当する。241～246までの壺外面には、赤色顔料の塗布が認められる。

#### (4) その他

247は土製品であるが用途は不明である。胎土は石英、長石、角閃石を含み、色調は褐色を呈し、指により整形されており、全面に赤色顔料が施されている。法量は、縦5.1cm横3.5cm、厚さ2.1cm、重さ36.2gを測るものである。赤色顔料を塗布した痕跡がみられることから、何らかの祭祀に使用された可能性が考えられる。

248は縄文時代後期に比定できる鐘ヶ崎式の円線文土器である。この時期の資料は、他に破片1点を確認しているが、遺構には所属しないものである。

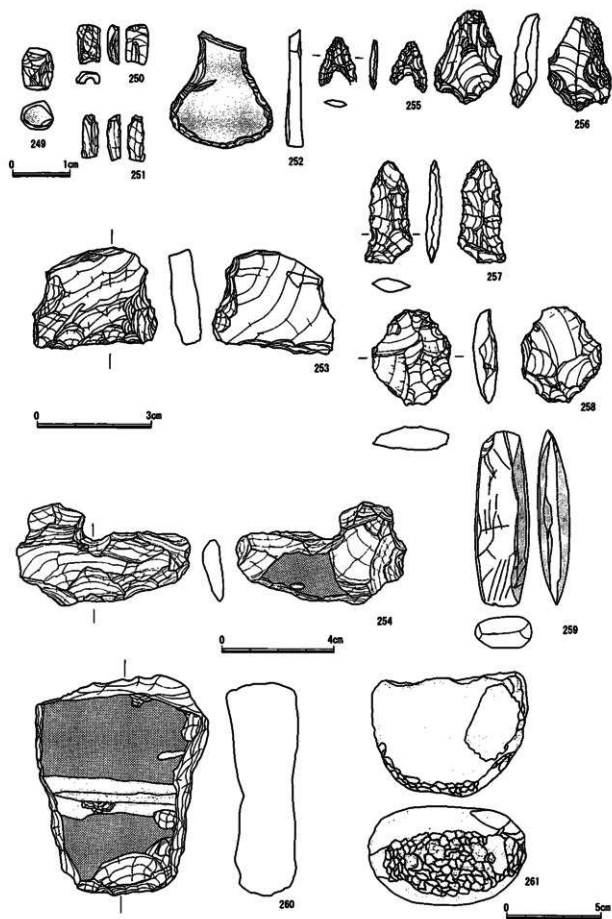
大分県の縄文晩期については、高橋徹氏により土器編年案が提示されている。基本的には、大石式→浦久保式→上菅生B式→下黒野式の順に変遷する。大分における最古の弥生式土器が行われた時期を弥生1期（早期）とし早期＝下黒野式としてきた。ところが、高橋氏の最新の見解によれば（高橋2001）、近年これに先立つ良好な資料を持つ遺跡が見られることから、退化した上菅生B式の粗製深鉢（口縁部外面に無刻目の突帯を巡らす）の有無を持って、1期前半（早期前半）、1期後半（早期後半）の2時期に細分している。これに従えば、SD120出土の土器群は、古段階の早期前半に近い時期といえる。1期前半（早期前半）は、佐隈杉下遺跡、玉沢地区条里跡第7次調査や玉沢地区条里跡二反田遺跡、竹田市河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡遺跡、小園遺跡が挙げられる。1期後半（早期後半）は、刻目突帯単純期「下黒野式」の植田市遺跡、下黒野遺跡、日向塚遺跡、古殿遺跡が挙げられる。

249～277は石器である。本溝状遺構からは、縄文時代後期、弥生時代早期、弥生時代中期の、主に3時期の土器群が出土している。249～251・253・254は、弥生時代中期以降の時期が想定され、255～258の蛭島産黒曜石ないしは金山産と考えられるサヌカイト製の石鏃およびその未成品は弥生時代後期以前の所産と推測される。また、261～270の石鏃は、他地域の例から縄文時代晩期～弥生時代早期の時期に所属し、274・275は弥生時代特有の石器であることから、早期から中期の時期幅が推察される。

249はカンラン石製の短形の管玉未成品と考えられる。表面及び左右側面は、整形加工の痕が顕著に残るが、裏面及び上下端面は磨き調整が認められる。なお、穿孔は施されていない。250はカンラン石製の管玉未成品である。表面には整形のための加工痕が顕著に残り、全体形状も未だ円形にならず、角張っている。上下端も磨かれておらず、下端は折断時の痕痕が顕著に残り、上端は加工痕が残存する。下端からの穿孔後、上端からの穿孔の初期段階で縦割れを起こし、その時点で製作を諦め、遺棄したものと推測される。251はカンラン石製の砕片である。玉（管玉）の素材の折れたものか、或いは調整剥片と推測される。

252は緑泥片岩製の磨製石製品である。上半を欠損しているが、残存する部分は扇状を呈し、表裏面に磨き整形を施している。側面全周も磨かれて白濁しているが、調整痕が顕著に残る。

253・254は二次加工剥片である。253はカンラン石製で、幅広剥片を利用し、上下左右を折断しており、管玉の素材と考えられる。254は粘板岩製で、周縁部に折断加工を施し、表・裏面に平坦割離を行なった後、上端中央に鑿状の凹接ハンマーで抉りを入れており、勾玉未成品と考えられる。



第21圖 SD120出土遺物実測図④ (249=3/2、250~253=1/1、261=1/2、他3/4)

255・257は石織である。255は姫島産黒曜石製で、右脚部を若干、先端を僅かに欠損している。257は金山産と考えられるサヌカイト製の石織である。上半は五角形を呈し、そこから基部に向かって左右の脚部が若干広がる形状を示す。基部は決られず直線状となっている。表・裏面共に押圧剥離が全面に及び、先端を僅かに、右脚部を若干欠損している。256・258は姫島産黒曜石製の石織未成品である。256は表裏面ともに周縁部にのみ加工が施されているだけで、中央部には素材の面が大きく残る。258は押圧剥離が全面には及んでおらず、表面下半中央や裏面上半に素材の面が残る。

259は蛇紋岩製の小形の磨製石斧である。全面磨かれているが、側面には磨きの単位が認められる。また基部側には装着によると考えられる若干の欠損が、また刃部には使用によると推測される微細な剥離痕が見られる。大きさから工具だと推察される。260は砂岩製の砥石である。左側縁を裏面からの折れによって欠損している。上下端面・右側面は折断面を残し、表面にのみ磨き整形が施されている。中央に研ぎによると考えられる左右方向の深い挟りが認められ、管玉を研磨した可能性が高い。

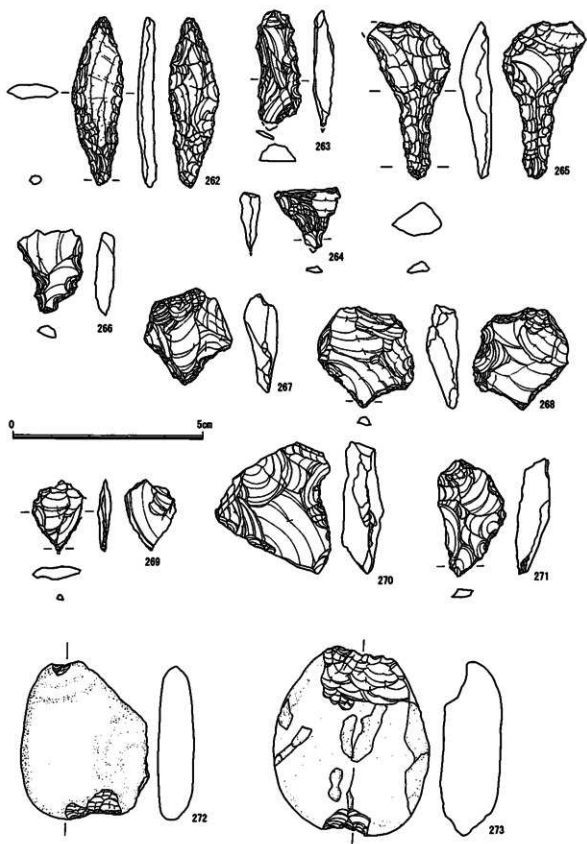
261は砂岩製の砥石である。楕円形の自然隆を利用し、上半を欠損している。側縁部に敲打による潰れ痕が顕著に見られ、また表面の右側縁に近い部分と、側縁部の一部に磨りによる磨滅が認められる。

262～271は石錘である。262はガラス質安山岩製で、幅広剥片を素材とし、裏面には全面に押圧剥離が認められ、表面は中央に素材の面を残し、周縁には二次加工を施して、上下端に先端を作り出している。両先端は使用によって僅かに欠損しており、また摩耗によって変色している。263～271はいずれも姫島産黒曜石製である。263は幅広剥片を素材とし、左右側縁に急斜度の調整を施して、先端を作り出しているが、使用によって若干欠損している。264は摂理面で折れた幅広剥片を素材とし、左側縁には押圧剥離、右側縁には二次加工によって下端に先端を作り出している。先端は、若干欠損している。265は幅広剥片を素材とし、腹面に若干の平坦剥離を施した後、左側縁は表面から、右側縁は表・裏面から二次加工を行なって先端を作り出している。使用により先端を若干欠損している。266は幅広剥片を素材とし、剥片の腹面側から両側縁に二次加工を施して先端を作り出しているが、先端を使用によって若干欠損している。267は幅広剥片を素材とし、左右側縁下半に裏面から急斜度の調整を施して先端を形成しているが、使用によって僅かに欠損している。左右側縁上半には装着によってか、微細な剥離痕が看取される。268は幅広剥片を素材とし、左側縁は表・裏面から、右側縁は上半を表面から、下半は裏面から二次加工を施して先端を作り出しているが、使用によって僅かに欠損している。269は小形の幅広剥片を素材とし、末端部に左右から二次加工を施して先端を作り出している。先端は、僅かに欠損している。270は幅広剥片を素材とし、上端縁に若干の平坦剥離を施した後、右側縁に裏面から二次加工を入れて先端を作り出している。使用によって、先端は欠損しており、左側縁には微細な剥離痕が認められる。271は表面が腹面の幅広剥片を素材とし、右側縁の下半に表裏から二次加工を施して先端を形成している。

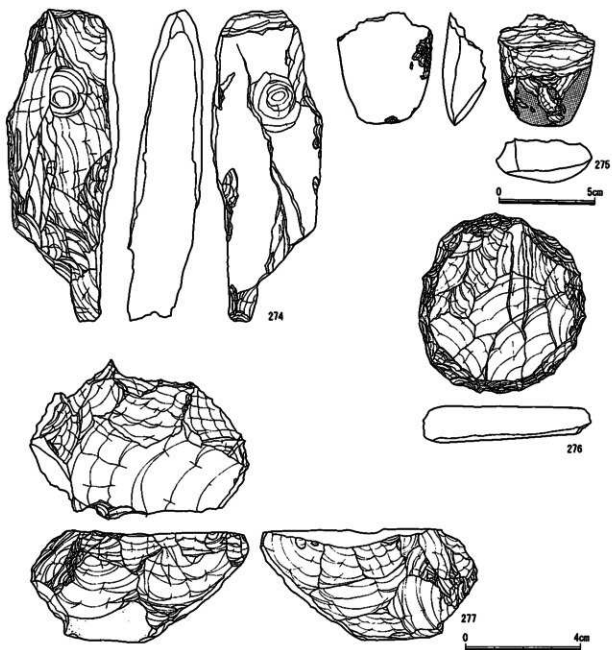
272・273は石錘である。272は角閃石安山岩製で、不整楕円形の自然隆を素材とし、上端には表・裏面から、下端には裏面から打ち欠きによって挟りを入れている。273は凝灰岩製で、不整楕円形の自然隆を素材とし、上下端に表・裏面から打ち欠きによって挟りを入れている。上下の挟入部を繋ぐように浅い窪みが認められる。また、側縁に若干の敲打痕のようなものが看取される。

274は緑泥片岩製の凹石で、裏面が全面隆面の礫片を利用しており、下端を裏面からの折れによって欠損している。表面中央上よりの部分と下端左側縁近く、そして裏面の中央上寄りに円形の窪みが認められる。

275は蛇紋岩製の蛤刃磨製石斧で、基部側を表面から裏面への折れによって欠損している。刃部には若干の使用によると考えられる剥離痕が認められる。また、表面右側縁から右側面にかけて敲打調整の痕跡が顕著に看取される。



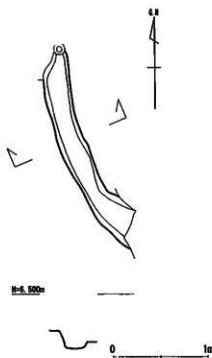
第22圖 SD120出土遺物実測図① (269・272・273=3/4、他1/1)



第23図 SD120出土遺物実測図⑩ (275=1/2、他3/4)

276は花崗岩製の石製円盤である。扁平な剥片を素材にしていると考えられ、表裏面に平坦剥離を施して平らに整えた後、裏面から周縁に二次加工をおこない、円形に整形している。

277は玉髄製の幅広剥片用石核である。①正面と裏面を作業面として、その打点は遠さから、現上端面の上部にあって除去された面を打面として剥離→②裏面下半を作業面として、その後の剥離によって除去された左側面近くを打面として剥離→③裏面下半を打面として、左側面左半部を作業面として剥離→④正面を打面、左側面右半を作業面として剥離→⑤上端面を剥離して打面再生→⑥上端面を打面、右側面から正面右半を作業面として、若干の作業面調整→⑦何らかの理由で遺棄。①の2つの剥離作業は打面を共有しており、①→②で90度の打面転換、②→③では作業面と打面の入れ替え、③→④では180度打面転換、④→⑤→⑥で打面再生及び90度の打面転換と、割合ランダムな打面転換を行なっている。



第24図 SD598遺構実測図 (1/40)

#### SD598 (第24図)

SD598は、遺構の両端を後世の遺構に削平され、現状で長さ198cm分を検出した。幅は28cmを測る。出土遺物は、弥生土器の甕などが出土している。

#### 出土遺物 (第25図)

1は弥生土器甕の口縁部で、跳ね上げ口縁である。2は弥生土器壺或いは鉢の底部と考えられる。内面見込み部分は、ユビオサエにより凹む。外面は、底部まで赤色顔料が塗布される。



第25図 SD598出土遺物実測図 (1/4)

## 井戸遺構

#### SE096 (第26図)

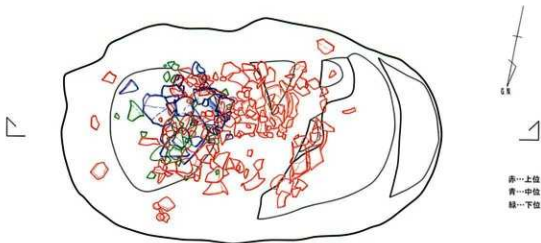
SE096は、長径210cm、幅116cm、深さ124cmを測る素掘りの井戸遺構である。平面プランは、横長の楕円形を、断面形状は西側にテラスを有するが、深部は「U」字状である。遺物が、主に第4層以上と最下層の第10層から出土している。第10層出土の遺物は、当遺構の廃絶時に近い遺物と考えられる。第4層では、遺物が下面に集中して出土している。また、破片が大きく、接合できるものが多いこと、その出土状況から、第4層以上の出土土器は、一部欠損した土器が第6・7層の埋没後に廃棄され、さらにその後、上層の土圧により破砕されたものと考えられる。出土遺物としては、弥生土器、石器などが出土している。

#### 出土遺物 (第27・28図)

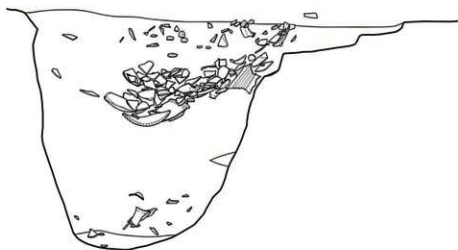
2・9は第10層から、1・3・8・10・11・13・18は第4層以上から出土した。1・2は弥生土器甕である。1は頸部に6本、胴部に3本の突帯を付す。また、頸部突帯の下位に刻目を施し、外面にハケメを残す。平底である。3・18は弥生土器甕である。3・8は甕の口縁部で、頸部が「く」字状に屈曲し、やや肥厚する或いは跳ね上げ気味の口縁端部を持つ。9・10は甕の底部である。11・18は頸部が「く」字状に屈曲し、12は跳ね上げ口縁、他はやや肥厚する或いは跳ね上げ気味の口縁端部を持つ。11・13・14は肩が張らない胴部を、12・15・18は肩の張る胴部を有する。底部のあるものはすべて上げ底である。15・16の外面には、ミガキが施される。17の胴部上位には、煮沸による炭化物が帯状に付着する。19は弥生土器鉢である。口縁端部は面取り調整を施し、平坦に仕上げる。外面は、器面の剥落が激しく、二次比熱を受けたと考えられる。

20はサヌカイト製の石鏝である。表裏面とも押圧剥離が内奥部まで達し、三角形に近い形状を呈し、基部は挟りのない平基である。

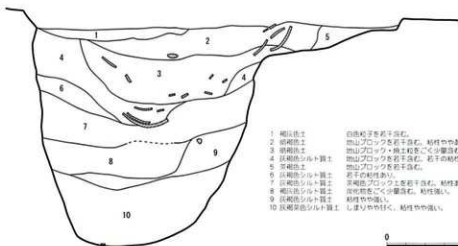
21は角閃石安山岩製の台石で、表面中央部に敲打痕が顕著に見られる。また下端面から右側面にかけて敲打による潰れ痕と剥落、また左側面に磨りによる磨滅の痕跡が認められ、敲打石としても使用されたと考えられる。



H=6,500m



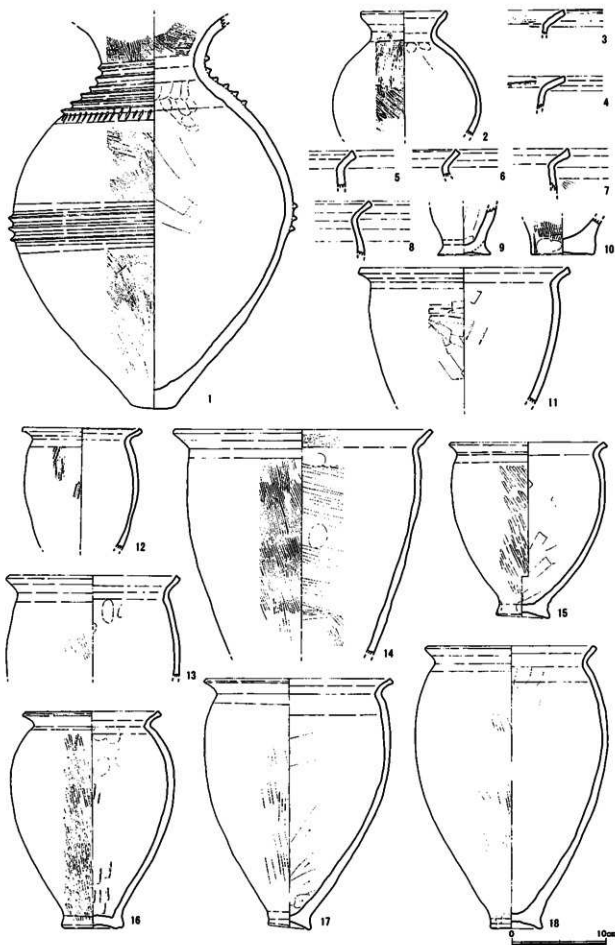
H=6,500m



- 1 褐色粘土 白濁砂子を若干含む。
- 2 褐色粘土 地山ブロックを若干含む。粘性やや強い。
- 3 褐色粘土 地山ブロック・粘土粒をいく少含む。粘性やや強い。
- 4 灰褐色シルト質土 地山ブロックを若干含む。若干の粘性あり。
- 5 灰褐色土 地山ブロックを若干含む。
- 6 灰褐色シルト質土 若干の粘性あり。
- 7 灰褐色シルト質土 灰褐色ブロックと若干含む。粘性あり。
- 8 褐色シルト質土 灰化粒をいく少含む。粘性強い。
- 9 灰褐色シルト質土 粘性やや強い。
- 10 灰褐色シルト質土 しまりやや付く。粘性やや強い。

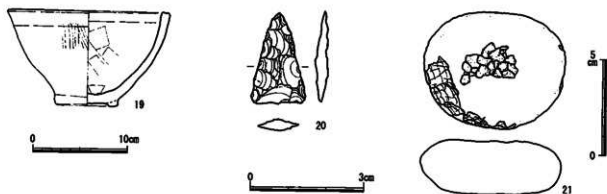
0 50cm

第26図 SE096遺構実測図 (1/20)



第27圖 SE096出土遺物實測圖① (1/4)





第28図 SE096出土遺物実測図② (19=1/4、20=1/1、21=1/2)

## 竪穴建物跡

### SH125 (第29図)

SH125は、遺存状況が非常に悪く、周溝・主柱穴跡・土坑のみを確認した。また、北側部分は調査区外に展開している。円形竪穴建物跡と考えられ、現状で周溝の直径は4.80m、深さ9cmを測る。周溝内部には直径9cm～31cmの柱穴跡が12基確認されている。主柱は4本で、主柱穴跡の直径×深さが北西から右回りに32cm×30cm、37cm×32cm、29cm×47cm、32cm×29cmを測る。土層観察から柱痕は確認できなかった。柱間寸法は、北から右回りに、約2.3m、約2.1m、約2.2m、約2.1mを測る。土坑は、4基の主柱穴跡に囲まれた空間内の北西に位置し、主軸方向が4本の主柱穴跡の柱筋とほぼ一致する。土坑は不定形な平面プラン、断面形状を呈し、長径117cm、幅50cm、深さ13cmを測る。周溝の外側には、周溝に沿うような形で展開する柱穴跡が確認されており、当遺構に伴う柱穴跡の可能性がある。出土遺物は、周溝・主柱穴跡・土坑から土器片、黒曜石片などが出土している。

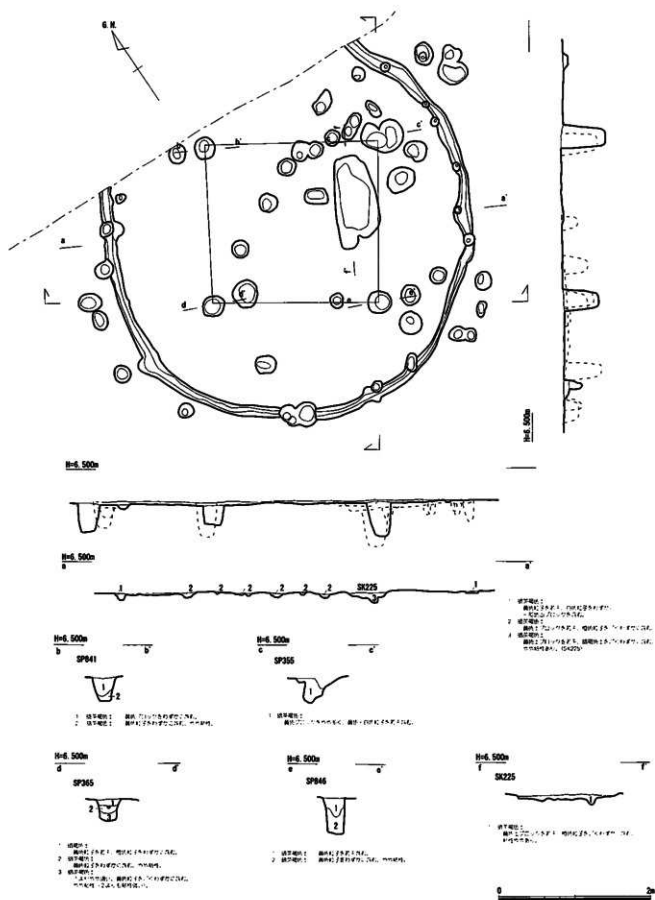
## 土坑

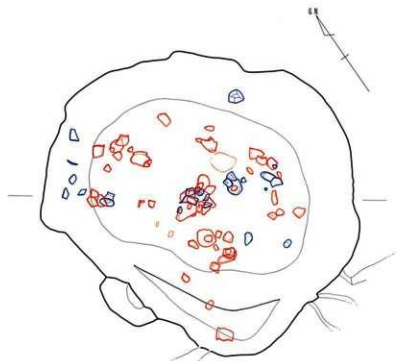
### SK115 (第30図)

SK115は、南西部分をSH105に削平され、不整な円形の平面プラン、垂な逆台形の断面形状を呈し、長径245cm、短径233cm、深さ110cmを測る。第11層～第13層は、1度目の使用後の崩落土と考えられ、第9・10層は、2度目の使用時の貼床である。第7・8層は遺構壁面が崩落した層であり、第3～6層は崩落後の自然堆積層と推察される。第1・2層は、埋め立てられたものと推測される。土層断面図から分かるように、第1・2層と第3層以下とで堆積状況が異なり、遺物の出土状況も第2層下面に境が見られる。貯蔵穴として使用されていたと考えられる。

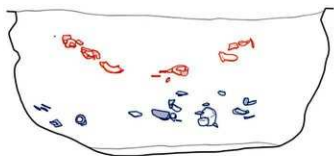
### 出土遺物 (第31・32図)

1・2・13・14・16・28・38・40は第2層以上から、4・15・17・21・23・24・27・29・31・33・34・36・39・41は第2層より下層から出土している。1～3は弥生土器壺である。1は口縁端部を平坦に仕上げる。2は頸部に2個の孔を3cmほどの間隔を空けて配し、その対面に同様の2個の孔を配す。器面に赤色顔料を塗布する。3は頸部の屈曲する箇所突帯を付す。4は弥生土器の高坏もしくは器台の脚部と考えられる。5～15は弥生土器甕の口縁部で、5と11を除く他のは、跳ね上げもしくは跳ね上げ気味の口縁端部である。また、9・13は口縁端部に緩やかな沈線が走る。5は直口縁で口縁端部を平坦に仕上げ、端部より若干下がった位置に刻目突帯文を付す。11は「く」字状に屈曲する口縁部を持つ。16～29は弥生土器壺、甕、鉢の底部である。16・19・28は器

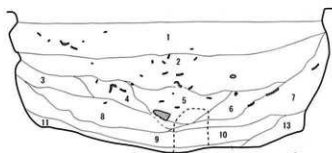




H=6.500m



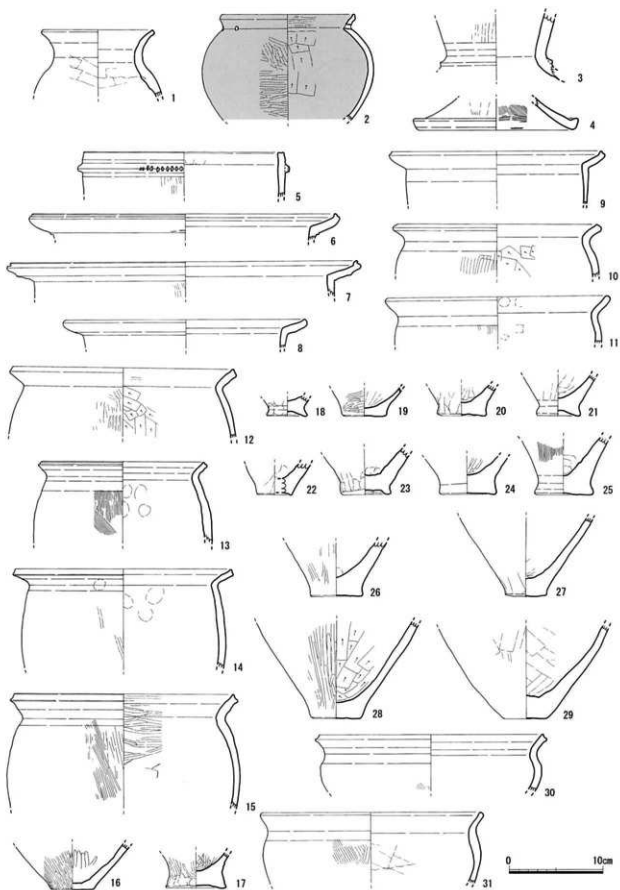
H=6.500m



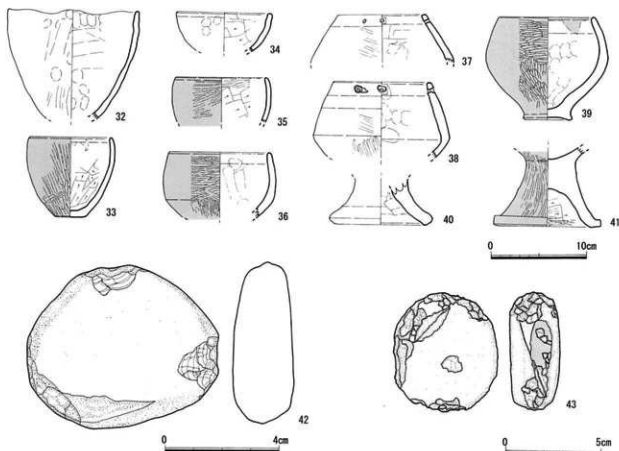
- |         |                                           |
|---------|-------------------------------------------|
| 1 凝灰岩土  | 白砂粘土を多く、灰を少量、焼土粒・地山ブロックを散在。               |
| 2 凝灰岩土  | 白砂粘土・焼土粒・地山ブロック・灰を散在。                     |
| 3 凝灰岩土  | 焼土粒・地山ブロック・灰を少量散在。                        |
| 4 凝灰岩土  | 白砂粘土・焼土粒・地山ブロックを少量、灰を若干多く散在。              |
| 5 凝灰岩土  | 白砂粘土・地山ブロックを少量、灰を散在。                      |
| 6 凝灰岩土  | 白砂粘土・焼土粒を少量、灰を若干多く、地山ブロックを散在。             |
| 7 凝灰岩土  | 地山ブロックを多く、焼土粒を少量、一部焼土土ブロック、灰を散在、灰層に埋めこめる。 |
| 8 砂状土   | 地山ブロック・焼土粒を多く、灰を少量散在、灰を多く埋めこめる。           |
| 9 凝灰岩土  | 灰を散在、粘性あり。                                |
| 10 凝灰岩土 | 灰を散在、粘性あり。                                |
| 11 凝灰岩土 | 灰9・10層のシルト・地山ブロック、焼土、灰を散在。                |
| 12 凝灰岩土 | 灰9・10層のシルト・地山ブロック、焼土、灰を散在。                |
| 13 凝灰岩土 | 灰9・10層のシルト・地山ブロック、焼土、灰を散在。                |

第30図 SK115遺構実測図 (1/30)

形や調整から壺または鉢の底部と考えられる。前者と27・29を除いた底部は厚さがあり、上げ底または上げ底気味である。30～41は弥生土器鉢である。30・31は胴部～口縁部にかけて緩やかに屈曲する器形を持つ。30の口縁端部は面取り調整によるものか、やや凹む。31は煮沸によるものと考えられる炭化物が口縁部～胴部上位にかけて付着する。32・34は口縁端部を面取り調整を施し、平坦に仕上げている。33・35・36は外面にミガキを施し、赤色顔料を塗布する。37・38は脚付鉢の鉢部と考えられる。外面には、ミガキが施され、それぞれ現状で2ヶ所の穿孔跡が確認される。40・41は脚付鉢の脚部と考えられる。41は外面にミガキを施し、赤色顔料を塗布する。39は台付鉢で、外面にミガキを施し、赤色顔料を塗布する。42・43は散石である。42は角閃石安山岩製である。不整楕円形の自然礫を利用し、その頂点の3箇所を機能点としており、その箇所に潰れ痕が顕著に見られる。43は凝灰岩製である。周縁全体に顕著な敲打痕が、右側面に若干の磨りによる磨滅が認められる。



第31图 SK115出土文物实测图① (1/4)



第32図 SK115出土遺物実測図② (42=3/4、43=1/2、他1/4)

#### SK390 (第33図)

SK390は、やや楕円形の平面プラン、逆台形の断面形状を呈し、長径128cm、短径115cm、深さ63cmを測る。浅鉢、深鉢が出土している。

出土遺物 (第34図)

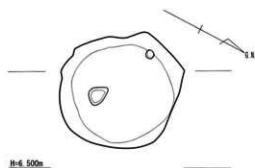
1は浅鉢で、リボン状突起の部分である。器面は、内外面ともにミガキを施す。2～4は深鉢である。2は外面に沈線が施される。3は刻目突帯文土器である。

#### SK1009 (第35図)

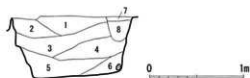
SK1009は、やや楕円形の平面プラン、逆台形の断面形状を呈し、長径64cm、短径53cm、深さ14cmを測る。弥生土器の甕が出土している。

出土遺物 (第36図)

1は弥生土器甕である。口縁端部は、面取り調整をおこない、胴部外面にミガキを施す。外面～口縁部内面にかけて赤色顔料を塗布する。

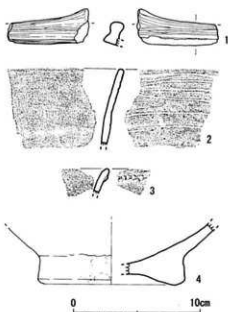


H=6.500m



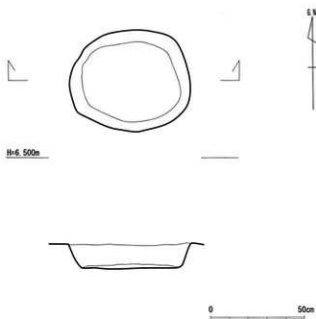
- 1 褐色灰土 褐色土粒・地山土粒を少量含む。やや粘りあり。硬い。
- 2 灰褐色土 褐色土粒を少量。8cm×5cm大の地山ブロックを含む。硬くしめる。
- 3 灰褐色土 褐色土粒・地山土粒・2cm×3cm大の灰化粒及び、灰化粒・を少量含む。硬くしめる。やや粘り。
- 4 淡灰褐色土 地山土粒・マンガン粒を少量含む。第3層より断面で、粘りあり。
- 5 褐色土粒・灰化粒・地山土粒・マンガン・を少量含む。硬くしめる。やや粘りあり。
- 6 灰褐色土 地山土粒を少量含む。第5層よりやや粘り。
- 7 黄褐色土 地山ブロック・白色土粒を少量含む。非常に硬くしめる。
- 8 灰褐色土 褐色土粒・地山ブロック・マンガン粒を少量含む。非常に硬くしめる。

第33図 SK390遺構実測図 (1/40)

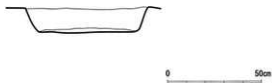


0 10cm

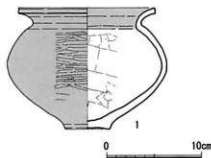
第34図 SK390出土遺物実測図 (1/3)



H=6.500m



第35図 SK1009遺構実測図 (1/20)



0 10cm

第36図 SK1009出土遺物実測図 (1/4)

## 柱穴跡

### SP746 (第37図)

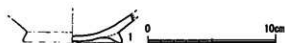
SP746は、不定形の平面プラン、ほぼ逆台形の断面形状を呈し、長径37cm、短径29cm、深さ8cmを測る。

### 出土遺物 (第38図)

1は浅鉢底部で、器面は内外面ともにミガキが施される。



第37図 SP764遺構実測図 (1/20)



第38図 SP764出土遺物実測図 (1/3)

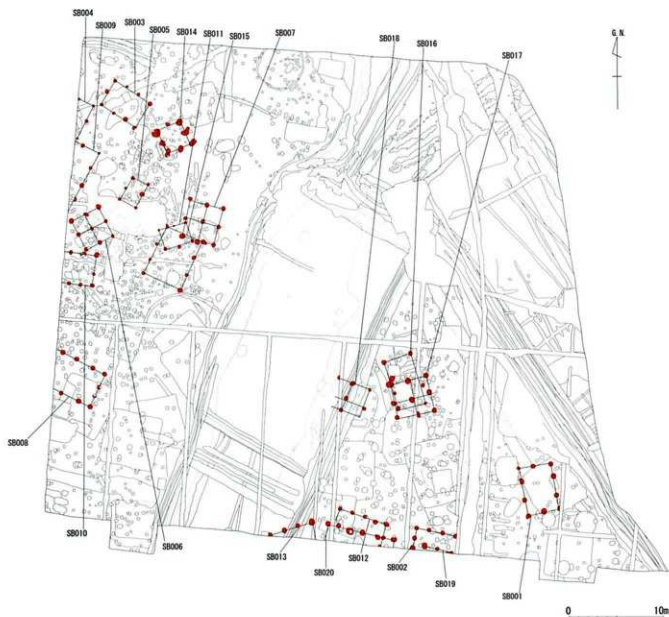
### 参考文献 (SD120)

- 坂本嘉弘 1985 「菅生台地と周辺の遺跡X」 竹田市教育委員会  
 江田豊 1999 「在隈杉下遺跡」九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書11 大分県教育委員会  
 吉田寛 1994 「鏡田市遺跡」七瀬川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大分県教育委員会  
 吉田寛 1995 「河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡」 大分県教育委員会  
 高橋徹 2001 「大分の弥生・古墳時代土器編年」大分県歴史博物館研究紀要 大分県立博物館  
 江田豊 1999 「二反田遺跡」九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12 大分県教育委員会

## 2. 古墳時代

### 掘立柱建物跡 (第39図・第4表・Fig. 1, 2)

掘立柱建物跡は、その遺構の性格から柱穴跡の分布するところに分布域がある。当調査区では側柱建物跡16棟、総柱建物跡4棟の計20棟を確認した。分布には、偏りがみられ、大きく分けて5ヶ所に分布する。桁行方向を建物軸とした場合 (Fig. 1)、建物軸方向は、4グループに分類される (A群: 4・5・7・9・15、B群: 1・6・14・16、C群: 2・3・8・10・12・18~20、D群: 11・13・17)。A群をおおよそ90°西に回転させた軸がC群に、B群をおおよそ90°西に回転させた軸がD群に相当することが分かる。このことから、桁行・梁行に関係なく、建物軸を見た場合がFig. 2である。建物跡面積は、最小で6.06㎡、最大で23.21㎡を測る。堅穴建物跡と重複関係がある掘立柱建物跡は、その重複関係から堅穴建物跡より時期が新しい。一方、掘立柱建物跡の出土遺物の時期は、堅穴建物跡のそれと大きな時期差はない。



第39図 掘立柱建物跡遺構配置図 (1/400)



第4表 掘立柱建物跡一覧表

| 遺構<br>番号 | 建物軸方向   | 桁行<br>間数 | 梁行<br>間数 | 身舎面積<br>(㎡) | 桁 行 柱 間 (m) |                      |                      | 梁 行 柱 間 (m)  |       |             |                      |                      |             |       |
|----------|---------|----------|----------|-------------|-------------|----------------------|----------------------|--------------|-------|-------------|----------------------|----------------------|-------------|-------|
| SB001    | N-11°-W | 3        | 2        | 16.73       | 西<br>東      | 1.43<br>1.63         | 1.97<br>1.76         | 1.52<br>1.53 | (北より) | 北<br>南      | 1.6<br>1.7           | 1.8<br>1.7           | (西より)       |       |
| SB002    | W-12°-N | 3*       | 2*       | 8.76*       | 北<br>南      | 1.31                 | 1.50                 | 1.36         | (西より) | 西<br>東      | 1.05                 | 1.05                 | (北より)       |       |
| SB003    | W-33°-N | 3        | 2        | 12.59       | 北<br>南      | 1.50<br>1.40         | 1.40<br>1.50         | 1.45<br>1.26 | (西より) | 西<br>東      | 1.48<br>1.36         | 1.48<br>1.60         | (北より)       |       |
| SB004    | N-27°-E | 2*       | 1*       | 6.27*       | 西<br>東      | —<br>1.75            | —<br>1.98            | —<br>—       | (北より) | 北<br>南      | 1.68<br>—            | —<br>—               | —           |       |
| SB005    | N-26°-E | 2        | 1        | 4.96        | 西<br>東      | 1.34<br>1.17         | 1.34<br>1.50         | —<br>—       | (北より) | 北<br>南      | 1.73<br>1.98         | —<br>—               | —           |       |
| SB006    | N-28°-W | 2        | 2        | 10.91       | 西<br>中<br>北 | 1.70<br>1.70<br>1.70 | 1.70<br>1.70<br>1.70 | —<br>—<br>—  | (北より) | 北<br>中<br>南 | 1.73<br>1.66<br>1.59 | 1.59<br>1.55<br>1.51 | (西より)       |       |
| SB007    | N-15°-E | 2        | 2        | 13.98       | 西<br>中<br>東 | 2.14<br>2.08<br>2.02 | 1.94<br>1.97<br>1.99 | —<br>—<br>—  | (北より) | 北<br>中<br>南 | 1.76<br>1.77<br>1.75 | 1.74<br>1.70<br>1.66 | (西より)       |       |
| SB008    | W-27°-N | 3*       | 3        | 19.17*      | 北<br>( )    | 1.65<br>( )          | 1.88<br>1.90         | 1.65<br>1.43 | (西より) | 西<br>東      | —<br>1.55            | 0.90<br>1.25         | (北より)       |       |
| SB009    | N-27°-E | 3*       | 1*       | 9.93*       | 西<br>東      | —<br>1.78            | —<br>2.05            | —<br>1.54    | (北より) | 北<br>南      | 1.85<br>—            | —<br>—               | —           |       |
| SB010    | W-7°-N  | 2*       | 2        | 8.40*       | 北<br>南      | 1.43<br>1.16         | 1.25<br>1.36         | —<br>—       | (西より) | 西<br>東      | —<br>2.02            | —<br>1.21            | (北より)       |       |
| SB011    | W-16°-S | 2        | 1        | 6.06        | 北<br>南      | —<br>1.60            | —<br>1.43            | —<br>—       | (西より) | 西<br>東      | —<br>2.00            | —<br>—               | (北より)       |       |
| SB012    | W-21°-N | 4        | 2*       | 12.46       | 北<br>南      | 1.50<br>—            | 1.34<br>—            | 1.25<br>—    | 1.28  | (西より)       | 西<br>東               | 1.45<br>1.40         | ( )<br>0.92 | (北より) |
| SB013    | W-17°-S | 3        | —        | —           | 北<br>南      | 1.51<br>—            | 1.55<br>—            | 1.66<br>—    | (西より) | —<br>—      | —<br>—               | —<br>—               | —           |       |
| SB014    | N-29°-W | 2        | 2        | 7.53        | 西<br>東      | 1.25<br>1.50         | 1.51<br>1.25         | —<br>—       | (北より) | 北<br>南      | 1.55<br>1.45         | 1.20<br>1.27         | (西より)       |       |
| SB015    | N-25°-E | 3        | 1        | 23.21       | 西<br>東      | 2.15<br>1.90         | 2.05<br>1.90         | 1.35<br>1.77 | (北より) | 北<br>南      | 4.16<br>4.19         | —<br>—               | —           |       |
| SB016    | N-17°-W | 3        | 1        | 14.74       | 西<br>東      | 1.78<br>3.55         | 1.60<br>1.75         | 1.85<br>—    | (北より) | 北<br>南      | 2.89<br>2.71         | —<br>—               | —           |       |
| SB017    | W-14°-S | 2        | 2        | 15.13       | 北<br>中<br>南 | 1.97<br>1.98<br>1.99 | 2.00<br>1.99<br>1.98 | —<br>—<br>—  | (西より) | 西<br>中<br>東 | 1.87<br>1.90<br>1.90 | 1.93<br>1.93<br>1.92 | (北より)       |       |
| SB018    | W-23°-N | 2*       | 2        | 11.58*      | 北<br>中<br>南 | 1.54<br>( )          | 2.16<br>2.24         | —<br>—       | (西より) | 西<br>中<br>東 | —<br>1.91<br>1.92    | —<br>1.22<br>( )     | (北より)       |       |
| SB019    | W-15°-N | 2*       | —        | —           | 北           | 1.54                 | 1.43                 | —            | (西より) | —           | —                    | —                    | —           |       |
| SB020    | W-19°-N | 5*       | —        | —           | 北           | 1.25                 | 1.20                 | 1.45         | 1.60  | 1.75        | (西より)                | —                    | —           |       |

\*……以上



Fig. 1 掘立柱建物跡建物軸方位①

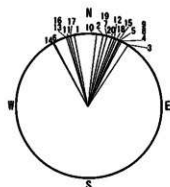
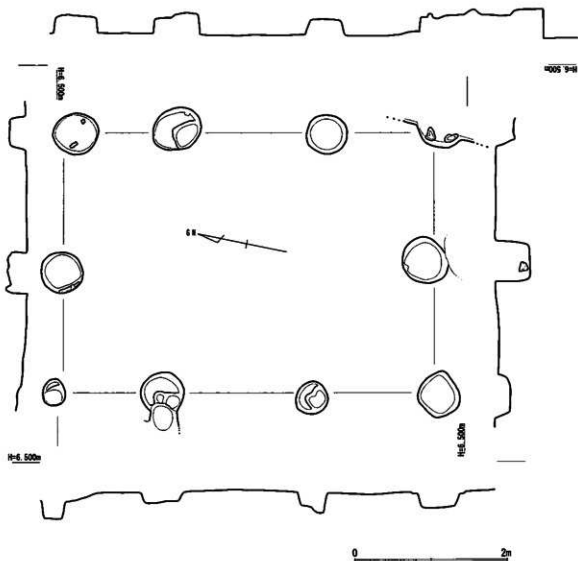


Fig. 2 掘立柱建物跡建物軸方位②

# SB001 (第40図)

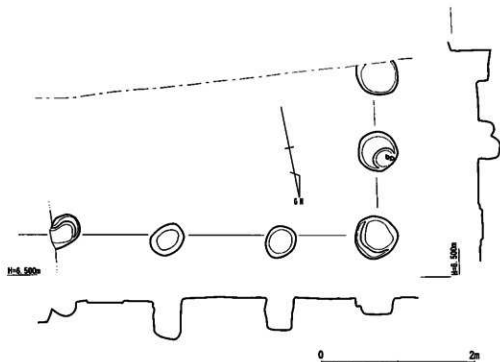
SB001は、建物軸N-11°-Wで、桁行間数×梁行間数が、3間×2間の側柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ4.92m、梁行の長さ3.40mを測り、身舎面積は16.73㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称である。梁行の柱間寸法は均等だが、桁行の柱間寸法は不均等となっている。SH110、SD120を削平している。出土遺物は、土器片、須恵器片、製塩土器片などが出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。



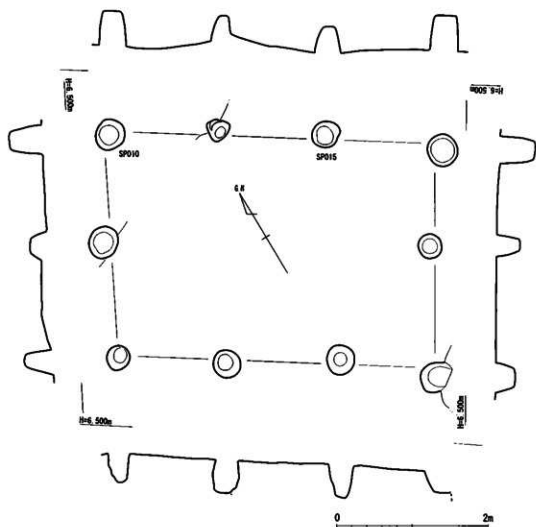
第40図 SB001遺構実測図 (1/50)

# SB002 (第41図)

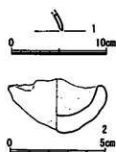
SB002は、建物軸がW-12°-Nである。後世の溝状遺構による削平と調査区外への展開が想定され、現状では桁行間数×梁行間数が、3間以上×2間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行の長さ4.17m以上、梁行の長さ2.10m以上を測り、身舎面積は8.76㎡以上と考えられる。柱筋から外れた柱穴跡はなく、桁行および梁行の柱間寸法はほぼ均等である。出土遺物は、土器片、須恵器片などが出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。



第41圖 SB002遺構実測圖 (1/50)



第42圖 SB003遺構実測圖 (1/50)



第43圖 SB003出土遺物  
実測圖 (1=1/4、2=1/2)

#### SB003 (第42図)

SB003は、建物軸W-33°-Nで、平面プランが台形状を呈しており、桁行間数×梁行間数が、3間×2間の側柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ4.16m～4.35m、梁行の長さ2.96mを測り、身舎面積は12.59㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称で、桁行および梁行の柱間寸法はほぼ均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片などが出土している。SP010より、一部を欠損したミニチュア土器が出土している。

#### 出土遺物 (第43図)

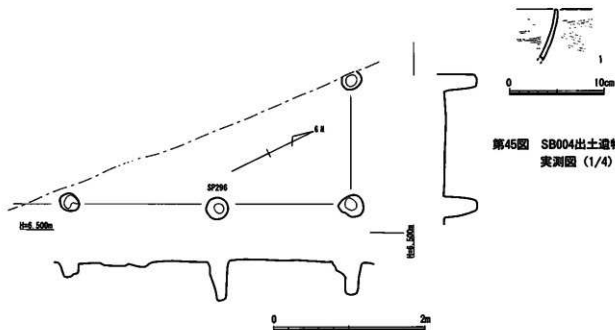
1は須恵器環蓋で、SP015より出土した。口縁端部内面に稜などは無く、口縁部～天井部にかけて、やや傾きながら立ち上がり、TK43併行と考えられる。2は土師器のミニチュア土器で、SP010より出土した。ユビオサエ、ユビナデによる手捏ね成形である。

#### SB004 (第44図)

SB004は、建物軸がN-27°-Eである。調査区外への展開が想定され、現状では桁行間数×梁行間数が、2間以上×1間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行の長さ3.73m以上、梁行の長さ1.68m以上を測り、身舎面積は6.27㎡以上と考えられる。桁行の柱間寸法は、ほぼ均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、縄文土器片が出土している。

#### 出土遺物 (第45図)

1は土師器埴で、SP296より出土した。胴部～口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がり、口縁端部は平端に仕上げている。内外面ともにミガキを施す。口縁部外面のみ黒斑が、帯状に入っており、焼成時に重ね焼きをした可能性がある。

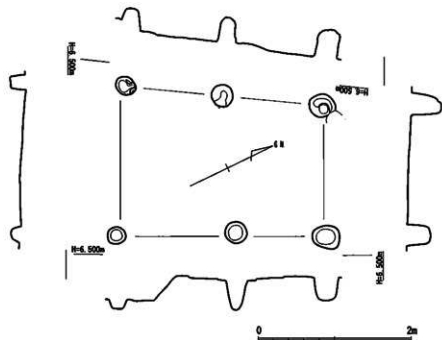


第44図 SB004遺構実測図 (1/50)

第45図 SB004出土遺物  
実測図 (1/4)

#### SB005 (第46図)

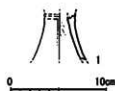
SB005は、建物軸がN-26°-Eで、平面プランが台形状を呈しており桁行間数×梁行間数が、2間×1間の総柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ2.67~2.68m、梁行の長さ1.73~1.98mを測り、身舎面積は4.96㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置は、ほぼ左右対称だが、桁行の柱間寸法は不均等となっている。出土遺物は、土器片、土師器片などが出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。



第46図 SB005遺構実測図 (1/50)

#### SB006 (第48図)

SB006は、建物軸がN-28°-Wで、桁行間数×梁行間数が、2間×2間の総柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ3.40m、梁行の長さ3.10~3.32mを測り、身舎面積は10.91㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置は、ほぼ左右対称で、桁行・梁行ともに柱間寸法は、ほぼ均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片などが出土している。



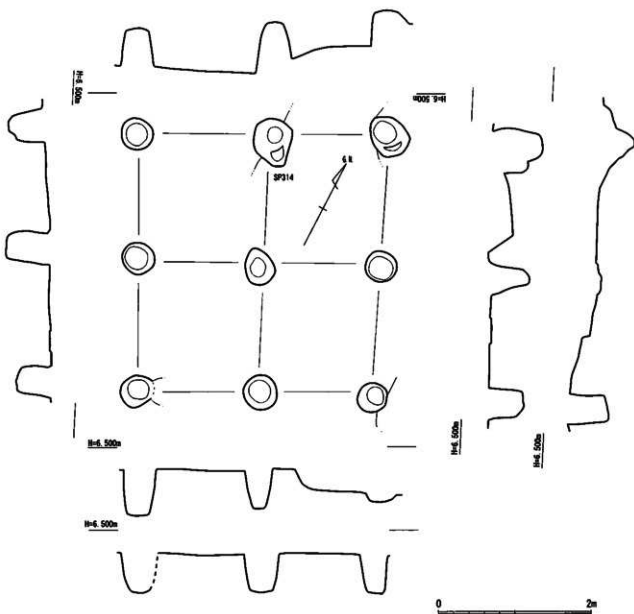
#### 出土遺物 (第47図)

1は須恵器高坏で、SP314より出土した。現状の最細部で復元直径3.1cmを測る。沈線が施され、スカシが2ヵ所に穿たれていると考えられる。

第47図 SB006出土遺物実測図 (1/4)

#### SB007 (第49図)

SB007は、建物軸がN-15°-Eで、桁行間数×梁行間数が、2間×2間の総柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ4.01~4.08m、梁行の長さ3.41~3.50mを測り、身舎面積は13.98㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称で、桁行・梁行ともに柱間寸法は、ほぼ均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片、弥生土器片などが出土している。SP037とSP045より出土した須恵器坏蓋が遺構間接合しており、意図的な廃棄の可能性もある。また、SP036から土師器ミニチュア土器が出土している。



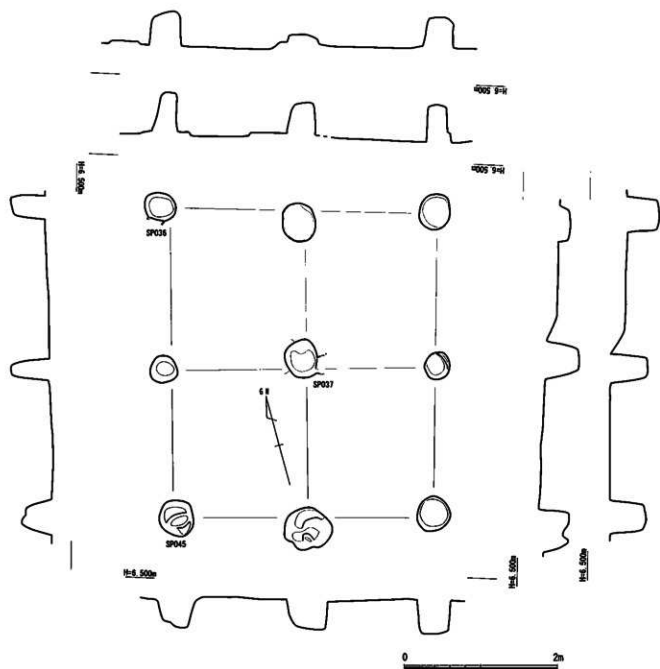
第48図 SB006遺構実測図 (1/50)

#### 出土遺物 (第50図)

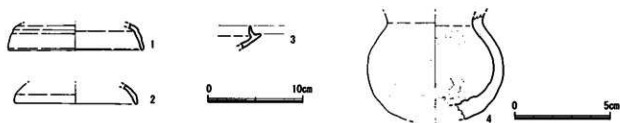
1～3は須恵器、4は土師器ミニチュア土器である。1は須恵器環蓋で、SP037とSP045出土のものが遺構間接合した。復元口径14.2cmを測り、外面の天井部と口縁部境には、幅広の沈線による段が残る。2は須恵器環蓋で、SP045より出土し、復元口径12.9cmを測る。3は須恵器環身で、SP045より出土した。焼成温度が低いためか、器面は内外ともに、にぶい黄褐色を呈する。1はMT85、2・3はTK43併行に比定される。4は頸部～口縁部にかけて欠損しているが、壺形のミニチュア土器と考えられる。ユビオサエによる成形の後、工具などによるナデを施す。内面の胴部と頸部の境に、粘土接合痕を残す。

#### SB008 (第51図)

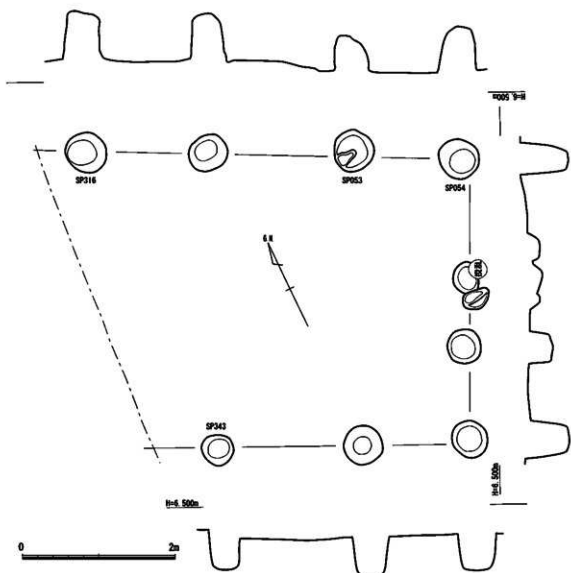
SB008は、建物軸がW-27°-Nである。調査区外への展開が想定され、現状では桁行間数×梁行間数が、3間以上×3間の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行の長さ5.18m以上、梁行の長さ3.70mを測り、身舎面積は19.17㎡以上と考えられる。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称だが、桁行・梁



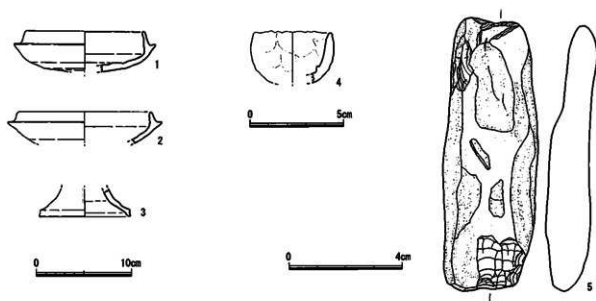
第49圖 SB007遺構実測図 (1/50)



第50圖 SB007出土遺物実測図 (4=1/2、他1/4)



第51圖 SB006遺構実測図 (1/50)



第52圖 SB006出土遺物実測図 (4=1/2、5=3/4、他1/4)



行ともに柱間寸法は不均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片などが出土している。SP054より、破片ではあるがミニチュア土器が出土している。

#### 出土遺物（第52図）

1～3は須恵器、4は土師器ミニチュア土器である。1は須恵器坏身で、SP343より出土し、復元口径12.2cmを測る。2は須恵器坏身で、SP054より出土し、復元口径13.9cmを測る。1・2ともTK43併行と考えられる。3は須恵器高坏で、SP053より出土した。スカシが1ヶ所以上に穿たれていると考えられる。4はSP054より出土した。ユビオサエ、ユビナデによる手捏ね成形である。

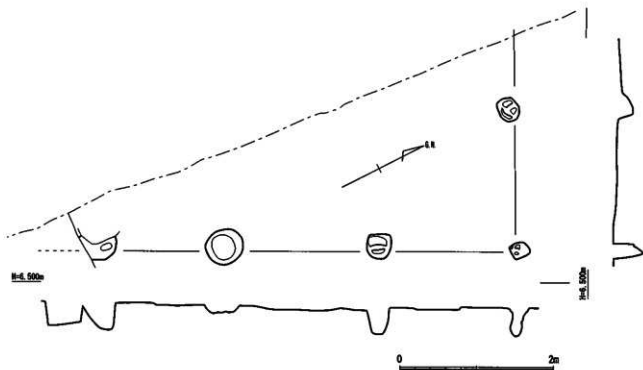
5はSP316より出土した緑泥片岩製の敲石である。扁平で棒状の踵を利用し、上下端に若干の潰れ痕が認められる。また、下端近くには敲きによって薄い剥落が看取される。

#### SB009（第53図）

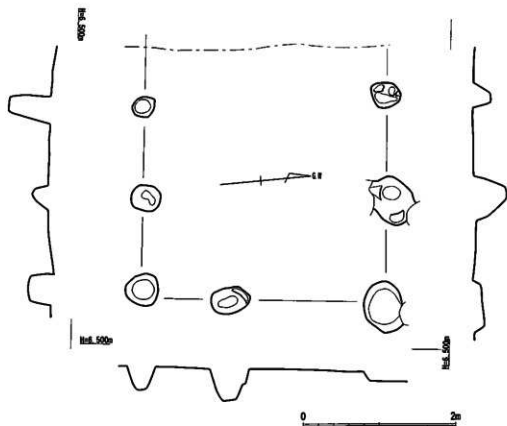
SB009は、建物軸がN-27°-Eである。調査区外への展開が想定され、現状では桁行間数×梁行間数が、3間以上×1間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行の長さ5.73m以上、梁行の長さ1.85m以上を測り、身舎面積は9.93㎡以上と考えられる。柱筋から外れた柱穴跡はなく、桁行の柱間寸法は不均等である。出土遺物は、土器片、須恵器片、土師器片などが出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。

#### SB010（第54図）

SB010は、建物軸がW-7°-Nである。調査区外への展開が想定され、現状では桁行間数×梁行間数が、2間以上×2間の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行の長さ2.52～2.68m以上、梁行の長さ3.23mを測り、身舎面積は8.40㎡以上と考えられる。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称である。桁行の柱間寸法は、ほぼ均等だが、梁行の柱間寸法は不均等となっている。出土遺物は、土器片が出土している。



第53図 SB009遺構実測図（1/50）



第54図 SB010遺構実測図 (1/50)

#### SB011 (第56図)

SB011は、建物軸W-16°-Sで、桁間数×梁行間数が、2間×1間の側柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ3.03m、梁行の長さ2.00mを測り、身舎面積は6.06㎡である。南側桁行の柱穴跡が柱筋から外れているが、柱穴配置は、左右対称で、桁行の柱間寸法は、ほぼ均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片などが出土している。



#### 出土遺物 (第55図)

1は須恵器坏蓋で、SP387より出土した。外面の天井部と口縁部境には段が、内面の口縁部には稜線が残る、MT85併行と考えられる。

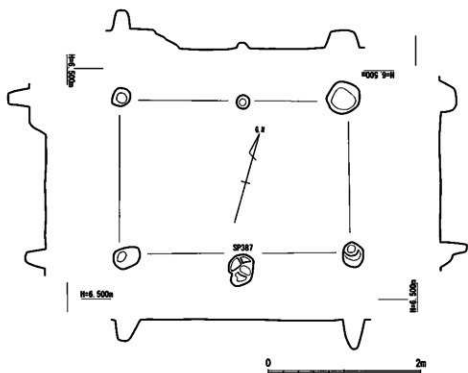
第55図 SB011出土遺物実測図 (1/4)

#### SB012 (第57図)

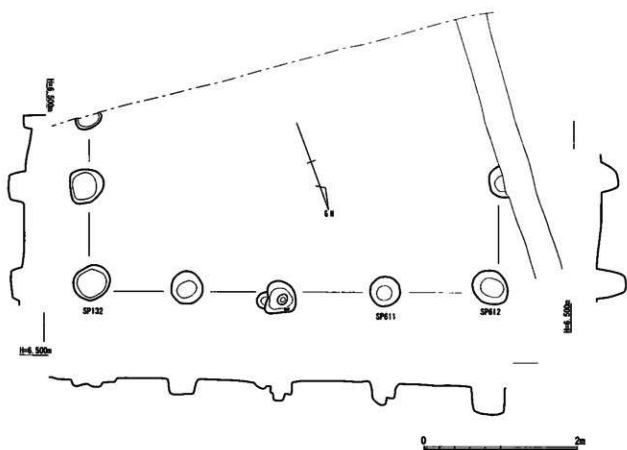
SB012は、建物軸W-21°-Nで、調査区外への展開が想定され、現状では桁間数×梁行間数が、4間×2間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行の長さ5.37m、梁行の長さ2.32m以上を測り、身舎面積は12.46㎡以上と考えられる。柱筋から外れた柱穴跡はなく、桁行の柱間寸法はほぼ均等だが、梁行の柱間寸法は不均等となっている。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、弥生土器片などが出土している。

#### 出土遺物 (第58図)

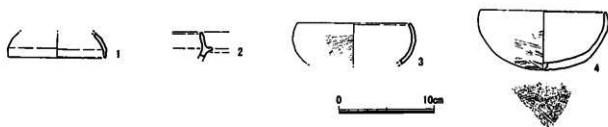
1は須恵器坏蓋、2は須恵器坏身、3・4は土師器境である。1はSP132より出土し、復元口径10.1cmを測り、TK43併行と考えられる。2はSP612より出土した坏身である。内面の口縁部には明瞭ではないが、稜線が残る。須恵器坏身のTK43併行に比定される。3・4ともにSP611より出土した、口縁部が内湾する境である。3



第56図 SB011遺構実測図 (1/50)



第57図 SB012遺構実測図 (1/50)

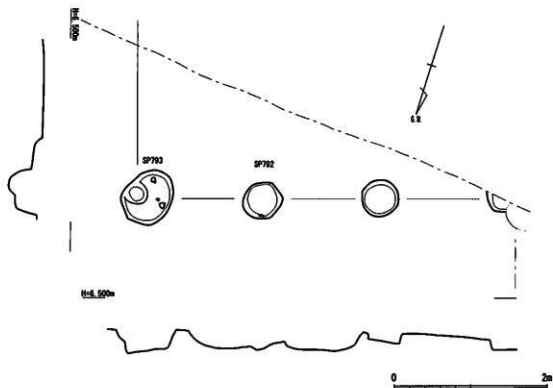


第58図 SB012出土遺物実測図 (1/4)

の口縁端部は平坦に、4はやや尖り気味に処理されている。4は外面底部にへう記号のような痕跡を持つ。

#### SB013 (第59図)

SB013は、建物軸W-21°-Nで、調査区外への展開が想定され、現状では桁行もしくは梁行間数が、3間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行または梁行の長さが4.72m以上を測る。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱間寸法は、ほぼ均等である。横列遺構である可能性も考えられる。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、土師器片が出土している。



第59図 SB013遺構実測図 (1/50)



第60図 SB013出土遺物実測図 (1/4)

# 出土遺物（第60図）

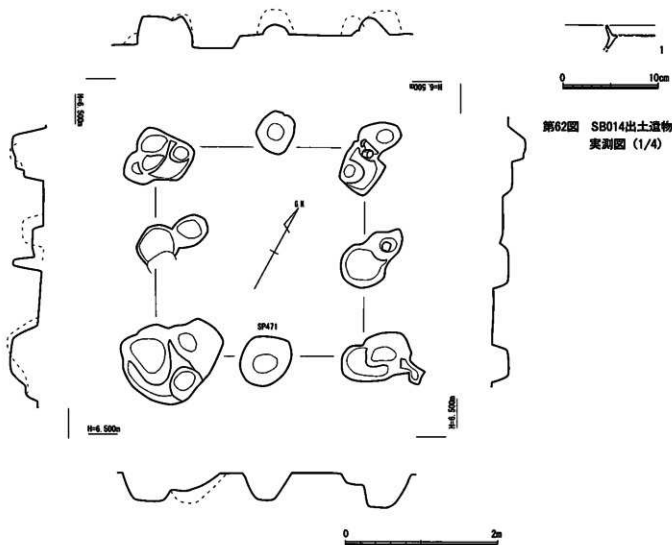
1は須恵器、2・3は土師器である。1は須恵器坏蓋で、SP792より出土した。口縁部～天井部にかけて、やや傾きながら立ち上がり、TK43併行と考えられる。2は土師器甕で、SP792より出土した。3は土師器高坏で、SP793より出土した。

# SB014（第61図）

SB014は、建物軸N-29°-Wで、桁行間数×梁行間数が、2間×2間の側柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ2.75～2.76m、梁行の長さ2.72～2.75mを測り、身舎面積は7.53㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称である。桁行の柱間寸法は、ほぼ均等だが、梁行の柱間寸法は不均等となっている。桁行側では、柱穴跡が2基ずつ重複しており、建替えの可能性がある。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片などが出土している。

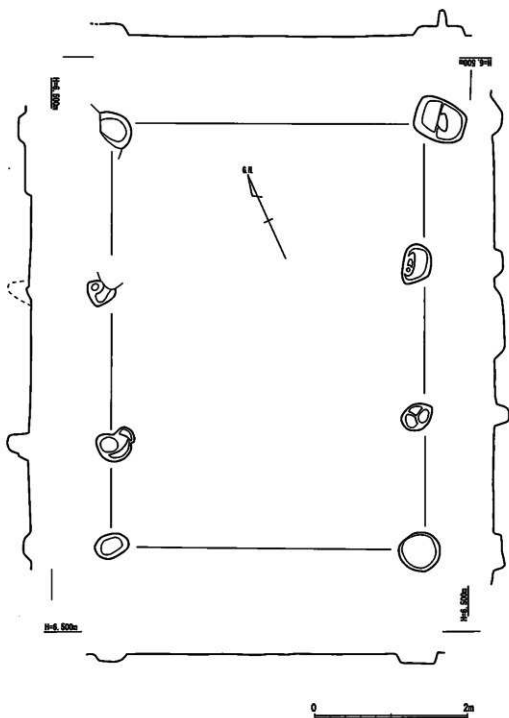
# 出土遺物（第62図）

1は須恵器坏身で、SP471より出土した。TK43併行と考えられる。



第62図 SB014出土遺物  
実測図 (1/4)

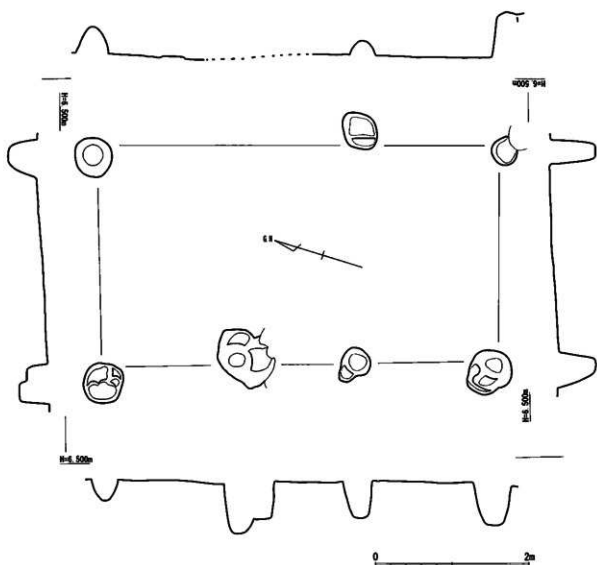
第61図 SB014遺構実測図 (1/50)



第63図 SB015遺構実測図 (1/50)

#### SB015 (第63図)

SB015は、建物軸 $N-25^{\circ}-E$ で、桁行間数×梁行間数が、3間×1間の側柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ5.55～5.57m、梁行の長さ4.16～4.19mを測り、身舎面積は23.21㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はないが、柱穴配置は左右非対称で、桁行の柱間寸法も不均等である。出土遺物は、土器片、須恵器片、土師器片などが出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。



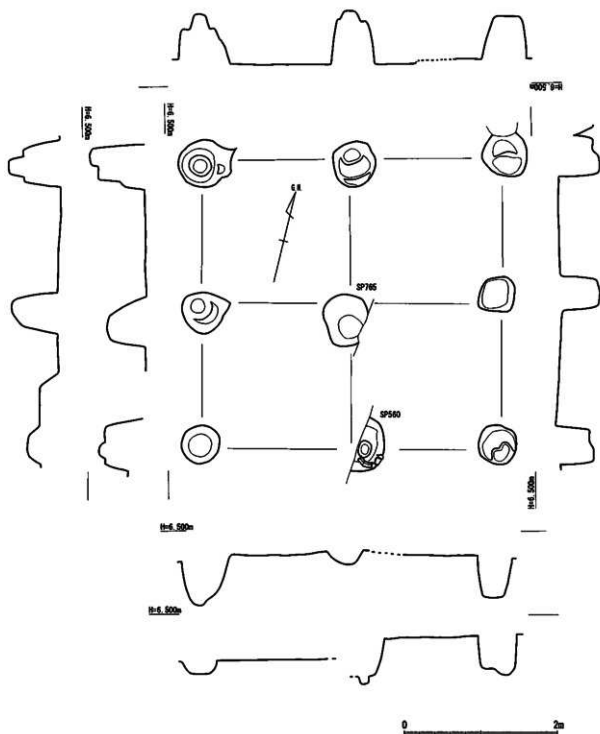
第64図 SB016遺構実測図 (1/50)

#### SB016 (第64図)

SB016は、建物軸N-17°-Wで、桁行間数×梁行間数が、3間×1間の側柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ5.23～5.30m、梁行の長さ2.71～2.89mを測り、身舎面積は14.74㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称で、桁行の柱間寸法もほぼ均等である。後世の遺構による削平で、柱穴跡が1基欠失していると考えられる。出土遺物は、土器片、須恵器片、弥生土器片が出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。

#### SB017 (第65図)

SB017は、建物軸W-14°-Sで、桁行間数×梁行間数が、2間×2間の総柱建物跡である。建物規模は、桁行の長さ3.97m、梁行の長さ3.80～3.83mを測り、身舎面積は15.13㎡である。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱穴配置はほぼ左右対称で、桁行・梁行ともに柱間寸法はほぼ均等である。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片などが出土している。

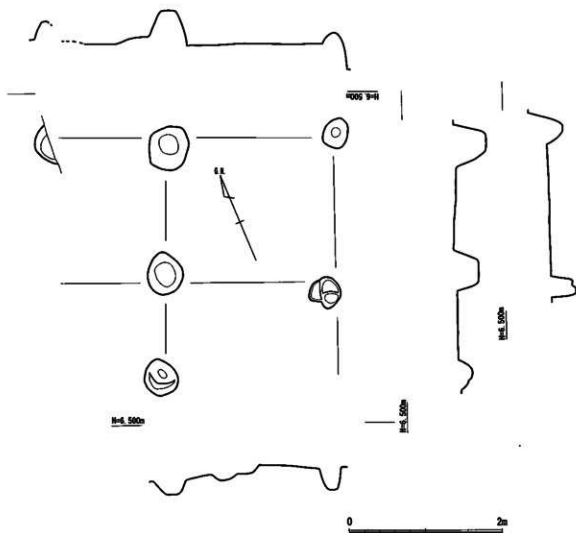


第65図 SB017遺構実測図 (1/50)



第66図 SB017出土遺物実測図 (1/4)





第67図 SB018遺構実測図 (1/50)

#### 出土遺物 (第66図)

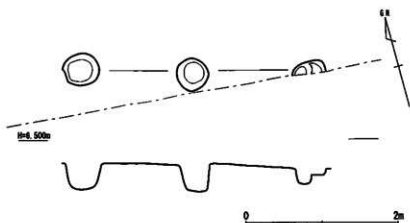
1は須恵器坏身で、SP765より出土した。復元口径10.4cmを測り、内面の口縁端部に段を有する。焼成温度が低いめか、外面の立ち上がり～内面にかけて暗紫灰色を呈する。MT15～TK10併行と考えられる。2は土師器甕で、SP560より出土した。胴部内面に粘土接合痕を残す。

#### SB018 (第67図)

SB018は、建物軸W-23°-Nで、後世の遺構の削平を受けており、現状では桁行間数×梁行間数が、2間以上×2間の総柱建物跡であると推察される。桁行の長さは3.70m以上、梁行の長さは、3.13mを測り、身舎面積は11.58㎡以上と考えられる。柱筋から外れた柱穴跡は、確認されていない。出土遺物はない。

#### SB019 (第68図)

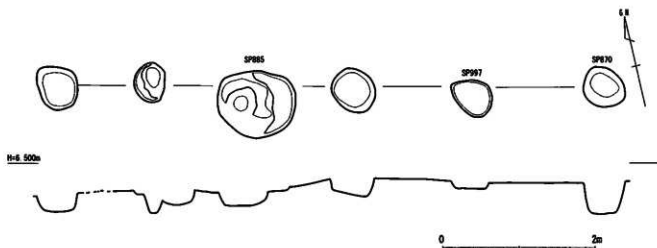
SB019は、建物軸W-15°-Nで、調査区外への展開が想定され、現状では桁行もしくは梁行間数が、2間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行または梁行の長さが2.97m以上を測る。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱間寸法はほぼ均等である。柵列遺構である可能性も考えられる。出土遺物は、土器片、土師器片が出土しているが、細片であり、実測に耐えるものはなかった。



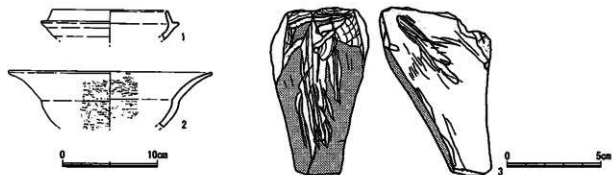
第68図 SB019遺構実測図 (1/50)

SB020 (第69図)

SB020は、建物軸W-19°-Nで、調査区外への展開が想定され、現状では桁行もしくは梁行間数が、5間以上の側柱建物跡であると推察される。建物規模は、桁行または梁行の長さが7.25m以上を測る。柱筋から外れた柱穴跡はなく、柱間寸法は不均等である。横列遺構の可能性も考えられる。出土遺物は、下記の遺物の須恵器・土師器・筋砥石の他に、土器片、土師器片などが出土している。



第69図 SB020遺構実測図 (1/50)



第70図 SB020出土遺物実測図 (3=1/2、他1/4)

出土遺物（第70図）

1は須恵器坏身で、SP870より出土し、復元口径11.9cmを測り、TK43併行と考えられる。2は土師器高坏で、SP997より出土した。器面は、内外面ともハケメの後にミガキを施す。布留式新相併行期のもので、混入品と考えられる。

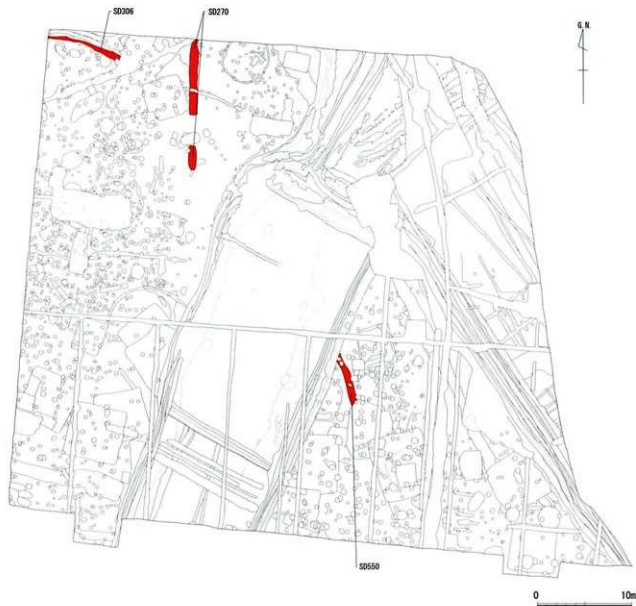
3はSP885より出土した天草石製の砥石である。上端面は分割面が残り、下端面は若干欠損している。表裏面・左右側面は磨き整形が施されているが、研ぎによる深く抉れた痕跡が認められるのは、表面と右側面のみである。

## 溝状遺構 (第71図)

当該期に比定される溝状遺構は3条存在する。SD270は調査区北側の中央寄りに、SD306は北西隅に、SD550は中央からやや東寄りに位置する(第71図)。全形は、3条ともに確認できていない。遺構の状況や出土遺物などから、3条の溝状遺構間に明確な関連性は、見受けられなかった。

### SD270 (第72図)

270 a・bは、遺構形状、主軸方向の一致から一連の溝状遺構と考えられる。270 bは、北側部分が調査区外に延びており、現状で長さ779cm、幅104cm、深さ9cmを測る。断面線 a-a' を境に北側が一段高くなっている。また、SD270 bは、SD202 (SF200) によって削平される。270 aは、長さ274cm、幅102cm、深さ4cmを測る。270 a・bは、主軸方向がほぼ北で、南北方向に一直線状に延びていることから、なんらかの区画を目的とする溝状遺構の可能性がある。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片、黒曜石片などが出土している。



第71図 溝状遺構配置図 (1/400)



50270a

1 2

1 2

0 2



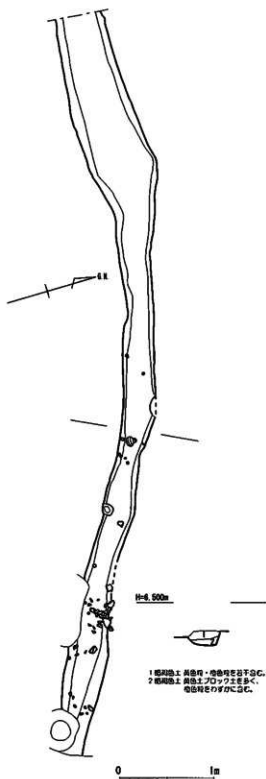
1・2は須臾器環蓋である。1は外面の天井部と口縁部境には、幅広の沈線による段が残り、内面の口縁端部も段を有する。MT85併行と考えられる。2は復元口径13.5cmを測る。外面の天井部と口縁部境には、幅広の沈線による段が残り、MT85併行と考えられる。

西端は調査区外に延び、東端は後世の遺構の削平を受け、現状では、長さ7.70m分を検出した。幅は70cm、深さは15cmを測り、湾曲しながら東西方向に延びている。出土遺物は細片の出土量が多く、下記の遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片、黒曜石片などが出土している。

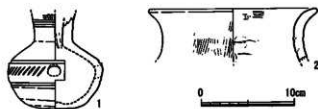
1は須恵器甕である。胴部は、沈線と沈線の間に刺突文を帯状に施し、その文様帯中央部の外面から斜めに穿孔している。頸部は、2条の沈線の上に縦方向の櫛描き文を施す。底部は平坦で、やや口が張り、胴部最大径は、胴部の中心よりやや上方にあって、10.0 cmを測る。また、胴部と頸部の境は4.1 cmを測る。TK43併行と考えられる。2は土師器甕で、内面に粘土接合痕を残す。

北西端は近世の遺構に、南東端はSH555に削平されており、現状で長さ4.80m分を検出した。幅は80cm、深さは17cmを測る。西側にはテラスを1段有する箇所がある。出土遺物は、下記遺物の他に、須恵器片、土師器片、黒曜石片などが出土している。

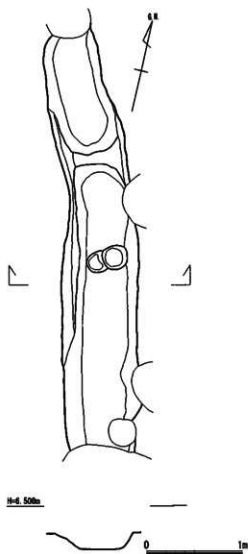
1 は土師器甕である。



第74図 SD306遺構実測図 (1/40)



第75図 SD306出土遺物実測図 (1/4)



第76図 SD550遺構実測図 (1/40)



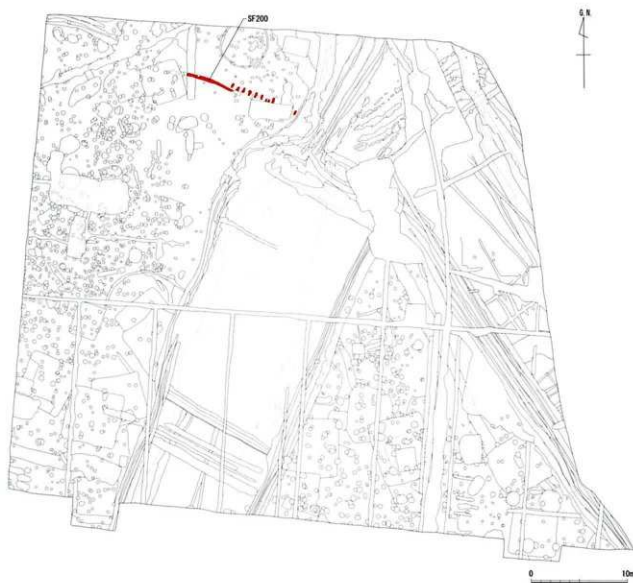
第77図 SD550出土遺物実測図 (1/4)

## 道路状遺構 (第78図)

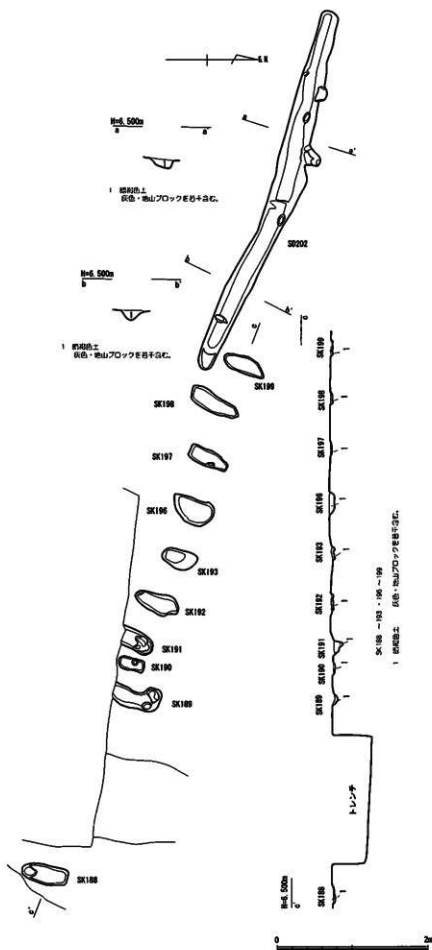
当調査区で、道路状遺構はSF200の1基のみであり、調査区の北側中央に位置する。(第78図)

### SF200 (SK188～193・196～199, SD202) (第79図・第5表)

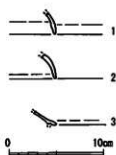
上記の11遺構は、埋土が地山の黄白色土を含む暗褐色土で同一であること、遺構の主軸方向がほぼ一致していることから、一連の遺構群であると考えられる。当遺構群は、蛇行はしているが、主軸方向はおおよそW-20°-Nで、東西に連なる10基の土坑群(SK188～193・196～199)と1条の溝状遺構(SD202)とで構成される。東半では後世の遺構の削平を受け土坑が欠失している可能性があり、東端でも後世の遺構の削平を受けていることから、さらに東側へと展開する可能性がある。また、遺構の遺存状況は悪く、遺構上面は大幅な削平を受けていると考えられる。現状で全長は約12.0m、溝状遺構のみの長さは約5.0m、10基の土坑群のみの長さは約7.5mを測る。溝状遺構の東端が西端の土坑(SK199)の南側に沿う形で確認された。土坑群はやや蛇行しながら東西に列を成して連なっており、土坑間は、ほぼ等間隔だが、東側では一部不均等な箇所もある。間隔は西から順に、



第78図 道路状遺構配置図 (1/400)



第79図 SF200遺構実測図 (1/50)



第80図 SF200出土遺物実測図 (1/4)

第5表 道路状遺構一覧表

| 遺構番号  | 長さ(m) | 幅(cm) | 高さ(cm) | 出土遺物                        |
|-------|-------|-------|--------|-----------------------------|
| SK188 | 60    | 25    | 3      | -                           |
| SK189 | -     | 24    | 4      | -                           |
| SK190 | 35    | 16    | 2      | 土器片                         |
| SK191 | -     | 24    | 12     | 土器片<br>黒曜石                  |
| SK192 | 49    | 23    | 3      | 土器片<br>須恵器片<br>黒曜石          |
| SK193 | 45    | 21    | 4      | 土器片<br>須恵器片                 |
| SK196 | 57    | 33    | 8      | 土器片<br>須恵器片<br>黒曜石          |
| SK197 | 54    | 21    | 2      | 土器片                         |
| SK198 | 69    | 22    | 3      | 須恵器片                        |
| SK199 | 58    | 21    | 3      | 黒曜石                         |
| SD202 | 498   | 33    | 13     | 須恵器環身<br>土器片<br>須恵器片<br>黒曜石 |



47cm、48cm、46cm、39cm、44cm、39cm、10cm、23cmとなっている。土坑の欠失が想定されるSK189とSK188との間は、238cmを測ることから、3基分の土坑が欠失していると推測される。溝状遺構は、やや屈曲し東西方向に延びている。溝状遺構の下端レベルは、5.96m、土坑群の下端レベルは、西から順に、6.06m、6.07m、6.06m、6.01m、6.01m、6.02m、5.88m、5.99m、5.94m、5.92mを測り、土坑群に関しては、西から東へと低くなっており、傾斜していたことが見て取れる。東西に列をなして連続する土坑群、その西端から沿うように西へ延びる溝状遺構からなる当遺構群の性格は、他の遺跡の調査結果を鑑みると、道路状遺構である可能性が高いものと考えられる。出土遺物は、須恵器などが出土している。

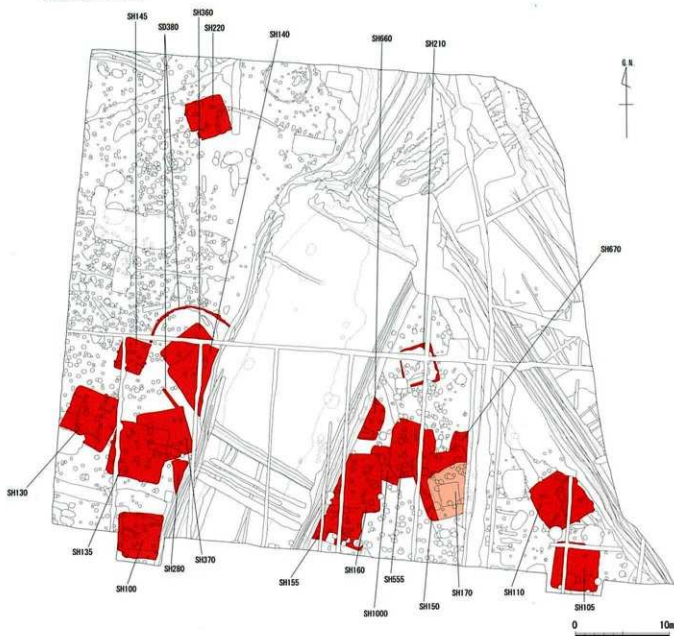
各土坑、溝状遺構の計測値、および出土遺物は第5表に記す。

#### 出土遺物（第80図）

1～3は須恵器環蓋で、SD202より出土した。1・2は口縁部～天井部にかけて、やや傾きながら立ち上がり、TK209群行と考えられる。3は環蓋で、天井部～かえりにかけての器形は直線的で、TK46～TK48に比定される。

竪穴建物跡 (第81・82図 第6表 Fig. 3)

竪穴建物跡は、SH220を除き調査区南側に分布し、20棟を数える。遺構検出面直上まで、削平を受けており、遺残状況は悪く、全形を把握できない建物跡が半数ほどある。建物跡の中には、周溝、溝状遺構、土坑、ベッド状遺構などの内部施設を有するものも多い(第82図)。SH360は、建物周囲を囲うと考えられる溝状遺構が確認されており、外部施設を伴うものもある。主柱穴跡の確認できる建物跡は、SH145の2本柱を除くとすべて4本柱と考えられる。また、カマド跡は全く見受けられず、地床跡のみが確認されている。掘立柱建物跡と異なり、竪穴建物跡は建物軸の方位による偏りは見られない (Fig. 3)。建物面積は、最小は10.26㎡、最大は38.85㎡で、建物跡ごとに差がある (第6表)。建物跡の時期は、古墳時代前期と考えられるものが3棟あるのみで、そのほとんどが古墳時代後期に比定される。よって、当調査区内を見る限りでは、古墳時代全般に渡って継続的に営まれていた感はなく、古墳時代後期にその中心がある。また、玉作り関連の遺物が出土する竪穴建物跡も古墳時代後期のものである。



第81図 竪穴建物跡遺構配置図 (1/400)



第82圖 堅穴建物跡遺構実測圖 (1/200)

第6表 竪穴建物跡一覧表

| 遺構番号   | 建物軸方向       | 東西(m) | 南北(m) | 面積(m <sup>2</sup> ) |
|--------|-------------|-------|-------|---------------------|
| SH100  | N - 3° - E  | 4.80  | 5.00  | 24.00               |
| SH105  | N - 6° - E  | 4.70  | 5.63  | 26.46               |
| SH110  | N - 29° - W | 5.74  | 5.77  | 33.12               |
| SH130  | N - 24° - E | 5.43  | 5.50  | 29.87               |
| SH135  | N - 14° - E | 5.77  | 5.70  | 32.88               |
| SH140  | N - 32° - W | 5.20  | 5.73  | 29.80               |
| SH145  | N - 19° - E | 2.85  | 3.60  | 10.26               |
| SH150  | N - 18° - W | 5.55  | 7.00  | 38.85               |
| SH155  | N - 12° - E | -     | 4.26  | -                   |
| SH160  | N           | -     | 6.20  | -                   |
| SH170  | N - 14° - W | -     | 5.65  | -                   |
| SH210  | N - 13° - W | 3.82  | 4.30  | 16.43               |
| SH220  | N - 17° - W | -     | 4.21  | -                   |
| SH280  | N - 5° - W  | -     | -     | -                   |
| SH360  | N - 39° - W | 5.33  | -     | -                   |
| SH370  | N - 14° - W | 5.01  | 5.29  | 26.50               |
| SH555  | N - 11° - W | 4.72  | 5.47  | 25.82               |
| SH660  | N - 11° - E | -     | -     | -                   |
| SH670  | N - 14° - E | -     | -     | -                   |
| SH1000 | N - 11° - E | -     | -     | -                   |

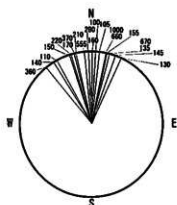


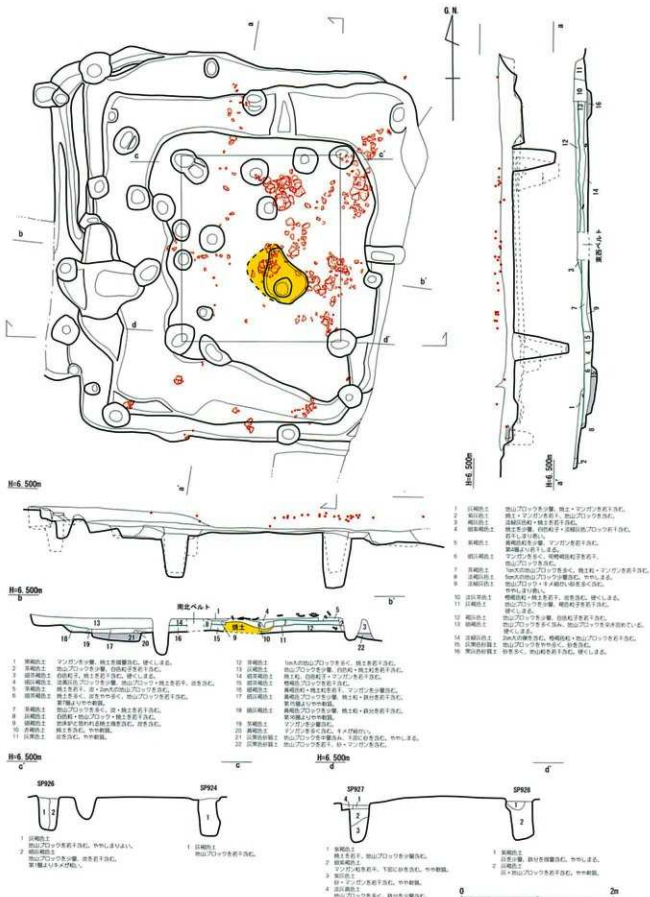
Fig. 3 竪穴建物跡建物軸方位

|    |               |
|----|---------------|
| SH | 遺構実測図         |
| 施設 |               |
| 黄色 | …地床跡          |
| 緑色 | …貼床(断面図)      |
| 青色 | …貼床除去後の輪形     |
| 遺物 |               |
| 赤色 | …上位           |
| 青色 | …下位           |
| 斜線 | …灰・炭・炭化物・埴土など |

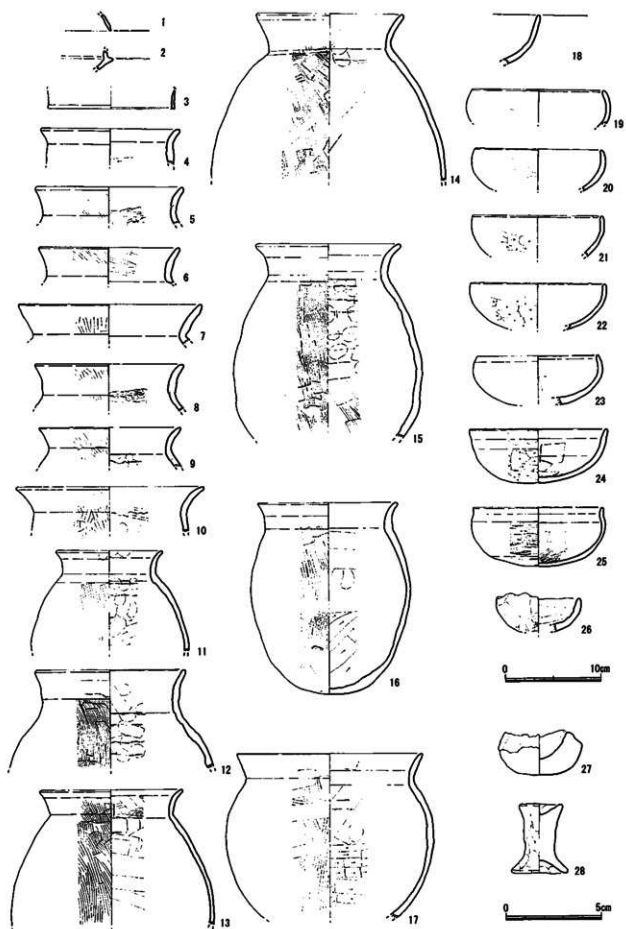
## SH100 (第83図)

SH100は、調査区中央の水田遺構に伴う溝状遺構によって南東部分を削平されている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN - 3° - Eである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが4.80m×5.00mで、深さは32cmを測り、面積は24.00m<sup>2</sup>と考えられる。内部施設としては、周溝、地床跡、主柱穴跡を確認している。周溝は、幅64cmを測る。主柱穴跡は4基確認しており、主柱は4本柱であったと考えられる。主柱穴跡の平面形状は、ほぼ円形を呈する。SP926は直径×深さが31cm×44cmを測り、直径14cmの柱痕を確認した。SP924は、直径×深さが40cm×51cmを測る。SP927は、直径×深さが39cm×51cmを測り、SP928は、直径×深さが39cm×54cmを測る。4基の柱間寸法は、北から右回りに、2.12m、2.46m、2.16m、2.37mを測り、4基を結んだラインはほぼ長方形である。中央で地床跡が検出された。a - a'の土層断面図第6・7・13層およびb - b'の土層断面図第7・12・15~18層は貼床である。また、a - a'の第15・16層およびb - b'の第21・23層は周溝である。a - a'、b - b'ともに貼床の下層に周溝が確認されており、土層観察から、当竪穴建物跡が改修されたと推察できる。b - b'では地床跡の上層に貼床の第7層があり、さらなる改修が想定される。以上のことから当遺構は少なくとも2回改修された可能性がある。出土遺物の大半は、検出時および埋土に伴うものである。出土遺物は、下記遺物の他に、方形竪穴建物跡の埋土から土器片、須恵器片、土師器片、製塩土器片、弥生土器片などが出土している。出土遺物 (第84・85図)

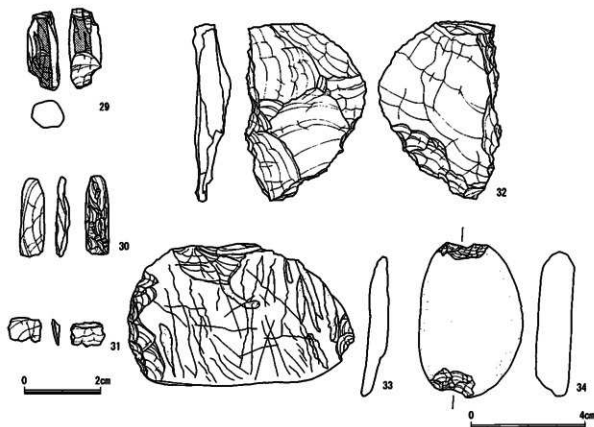
1~3は須恵器、4~28は土師器である。1は須恵器環蓋で、I緑部内面に稜などは無く、I緑部へ天井部にかけて、やや傾きながら立ち上がる。2は須恵器環である。1・2ともにMT85~TK43ff行と考えられる。3は埴蓋と考えられる。4~17は土師器甕である。5・8~12・14・15・17は内面に粘土接合痕を残す。12・15・16は胴部へI緑部の屈曲は緩やかで、肩があまり張らず、さらに15・16は長胴の器形を持つ。11・13・14は前者に比べ胴部へI緑部の屈曲がきつく、肩がやや張る。17は胴部へI緑部の屈曲が12などよりきつく、肩がやや張り、より球体に近い胴部を持つ。18~26は土師器甕である。18・24はやや外反気味のI緑部、19・20・23は内湾する口縁部、21・22はやや内湾するI緑部を持つ。25のI緑部は内湾した後、I緑部付近で外反する。19は口縁部外面に黒斑を有する。26はナデ・土具ナデによる調整が施されるが、I緑部にユビオサエの痕跡も認められ、



第83図 SH100遺構実測図 (1/50)



第84图 SH100出土器物实测图① (27·28=1/2、他1/4)



第85図 SH100出土遺物実測図② (33・34=3/4、他1/1)

口縁部は垂である。27・28はミニチュア土器で、ユビナデが施される。27の口縁部は意図的に打ち欠いた可能性がある。

29はカンラン石製の管玉未成品である。左側面に磨き調整を施す過程で抵理面に当って折れ、下端を欠損したものと推測される。表面と左・右側面、裏面の左右の5面に磨き調整が施されている。また、裏面上端には磨き残しによる加工痕が認められる。

30はカンラン石製の砕片である。表面には細かな二次調整が、左右側面には磨き調整が看取され、管玉の製作途上で横方向に割れたと考えられるが、一回り小さくするために管玉の表面を剥離した可能性もある。

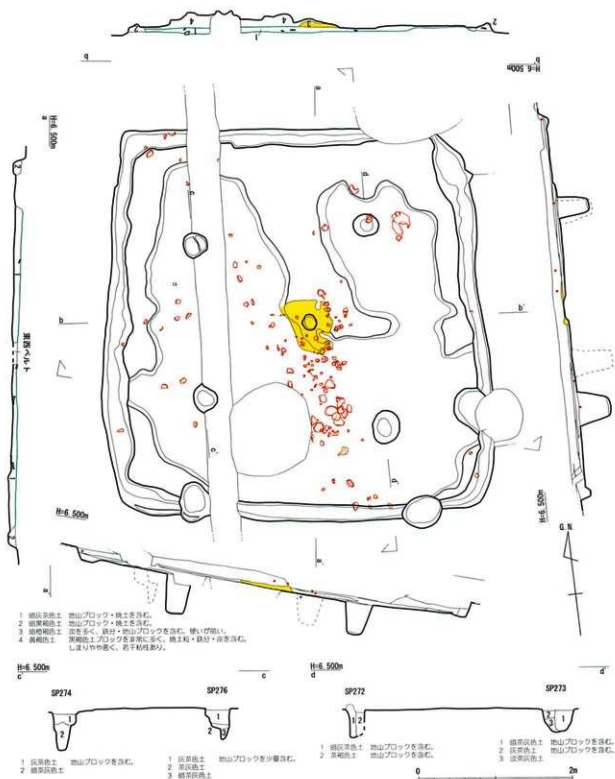
31はカンラン石製の剥片である。管玉の整形加工時に剥離された調整剥片だと考えられる。32は千枚岩製の二次加工を有する剥片である。左側縁は折断しており、右側縁に裏面からの二次加工と、表面からの平坦剥離が認められる。管玉の製作工程におけるごく初期の未成品と考えられる。

33は結晶片岩製の砥石である。裏面が全面自然面の剥片を素材とし、上端には整形のための二次加工を施している。右側縁下半は若干欠損している。表・裏面に研ぎによると考えられる主に横方向の擦痕が顕著に認められる。

34は角閃石安山岩製の石錘である。扁平で楕円形に近い形状の自然礫を素材とし、上・下端に裏面から打ち欠きによる挟りを入れている。裏面の上下端に掛け紐によると考えられる若干の剥落が認められる。

#### SH105 (第86図)

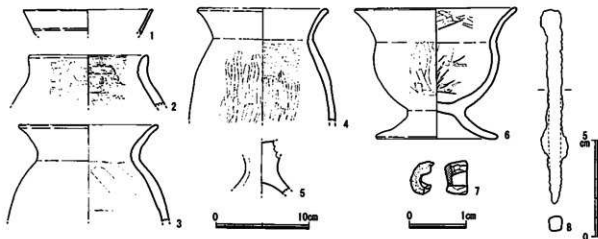
SH105は、現代の溝状道構などに削平されており、SD120、SK115を削平している。方形竪穴建物跡と考えら



第86図 SH105遺構実測図 (1/50)

れ、建物軸は $N-6^{\circ}-E$ である。建物規模は、現状で東西×南北の長さが $4.70m \times 5.63m$ で、深さは $20cm$ を測り、面積は $26.46m^2$ と考えられる。また、建物プランは、南側の東西長が、やや長い台形であったと推察される。内部施設としては、周溝、地床炉、主柱穴跡を確認している。周溝は、幅 $23cm$ を測る。主柱穴跡は4基確認しており、主柱は4本柱であったと考えられる。主柱穴跡の平面形状はほぼ円形を呈する。SP276は、直径×深さが





第87図 SH105出土遺物実測図 (7=3/2、8=1/2、他1/4)

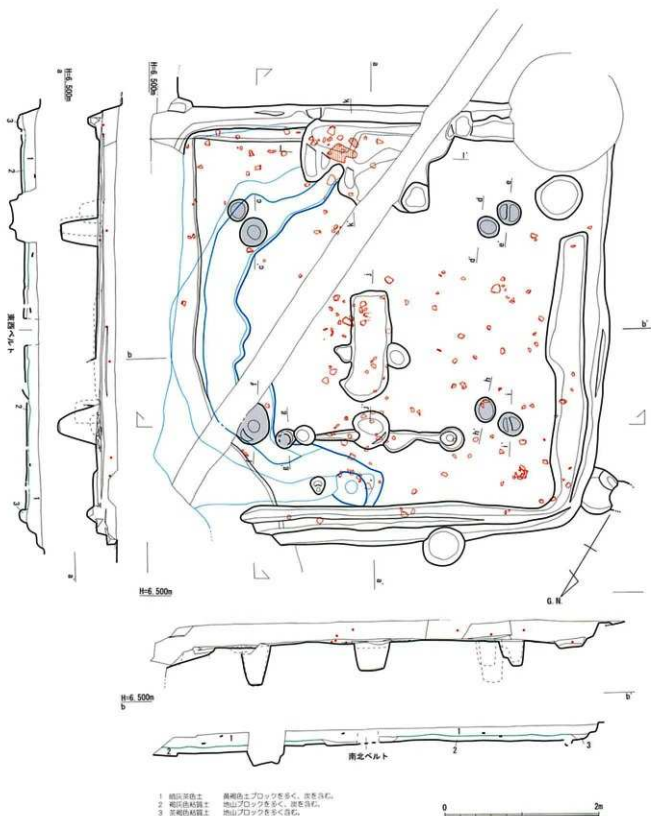
32cm×40cmを測り、直径11cmの柱眼を確認した。SP274は、直径×深さが34cm×50cmを測る。SP272は、直径×深さが26cm×43cmを測り、直径9cmの柱眼を、SP273は、直径×深さが43cm×30cmを測り、直径23cmの柱眼を確認した。4基の柱間寸法は北から右回りに、2.16m、2.65m、2.41m、2.50mを測り、4基を結んだラインは台形を呈する。中央で地床が検出された。当遺構はSD120の直上に建てられている。b-b'の土層断面からは、SD120直上の部分は周囲よりレベルが低いため、黄褐色土または暗褐色土をその上に盛り（第3・4層）、周囲のレベルと揃えていることが窺える。第1層の暗灰色茶色土も第3・4層同様、貼床と考えられ、第1層は、貼床を貼り直したと推察される。出土遺物は、第1層（貼床）に対応する面に伴う遺物と考えられる。出土遺物は、下記遺物の他に、方形竪穴建物跡及び主柱穴跡の埋土から土器片、須恵器片、土師器片、弥生土器片などが出土している。

#### 出土遺物（第87図）

1は須恵器、2～6は土師器、7はガラス製小玉、8は鉄鏝である。1は須恵器ハソウの口縁部で、復元口径13.4cmを測り、混入品である。2は壺で、口縁部内面～頸部内面に粘土接合痕を残す。3・4は甕である。3は頸部～胴部内面に粘土接合痕を残す。4は口縁端部を平坦に仕上げ、内外面ともにミガキを施す。胴部に黒斑が認められる。5・6は高坏である。5は坏部内面にはナデを、脚部外面には縦方向のケズリを施す。6の坏部は口縁部外面のみヨコナデを施し、他の部分はケズリの後ミガキを施す。一方、脚部にはナデもしくはヨコナデを施す。7は青色ガラス製の小玉である。右半を欠損している。8の鉄鏝は現状で長さ10.0cm、径は隅丸方形を呈し、縦0.7cm、横0.65cmを測る。

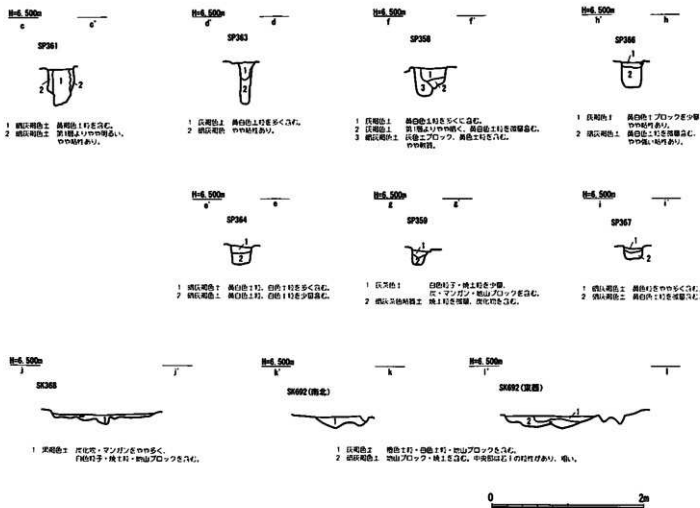
#### SH110（第88・89図）

SH110は、水田遺構及びそれに伴う溝状遺構や現代の溝状遺構によって削平されている。また、当遺構は、SB001、SD120、SK390との遺構の重複関係から、(古)SK390→SD120→SH110→SB001(新)となっている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-29°-Wである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが5.74m×5.77mで、深さは29cmを測り、面積は33.12㎡と思われる。内部施設としては、周溝、主柱穴跡、溝状遺構を伴う柱穴跡、土坑を確認している。周溝は幅41cmを測り、南西隅には展開しないようである。a-a'、b-b'の土層断面図からは、周溝が竪穴建物跡の掘形よりも若干内側に掘られているように見え、また、北辺の周溝は2条あるように見受けられる。主柱穴跡は、8基確認されている。主柱は4本で、方形に配置していたと推察され、周溝の状況も鑑みると建替えが想定される。主柱穴跡の平面形状はほぼ円形で、直径×深さはSP362が28cm×75



第88図 SH110遺構実測図① (1/50)

cm、SP361が37cm×50cm、SP363が32cm×54cm、SP364が28cm×25cm、SP366が26cm×32cm、SP367が26cm×17cm、SP358が45cm×37cm、SP359が27cm×22cmを測る。SP361、SP363、SP358は土層観察から柱痕が確認され、直径は順に22cm、12cm、21cmを測る。建物跡の中央付近で、建物跡と遺構主軸を同じくする灰溜り土坑が検出された。



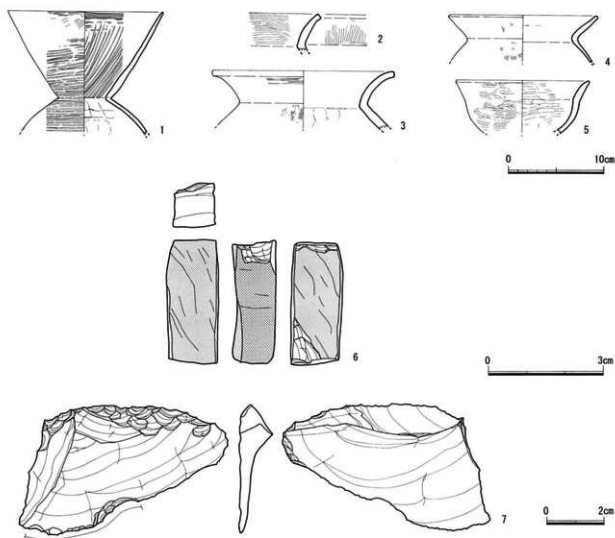
第89図 SH110遺構実測図② (1/50)

平面形状は長方形で、長さ140cm、幅53cm、深さ11cmを測り、底面では凹凸が見られる。南側の壁際でも土坑が確認されている。土坑の規模は、長さ120cm、幅72cm、深さ15cmを測る。北側の主柱穴間に挟まれた位置で、溝状遺構によって連結している3基の柱穴跡が検出された。柱穴跡の直径×深さは、東から27cm×32cm、50cm×37cm、31cm×13cmを測り、中央の柱穴跡の規模が大きい。連結する溝状遺構の規模はともに幅14cmを測り、下端レベルが東西の柱穴跡から中央の柱穴跡へと低くなるように傾斜している。a-a'、b-b'の第2層の褐色土は粘土と考えられる。出土遺物の多くは検出時および埋土より出土し、床面直上と明確に断定できるものはない。出土遺物は下記遺物の他に、方形竈穴遺物跡及び主柱穴跡などの埋土から土器片、土師器片などが出土している。

#### 出土遺物 (第90図)

1は土師器である。器壁は非常に薄く、外面はヨコナデの後、横方向のミガキを施す。口縁部内面も、ヨコナデの後ミガキを施すが、放射状の暗文風になっている。胴部内面は、ユビオサエの後ナデを施すが、粘土接合痕を残す。2～4は土師器である。3点とも口縁部内面に面取り調整をし、平坦に仕上げている。3は頸部内面に粘土接合痕を残し、内外面ともに黒斑が認められる。4は器壁の薄い土師器で、口縁部内面に粘土接合痕を残す。5は土師器である。外面に煤が付着する。

6は安山岩製の砥石である。上下端は折断しており、左側面は折れによって欠損している。表面及び右側面には磨き整形が施されており、欠損部の左側面も磨かれていた可能性が高い。主に表面が機能面であったと考えられ、研ぎによる擦痕が顕著に認められる。



第90図 SH110出土遺物実測図 (6=1/1、7=3/4、他1/4)

7は金山産と考えられるサヌカイト製の石包丁状打製石製品である。幅広剥片を素材とし、上端に装着もしくは手持ちのための刃澁し加工を打面側から施している。末端には使用によると推察される微細な剥離痕が観察され、左側縁は裏面からの折れによって若干欠損している。

#### SH130 (第91・92図)

SH130は、現代の溝状遺構や攪乱によって削平されている。また、当遺構は、SB008、SP055との遺構の重複関係から、(古)SH130→SB008→SP055(新)となっている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-24°-Eである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが5.43m×5.50mで、深さは31cmを測り、面積は29.87㎡と考えられる。内部施設としては、周溝、地床<sup>6)</sup>、主柱穴跡、柱穴跡、ベッド状遺構、溝状遺構を確認している。周溝は、北辺のみで確認され、幅31cmを測る。周溝内に、構築時の掘削痕が見られる。主柱穴跡は4基確認しており、主柱は4本柱であったと考えられる。直径×深さは、北西から右回りに(SP909→SP911→SP907→SP906) 29cm×42cm、37cm×66cm、31cm×41cm、34cm×30cmを測る。また、SP911では、柱痕が確認され、その直径は12cmを





層は黒褐色土となっており、土層の堆積状況も鑑みると貼床を貼り直した可能性がある。出土遺物は、床面あるいは床面付近から出土している。下記遺物の他に、方形竪穴建物跡・主柱穴跡などの埋土から土器片、土師器片、石針（石英製）・黒曜石片などが出土している。

#### 出土遺物（第93図）

1～4は須恵器、5～6は土師器である。1・2は坏身である。2は復元口径12.0cmを測り、立ち上がりが低く、斜めに傾く。TK43併行と考えられる。3は須恵器高環の脚部である。現存部位に文様、スカシは見受けられない。4は須恵器ハソウの口縁部と考えられる。屈曲部には幅広の沈線が廻る。5は土師器甕で、6～8は土師器埴である。6～8は口縁部が内湾する器形を有する。7は内外面とも胴部に、黒斑が帯状に付着する。8の外縁は口縁部と胴部境に黒斑が帯状に付着する。7・8は黒斑の状況から焼成時に重ね焼きをしたものと考えられる。

9・10は白玉未成品である。9は蛇紋岩製で、表面に若干、側面に顕著に磨き残しによる加工痕が観察される。表面からのみ穿孔されている。10はカンラン石製で、表面は余り磨き整形が進行しておらず加工痕が顕著に残り、他の白玉に比して厚さが大きく、傾きを有している。表面からのみ穿孔を施している。

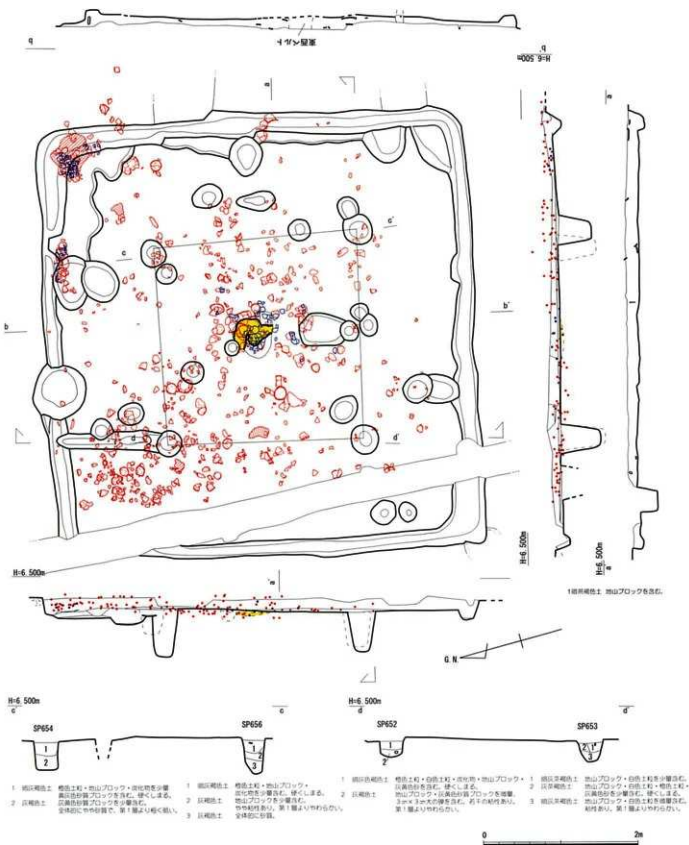
11は蛇紋岩製の石核である。やや縦長に近い剥片を素材にしていると考えられ、背面のネガ面の一部と切断面を打面としている。正面上半を作業面としており、若干の打面調整・頭部調整も看取される。剥取された剥片の大きさから、白玉の素材剥片用石核だと推測される。

#### SH135（第94図）

SH135は、現代の溝状遺構や掘乱によって削平されている。また、当遺構は、SH370、SP950との遺構の重複関係から、(古)SH370・SP950→SH135(新)となっている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-14°-Eである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが5.77m×5.70mで、深さは19cmを測り、面積は32.89㎡と考えられる。内部施設としては、周溝、地床炉、主柱穴跡、溝状遺構を確認している。周溝は、幅23cmを測る。主柱穴跡は4基確認されており、主柱は4本柱であったと考えられる。主柱穴跡の平面形状は円形を呈し、直径×深さは、南東から左回りに（SP654→SP656→SP652→SP653）34cm×38cm、32cm×47cm、31cm×27cm、35cm×29cmを測る。4基の主柱穴跡の柱間寸法は、東から左回りに、2.73m、2.43m、2.60m、2.80mを測り、4基を結んだラインは台形を呈する。地床炉は、建物跡中央で検出された。溝状遺構は、主柱穴跡（SP652）に連結している。長さ133cm、幅23cmを測る。南北断面見通し図から分かるように、主柱穴跡寄りの位置で落ち込みがあり、深さは21cmを測る。溝状遺構の主軸方向は、竪穴建物跡のそれと一致する。埋土は、暗茶褐色土の1層のみで、貼床は確認されていない。北東コーナーで焼土が確認された。土師器高環は北側の周溝際に、ミニチュア土器は建物跡北西隅に偏って出土する傾向にある。また、4主柱穴跡に囲まれた空間内で出土した土師器鉢・埴の一部は、正位置で出土している。出土遺物は下記遺物の他に、方形竪穴建物跡の埋土から土器片、須恵器片、土師器片、弥生土器片などが出土している。

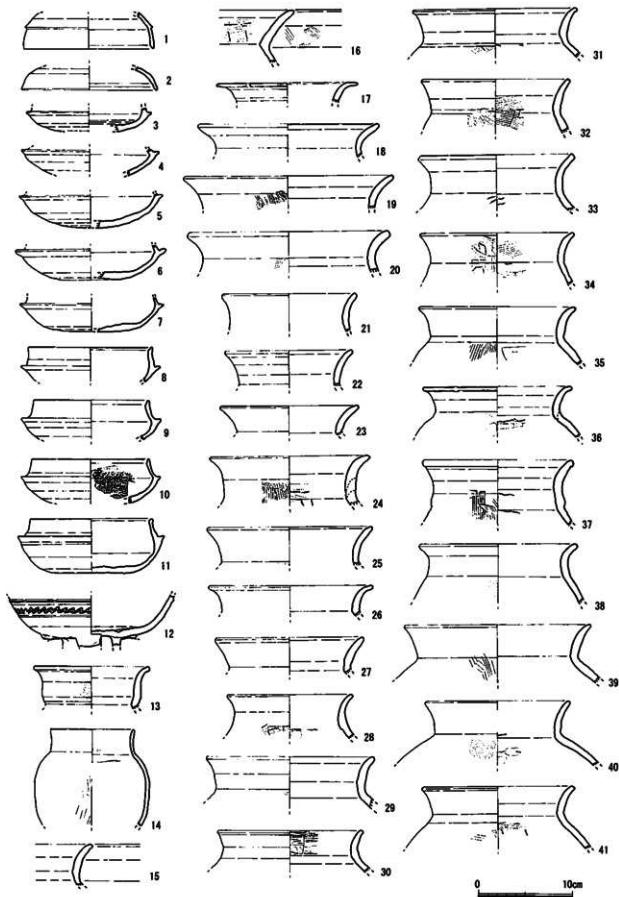
#### 出土遺物（第95～101図）

1～12は須恵器、13～113は土師器、114は土師質輪羽口である。1は須恵器坏蓋で、復元口径13.6cmを測る。外面の天井部と口縁部境に段を、また口縁部内面にも段を有し、MT15併行と考えられる。2は須恵器坏蓋で、復元口径14.2cmを測る。口縁部内面に緩やかな沈線が廻る。3～11は須恵器坏身である。各々の復元口径は8が13.05cm、9が12.2cm、10が12.35cmを測る。8～10は口縁部内面に段を有し、立ち上がりも高く、MT15併行と考えられる。また、10は内面に文様らしきものが認められる。11は口径12.9cmを測る。口縁部内面に段はないが、高い立ち上がりを持ち、TK10併行と考えられる。1・2・6においては、外面に自然軸が掛かっている。12は須恵器高環で、胴部外面に沈線文と波状文を施し、現状で2ヶ所にスカシを有する。また、外面胴部下に突起



第94図 SH135遺構実測図 (1/50)



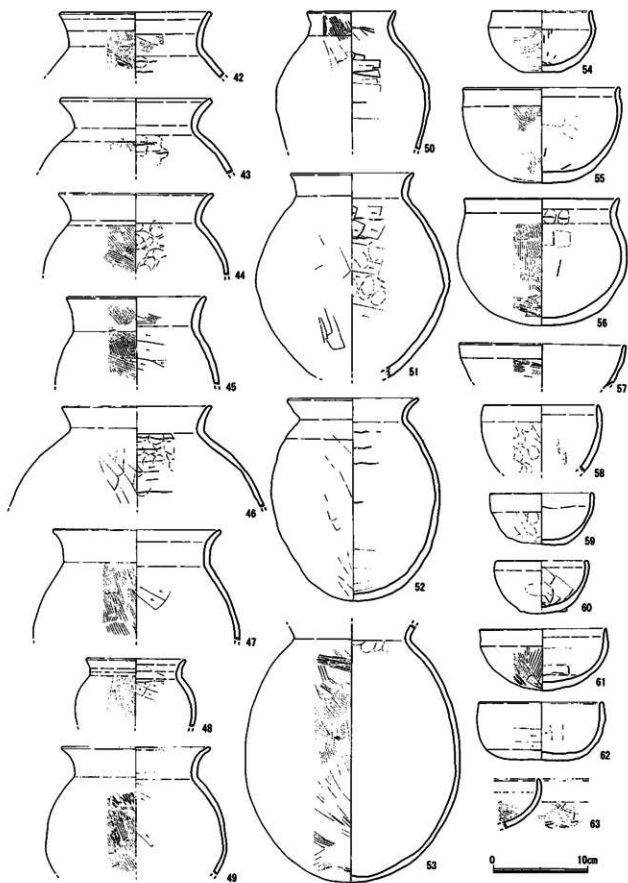


第95圖 SH135出土遺物実測図① (1/4)

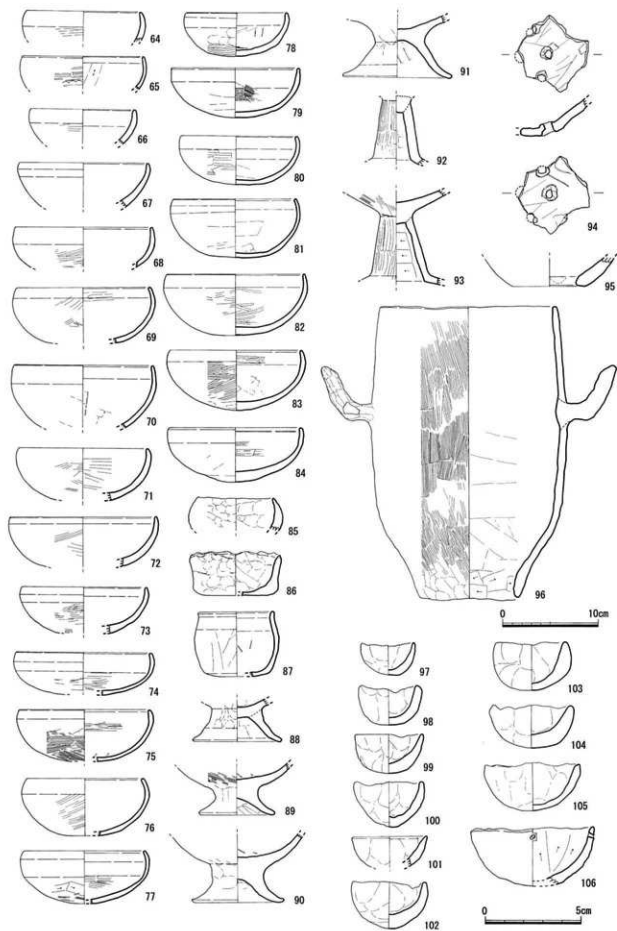
状のものが認められ、握手と推察される。内外面ともに自然軸が掛かるが、特に内面に著しい。13・14は土師器壺である。14は内面に粘土接合痕を有する。15～53は土師器甕である。24・28・31・32・34・36・37・40～43・46・51・52は内面に粘土接合痕を残す。16は胴部～I口縁部の屈曲がきつく、「く」字状を呈する。28・32～34・37・38は胴部～I口縁部の屈曲が緩やかで、29～31・35・36は前者に比べ胴部～I口縁部の屈曲がきつい。45・47は胴部～I口縁部の屈曲が緩やかで、肩の張らない器形を有する。39～44・46は45・47に比べ胴部～I口縁部の屈曲がきつく、肩の張る器形を有する。48・49は胴部～I口縁部の屈曲がきつく、球体に近い胴部を持つ。50は胴部～I口縁部の屈曲が緩やかで、肩はあまり張らず、やや長胴の胴部を持つ。51は胴部～I口縁部の屈曲がきつい、肩はあまり張らず、やや長胴の胴部を持つ。52・53は胴部～I口縁部の屈曲がきつく、肩はやや張り、やや長胴の胴部を持つ。32・33・41～43はI口縁部に面取り調整を施し、平坦に仕上げる。他の出土土師器の器面は橙色系を呈するが、20・36は淡黄色系を呈する。54～56は土師器鉢で、I口縁部が内湾した後、I口縁部付近で外反する器形を有し、54の底部は平坦である。57～87は土師器甕である。57はI口縁部が「は」字状に開く。58～60は深さがあり、I口縁部が直口縁に近い。59・60は面取り調整を施し、I口縁部を平坦にする。また、59の底部は平坦に成形し、60の底部には粘土帯が付着する。61は外反するI口縁部を有し、62は平底である。63～84のうち79は直口縁だが、他は内湾するI口縁部、またはやや内湾するI口縁部を持つ。69はI口縁端部を平坦に仕上げている。85・86は器面にユビオサエの痕跡を残し、86・87は平底である。88～93は高坏で、脚の器高が高いもの(88～91)と低いもの(92・93)とがある。94～96は甕である。94は多孔式、95・96は単孔式である。97～113はミニチュア土器である。106は対面する2ヶ所に穿孔がなされる。112は3ヶ所に穿孔を施すが、1ヶ所は貫通しておらず、そのすぐ横に貫通した孔がある。貫通した孔2個は対面する位置にある。113は器台形のミニチュア土器である。114は土師質輪羽口で、両端と内面を欠損する。

115～136は製塩土器である。須恵質のものと土師質のものが存在し、115・125・131・132・133は須恵質、他は土師質を呈する。底部を製塩竈に接して使用される製塩土器は、底部の欠損率が高いためか、底部近辺が残存しているのは僅かに135・136のみである。I口縁部は、基本的に「は」字状に内傾する形態を呈する。

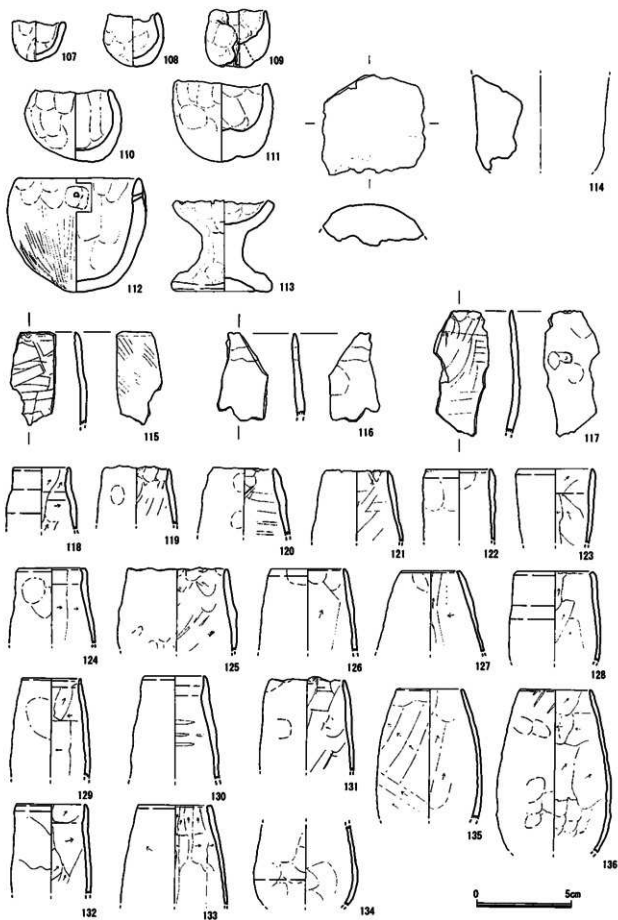
115は外面に布の圧痕のようなナデ痕が観察される。また、内面に関しては、工具を用いたヨコナデの後、へら状工具を用い、底からI口縁部にかけて縦方向に調整痕が確認される。外面には、タタキ調整のような痕跡が確認される。116は外面の比熱が著しく器面調整の観察には適さない。I口縁部付近に関しては、粘土接合痕を残す。117は器面の一部が被熱により赤変している。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕および掌痕が確認され、内面には工具を用いたヨコナデ後、縦方向のナデ調整を施したことが確認される。118は外面に布の圧痕のようなナデ痕が観察される。また、内面に関しては、工具を用いたヨコナデの後、へら状工具を用い、底からI口縁部にかけて縦方向に調整痕が確認される。I口縁部には、被熱により赤変した部分と化学反応によると思われる白色化した部分を確認することができる。119は須恵質を呈する。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面には工具を用いたヨコナデ後、縦方向のナデ調整を施したことが確認される。120は器面に二次焼成を受けており、外面は炭素を多く吸着したのか黒色化している。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面には工具を用いたヨコナデ後、縦方向のナデ調整が確認される。121は須恵質を呈し、119とは同一個体であったものと考えられる。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面には工具を用いたヨコナデ後、縦方向のナデ調整を施したことが確認される。122は内外面の依存状態が悪いため器面観察が不明瞭である。外面に関しては、指頭圧調整を確認することができ、I口縁部付近には、煤の付着が見られる。123は外面の比熱が著しく剥離してしまっているため器面の観察には適さない。内面は、器体を回転させながら、工具のようなもので跳ね上げるように調整をおこなっている。124はI口縁部分が50パーセントほど残存した個体である。器面には、二次焼成を受けており、赤変・白色化した部分が確認される。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面には工具を用いたヨコナデ後、縦方向のナデ調整を施したことが確認される。125は器面に強い被熱痕跡が見受けられ、赤変・剥離した部分が確認される。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面に縦方向のナデ調整が確認される。126は器面に強い被熱痕



第96图 SH135出土物实刻图② (1/4)



第97図 SH135出土遺物実測図③ (97~106=1/2、他1/4)

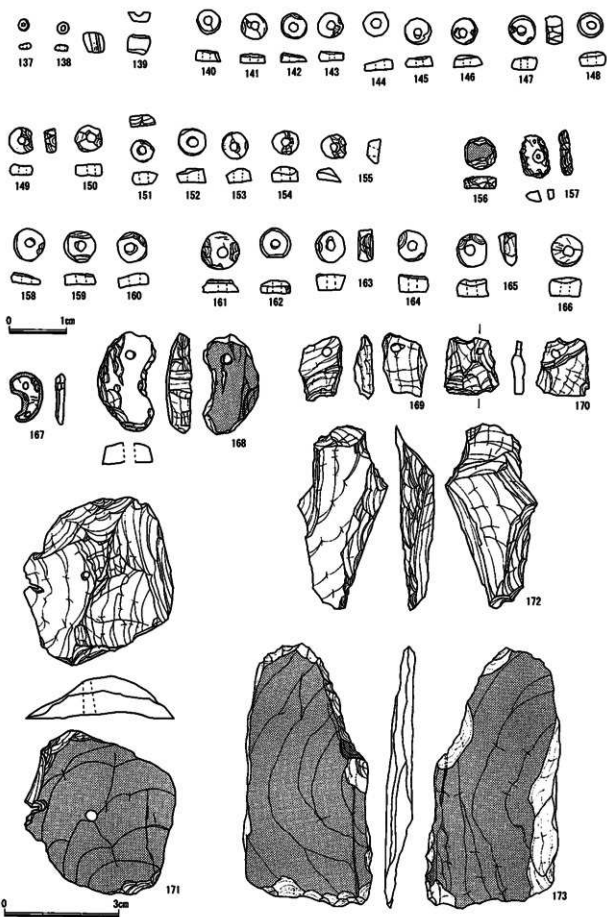


第98图 SH136出土器物实例图④ (1/2)

跡が見受けられ、赤変・白色化した部分が確認される。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面に縦方向のナデ調整が確認される。127は外面の一部が被熱により剥離している。しかし、他の部分は指頭圧による器面調整を観察することができる。内面に関しては、へら状の工具で反時計回りにヨコナデを施されており、部分的にミガキ調整のような痕跡も見受けられる。128は器面に強い被熱痕跡が見受けられ、赤変・灰白色化した部分が確認される。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面に縦方向のナデ調整が確認される。129は外面に布の圧痕を確認することができる。内面に関しては、器面調整に用いた明瞭な工具痕を観察することができ、工具を併用した手づくね成形であることが判明する。口縁部には、つまみ上げたような痕跡が見受けられる。130は器面に強い被熱痕跡が見受けられる。外面に関しては、被熱による火ぶくれが著しく、器面調整の観察は適さないが、口縁部ない外面には強いヨコナデが施されていることが分かる。内面に関しては、磨耗が激しいがタタキ痕が確認される。131は被熱の度合いが低く、黄灰色を呈する。器面調整に関しては、外面に指頭圧痕、内面には工具を用いたヨコナデ後、縦方向のナデ調整を施したことが確認される。132は被熱の度合いが低く器面観察に適した個体である。外面には、指頭圧と掌痕が確認され、非常に目の細かい布の圧痕のような痕跡も観察される。また、内面に関しては、工具を用いたヨコナデ後に、底部から口縁部方向へ向けたランダムな工具ナデ調整痕が観察される。特に口縁部内面に関しては、念入りに器面調整がおこなわれている。133は白色系の非常に精製された胎土が用いられている。器面は、被熱の影響が弱く状態は良好である。内面に関しては、底から口縁部に向けて掻き出すようにして器面を整えた後、反時計回りにヨコナデを施し、再度、底から口縁部へ向けて工具ナデを施している。内面に関しては、一連の工程をへらのような工具を用いておこなっているようである。外面に関しては、指頭圧痕および掌痕が確認され、器体を握るように持ち、へらのような工具を用いて内側器面を整えたことがわかる。134は製塩土器底部付近である。内外面ともに指頭圧により、丸く仕上げられており、丸底1式の特徴を呈することが窺われる。接合痕も確認することができる。135は須恵質を呈し堅緻な造りである。器面は、内外面ともに被熱の痕跡をあまり伝えない。器形は、内面から押し出すように捻りながら試験管状に成形されたようで、その際のひび割れが明瞭に確認できる。外面に関しては、口縁部にのみ横ナデが確認でき、他の部位は指頭圧調整により整えられている。内面に関しては、丁寧に底部付近から口縁部にかけてナデ上げられている。また、口縁部内面に、工具痕を確認することができ内面調整に工具が用いられたことを示唆する。136は最も依存状況の良い個体である。外面底部に関しては、被熱著しく赤変・剥離により器面観察には適さない。内面に関しては、底部付近には粘土接合痕後の指頭圧調整により丸く仕上げられている。それ以上に関しては、工具を用いたナデ上げ・ヨコナデ痕を確認することができる。内外面ともに底部付近における被熱が著しい。

137～139は小玉である。137は緑色のガラス製で、本道跡最小の玉で重量は0.01g未満で測定不能であった。138は青色のガラス製、139は青色のガラス製で、縦割れして半ばを欠損している。

140～148は小形の白玉である。140はカンラン石製で、裏面からのみ穿孔を施している。141はカンラン石製で、表裏面に僅かに磨き残しの痕と表面の孔の周囲に穿孔時の剥落あり。142はカンラン石製で、側面に若干磨き残しによる加工痕が残る。裏面からのみ穿孔を施している。右側面が若干薄くなっている。143はカンラン石製で、表面に若干、裏面に僅かの磨き残しが認められ、右側面の調整も今一つで形状がやや歪で、左側よりやや薄くなっている。裏面より穿孔が施されている。144は蛇紋岩製で、表面からのみ穿孔を施しており、上端近くと下端で厚みが異なる。145はカンラン石製で、裏面から片面穿孔が施されており、表面の孔の脇には穿孔による剥落が看取される。146はカンラン石製で、表・裏面に若干の磨き残しが見られる。また表面は一度穿孔しかけてやり直している。147はカンラン石製で、表裏面・側面に僅かに磨き残しによる加工痕が認められる。裏面からのみ穿孔が施されている。148はカンラン石製で、側面に若干の磨き残しあり。表面より穿孔を施している。149～155も小形の白玉だが、形状や厚みから成品直前の未成品と判断した。149はカンラン石製で、表面及び右側面に磨き残しによる加工痕が残ると共に、右側縁は形状が歪で未成品の可能性有り。表面からのみ穿孔しているが、や



第99图 SH135出土物実測图⑤ (167~173=1/1、他3/2)

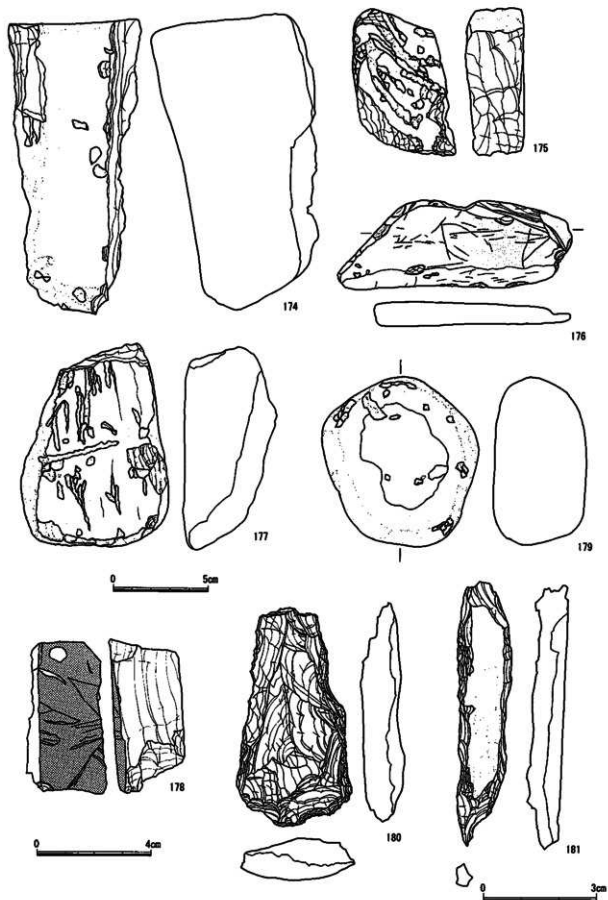
り直した痕跡が右脇に残る。150はカンラン石製で、表面に若干の磨き残しが見られる。また、表裏面から両面穿孔を施している。151はカンラン石製で、側面に若干の磨き残しによる加工痕が看取される。表面からのみ穿孔を施している。152はカンラン石製で、表面からの片側穿孔が施されている。上端近くと下端で厚みが異なる。153はカンラン石製で、表面に若干の磨き残しが見られ、穿孔は表からのみ施されている。154は蛇紋岩／カンラン石製で、表裏面に若干の磨き残しによる加工痕が認められ、表面上下の厚みの差が大きいので、未成品だと考えられる。表面からのみ穿孔を施している。155はカンラン石製で、表裏面の半ばと右側面は磨き整形が行き届いていない。また、右側面は極端に薄く、完形品とは言い難い。裏面からのみ穿孔を施している。156・157は140～155よりも前段階の臼玉未成品である。156はカンラン石製で、表・裏面は磨き整形が施されているが、側面は主に裏面から整形加工痕がそのまま残っており、磨かれていない。また、穿孔も行われていない。157は蛇紋岩製で、表・裏面に磨き整形が施された後、表・裏面より穿孔が行われており、また側面部への折断の後、側面から表・裏面への細部整形のための平坦に近い加工を為している。この後、最終的な磨き整形が施されて、完成品へと進むと推測される。158～160は、140～155に比較すると一回り大きい臼玉である。158はカンラン石製で、表面上端に若干の磨き残しがあり、全体形状も重で上半が薄くなっており、成品とは言い難い。表面からのみ穿孔が施されている。また、裏面には磨き調整による擦痕が若干認められる。159は蛇紋岩製で、表裏面・側面ともに若干の磨き残しによる加工痕が認められる。裏面からのみ穿孔が施されている。160は蛇紋岩製で、側面と裏面に若干の磨き残しが見られ、穿孔は裏面からのみ施されている。161～166は158～160に対応する臼玉未成品である。161は蛇紋岩製で、表面に若干の磨き残しと擦痕が認められる。また、表側からのみ穿孔されている。162は蛇紋岩製で、ほぼ完成しているが、右側面に磨き残しのない若干の欠損が認められる。表面からのみ穿孔を施している。163は蛇紋岩製で、表裏面に僅かに、右側縁に顕著に磨き残しによる加工痕が看取される。表面からのみ穿孔が施されている。164はカンラン石製で、表面に若干の磨き残しによる加工痕が看取される。表面からのみ穿孔されている。165は蛇紋岩製で、ほぼ成品に近づいているが、表裏面・側面に若干の整形加工の痕が残っており、上端と下端で厚みに大きな差が認められる。166は蛇紋岩製で、裏面からのみ穿孔しており、表面には若干の擦痕が看取される。

167は蛇紋岩製の勾玉である。表裏面及び側面に若干の磨き残しが、表裏面には磨き整形時の若干の擦痕が看取される。168は蛇紋岩製の勾玉未成品である。表裏面にはある程度の磨き整形が進んでいるが、箇所によって幾つかの磨きの面が見られ、なお1/3程度の磨き残しが見られる。側面は磨き整形は及んでおらず、主に裏面からの加工痕が残存する。また、右側面には切截用加工具によると考えられる擦り切りの痕跡が顕著に看取される。

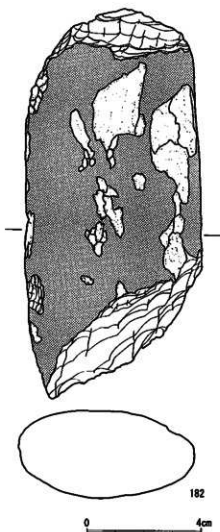
169・170は臼玉製作工程における、初期段階の臼玉未成品である。169は蛇紋岩もしくはカンラン石製で、幅広剥片を素材とし、打面及び末端を表面から折断加工を施した後、上端近くに穿孔を施している。170は蛇紋岩製で、幅広剥片を素材とし、上下左右側面に折断加工を施した後、表裏面の一部に素材を薄くするための平坦加工を行ない、さらに上端近くに裏面から穿孔を為している。いわゆる方形チップに近いが、表裏面に研磨痕は見られない。171は蛇紋岩製のごく初期の臼玉未成品である。右側縁上半を裏面からの折れによって若干欠損している。幅広剥片を素材とし、裏面全面と表面の甲高な部分に研磨を施し、次いで中央部に裏面から穿孔し、下端中央部から切截用加工具によって切断し始めている。

172・173は二次加工を有する剥片である。172は千枚岩製で、表面の右側縁に若干の二次加工が認められ、上端面及び右側面には若干の擦痕が看取される。勾玉製作工程における、初期の未成品と推測され、左側縁が裏面からの折れによって欠損した時点で遺棄したものと考えられる。173は蛇紋岩製である。表裏面に平坦化させるための研磨と左右側縁に表・裏面からの擦り切りの痕跡とそれを利用した折断加工が認められる。臼玉製作の初期段階にあるいわゆる「版状加工品」と考えられる。但し、福岡県などで出土するものに比べ格段に小形で、格





第100圖 SH135出土物実測図⑤ (179・180=3/4、181=1/1、他1/2)



第101図 SH135出土遺物実測図⑦ (3/4)

子状の擦り切りではなく、縦のみである。

174は蛇紋岩の分割産である。表裏面及び上下端は焼成によって変色した自然面。左右側面を焼成によって分割しており、若干の加工を施し、玉頭を作る石核に仕上げると思われる。

175～178は片玉や勾玉の磨きに使用されたと考えられる砥石である。175は角閃石安山岩製で、分厚く平坦な自然面を利用している。右側縁と下端面は折れによって欠損しており、廃棄後、焼けによって赤化している。表・裏面に磨き整形を施しており、研ぎによって表面には左上～右下方向の、裏面には縦と左上～右下の2方向の擦痕が認められる。176は緑泥片岩製で、幅広い剥片を素材とし、周縁に整形加工を施している。表面には磨き整形が為され、研ぎによると考えられる擦痕が、縦方向に顕著に、横方向にも若干認められる。裏面にも斜め方向の擦痕が看取される。177は角閃石安山岩製で、表面が平坦で裏面が不整な自然面を利用し、下端・裏面下半を欠損している。表面のみに主に縦方向に、若干の横方向の研ぎによる浅い窪みや擦痕が看取される。178は緑泥片岩製で、下半を裏面からの折れによって欠損している。上端面・左右側面は折断面のままで、裏面には粗い磨き整形が施されている。表面のみやや丁寧な磨き整形が施され、機能面として用いられており、若干の擦痕が認められる。

179は角閃石安山岩製の台石である。楕円形の自然面を利用している。表裏面ともに中央部に擦りによる磨減痕と若干の敲打痕が認められる。玉頭の製作に使用されたと考えられる。

180は金山産と考えられるサヌカイト製の打製石斧である。扁平な剥片を素材としており、裏面中央に素材面が残る。表裏面に平坦割離の後、周縁に整形加工を施し、更に裏面からのみ刃部加工を行ない、裏面に偏る片刃を形成している。表面左側縁上半は装着によってか欠損しており、欠損後に周縁に整形加工を施してリダクションしたと推測される。大きさから伐採具ではなく、工具だと推察される。但し石材から、住居に伴うものではなく流れ込みと推察される。

181は蛇紋岩製の石錐である。表面が全面自然面の剥片を素材としており、左側縁裏面を表面からの折れによって欠損している。周縁部を表裏面から二次加工を施して整形すると共に尖端も形成したと推測されるが、使用によってか先端の右側縁が若干欠損している。

182は結晶片岩製の磨製石斧である。基部・刃部を裏面からの折れによって欠損している。若干の磨き残しはあるものの全面に磨き整形が施されている。但し、左・右側縁には敲打調整の痕跡が顕著に認められる。



第102図 SH140遺構実測図 (1/50)

#### SH140 (第102図)

SH140は、調査区中央の水田遺構及びそれに伴う溝状遺構や現代の溝状遺構によって削平されている。また、SH360を削平している。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸は $N-32^{\circ}-W$ である。建物規模は、現状で東西×南北の長さが $5.20m \times 5.73m$ で、深さは $48cm$ を測る。南北に長い長方形の平面プランを持ち、面積は $29.80m^2$ と推察される。内部施設としては、周溝、主柱穴跡、土坑、落ち込みを確認している。周溝は幅 $34cm$ を測り、周溝内からは、土師器甕（P1・第103図15）が出土している。主柱穴跡は3基確認しているが、その配置から、南東側の削平部分にも主柱穴跡が存在していたことが想定され、本来主柱は4本柱であったと考えられる。主柱穴跡の

平面形状は円形を呈し、直径×深さは、北東から左回りに45cm×49cm、43cm×49cm、45cm×31cmを測る。3基の主柱穴跡の柱間寸法は、東西の長さが2.57m、南北の長さが3.21mを測る。土坑は、主柱穴跡を結んだラインの内側に位置し、北東隅の主柱穴跡と連結している。また、その主軸方向は、主柱穴跡を結んだラインや周溝の主軸方向とはほぼ一致する。土坑の規模は、長さ196cm、幅58cm、深さ6cmを測り、内部に灰が溜まっていたことから、灰溜り土坑と推測される。貼床も確認されている。高坪（P189・第104図30）・ミニチュア土器（P190・第104図40）が、貼床直上から出土し、その出土状況から意図的に置かれたものと推察される。貼床の上層は周溝部分も含めて暗褐色土、ただ1層に覆われている。当遺構の北東隅には、2条の小溝を伴う落ち込みがあり、その主軸方向は小溝も含めて周溝のそれと一致している。しかし、貼床の下層で確認されており、確認された貼床面以前に使用面が存在した可能性がある。落ち込みの規模は、東西が2.03m、南北が1.94m、深さ2cmを測る。それに伴う西側の小溝は長さ58cm、幅20cm、深さ14cmを測り、南側の小溝は削平により長さは不明だが、幅は13cm、深さは7cmを測る。出土遺物は、下記遺物の他に、方形竪穴建物跡・主柱穴跡・土坑の埋土から土器片、土師器片、弥生土器片などが出土している。

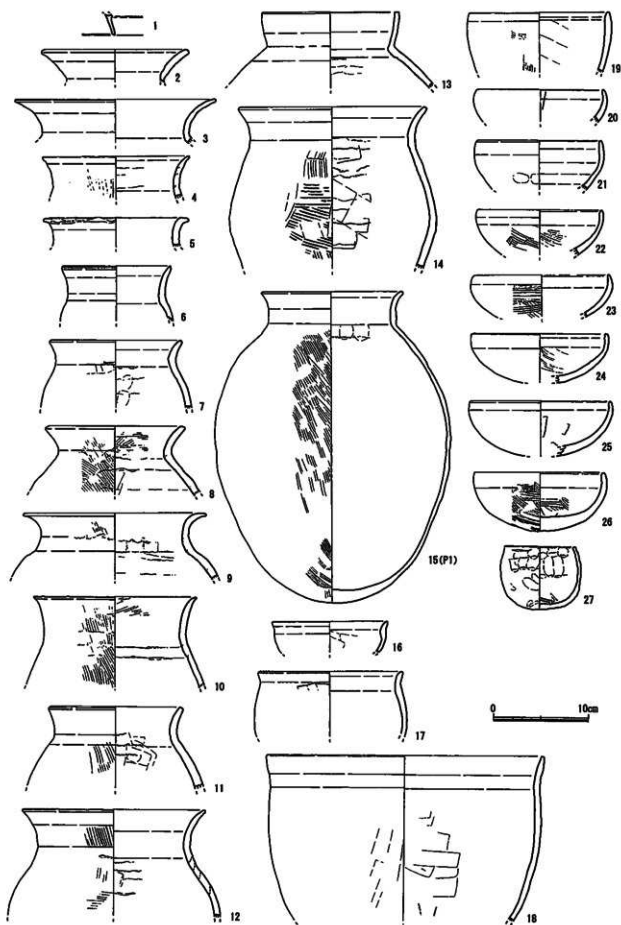
#### 出土遺物（第103・104図）

1は須恵器、2～39は土師器である。1は須恵器坏蓋で、外面の天井部と口縁部境に段を、また口縁部内面にも段を有し、MT15～TK10併行と考えられる。2～15は土師器甕である。4・7・8～15は内面に粘土接合痕を残す。8・11・14は口縁端部に面取り調整を施し、平坦に仕上げる。8・9・15は他の甕に比べ胴部～I緑部の屈曲がきつく、9は肩が張る。また、15はやや肩が張り長胴の胴部を持つ。11・12・14は胴部～口縁部の屈曲が緩やかで、やや肩の張る器形を持つ。6・7・10は胴部～I緑部の屈曲が緩やかで、肩があまり張らない器形を持つ。13は胴部～I緑部の屈曲がきつく、I緑部は内湾させ、端部は平坦に仕上げる。また、他の出土土器の器面は橙色系を呈するが、13は灰白色を呈し、内湾する口縁部とともに特徴的である。16～18は土師器鉢で、16・17の口縁部は内湾した後、口唇部付近で外反する。18は外面胴部に黒斑がある。19～27は土師器壺である。19・21・24は直口縁に近く、24は口縁端部を面取り調整を施すことによって平坦に仕上げている。20・25は内湾するI緑部、22・25・26はやや内湾する口縁部を持つ。25は外面底部に、26は全面に黒斑を有する。27は内外面とも胴部上位～口縁部にユビオサエ・ユビナデを施すが、粘土接合痕が残る。器壁は薄く、口縁部は面取り調整を施すことにより平坦に仕上げている。28～33は土師器高坪である。脚の器高が高いもの（29・30）と低いもの（28・31～33）とがある。31は内外面ともに赤色顔料を塗布する。34は土師器甕把手で、器面にはユビオサエ・ユビナデを施す。35～40はミニチュア土器である。36は内面に黄白色の砂のような付着物がある（第IV章参照）。39は内面に黒斑がある。

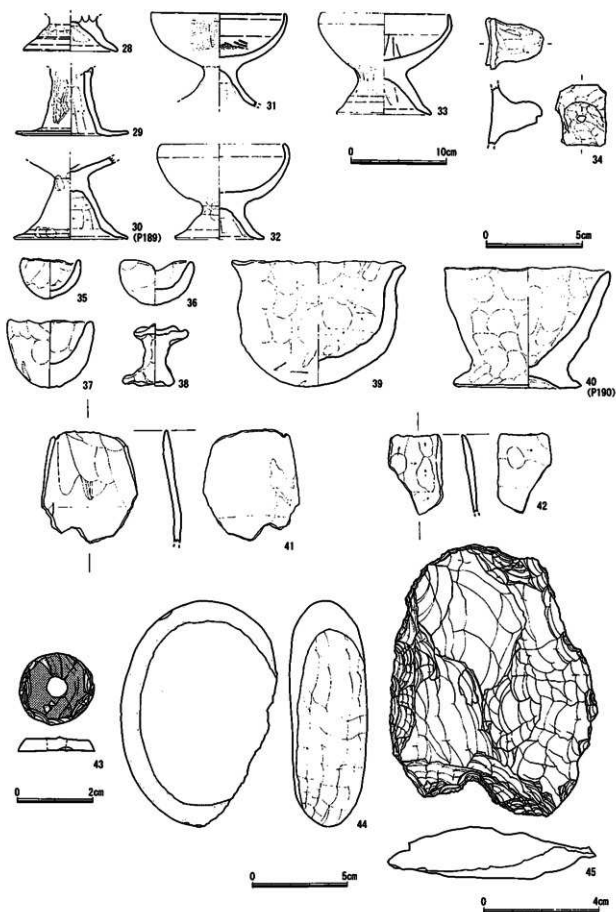
41・42は製塩土器である。双方ともに、成形時の歪みが著しいため、口径の復元には適さなかった。41は内外面ともに激しい被熱が確認され、器面の観察には適さない個体である。外面は、比熱のために赤変し、器面の剥離が確認される。内面に関しても赤変・火彫れが著しく、製塩もしくは焼塩行程の折に破砕したものである可能性もある。また、内面には若干の工具痕も確認することができ、製塩土器に報告される白色の付着物も確認できる。42に関しては、残存部位外面の下位に、比熱による若干の煤が付着している。内面には、工具を用いた横ナデ痕が確認できる。

43は結晶片岩製の平玉である。紡錘車の剥落した破片を素材としてと考えられ、表裏面には磨き整形が施されているが、僅かに表裏面とも平坦剥離が残存する。側面には裏面からの二次加工が施されており、磨かれていない。また、中央には焼成後穿孔が裏面から行なわれている。

44は砂岩製の台石である。楕円形の自然礫を利用し、右側縁を表面から裏面への折れによって欠損している。表裏面中央部は擦りによって磨滅している。また、側面に若干の潰れ痕が見られ、敲石として使用された可能性もある。



第103圖 SH140出土遺物実測図① (1/4)



第104圖 SH140出土遺物実測図② (35~42・44=1/2、43=1/1、45=3/4、他1/4)

45は蛇紋岩製の扁平打製石斧である。縄文後期～弥生前期の所産と考えられ、背面＝裏面が全面自然面の剥片を素材としている。表面に若干の平坦加工の後、上端・右側縁は表面から、左側縁は裏面から整形のための二次加工を施している。更に裏面からのみ調整を施し、裏面に偏る片刃を形成している。刃部の不整な形状から刃部欠損によって刃部再生を行なったと推測され、最終的に刃部中央が深く挟れる欠損によって廃棄したと推察される。

#### SH145 (第105図)

SH145は、現代の溝状遺構に削平されている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-19°-Eである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが2.85m×3.60mで、深さは23cmを測る。南北に長い長方形の平面プランを持ち、面積は10.26㎡と推察される。内部施設としては、周溝と地床が2基、主柱穴跡を確認している。周溝は、幅21cmを測る。a-a'の土層断面から分かるように、北側では周溝より内側に土手状の高まりがある。また、b-b'の土層断面からは、周溝が竪穴建物跡の掘形よりも若干内側に掘られ、幅も狭いことが見て取れる。以上のことから、周溝部分には板材が立てられていた可能性がある。主柱穴跡は2基確認しており、主柱は2本柱であったと考えられる。北側の主柱穴跡の平面形状は歪な円形を呈し直径×深さは、30cm×35cm、一方南側の主柱穴跡の平面形状はほぼ円形で、直径×深さは、30cm×32cmを測る。2基の主柱穴跡の柱間寸法は1.12mを測る。中央からやや北西よりの位置で、地床が2基確認した。また、その2基を覆うようにして広がる灰溜りを検出している。地床がAは、不定形な平面形状で、長さ46cm、幅23cm、深さ3cmを測る。地床がBは歪な円形の平面形状を呈し、長さ31cm、短径24cm、深さ4cmを測る。埋土は周溝も含めて灰茶色粘質土1層のみで、遺物の出土レベルや地床がAに伴う焼土の状況も含めると、貼床はなかったと考えられる。周溝際の床面直上から土師器壁の口縁部や境が出土している。また、その他の平面図に描かれている出土遺物も、床面あるいは床面近くから出土している。

#### 出土遺物 (第106図)

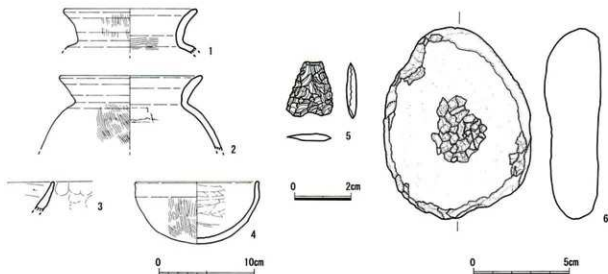
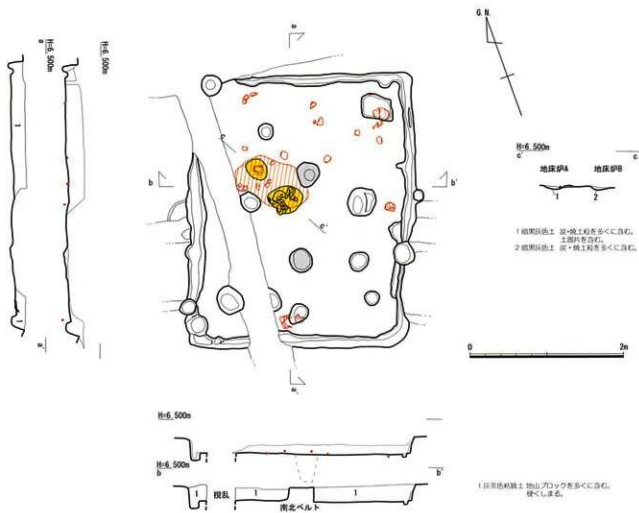
1・2は土師器壁、3・4は土師器境である。1・2ともにやや円形の張る器形を呈し、2は胴部内面に粘土接合痕を残す。3の内面はナデを、外面はユビオサエの後ナデを施す。4の口縁は直立し、端部付近で若干くびれ、器高は深めである。内面は工具ナデの痕跡を比較的良好に留めている。

5は金山産と考えられるサヌカイト製の石鏃である。尖端を僅かに欠損している。三角形に近い形状をしているが、基部は僅かに狭く入る。

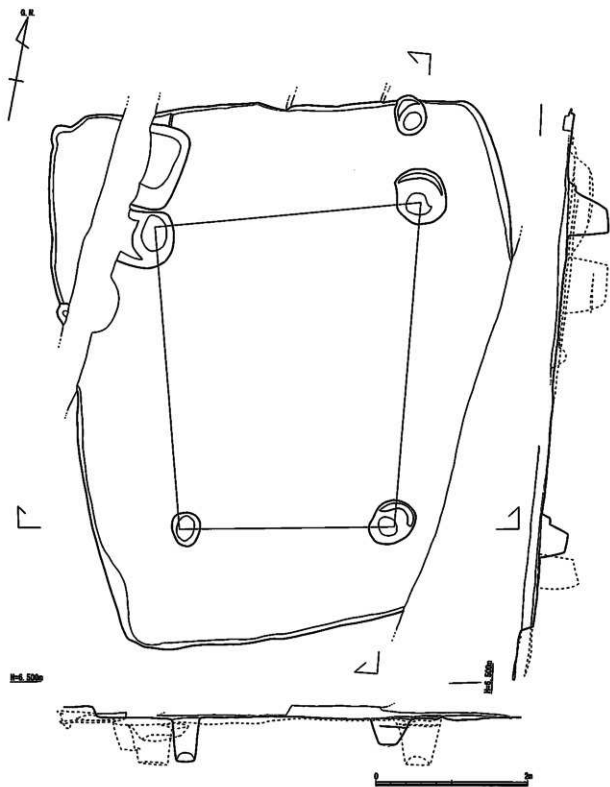
6は角閃石安山岩製の台石かつ敲石である。不整楕円形の自然隙を利用している。表面中央に顕著な敲打痕が、側縁全周に敲打による沿れ痕と摩滅が認められる。

#### SH150 (第107図)

現代の溝状遺構に南東隅を削平されており、SH170、SP570、SP983を削平している。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-18°-Wである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが5.55m×7.00mで、深さは16cmを測る。長方形の平面プランを持ち、面積は38.85㎡と推察される。主柱は4本柱で、主柱穴跡の平面形状は不整な円形を呈し、直径×深さまたは長径×短径×深さは、北西から右回りに70cm×50cm、70cm×55cm、65cm×35cm×35cm、45cm×38cm×55cmを測る。4基の主柱穴跡の柱間寸法は、北から右回りに、3.50m、4.23m、2.70m、3.91mを測り、4基を結んだラインは台形を呈する。東側に位置する2基の主柱穴跡は、北側に一段、テラスを有する。出土遺物は、下記遺物の他に、方形竪穴建物跡及び主柱穴跡の埋土から土器片、須恵器片、土師器片、弥生土器片、黒曜石片などが出土している。





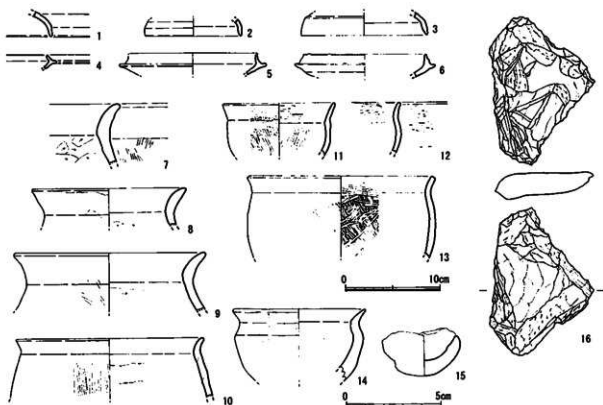


第107図 SH1503道槽実測図 (1/50)

# 出土遺物 (第108図)

1～6は須恵器、7～15は土師器である。1～3は須恵器坏蓋で、2は復元口径10.0cm、3は復元口径13.2cmを測り、TK43併行と考えられる。4～6は須恵器坏身である。6は復元口径12.8cmを測る。4～6は立ち上がりが高く、斜めに傾く器形を有し、TK43併行と考えられる。7～10は土師器甕である。10は内面口縁部に黒斑を有し、胴部に粘土接合痕を残す。11は蓋と考えられ、外面胴部下半に黒斑を有する。12・13は土師器鉢である。13の口縁端部は面取り調整によるものか、緩やかな沈線が廻る。14・15は土師器ミニチュア土器である。14は口縁部外面にユビオサエが、その他は工具ナデの跡が見られる。15はユビオサエ・ユビナデによる手握ね成形で、底部付近に黒斑を有する。

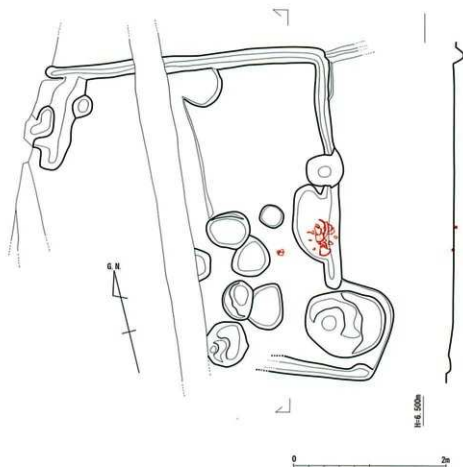
16は蛇紋岩製の勾玉未成品である。右側縁を折れによって欠損しているか、ないしは折り取っている。腹面周縁には若干の二次加工が見られ、打面及び腹面には顕著な擦痕が認められる。



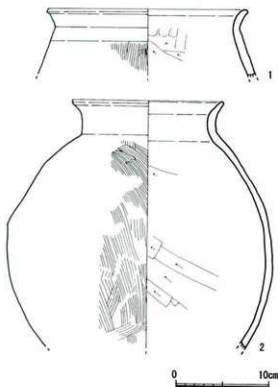
第108図 SH150出土遺物実測図 (15=1/2、16=2/3、他1/4)

# SH155 (第109図)

SH155は、調査区中央の水田遺構及びそれに伴う溝状遺構や現代の溝状遺構によって削平されている。また、この遺構は、SB012、SB013、SB020、SH160との遺構の重複関係から、(1)SH160→SH155→SB012、SB013、SB020(新)となっている。南東部分に張り出しを有するが、方形竪穴建物跡の一種と考えられ、建物軸はN-12°-Eである。建物規模は、現状で南北の長さは4.26mを測る。内部施設としては、周溝と土坑を確認した。周溝は、幅21cmを測る。土坑は、東側の周溝に取り付いており、規模は長さ97cm、深さ12cmを測る。下記の出土遺物2点は周溝際の土坑上から出土した。前述の出土遺物の他に、土師器片などが出土している。



第109図 SH155遺構実測図 (1/50)



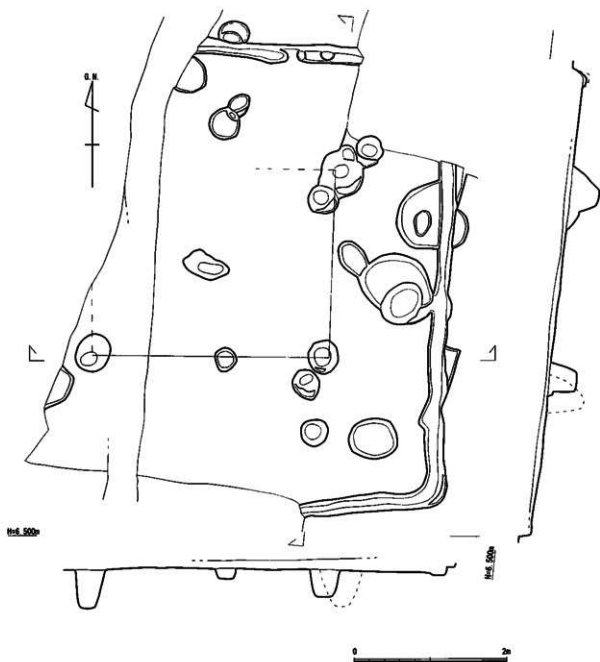
第110図 SH155出土遺物実測図 (1/4)

#### 出土遺物 (第110図)

1は土師器甕で、緩やかに屈曲した頸部、短く外反する口縁部、肩の張らない胴部を持つ。口縁部内面には、黒斑を有する。2は土師器甕で、口縁部は直線的に立ち上がった後外反し、胴部はあまり肩の張らない器形を呈する。

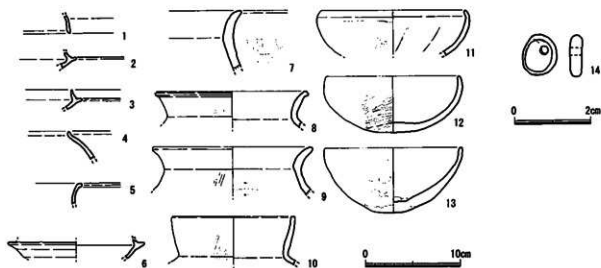
#### SH160 (第111図)

SH160は、調査区中央の水田遺構及びそれに伴う溝状遺構や現代の溝状遺構によって、西側部分を削平されている。また、当遺構は、SH155、SH1000、SK1009との遺構の重複関係から、(古)SH1000、SK1009→SH160→SH155(新)となっている。内部施設としては、周溝と主柱穴跡を3基確認した。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸は座標北 (G.N.) を向き、南北の長さ6.20m、深さ15cmを測る。主柱穴跡は3基確認しているが、その配置から削平された部分にもう一基あったと推察され、本来、主柱は4本柱であったと考

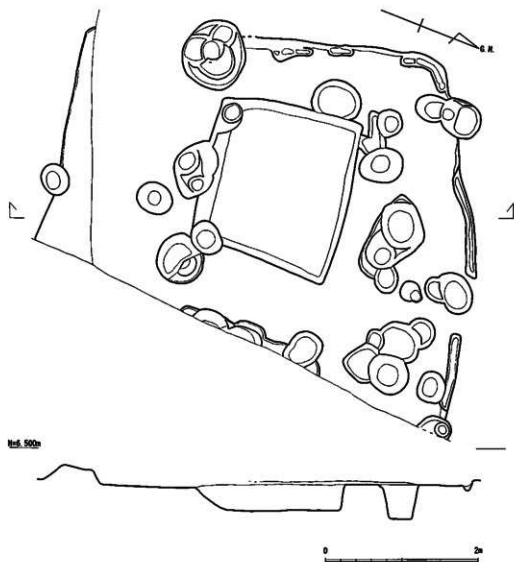


第111図 SH160遺構実測図 (1/50)

えられる。主柱穴跡の平面形状は円形もしくは楕円形を呈し、直径×深さまたは長径×短径×深さは、北東から右回りに55cm×37cm、45cm×40cm×35cm、50cm×33cm×50cmを測る。3基の主柱穴跡の柱間寸法は、南北の長さが2.50m、東西の長さが3.05mを測る。東側に位置する2基の主柱穴跡は、南側に一段、テラスを有する。周溝は幅23cmを測る。出土遺物は、方形竪穴建物跡の埋土から下記遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片、製塩土器片などが出土している。



第112圖 SH160出土遺物実測圖 (14=1/1、他1/4)



第113圖 SH170遺構実測圖 (1/50)

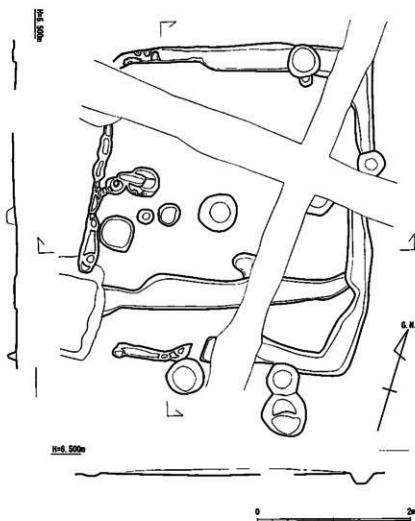
# 出土遺物（第112図）

1～5は須恵器、7～13は土師器である。1は須恵器坏蓋で、口縁部内面に稜を有し、TK43併行と考えられる。2・3は坏身で、3は立ち上がり低く、斜めに傾く器形を有する。2・3ともにTK43併行と考えられる。4・5は須恵器壺または瓶類と考えられる。6は須恵器坏身で、TK43併行に比定される。7～10は土師器甕である。8の口縁端部は面取り調整によるものか、緩やかな沈線が廻る。10は内湾する口縁部を持ち、口縁端部は平坦に仕上げる。11～13は土師器碗である。11・12は口縁部が内湾する器形を呈する。13の底部外面は、粘土を継ぎ足して平坦面を作ったと考えられる。また、平坦面とほぼ同位置の内面は、ユビオサエによって粘土を押し出しており、大きく窪んでいる。胴部内面の一部に黒斑を有する。

14は蛇紋岩ないしはカンラン石製の垂床である。蛇紋岩の凹溝を利用し、穿孔を施しただけである。

# SH170（第113図）

SH170は、SH150の下位に展開し、東側部分を現代の溝状遺構に削平された竪穴建物跡で、遺存状況が非常に悪く、周溝を残すのみである。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-14°-Wである。建物規模は、現状で南北の長さが5.65m、周溝の幅が10cm、深さは14cmである。出土遺物は確認されていない。



第114図 SH210遺構実測図（1/50）

#### SH210 (第114図)

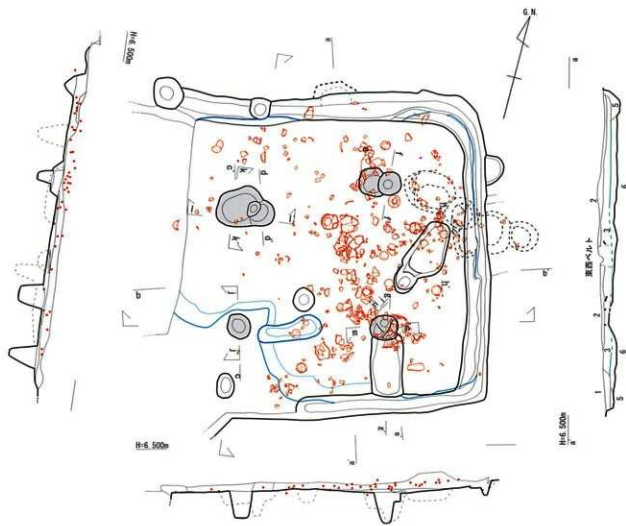
SH210は、遺存状況が非常に悪く、周溝と溝状遺構を残すのみで、現代の溝状遺構やSB017などによって削平されている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-13°-Wである。南側には、東西方向に主軸を持ち、東側の周溝に取り付く溝状遺構が確認されている。この溝状遺構は、建物内部の溝とも考えられるが、建替えによる周溝の痕跡の可能性が高い。建物規模は、東西×南北の長さが3.82m×4.30mで、平面形状は長方形を呈し、周溝の幅は32cm、深さは14cmを測る。西側の周溝内部には、構築時の掘削痕と考えられる跡が確認された。東側の周溝に取り付く溝状遺構は、現状で長さ3.20m分を検出し、深さは4cmを測る。この溝状遺構が、建替えによる周溝の痕跡とした場合の南北長は、3.45mとなる。出土遺物は確認されていない。

#### SH220 (第115・116図)

SH220は、掘点によって西側部分を削平されており、SB014との遺構の重複関係から、(古)SH220→SB014(新)となっている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-17°-Wである。建物規模は、現状で南北の長さが4.21mで、深さは26cmを測る。内部施設としては、周溝、主柱穴跡、溝状遺構、土坑を確認している。周溝は、幅30cmを測り、南西隅には展開しないようである。主柱穴と考えられる柱穴跡は、6基確認されている。主柱は4本で、方形に配置していたと推察され、北側の重複する主柱穴跡は、建替えもしくは主柱穴を支える支柱であった可能性がある。主柱穴跡の平面形状はほぼ円形で、直径×深さは、SP964が33cm×23cm、SP965が36cm×15cm、SP978が36cm×29cm、SP967が39cm×18cm、SP966が35cm×24cm、SP979が30cm×34cmを測る。SP964、SP965、SP978は土層観察から柱根が確認され、直径は順に9cm、14cm、8cmを測る。また、SP964、SP965は掘形に石が据えられており、その石は柱を支えていた可能性がある。SP978から出土したP1・2は紡錘車の未成品で、接合関係にある。主柱穴跡を結んだ柱間寸法は、北から右回りに1.84m、1.80m、1.90m、1.61mを測る。南西隅は、周溝が展開せず、収束している上、掘り込まれることなく、周囲より一段高い箇所がある。また、その一段高い箇所に取り付く溝状遺構を確認した。長さ85cm、幅29cm、深さ9cmを測り、遺構の主軸方向は建物跡と同じである。前述の溝状遺構の他に、南東側に位置し、主柱穴に取り付く溝状遺構が検出されており、幅43cm、深さ12cmを測る。この溝状遺構も主軸方向は建物跡と同じである。土坑は、主柱穴跡のSP966・967を結んだラインの外側と周溝とに挟まれた位置で、1基確認している。規模は、長さ81cm、幅48cm、深さ13cmを測る。土坑の底から完形の土師器壺などが出土した。a-a'、b-b'の土層断面図第6層の茶褐色土は貼土と考えられる。出土遺物は、下記遺物の他に、方形竪穴建物跡の埋土から、土師器片、弥生土器片などが出土している。

#### 出土遺物 (第117～120図)

1は須恵器、2～30は土師器、31は土師質韃羽口である。1は須恵器坏身で、復元口径10.7cmを測る。1は縁部内面に段を有し、立ち上がりは上方に長く伸び、TK47～MT15併行と考えられる。2～5は土師器壺である。2は外面にミガキを施し、赤色顔料を塗布している。4は胴部内面に粘土接合痕を残し、外面では、胴部下位に帯状の黒斑を有する。5は胴部下位に横長の穴が穿孔されている。6～20は土師器甕である。9～11・16・18・19は粘土接合痕を残す。16・18は口縁端部を面取り調整を施し、平坦に仕上げる。13は頸部の屈曲がきつく、肩が張り、球体に近い胴部を持つ。12・15・16・19・20はやや肩が張り、やや長めの胴部を持つ。11・14は頸部の屈曲があり、肩があまり張らず、長めの胴部を持つと考えられる。17・18は頸部の屈曲は緩やかで、肩が張らず、長めの胴部を持つと考えられる。21～29は土師器壺である。22・25はやや内湾する口縁部を持つ。23・24の口縁部は内湾した後、口縁部付近で外反する。26～29は内湾する口縁部で、21も同様の口縁部であると推測される。27は内外面とも胴部に帯状の黒斑を有し、焼成時に重ね焼きされたものと考えられる。また29は外面の剥落面に黒斑が認められ、焼成時にすでに欠損していたと推察される。28はSH220の施設の一部と考えられる土坑(SK981)より出土した。底部は、未調整ではあるが平坦に成形されている。30は高坏胴部で、充填方法で坏部と脚



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干、堀込アロツクを若干改修。並列により改修。  
3 堀込堀土 堀込アロツクを若干、堀込アロツクを若干改修。並列により改修。  
4 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
5 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
6 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。堀込アロツクを若干改修。

0 2m

H=6,500m

SP964



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
3 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
4 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

SP965



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
3 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

SP978



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

H=6,500m

SP967



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

H=6,500m

SP966



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

H=6,500m

SP979



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
3 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
4 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

H=6,500m

SK982



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

H=6,500m

SK981



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

H=6,500m

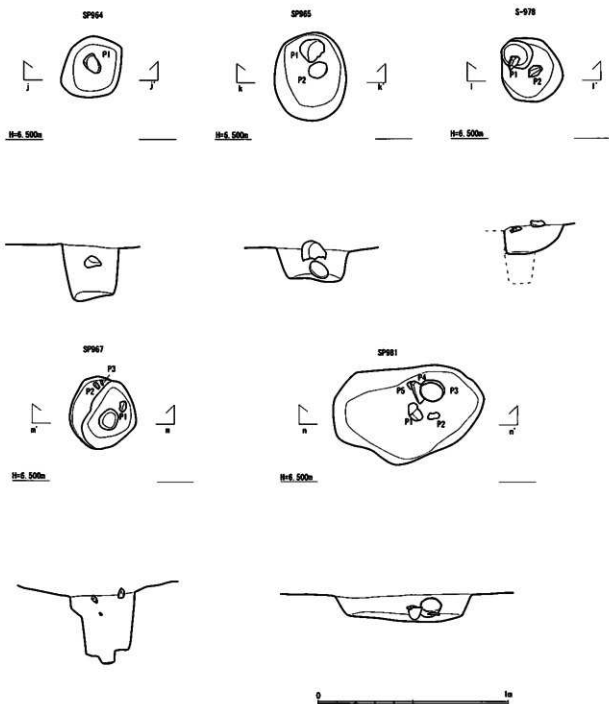
SP984



- 1 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
2 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
3 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。  
4 堀込堀土 堀込アロツクを若干改修。

第115図 SH220遺構実測図① (1/50)



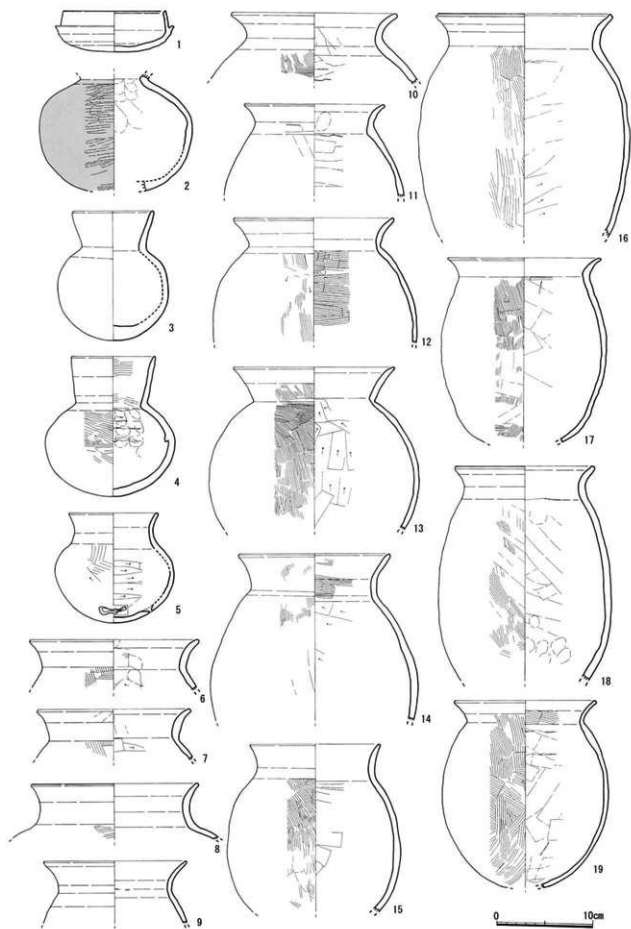


第116図 SH220遺構実測図② (1/20)

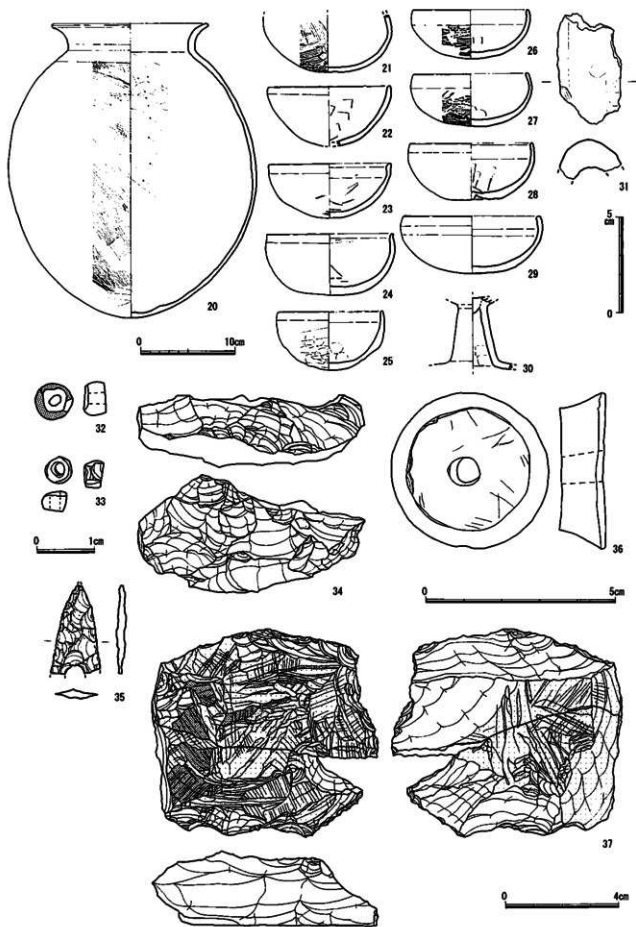
部を接合している。31は土師質輪利Iと考えられ、両端を欠損しており、復元内径2.0cm、復元外径3.2cmを測る。図面上方が黒く変色しており、が側と考えられる。

32は青色ガラス製の白玉である。円形というより多角形状の形状を呈している。33は蛇紋岩製の白玉未成品である。側面に若干の磨き残しによる加工痕が認められる。裏面からのみ穿孔が施されている。

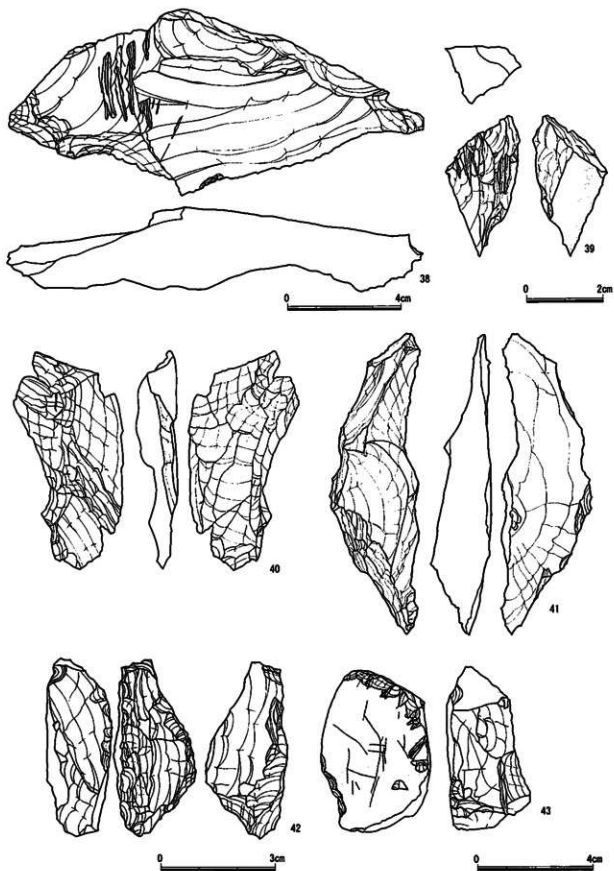
35は金山産と考えられるサヌカイト製の石鏝である。押圧剥離が表・裏面の内部まで達しており、縦長五角形の極端な形状を呈する。両脚部は欠損しているが、深い抉りを有していたと推測される。石材の時期的下限から流れ込みと考えられる。



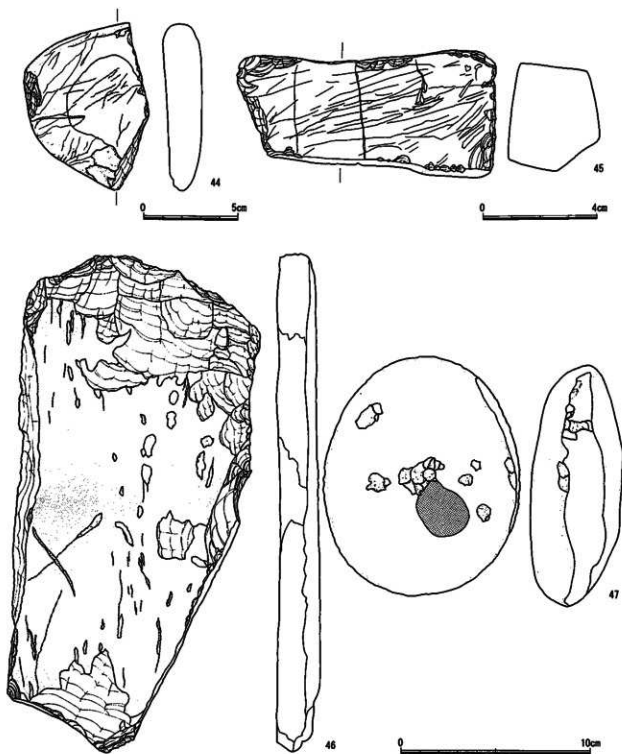
第117图 SH220出土遺物実測図① (1/4)



第118图 SH220出土遗物实测图② (31=1/2, 32·33=3/2, 34~36=1/1, 37=3/4, 他1/4)



第119圖 SH220出土遺物実測図③ (38・41・43=3/4、他1/1)



第120図 SH220出土遺物実測図④ (45=3/4、他1/2)

36は蛇紋岩製の紡錘車である。表裏面に若干の擦痕と側面には無数の磨きの単位が雪取される。37はサスカイト製の紡錘車未成品である。扁平な割片を素材にしており、周縁から表裏面に整形加工を亀甲状に施し、表裏面中央部に粗い磨き篋形を行っており、磨き時の擦痕が非常に顕著であり、その面は白っぽく変色している。更に周縁加工の及んでいない裏面左側縁に表面から加工を入れようとした段階で上下に両断されて遺棄したと考えられる。

34・38・39・41は二次加工剥片で、紡錘車製作工程における初期の未成品ないしはその破砕品と考えられる。34は表面上端に若干の二次加工剥片加工が認められる。38はサヌカイト製で、主要剥離面＝表面側の周縁に若干の平坦剥離を施した後、切裁用加工具によって折断をおこなおうとしたと推測され、表面中央やや下側に数条の顕著な擦痕が認められる。下端は折れによって欠損しており、それにより遺棄したと考えられる。39は蛇紋岩製で、表面右半は磨き整形が認められ、表面左半と上端面は折れ面である。表面右半面と左半面に金属器によると考えられる深い決りが複数看取される。41はサヌカイト製で、分厚い幅広剥片の打面側を折断している。38・39・41は接合しており、34も同一個体と推測され、紡錘車製作における、初期過程の未成品と考えられる。

40は粘板岩製の縦長に近い剥片である。F1区の素材だと推測される。42は蛇紋岩製の素材剥片である。裏面からの折れによって左半を欠損している。右側面に折断によると考えられる擦痕が顕著に認められる。紡錘車製作工程における初期の未成品と考えられ、左側面が欠損した時に遺棄したと推測される。

43は天草石製の砥石である。左側縁から裏半を表面から裏面への折れによって欠損している。側面は切断面及び加工痕と切断時の擦痕が残る。表面は磨き整形が施されるが、周縁部に整形時の加工痕が若干残り、また研ぎによると考えられる擦痕が認められる。

44・45・46は砥石である。44は砂岩製で、右側縁を表面から裏面への折れによって欠損している。表裏面に研ぎによると考えられる擦痕が顕著に、表面中央には磨減痕が認められる。また、左側面の表裏面に剥落痕が看取され、敲石として使用した可能性もある。F1区ないしは紡錘車の磨きに用いられたと推測される。45は天草石製で、上下端面及び表面右半は切断面が残る。表面・左右側面・表面左半は磨き整形が施されているが、表面下半は欠損している。表面のみを機能面と使用しているようで、研ぎによって中央部が大きく凹んでおり、また縦方向の擦痕も顕著に認められる。46は緑泥片岩製で、扁平な礫片ないしは剥片を素材にしていると考えられる。下端面と右側面下半は折断面で、右側面上半と上端面は整形加工が施されている。左側面は裏面からの折れによって欠損している。表裏面には磨き残しによる平面加工の痕跡が認められるが、磨き整形が行なわれており、主に縦方向の擦痕が看取される。

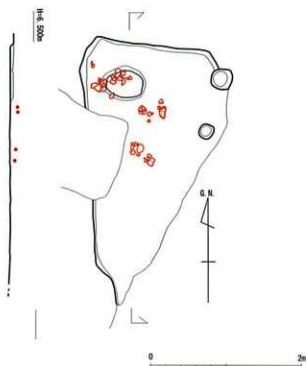
47は砂岩製の台石である。表裏面の中央部を中心に敲打痕が認められると共に、主に右側面に磨りによる磨減痕・微れ痕が看取され、磨石も兼ねていたと考えられる。

#### SH280（第121図）

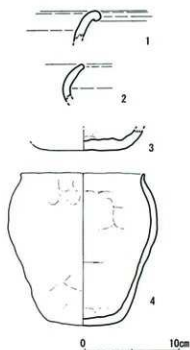
SH280は、調査区中央の水田遺構及びそれに伴う溝状遺構によって、南東側を大きく削平されている。また、現状での深さは5cmと浅く、遺構の遺存状況も悪い。平面形状も不明な部分が多く、堅穴建物跡ではない可能性がある。建物軸はN-5°-Wとなっている。北西隅で、焼土が確認され、その上面には土師器片が散乱していた。他の出土遺物は、覆土上面で出土している。出土遺物は、下記遺物の他に、土器片、土師器片、黒曜石片などが出土している。

#### 出土遺物（第122図）

1は須恵器製、2～4は土師器製である。3は平底で、内面はユビオサエを、外面は底部も含めてナデを施す。4と同様の器形を有すると考えられる。4も平底で、内面はユビオサエの後、口縁部はヨコナデを、それ以下はナデを施す。外面も口縁部はユビオサエの後ヨコナデを施す。口縁部以下は、器面剥落のため明瞭ではないがナデを施したとみられる。器形は若干異なるが、北ノ後遺跡23号竪穴住居跡・48号竪穴住居カマド跡から平底の土師器製が出土している。



第121図 SH280遺構実測図 (1/50)



第122図 SH280出土遺物実測図 (1/4)

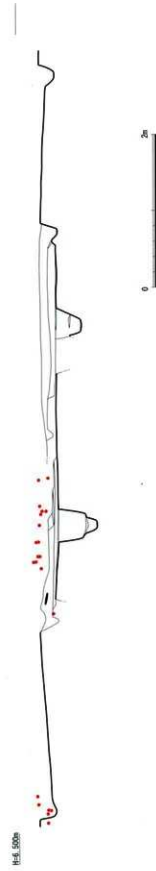
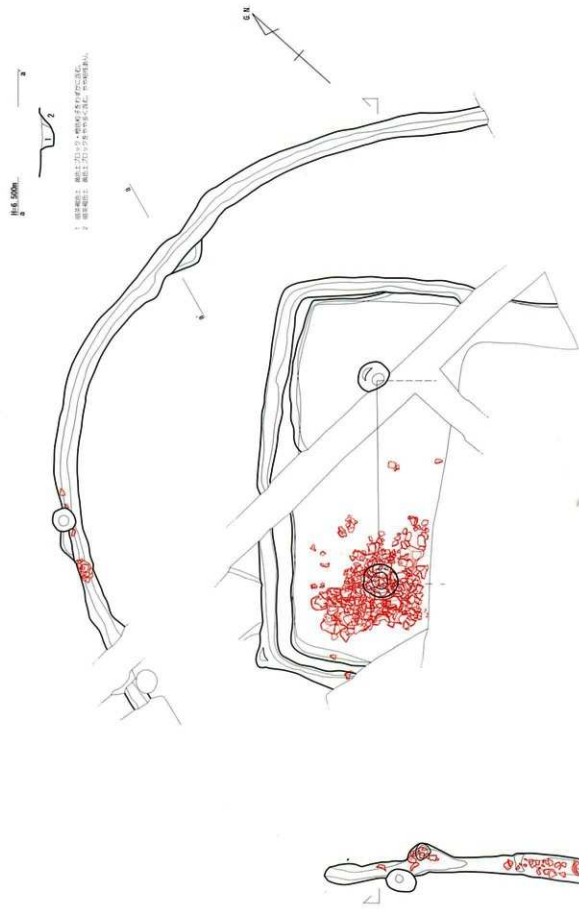
#### SH360・SD380 (第123図)

SH360・SD380は、調査区中央の水田遺構及びそれに伴う溝状遺構や現代の溝状遺構によって削平されている。SH140、SH145、SH370に切られている。方形竪穴建物跡とそれを取り囲む溝状遺構を確認した。SH360の建物軸はN-39°-Wで、現状で東西の長さは5.33mで、深さは23cmを測る。周溝、支柱穴跡、貼床を確認している。周溝は幅20cmを測る。断面見通し図から分かるように、周溝より内側に土手状の高まりがある。支柱穴跡は2基確認しているが、その配置から削平された部分にもう2基あったと推測され、本来、支柱は4本であったと考えられる。支柱穴跡の平面形状は円形を呈し、直径×深さは、西が44cm×53cm、東が41cm×34cmを測る。2基の支柱穴跡の柱間寸法は、2.63mを測る。建物跡の北西隅で出土した土器群は、埋土中より出土し、その出土状況から一括廃棄によるものと考えられる。SD380は、SH360を囲むように展開する溝状遺構で、幅45cm、深さ18cmを測る。他構の削平によって、北側と西側でのみ断続して検出している。

#### 出土遺物 (第124～127図)

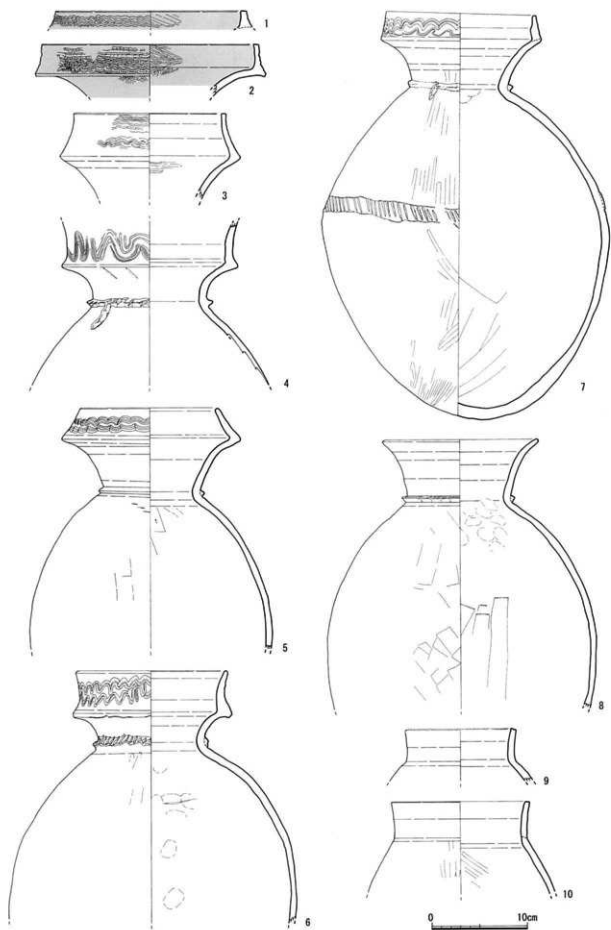
#### SH360 (第124～126図)

1～11は壺である。1～7は複合口縁壺で、口縁部に1～2段の波状文が施文される。2は波状文の上部に簾状文を施す。4～6は頸部に突帯が付され、4・6はその突帯に刻目が施される。7は頸部には断面三角形の無文の突帯を、胴部には断面方形の刻目突帯を付される。8は口縁部が外反しながら開き、頸部に突帯が付される。9・10は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる器形を持ち、口縁端部は面取り調整によるものなのか、緩やかな沈線が廻る。11はやや内湾気味に開く口縁部を持つ。1・2は赤色顔料が塗布される。12～30は甕で、30のみ胴部～口縁部の屈曲が緩やかである。16～18・20・25・26は肩が張る器形を、19・21～24・27～29は肩が張らない或いはやや張る器形を持つ。30は肩が張らず、長胴の胴部を呈する。15・18・24～27・30は面取り調整によるものか、口縁端部に緩やかな沈線が廻る。23・25・26は内面に粘土接合痕を残し、16・17・25・26は赤色顔料が塗布される。31～36は鉢である。31～33は胴部～口縁部にかけて屈曲する器形をもち、31はその屈曲部に突帯が付く。34

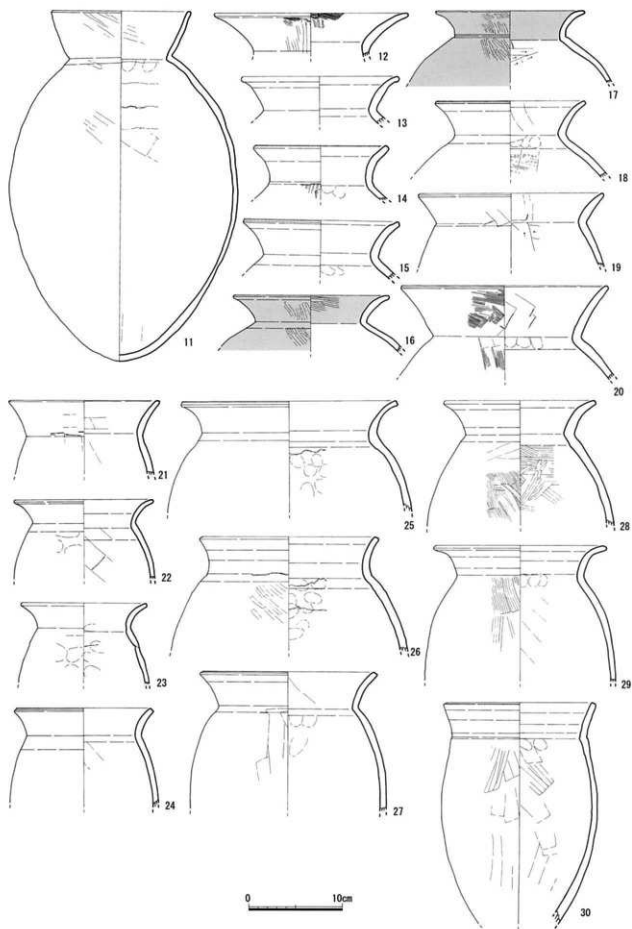


新123圖 SH380・SD380遺構実測図 (1/50)

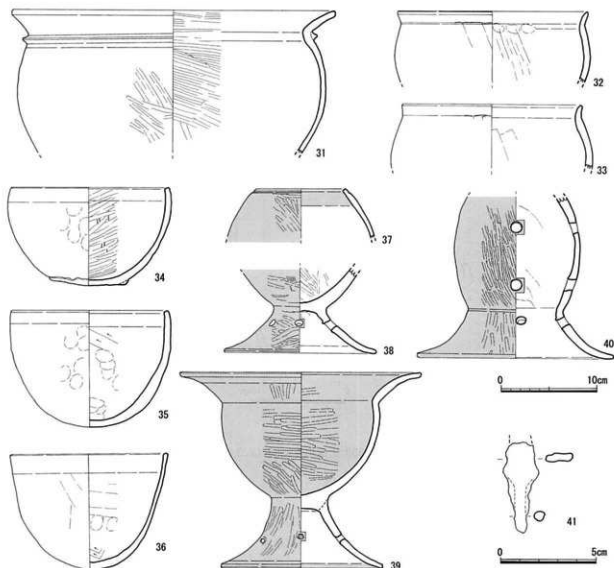




第124图 SH380出土文物实测图① (1/4)



第125図 SH360出土遺物実測図② (1/4)



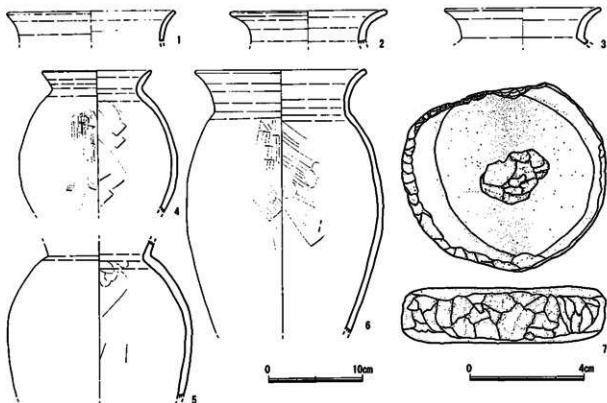
第126図 SH360出土遺物実測図③ (41=1/2、他1/4)

～36は直口或いはやや内湾する口縁部を持ち、34・35は口縁端部を面取り調整を施する。34は底部に高台風の粘土帯が貼り付けられる。37は高杯の坏部と考えられる。口縁部に沈線が廻り、外面はミガキ施す。また、内外面ともに赤色顔料を塗布する。38・39は高杯で、赤色顔料塗りされており、38の脚部は5ヶ所に、39は4ヶ所に穿孔がある。40は器台で、赤色顔料が塗布される。現状で縦一列に3個の孔が開けられており、全周を4分割した位置にそれぞれに配される。41は鉄鏃である。現状で、最大長4.75cm、最大幅1.85cm、最大厚0.95cmを測る。

#### SD380 (第127図)

1～6は甕である。1は口縁端部を面取り調整を施し、平坦に仕上げる。3は胴部～口縁部にかけての屈曲がきつく、口縁端部は平坦に仕上げる。4・5は胴部～口縁部にかけての屈曲がきつく、肩も張る器形を有する。6は胴部～口縁部にかけての屈曲がきつい、肩は張らず長胴の胴部を持つ。口縁端部は平坦に仕上げる。

7は角閃石安山岩製の磨石である。左側縁下半を表面からの折れによって欠損している。側縁全周に磨り及び敲きによる顕著な潰れ痕と磨滅痕が認められる。また表裏面中央に敲打痕が、そしてその周囲に磨りによる磨滅痕が看取され、台石としても使用されたと考えられる。



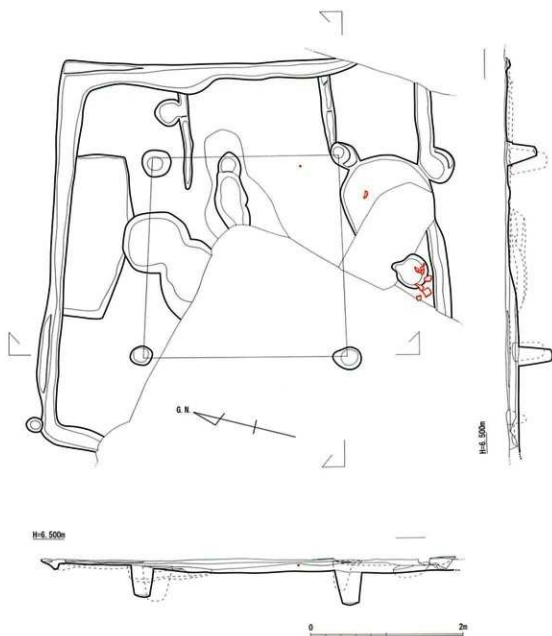
第127図 SD380出土遺物実測図 (7=3/4、他1/4)

#### SH370 (第128図)

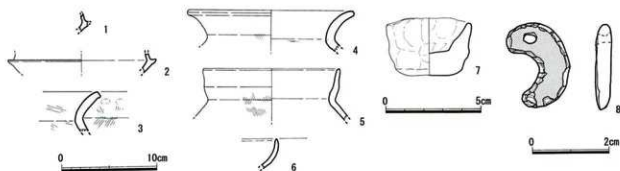
現在の溝状遺構に東側を、SH135に南西部分を削平されている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-14°-Wとなっている。建物規模は、現状で東西×南北の長さが5.01m×5.29mで、深さは19cmを測る。西側の幅がやや広い台形の平面プランを持つと推察される。内部施設としては、周溝とその周溝に取り付く溝状遺構を2条とベッド状遺構1基、主柱穴跡4基、貼床を確認している。主柱は4本柱と考えられる。主柱穴跡の平面形状は、不整な円形を呈し、直径×深さまたは長径×短径×深さは、北東から右回りに38cm×47cm、42cm×30cm×40cm、38cm×29cm×45cm、29cm×25cm×42cmを測る。主柱穴跡の4基の柱間寸法は、東から右回りに、2.43m、2.63m、2.74m、2.54mを測る。主柱穴跡の4基を結んだラインは台形を呈し、その軸は各4辺の周溝の軸と一致すると考えられる。周溝は、幅26cmを測る。周溝の東側に取り付く2条の溝状遺構は、北側の1条が長さ126cm、幅12cm、深さ20cmを測り、南側のもう1条が、長さ102cm、幅17cm、深さ10cmを測る。この2条相互の位置関係は平行で、規模も近似し、遺構の主軸方向は、竪穴建物跡のそれとほぼ一致している。2条の溝状遺構の下端レベルは、周溝の下端レベルより3.5cm～27cm低い。南側の溝状遺構は南東の主柱穴跡とも連結している。2条の溝状遺構は、下端レベルが、周溝のそれより低いことから排水用である溝とは考え難く、溝状遺構の配置や主軸方向、主柱穴跡との連結を鑑みると区画を目的とした施設の一部である可能性がある。北側の周溝に取り付くベッド状遺構を確認した。規模は長さ214cm、幅83cm、深さ12cmを測る。一度掘削した後、土を充填して構築したようである。出土遺物は、方形竪穴建物跡の埋土から下記遺物の他に、土器片などが出土している。

#### 出土遺物 (第129図)

1・2は須恵器、3～7は土師器で、全て混入品である。1・2は須恵器坏身で、TK43併行と考えられる。2は受部径15.5cmを測り、焼成温度が低かったためか、内面は灰白色、外面は浅黄色を呈する。3～5は土師器甕である。3は口縁端部を面取り調整を施し、平坦に仕上っている。4は口縁が大きく外反する器形で、内面に



第128図 SH370遺構実測図 (1/50)



第129図 SH370出土遺物実測図 (7=1/2、8=1/1、他1/4)

粘土接合痕を残す。5は緩やかではあるが、複合口縁のようなII縁部を有する。6は土師器境で、直口気味の口縁部を持つ。7は土師器ミニチュア土器で、ユビオサエによる成形の後、ナデを施す。特に底部はナデによって平坦に仕上げ、内面見込み部分も平坦にしている。内外面ともに、底部からII縁部に向かって、斜めに粘土接合痕が残る。

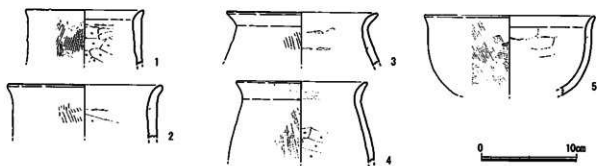
8はカンラン石製の勾玉である。上端近くに表・裏面から穿孔が施されている。また、表・裏面及び側面にも磨き整形が行なわれているが、磨き残された整形痕が側面部には顕著に、表・裏面にも僅かに残存する。

#### SH555 (第131図)

SH555は、現代の溝状遺構に削平されている。また、当遺構は、SB016、SB017、SD550、SH150、SH1000との遺構の重複関係から、(古)SD550・SH1000→SH555→SB016・SB017・SH150(新)となっている。方形竪穴建物跡と考えられ、建物軸はN-11°-Wである。建物規模は、現状で東西×南北の長さが4.72m×5.47mで、深さは29cmを測る。平面形状は、かなり重であるが長方形に近い。内部施設としては、主柱穴跡を3基確認しているが、その配置状況からSH150によって削平された箇所にもう1基あったと推察され、主柱は本来、4本柱であったと考えられる。3基の主柱穴跡の平面形状は円形もしくは楕円形を呈し、直径×深さまたは長径×短径×深さは、南西から右回りに49cm×24cm、75cm×50cm×42cm、50cm×54cmを測る。3基の主柱穴跡の柱間寸法は、南北の長さが2.70m、東西の長さが2.52mを測る。出土遺物は、下記遺物の他に、方形竪穴建物跡及び主柱穴跡の埋土から土器片、須恵器片、土師器片、黒曜石片などが出土している。

#### 出土遺物 (第130図)

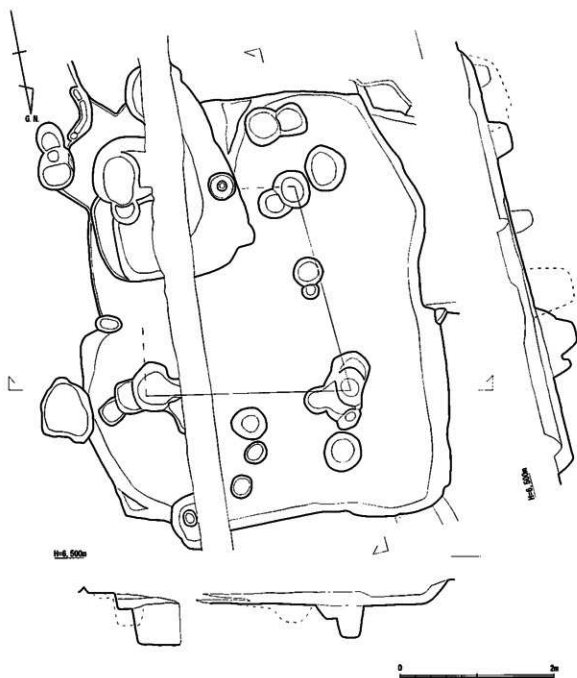
1～4は土師器甕、5は土師器鉢である。1・2はII縁部～胴部にかけて直線的で、II縁部がわずかに外反する器形である。1・2ともに内面に粘土接合痕を残す。3・4はII縁部～胴部にかけて緩やかに屈曲し、肩の張らない器形を持つ。3は内面に粘土接合痕を残す。5の鉢はII縁部は外反し、半球体の胴部を持つ。内面に粘土接合痕を残す。



第130図 SH555出土遺物実測図 (1/4)

#### SH660 (第132図)

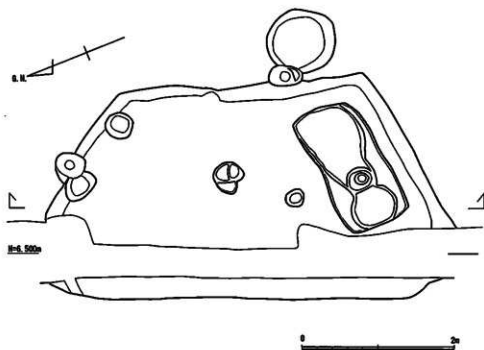
SH660は、調査区中央の水田遺構及びそれに伴う溝状遺構によって、西側部分を大きく削平されている。また、SB018に削平されている。おそらく、方形竪穴建物跡で、建物軸はN-11°-Eと考えられる。建物規模は、現状で、南北の長さ4.70m、深さ28cmを測る。主柱穴跡などの内部施設は確認されておらず、出土遺物もない。



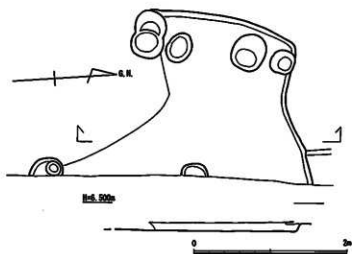
第131図 SH656遺構実測図 (1/50)

SH670 (第133図)

SH670は、現代の溝状遺構とSH150によって削平され、遺構の北西隅を留めるのみである。おそらく、方形竪穴建物跡であったと考えられ、建物軸は $N-14^{\circ}-E$ で、現状で深さ12cmを測る。主柱穴跡などの内部施設は確認されておらず、出土遺物もない。

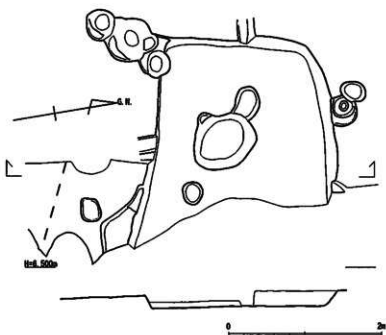


第132図 SH660遺構実測図 (1/50)



第133図 SH670遺構実測図 (1/50)





第134図 SH1000遺構実測図 (1/50)

#### SH1000 (第134図)

SH1000は、SH160とSH555によって大部分を削平され、北西隅と一部南側部分を残すのみである。おそらく、方形竪穴建物跡であったと考えられ、建物軸はN-11°-Eである。建物規模は、現状で深さ20cmを測る。主柱穴跡は確認されていない。北側部分より南側部分が一段高くなっており、ベッド状遺構あるいはなんらかの高まりを伴っていた可能性がある。出土遺物は、土師器片や弥生土器片などが出土している。

#### 参考文献 (SH280)

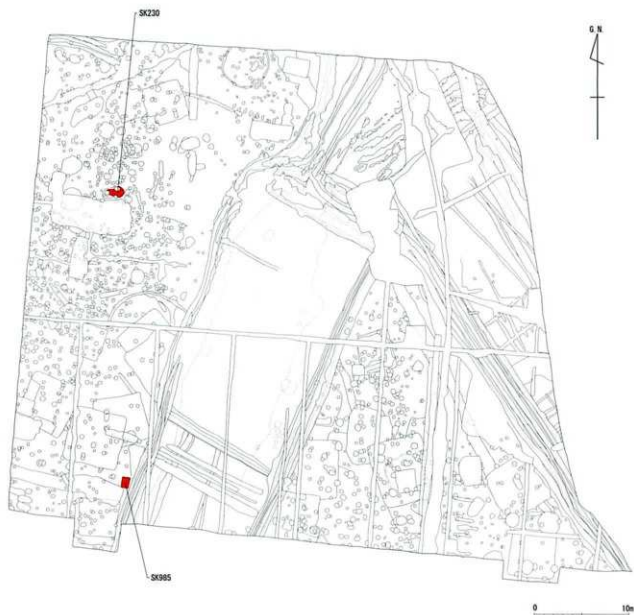
大分県教育委員会 1999 『馬姓遺跡 北ノ後遺跡 乙院屋敷遺跡』

## 土坑（第135図）

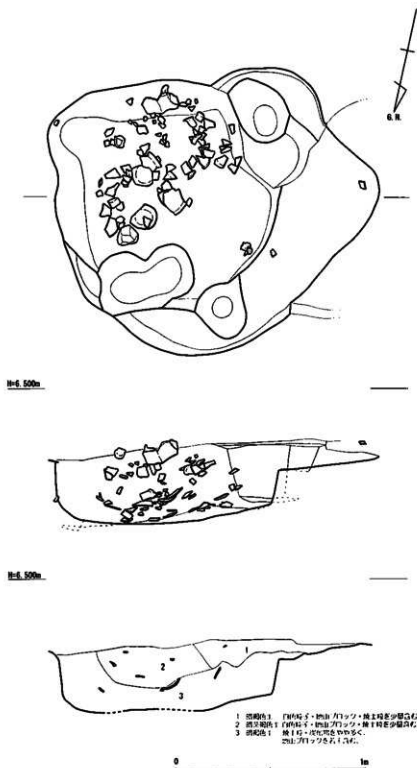
当該期の土坑の中でも、遺構の性格が注目される2基を第135図に示した。

### SK230（第136図）

SK230は、不定形な平面プラン、柄の短い柄杓状の断面形状を呈し、長径170cm、短径141cm、深さ39cmを測る。須恵器、土師器が出土している。上面は、削平を受けていると考えられ、埋土は、現状で3層である。3層とも、焼土や炭化物を含み、特に第3層では、顕著であった。遺物は、平面では北東部分から、層位では第2・3層から主に出土しており、破片が多い。①埋土中に焼土や炭化物を多く含むこと、②遺物が第2・3層中に散逸していること、③遺物の残存状況などを勘案すると、当遺構は廃棄土坑の可能性はある。



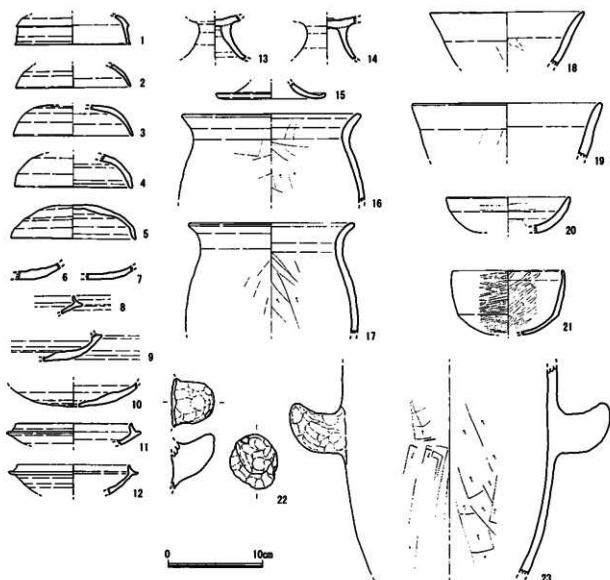
第135図 土坑遺構配置図（1/400）



第136図 SK230遺構実測図 (1/20)

#### 出土遺物 (第137図)

1～15は須恵器、16～23は土師器である。1～5は須恵器坏蓋である。1は復元口径12.0cmを測る。外面の天井部と口縁部境に段を、また、内面の口縁端部にも段を有し、MT15～TK10併行と考えられる。2・3の器形は、口縁部～天井部にかけて、やや傾きながら立ち上がり、各々の復元口径は、2が11.9cm、3が12.5cmを測る。4・5の器形は、口縁部が直立気味に立ち上がり、天井部との境で屈曲し、各々の復元口径は、4が12.4cm、5

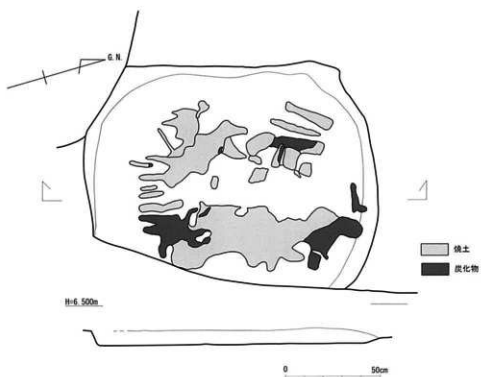


第137図 SK230出土遺物実測図 (1/4)

が13.1cmを測る。また、4は11縁部内面に幅広の沈線有する。2・3・5はTK43、4はMT85併行に比定される。6～12は須恵器環身である。8・11・12は立ち上がりは低く、斜めに傾き、11の復元口径は12.0cm、12のそれは11.7cmを測り、TK43併行と考えられる。13～15は須恵器高環である。基部の径は、13が3.4cm、14が4.4cmを測り、現存部分に文様やスカシは認められない。15は高環脚部で、底径11.75cmを測る。16・17は土師器甕である。18・19は土師器鉢である。20・21は土師器碗である。21は内外面ともにミガキを施す。22・23は甕である。22は把手のみ残存する。23の蒸気孔の形態は不明である。

#### SK985 (第138図)

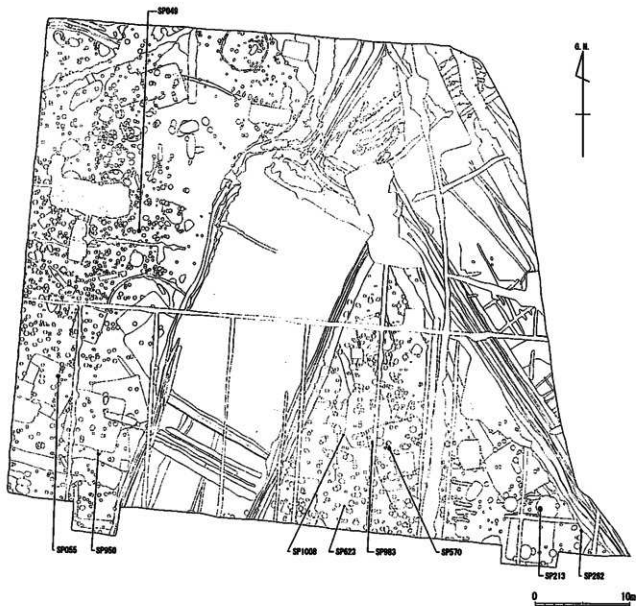
SK985は、後世の遺構による削平を受けており、東側と南側の一部を欠失しているが、平面プランは隅丸方形と推測される。断面形状は、浅いものの、逆台形状を呈する。長径153cm、幅115cm、深さ8cmを測り、遺構上面もかなりの削平を受けていると考えられる。多量の焼土と炭化物が確認された。



第138図 SK985遺構実測図 (1/20)

## 柱穴跡（第139図）

柱穴跡に関しては、近世の水田遺構が展開していた部分は削平を受け消失していると考えられるが、それ以外の上段全面に展開している。また、柱穴跡の分布に大きな偏りは見られない。上段に展開する柱穴跡の中には、古墳時代より古い柱穴跡や新しい柱穴跡も一定数含まれていると考えられる。現段階で、柱穴跡は、孤立柱建物跡を構成したり、竪穴建物跡に伴ったりするものもあるが、その多くは各遺構間との明確な関連性は見受けられない。この項では、孤立柱建物跡や竪穴建物跡などに関連しない柱穴跡の内、注視される遺物の出土した9基の柱穴跡のみ下記の第139図に遺構番号を示した。



第139図 柱穴跡遺構配置図（1/400）



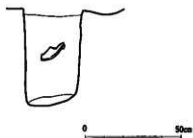
第141図 SP049出土遺物実測図 (1/4)

#### SP049 (第140図)

SP049は、ほぼ円形の平面プラン、円筒形の断面形状を呈し、直径31cm、深さ50cmを測る。須恵器、土師器片が出土している。埋土は単層であることから、当遺構は柱の抜き取り後、一度に埋まったまたは埋められたと考えられる。須恵器坏身が出土しており、柱穴が一度に埋められていた場合は、意図的な廃棄の可能性がある。

#### 出土遺物 (第141図)

1は須恵器坏身である。復元口径12.3cmを測り、TK43併行と考えられる。



第140図 SP049遺構実測図 (1/20)

#### SP055

SP055は、ほぼ円形の平面プラン、底面が凹んだ円筒形の断面形状を呈し、直径46cm、深さ36cmを測る。出土遺物は、下記の遺物の他に、土器片、土師器片、黒曜石片が出土している。

#### 出土遺物 (第142図)

1は須恵器坏身である。復元口径12.4cmを測り、TK43併行と考えられる。2は須恵器甕で、復元口径14.0cmを測る。屈曲部に幅広の沈線を描す。

#### SP213

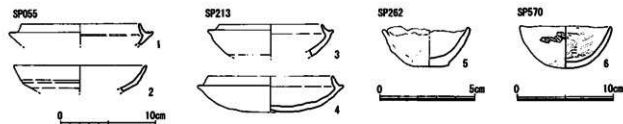
SP213は、ほぼ円形の平面プランを呈し、直径52cm、深さ30cmを測る。出土遺物は、下記の遺物の他に、土器片が出土している。

#### 出土遺物 (第142図)

3・4は須恵器の坏身である。各々の復元口径は3が10.8cm、4が13.0cmを測る。3・4ともにTK43併行と考えられる。

#### SP262

SP262は、ほぼ円形の平面プランを呈し、直径27cm、深さ43cmを測る。土師器が出土している。出土遺物は、下記の遺物の他に、土器片が出土している。



第142図 SP055・SP213・SP262・SP570出土遺物実測図 (5=1/2、他1/4)

# 出土遺物（第142図）

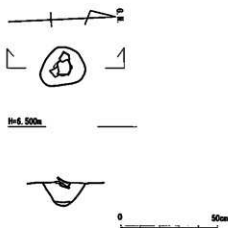
5は土師器ミニチュア土器である。ユビオサエ、ユビナデによる手捏ね成形で、底部外面は、平坦に仕上げている。底部から口縁部に向かって、斜めに粘土接合痕が残る。

## SP570

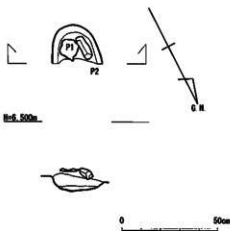
SP570は、他の遺構の削平を受けており平面プランは不明である。長径35cm、深さ13cmを測り、土師器壺が出土している。

# 出土遺物（第142図）

6は土師器壺である。小ぶりの壺で復元11径9.4cmを測る。外面底部に黒斑を有する。



第143図 SP623遺構実測図（1/20）



第145図 SP950遺構実測図（1/20）

## SP623（第143図）

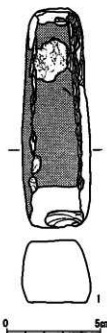
SP623は、不整な円形の平面プラン、楕円状の断面形状を呈し、直径22cm、深さ12cmを測る。土器片、土師器が出土している。土師器壺は、遺構検出面とほぼ同じレベルから出土しており、柱の抜き取り後に混入或いは廃棄されたと考えられる。

# 出土遺物（第144図）

1は土師器壺である。布留式新相併行期に比定される。



第144図 SP623出土遺物実測図（1/4）



第146図 SP950出土遺物実測図（1/2）

## SP950（第145図）

SP950は、遺構の一部が他の遺構により削平されており、平面プランは不明である。断面形状は半球状で、長径26cm、深さ8cmを測る。土師器片と砥石が遺構検出面とほぼ同じレベルから出土しており、柱の抜き取り後に混入或いは廃棄されたと考えられる。

# 出土遺物（第146図）

1は安山岩製の砥石である。切断した礫片を素材にしていると考えられ、表面・左右側面には加工痕が残る。表面及び下端面に磨き整形を施している。主に表面を機能面していると推察される。

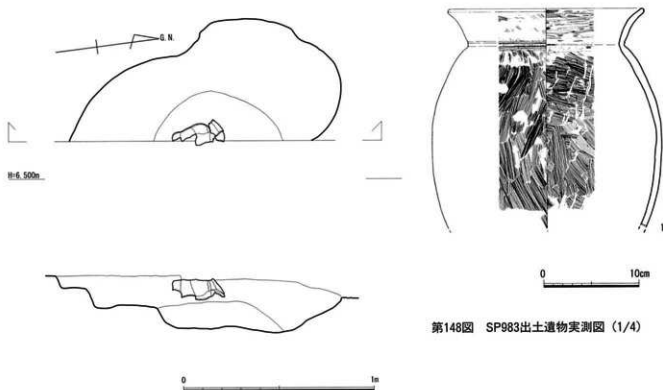


# SP983 (第147図)

SP983は、遺構の一部が後世の遺構によって削平されており、平面プランは不明である。断面形状は、不整で、南側では階段状となっている。長径128cm、深さ27cmを測る。土師器甕が、断ち割られたように半分以上欠失し、横倒しの状態で出土した。また、出土位置が遺構検出面とほぼ同じレベルであることから、この甕は後世の削平により破断されたと推測される。よって埋没直後は、完形であったと推測できることから、この甕は廃棄された可能性が指摘される。

## 出土遺物 (第148図)

1は土師器甕である。器面は、内外面ともハケメを施すが、内面はその後ミガキを、外面は口縁部のみナデを、施す。胴部はやや丸みを帯び、頸部は「く」字状に屈曲する。



第148図 SP983出土遺物実測図 (1/4)

第147図 SP983遺構実測図 (1/20)

# SP1008

SP1008は、ほぼ円形の平面プランを有し、直径30cm、深さ9cmを測る。出土遺物は、下記の遺物の他に、土器片、須恵器片、土師器片などが出土している。

## 出土遺物 (第149図)

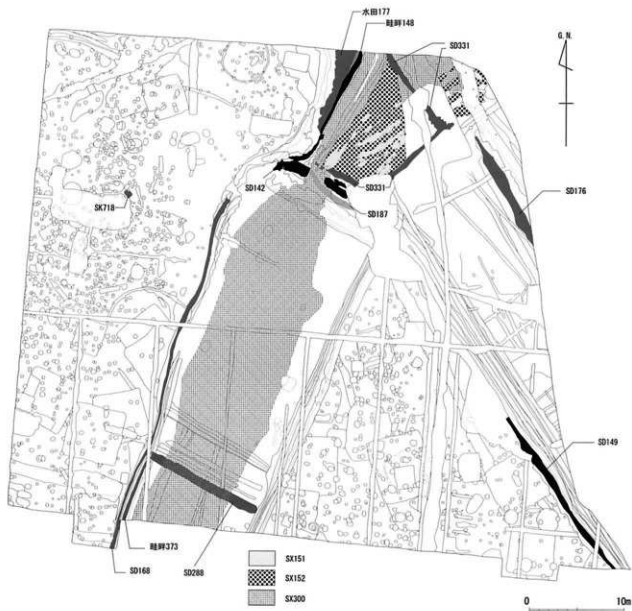
1は須恵器坏身である。復元口径11.6cmを測り、立ち上がりは低く、斜めに傾く。TK43併行と考えられる。2は土師器甕である。胴部内面に粘土接合痕を残す。



第149図 SP1008出土遺物実測図 (1/4)

### 3. 近世 (第150図)

近世の遺構としては、調査区中央と東側に展開する水田関連遺構が、その大半を占め、分布域も調査区中央と東側に偏っている。調査区中央では、当初は溝として使用していたものを造成し、水田に転用しており、その後も連綿と水田として使用している (SX300)。また、時代が下るにつれて中央の水田は東西に、東側の水田は西に拡張していき、それに伴って溝状遺構、畦畔も変遷していることが確認された。SD149は、水田遺構に伴う溝状遺構の中で、古い段階の遺構と考えられ、水田造営の時期に関係すると思われる。前述の遺構の他に、混入品ではあるが、注視される遺物を出土した遺構を、第150図に図示した。



第150図 近世遺構配置図 (1/400)

## 溝状遺構

### SD149

南端は調査区外への展開が想定され、また後世の削平を受けており、現状で長さ19m分を検出した。調査区東側に位置する溝状遺構群の1つである。肥前系磁器染付皿が出土している。水田遺構に伴う溝状遺構と推察される。出土遺物や他の溝状遺構との切り合い関係から、調査区南東に位置する溝状遺構群の中で、当遺構は古い段階のものと考えられる。

#### 出土遺物（第151図）

1は肥前系磁器染付皿で、高台登付のみ無軸である。大橋編年Ⅱ期のもので、1610～1650年代に比定される。



第151図 SD149出土遺物実測図（1/3）

## 性格不明遺構

### SX300（第152～154図）

溝状遺構に土を盛って造成し、水田として使用したと考えられる。埋め立てられた溝状遺構は、古墳時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡等を削平していることから、その掘削時期は、少なくとも古墳時代以後である。土層断面図の第1～5層は水田に伴う耕作痕など、第6～13・15層は水田層、第14・18・27～31層は水田に伴う溝状遺構である。第35・37・41層ではラミナ構造がみられ、溝状遺構時の流水の痕跡が窺える。第32～34・36・38層は、溝状遺構が、自然堆積によって埋った層である。第16・19～25層は、溝状遺構が自然堆積によって埋った後、当箇所を水田として使用するため、盛土をし、造成を行った層である。また、水田層の土も造成土と同様で、盛土と考えられる。溝状遺構の覆土からは縄文時代～近世初頭の遺物が、水田層からは縄文時代～近世全般の遺物が出土している。盛土より出土した磁州窯系壺の破片が、中世大友府内町跡第26次調査出土のものと遺跡間接合した。その他、出土した遺物は、中世の遺物が目立ち、その中には漳州窯系染付大皿、龍泉窯系青磁盤・蓋、翡翠釉桜花皿、華南三彩片、中世瓦、燭台などが含まれる。また、乗岡編年中世3期b～中世6期の備前焼掘鉢が出土しており、盛土採集場所においては、継続的に生活が営まれていたことが窺われる。盛土より出土した中世の遺物の状況から鑑みて、当遺構の盛土は、現在の六坊周辺からの客土であると推察される。

#### 出土遺物（第155～158図）

1～6は青花である。1は小野編年皿E群（16世紀後半）で、高台登付のみ露胎となっている。2は皿F群（16世紀末～17世紀初め）である。3はラマ式蓮弁文が外面に描かれている壺である。4は漳州窯系の瓶、5・6は大皿である。7～17は青磁で、7～16は龍泉窯系、17は同安窯系である。7～12は碗で、7は胎土は灰白色、軸は緑灰色を呈し、内面見込みと胴部に片切彫の文様を施す。高台登付～高台内にかけては露胎となっており、大宰府分類碗Ⅰ類（D期 12世紀中頃～後半）のものと考えられる。8～10は片切彫の蓮弁文を有する。8は上田分類B-I類で、胎土は灰白色、軸は緑灰色を呈する。9は上田分類C-Ⅲ類で、外面口縁部付近に形態化した雷文帯を、その下位にはB-Ⅳ類に見られる線描蓮弁文を有する。胎土は灰白色、軸は緑灰色を呈する。10は上田分類B-Ⅳ類で、胎土は灰白色、軸は緑灰色を呈する。11は胎土は灰白色で、軸は明緑灰色を呈し、高台内は露胎となっている。12の胎土は灰色で、軸は明緑灰色を呈し、また外面は回転ヘラケズリの跡が軸の下に透け



第152図 SX300遺構実測図 (1/300)

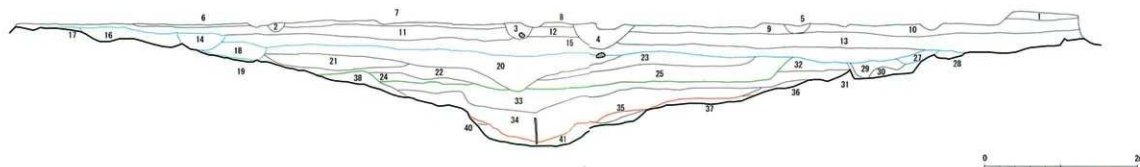
て見えており、上田分類D-1類と考えられる。

13は浅形碗で、胎土は灰白色、軸はオリーブ灰色を呈し、内面に形骸化した片切彫の花文を有する。14は盤で、胎土は灰白色、軸は明緑灰色を呈し、内面に7条一単位の縦線が施される。また、断面には漆継ぎの痕跡が見られる。15は水注で、胎土は灰色、軸は内外面ともに緑灰色を呈する。16は蓋で、胎土は灰白色で、軸は外面のみに施釉され、明オリーブ灰色を呈する。17は同安窯系青磁碗(D期 12世紀中頃～後半)で、大宰府分類碗1類と考えられる。内面胴部にはヘラ描きによる花文、外面胴部は縦方向に櫛目文が施される。胎土は淡黄灰色、軸は白磁に近似し、灰オリーブ色を呈する。18～20は白磁である。18は大宰府分類白磁碗IV類(C期 11世紀後半～12世紀前半)で、胎土は灰白色、軸は内面のみに見られ、明オリーブ灰色を呈する。19の碗は胎土・軸ともに灰白色で、内面見込みに花のスタンプ文を有する。20は皿(森田分類D群)で、胎土・軸ともに灰白色で、内面見込み及び、外面高台部は軸を剥ぎ取っている。21は陶器碗で、朝鮮産三島手である。22は陶器碗で、朝鮮産の可能性があり、胎土は淡黄色で、透明釉がかかり、高台登付の一部が露胎となっている。23は褐釉陶器の四耳壺と考えられる。24～27は磁州窯系白地鉄絵龍鳳凰文壺で、24は中世大友府内町跡第26次調査SK002出土のものと接合した。28・29は翡翠釉綾花皿である。30～34は華南三彩で、32・33は水滴、34は盤である。

35～41は瓦である。35は中世の軒平瓦で、瓦当面に均等唐草文が施文され、上面には布目痕が残る。36は古代もしくは中世の軒丸瓦で、瓦当面に朱文が施文される。37～39は古代の平瓦、40は古代もしくは中世の平瓦、41は中世の丸瓦である。

42は肥前系磁器染付皿、43は肥前系磁器染付碗である。42は口縁部に銹釉を施し、高台登付に砂が落着いている。大橋編年Ⅱ期～Ⅲ期のものと考えられる。43は筒型碗で、大橋編年Ⅱ期

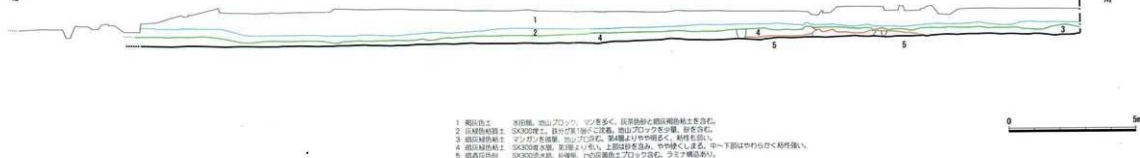
H=6,500m  
a



- 1 表層土 白砂・砂礫層を少量、5mの厚さで、左に傾いてはいりマンガン層が多くなる。
- 2 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量、マンガン層を少量含む。
- 3 表層土 マンガン層を少量含む。
- 4 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 5 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 6 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 7 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 8 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 9 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 10 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 11 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 12 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 13 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 14 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 15 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 16 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 17 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 18 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 19 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 20 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 21 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 22 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 23 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 24 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 25 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 26 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 27 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 28 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 29 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 30 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 31 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 32 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 33 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 34 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 35 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 36 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 37 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 38 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 39 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 40 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 41 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。

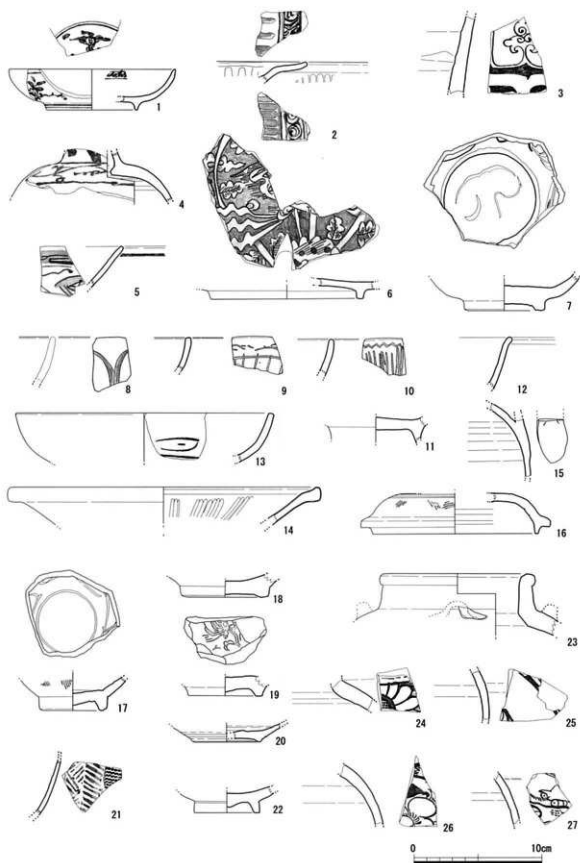
第153図 SX300土断面図 (1/50)

H=6,500m  
北

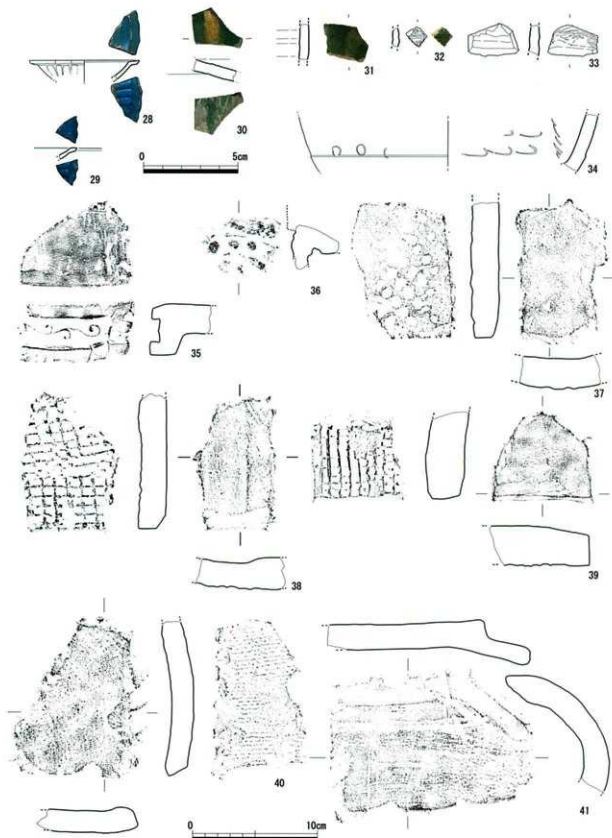


- 1 表層土 白砂・砂礫層を少量、5mの厚さで、左に傾いてはいりマンガン層が多くなる。
- 2 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量、マンガン層を少量含む。
- 3 表層土 マンガン層を少量含む。
- 4 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。
- 5 表層土 白砂・砂礫層を少量、砂礫層を少量含む。

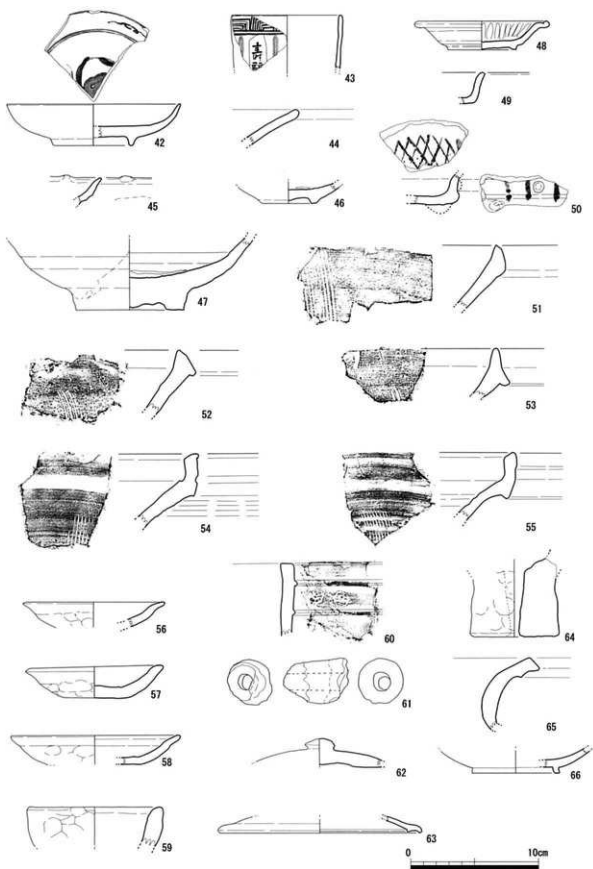
第154図 SX300縦断面図 (1/150)



第155图 SX300出土遗物实测图① (1/3)



第156図 SX300出土遺物実測図② (28~33=1/2、他1/3)



第157図 SX300出土遺物実測図③ (1/3)



のものと考えられ、外面胴部は縦方向の線刻などが施される。44～47は唐津系陶器皿である。44は大口の口縁部で透明釉が施される。45はなぶり縁になっており、内面と外面口縁部付近に白濁釉が施される。46は現状で内面に胎土目積跡が2ヶ所見られ、内面のみに灰釉が施されている。47は現状で内面に砂目積跡が2ヶ所見られ、内面および外面胴部に白濁釉を施す。48は瀬戸・美濃産の折縁ソギ皿で、内面見込み部分が蛇の目軸割ぎされ、高台台付～高台内にかけても露胎である。49は志乃焼皿、50は志乃焼向付で、50は内外面に鉄絵が施される。

51～55は備前焼部である。51は乗間編年Ⅲ期3期b、52は同4期a、53は同4期b、54・55は同6期のものと考えられる。56～58はいわゆる京都系土師器皿で、57は口縁端部に煤が付着しており、灯明皿として少なくとも2回使用されている。59は土製のとりべで、口縁部内外面に黒緑色のスラグが付着する。60は瓦質土器火鉢で、突帯間に花のスタンプ文が施される。61は土師質輪判口で、左側が黒く変色し、端部器面が剥落していることから、器形も鑑みて、左側が口側であったと推察される。62・63は須恵器坏蓋で、65は須恵器甕である。64は燗台である。66は緑釉陶器皿である。

67は蛇紋岩製の双孔白玉未成品である。表裏面と側縁部の半ば磨き整形が認められるが、表裏面に若干、側縁部の半ばに磨き残された加工痕が看取される。穿孔は表からのみ行なわれている。

68は砂岩製の石皿である。左側と下半を欠損している。右側面には折断面が残る。表面には使用による磨減で窪んでおり、擦痕が顕著に認められる。裏面には敲打痕が著しく見られ、整形痕が。

69は香川県城山産と考えられるサヌカイト製の削器である。右側面・下端面には自然面を残す分厚い幅広剥片を素材としている。右側縁に表・裏面から二次加工を施して刃部を形成し、上端を右側縁からの折れで欠損している。

70～73・75は砥石である。70は安山岩製で、右側縁を欠損している。表面・上下端面・左側面に磨き整形が施されている。表面・左側面に研ぎによると考えられる擦痕が顕著に認められる。71は天草石製で、下半を折れによって欠損している。また、表面も剥落している。表面・左右側面に磨き整形が施されている。表面・右側面は湾曲しており、研ぎによると考えられる。72は凝灰岩製で、左側縁と右側縁上半は欠損している。右側面には摺り切りによる切断面と思われる。表面は磨き整形が施されていると推測され、研ぎによると考えられる擦痕が顕著に認められる。73は結晶片岩製で、扁平な剥片ないしは剥片を素材とし、周縁部に整形加工を施している。表面に研ぎによると考えられる縦横の2方向の擦痕が顕著に認められる。75は緑泥片岩製で、扁平な剥片を素材としており、下半を裏面からの折れによって欠損している。周縁を表裏面から二次加工を入れて整形している。研ぎによると考えられる、表面は左上～右下、縦・横の3方向の顕著な、裏面は左上～右上方向の若干の擦痕が認められる。

74は凝灰岩製の石鐙である。楕円形の扁平な自然産を素材としており、上下端面に裏面から打ち欠きによって欠けを入れている。掛け紐によると考えられる、表面に挾入部を結ぶ縦方向と横方向の、裏面に縦方向の擦痕と浅い窪みが看取される。また挾入部中央と左右側縁中央に欠損が認められ、これも掛け紐によると推測される。

## 近世の遺構に帰属しない出土遺物（第159図）

以下の遺物は近世に比定される遺構から出土しており、混入品と考えられる。

1・2は勾玉である。1はSD187から出土したカンラン石製の勾玉で、表面からの穿孔の際、上端を欠損したものと考えられる。右側縁の括れの部分に加工痕が残る、括れの形状も今ひとつなため、未成品と推察される。また、表面左側中央にも僅かに磨き残しが看取される。2は畦畔373から出土した細粒花崗岩製の勾玉である。上端と下端を欠損している。欠損した先端部に穿孔があったかどうかは不明である。



第158图 SX300出土遗物实测图④ (67・73=1/1、68・70=1/2、他3/4)

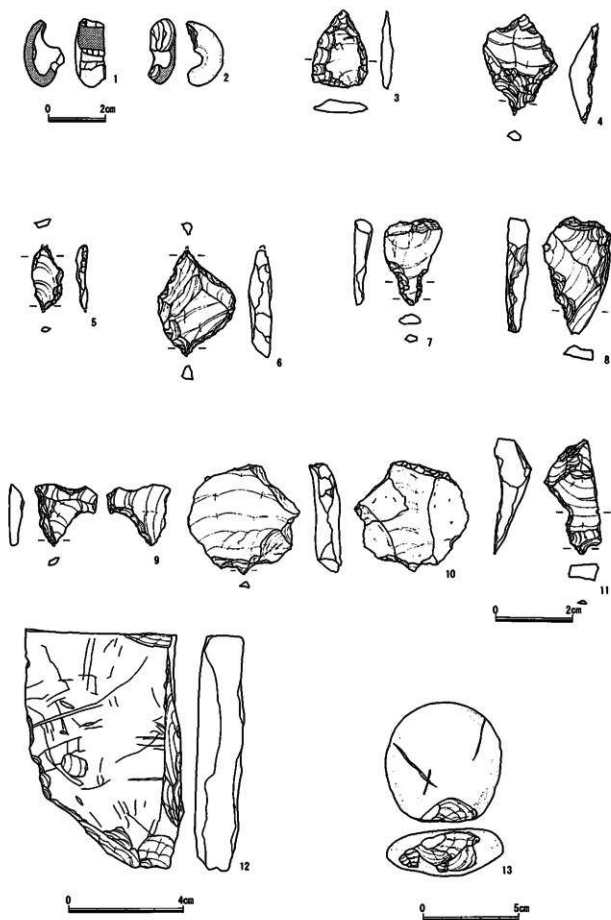
3はSD288から出土した安山岩製の石鏃である。幅広剥片を素材としており、表裏面ともに中央部に素材の面が残る。右側部を僅かに欠損している。

4はSD168から出土した金山産と考えられるサヌカイト製の石鏃である。幅広剥片を素材にしており、上端は右側縁に表面から二次加工を施して先端を形成していたと考えられるが、左側縁が欠損した時点で使用を中止したと推測される。その後、下端の左右側縁に裏面から二次加工を施し、先端を形成している。下端の先端は使用によって僅かに欠損し、摩滅している。5～11は姫島産黒曜石製の石鏃である。水田遺構177から出土した。縦長に近い剥片を素材とし、上半の左右縁辺には裏面から二次加工を施して、下半の左側縁には表面から、右側縁には表裏面から二次加工を施して、上下端に2つの先端を作り出している。上端の先端は僅かに欠損している。

6はSD176から出土した。幅広剥片を素材とし、左・右側縁の裏面から二次加工を施して、上下端の2箇所に先端を作り出しているが、両先端とも僅かに欠損している。また右側縁裏面には使用によって浅い剥落痕が看取される。7は畦畔148から出土した。幅広剥片を素材とし、左右縁辺に背面から腹面側に二次加工を施して先端を作り出しているが、僅かに欠損している。右側縁の裏面側は使用によって剥落しており、また上端面には微細な剥離痕が顕著に観察される。8はSD142から出土した。打面を残す幅広剥片を素材とし、左側縁に表裏面から二次加工を施すだけで先端を形成しているが、若干欠損している。また、右側縁は使用によると考えられる微細な剥離痕が看取される。9はSX151から出土した。幅広剥片を素材とし、剥片の打面側を腹面から、縁辺に表面から二次加工を施して先端を作り出しているが、僅かに欠損している。10・11はSX152から出土した。10はまず、右側縁中央を機能部として用い、そこが欠損した後、下端中央を期の部として新たに先端整形して使用したものと推測される。11は幅広剥片を素材とし、腹面を表面に設定し、左側縁と右側縁端部に裏面から二次加工を施して先端を作り出しているが、使用によって若干欠損している。

12はSD331から出土した頁岩製の砥石である。末端を裏面からの折れによって若干欠損している。上端面と表面に磨き整形を施しており、裏面には平坦剥離による加工痕が残存する。右側縁は折れの後に急斜度な加工を行なって整形し直した可能性が高い。表面には縦・横の2方向の擦痕が顕著に看取される。良質の石材であり、仕上げ砥石と考えられる。

13はSK718から出土した砂岩製の砥石である。円形に近い形状自然礫を利用している。主に下端面を使用しており、敲打による剥離が顕著に見られる。



第159図 近世の遺構に帰属しない出土遺物実測図 (1・12=3/4、13=1/2、他1/1)

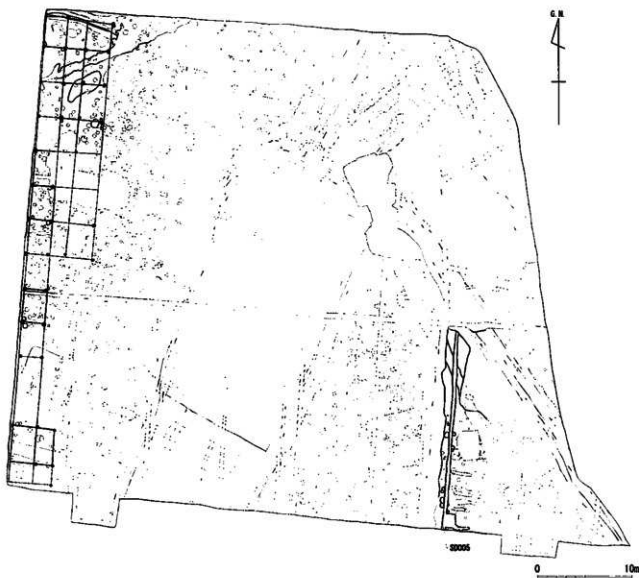
#### 4. 近・現代 (第160図)

大正7年発行の1/25000の地図では、現在の上野ヶ丘中学校がある場所は、工場であったと記されている。調査区内においても、工場当時の施設と考えられる柱穴跡（建物跡）や掘り込みを伴うレンガ造りの構造物跡などを検出している。調査区東側では、JR大分駅に近いため、汽車のコークスを含んだ残土が検出され、コークスの廃棄場であったことが確認された。また、当調査区は、調査直前まで、上野ヶ丘中学校のグラウンドとして使用されており、グラウンドの排水のための溝が東西南北に規則的に配置されている。混入品ではあるが、注視される遺物を出土した溝状遺構のみ、第160図に遺構番号を明記した。

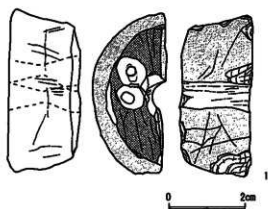
#### 溝状遺構

##### SD005

当遺構の南部分は、調査区外に展開しているものと考えられ、現状では、長さ21m分を検出した。出土遺物から、当遺構は、近・現代に比定され、石器の双孔土は、混入品と考えられる。



第160図 近・現代遺構配置図 (1/400)



出土遺物（第161図）

1は蛇紋岩製の双孔玉である。縦割れした紡錘車を利用し、その割れ面に磨き整形を中央に2つの穴を両面から穿孔して玉としていると考えられる。表面の紡錘車の孔によって生じた剥落を切っていることから、双孔の方が裏から穿孔されたことが判る。表面と側面には紡錘車の磨き整形時の、割れ面には縦割れ後の磨き整形による擦痕が看取される。

第161図 SD005出土遺物実測図（1/1）

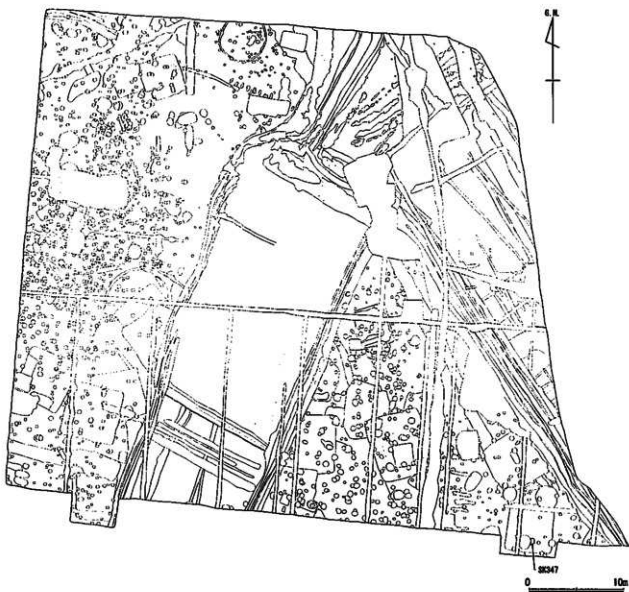
## 5. 時期不明遺構 (第162図)

土坑や柱穴跡のなかには、遺構の規模やその性格から、遺物が出土しない場合や出土しても時期を明確に比定できる遺物ではない場合があり、時期不明遺構が存在する。時期比定には至らないが、注視される遺物を出土した遺構の遺構番号を第162図に示した。

### 土坑

#### SK347 (第163図)

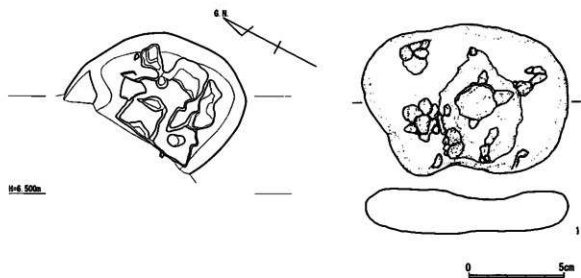
出土土器は、破片であることから、時期比定には至っていないが、SH105を切っており、古墳時代以降に比定される。西側が削平されているが、楕円形の平面プランを有すると考えられ、長径70cm、幅40cmを測る。多量の焼土塊が確認されている。



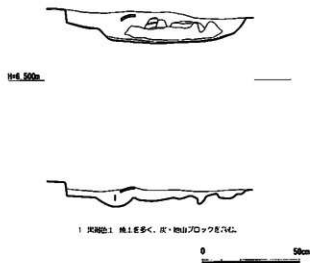
第162図 時期不明遺構配置図 (1/400)

出土遺物（第164図）

1は角閃石安山岩製の台石である。扁平で不整楕円形の自然産を利用している。表面には顕著な敲打痕と中央部分に摩耗による窪みが、裏面にも若干の敲打痕が観察される。



第164図 SK347出土遺物実測図（1/2）



第163図 SK347遺構実測図（1/20）



## 6. グリッド出土遺物および一括遺物 (第165～169図)

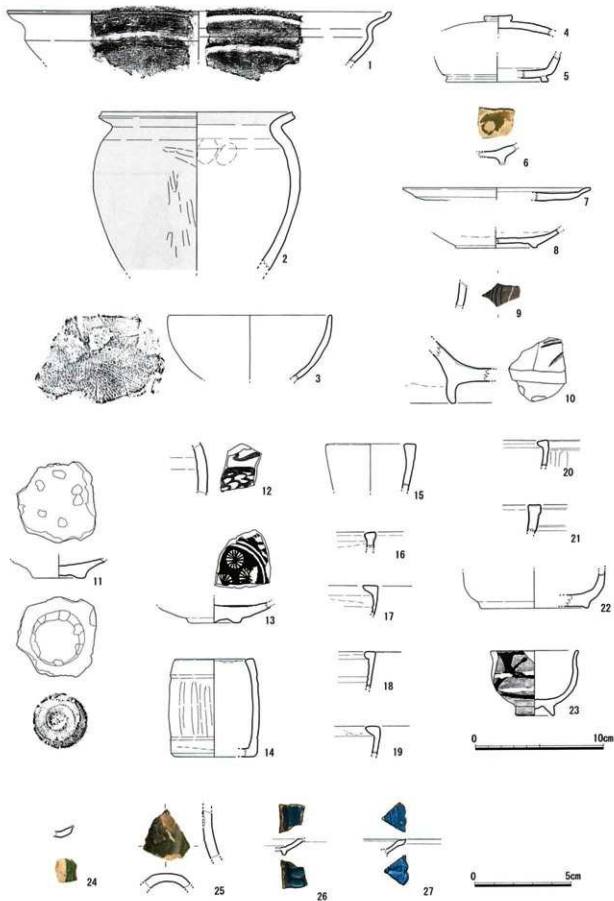
1は縄文土器浅鉢で、2は弥生土器壺である。3は古墳時代の土師器壺である。二次焼成による赤化が著しく、外面の口縁部付近では、製塩土器特有の器壁表面のみの剥落が見受けられ、土師器壺を製塩土器に転用したと考えられる。4・5は須恵器である。4は杯蓋で、ツマミを有し、焼成温度が低いためか、外面は灰褐色を呈する。5は杯身で、低い「ハ」字状の高台を有する。6・7は緑釉陶器である。6は碗で、胎土はにぶい黄褐色、釉はにぶい緑色を呈する。7は皿で、近江産と考えられ、胎土は灰色、釉は濃緑色を呈する。

8は白磁皿(森田分類白磁D群)で、胎土は淡黄白色、釉は白色を呈する。内面見込みと外面胴部下半～高台は釉剥ぎされている。9は高麗産陶器瓶で、胎土は灰色、釉は透明で外面のみに施す。また、外面には象嵌を施す。10は龍泉窯系青磁酒海壺の蓋で、胎土は淡灰白色を呈し、釉は内面が明オリブ灰、外面がオリブ灰を呈する。また、外面には片切彫で文様が施される。11は朝鮮産雑釉陶器皿である。内面見込みに6ヶ所、外面高台段付に6ヶ所砂目積みの跡を残し、全面に釉を施している。12は磁州窯系壺で、SX300出土の白地鉄絵龍鳳凰文壺と同一個体と考えられる。胎土は灰白色で、釉は透明で、白化粧を施す。また外面には鉄絵が描かれ、龍の鱗の部分と推察される。13は唐津系陶器皿で、全面に透明釉を施し、現状で見込みに2ヶ所、高台段付に1ヶ所砂目積みの跡が見られる。また、内面見込みに、型紙刷りによる文様が施される。大橋編年Ⅱ期(砂目積み段階1610～1630年代)に比定される。14～22は龍泉窯系青磁香炉である。14の胎土は淡黄白色で、内面口縁部～胴部下半に緑がかかった灰白色の釉がかかる。15・21の胎土は灰白色、釉はオリブ灰色を呈する。16・17の胎土は灰白色で、内面口縁部～外面に明オリブ灰色の釉がかかる。18・20の胎土は灰白色で、内面口縁部～外面に明オリブ灰色の釉がかかる。19の胎土は灰白色で、内面口縁部～外面に緑灰色の釉がかかる。14・20は外面に縦方向の線状文がみられる。22の胎土は灰白色で、釉はオリブ灰色を呈するが、外面胴部のみ施釉され、内面は無釉で、外面高台内は釉剥ぎされている。23は陶器碗で、伏焼きと考えられる。外面はピラ掛けが施される。24は華南三彩である。25はおそらく華南三彩の瓶あるいは水注の頸部と考えられる。26・27は翡翠輪軸花皿である。

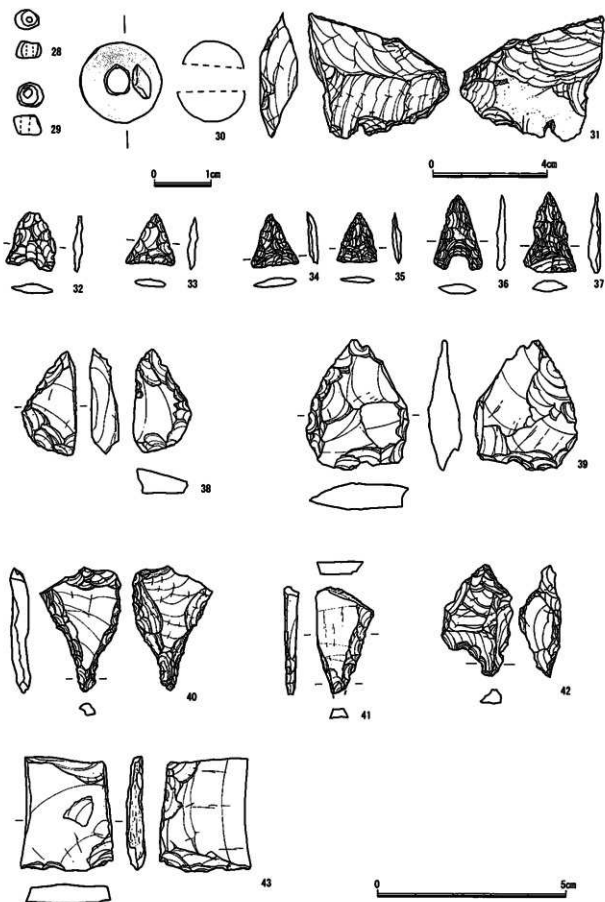
28・29は小玉である。28は、青色のガラス製で、全体形状が歪である。29は緑色ガラス製で、断面が平行四辺形に近い形でやや重んでおり、表裏面ともに形成時の凹みが認められる。30は水晶製の丸玉である。全面に磨き整形を施しており、表裏面から穿孔されている。

31は蛇紋岩製の二次加工剥片である。背面の半ばに自然面を残す剥片を素材とし、裏面に凹みを減ずる平坦剥離を施した後、左側縁を裏面側から折り取り、上端に表裏面から整形のための二次加工を入れ始めている。勾玉の未成品か。上端の二次加工には金属製の尖端を持つ間接ハンマーの使用が推察される。

32～37は石簪である。32は姫島産と考えられるガラス質安山岩製で、尖端と両脚部の僅かに欠損している。裏面には大きく素材の面が残り、やや歪な形状を呈している。33はサヌカイト製で、表裏面ともに押圧剥離が内奥部まで行き届いており、三角形に近い形状を呈し、基部は挟りの入らない平基である。34・35は金山産と考えられるサヌカイト製で、三角形に近い形状を呈しており、基部は挟りの入らない平基である。36は珪質頁岩製で、表裏面に僅かにだが自然面が残っていることから、扁平な鏝を素材としたと考えられ、左脚部を僅かに欠損している。基部の挟りが深く、楕形簪に近い形状を呈している。37は金山産だと考えられるサヌカイト製で、左・右側縁の中央付近に若干の湾曲が見られるが、二等辺三角形に近い形状を呈する。左脚部を僅かに欠損している。38・39は金山産と考えられるサヌカイト製の石簪未成品である。38は表裏面ともに両脚部のみに二次加工が施されており、ほぼ尖端と基部が形成されている。39は表・裏面とも若干の面的な加工と両脚部への二次加工が認められ、尖端はほぼ形成されている段階の未成品である。



第165図 グリッド出土遺物および一括遺物実測図① (24~27=1/2、他1/3)



第166図 グリッド出土遺物および一括遺物実測図② (28~30=3/2、31・34~37=3/4、他1/1)

40～42は石錐である。40は金山産と考えられるサヌカイト製で、縦長に近い剥片を素材とし、左・右側縁に表・裏面から二次加工を施して尖端を作り出しているが、尖端は若干欠損している。また上端にも裏面から整形加工が入れている。41は金山産と考えられるサヌカイト製で、上端を表面からの折れによって欠損している。縦長に近い剥片を素材にしており、両側縁を裏面から二次加工を施しており尖端を形成しているが、楕かに欠損している。42は姫島産黒曜石製で、幅広剥片を素材とし、上下端の2か所に裏面から二次加工を施して尖端を作り出している。下端の尖端は若干欠損している。

43は金山産と考えられるサヌカイト製の削器である。幅広剥片を素材とし、上・下側縁を表面から二次加工を施して刃部を形成している。

44は姫島産と考えられるガラス質安山岩製の楔形石器である。やや厚い幅広剥片を素材としている。左側縁に表面から二次加工が施されて刃部が形成されている。正面と上端面には整形のための錫状剥離状の加工が行われている。

45は結晶片岩製の扁平打製石斧である。縄文後期～弥生早期の所産と考えられる。背面（＝裏面）が全面礫面の扁平な剥片を素材にしていると推測され、表裏面に平坦剥離を施した後、周縁部に整形加工のための二次調整を表・裏面から行っている。更に裏面からのみ刃部加工を為し、表・裏面いずれにも偏らない片刃を形成している。

46は蛇紋岩製の二次加工剥片である。裏面に若干の面的な調整を施した後、周縁に裏面から整形のための二次加工を入れている。上端中央の抉りは、尖端を持つ間接ハンマーによる加工が推測され、勾玉の未成品と考えられる。

47は凝灰岩製の台石である。扁平な礫を分割したものを素材としている。表面には顕著に、裏面にも若干敲打痕が認められる。

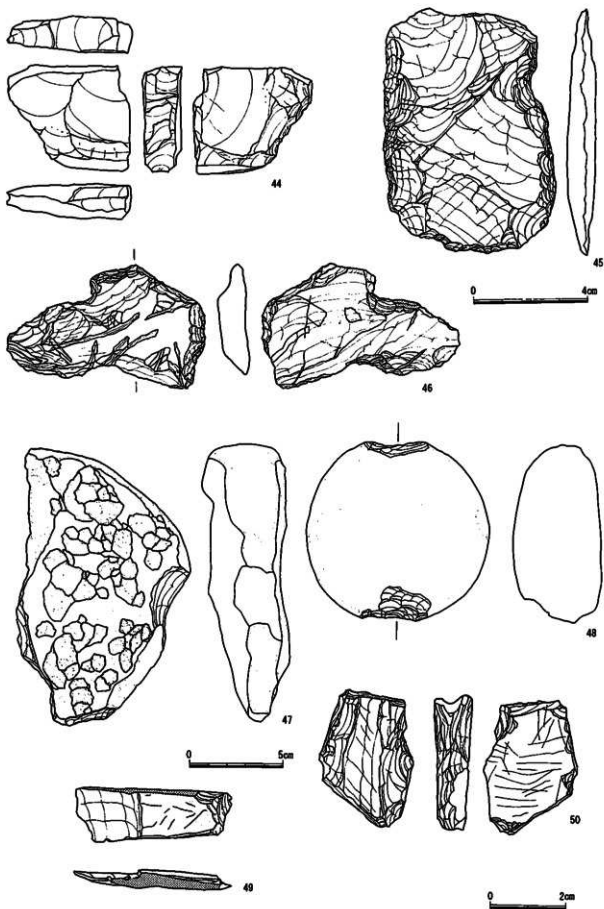
48は砂岩製の石錐である。扁平で円形に近い形状の自然礫を素材とし、上下端に表裏面からの打ち欠きによって抉りを入れている。

49は頁岩製の小形の砥石である。上端と下端を若干欠損し、表面下半は剥落している。蛇紋岩の剥片を素材にしていると考えられ、表面と左右側面には磨き整形を施しており、整形時ないしは研ぎによると考えられる擦痕が看取される。

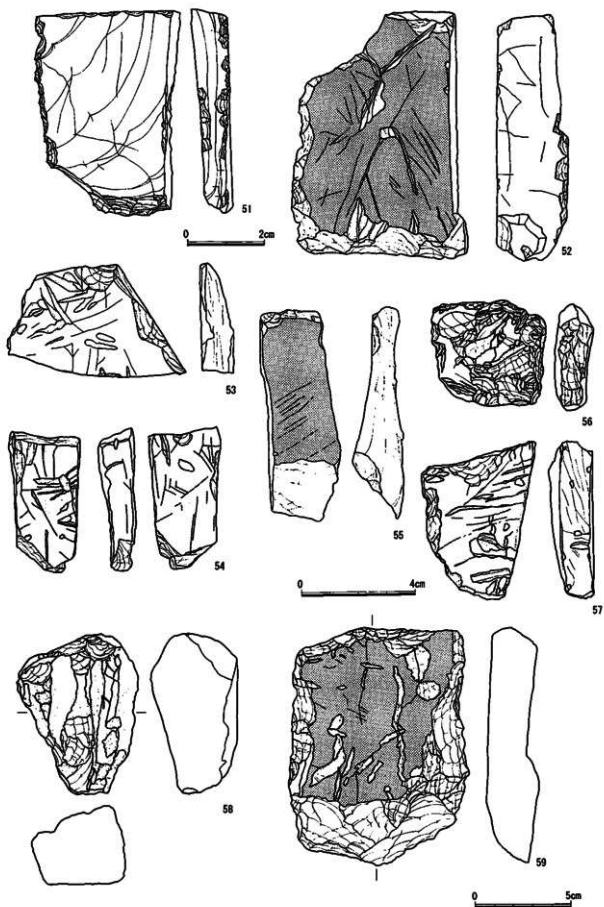
50は千枚岩製の剥片である。右側縁は裏面からの折れによって欠損している。上下端・左側縁は折断加工が施されており、裏面には顕著な擦痕が看取される。紡錘車の調整剥片ではないかと考えられる。

51は金山産と考えられるサヌカイト製の二次加工を有する剥片である。幅広剥片を素材とし、上端を表面から裏面への折れによって欠損している。下端に刃部形成のための二次加工を施しており、左側縁に全体に使用によると推測される微細な剥離痕が顕著に認められる。また、右側縁も表面から裏面への折れによって欠損しているが、折れ面の上下端にやはり使用もしくは装着によると推察される微細な剥離痕が看取される。

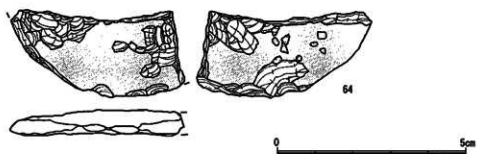
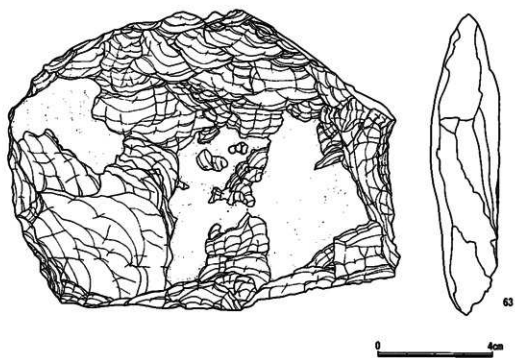
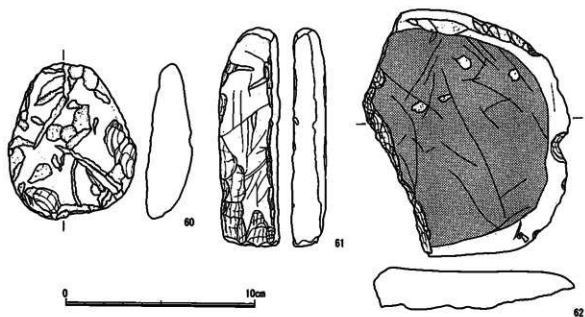
52～61は砥石である。52は安山岩製で、上端左半を若干欠損している。右側面は切断面で擦り切りの痕跡が認められる。左側縁は裏面から整形加工を施している。上端面と表面にのみ磨き整形が行なわれている。表面は剥落した可能性が高く、剥落後に左側縁は表裏面から二次加工を入れて、整形しなおしたと推測される。表面には研ぎによると推察される右上－左下、左上－右下の2方向の擦痕が顕著に看取される。53は安山岩製で、上下端・左側面を表面から裏面への折れによって欠損している。表裏面・右側面は磨き整形が施されている。表・裏面に研ぎによると考えられる、右上－左下・左上－右下の2方向の擦痕が、右側面には磨きによる縦方向の擦痕が看取される。54は安山岩製で、下端を裏面からの折れによって欠損している。上端面は切断面のままであるが、表裏面・左右側面は磨き整形が施されている。左右側面にも若干の擦痕が認められるが、表裏面には顕著に見られ、機能面は主に表・裏面だったと考えられる。55は頁岩製で、下端は表面から裏面への折れによって欠損している。



第167図 グリッド出土遺物および一括遺物実測図③ (45・46=3/4、47=1/2、他1/1)



第168図 グリッド出土遺物および一括遺物実測図④ (51=1/1、52~55=3/4、他1/2)



第169図 グリッド出土遺物および一括遺物実測図⑤ (63=3/4、64=1/1、他1/2)

左・右側面は折断面で、上端は整形のための二次加工が施されている。表裏面には磨き整形が為されており、研ぎによると考えられる擦痕が、表面は主に横方向、裏面は主に縦方向に看取される。良質な石材から仕上げ砥石と推測される。56は結晶片岩製で、扁平な礫片を素材とし、右側縁に整形のための二次加工を施している。表面に研ぎによると考えられる、右上-左下方向の浅い窪みが、裏面にも同方向の擦痕が顕著に看取される。57は凝灰岩製で、表面下半に磨き整形と研ぎによると考えられる横方向の擦痕が顕著に認められる。また、右・左側面には若干の整形痕が見られ、右側面には切断によると考えられる縦方向の擦痕が若干看取される。58は凝灰岩製で、焼けによって表面と上端面が赤化している。側面には整形加工の痕跡が見られる。表・裏面に磨き整形が施されており、裏面は平坦化して若干の擦痕が看取される。表面には主に2本の縦方向の研ぎによる深い挟りが認められる。59は凝灰岩製で、板状の分割礫を素材とし、上端と左側面は折断面を残す。右側面と下端面は整形加工が施されている。表面に研ぎによる、縦・横及び右上-左下の3方向の擦痕が認められ、中央部分には擦りによる摩滅が看取される。60は角閃石安山岩製で、不整楕円形の自然礫を利用しており、使用後に主に裏面が焼けによって赤化している。表・裏面に研ぎによると考えられる、右上-左下と左上-右下の2方向の浅い窪みと剝離縞が顕著に認められる。61は結晶片岩製で、扁平な自然礫を素材とし、右側面を折断後、裏面両側縁と表面左側縁下半に平坦剝離によって整形加工を施している。表面のみに研ぎによると考えられる浅い窪みや擦痕が顕著に観察される。

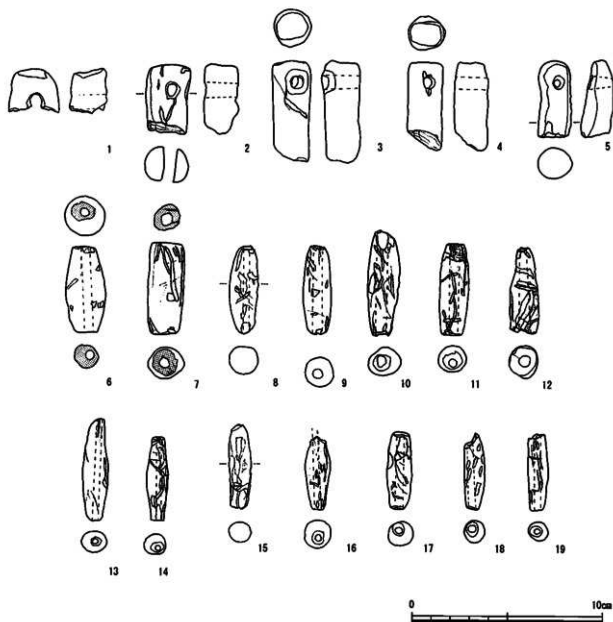
62は砂岩製の石皿である。薄くスライスした礫片を素材としており、左側面欠損後、焼けにより赤化している。表面中央には使用により磨滅しており、擦痕が顕著に認められる。

63は千枚岩製の石核である。表面に自然面のみで構成される礫片を素材とし、右側縁・下端は折断加工によって整形している。上半が作業面だと考えられるが、この石材を素材とする石器が見られないため、砥石などの未成品の可能性もある。裏面は礫面に近い。

64は結晶片岩製の石包丁の刃部片である。上端・左側縁を折れによって欠損している。表裏面ともに磨き整形が施されているが、磨き残しによる加工痕が看取される。



# 7. 出土土鍾 (第170図)



第170図 出土土鍾実測図 (1/2)

1～5は棒状双孔土鍾で、全て下半を欠出している。1～4は上端を平坦に整形している。2は掛け紐によると考えられる浅い窪みが、3・4は擦痕が認められる。

6～19は管状土鍾で、全て掛け紐による浅い窪みないしは擦痕が認められ、上下端に薄い剥落を伴うものも多い。また、6・7は太形で上下端にミガキ整形が施されている。8・15はマンガンが詰まって孔が塞がっている。

第7表 出土土器觀察表

| 観覧番号   | 建造物・位置        | 種類     | 面積 | 法線 (cm) |       | 色調 (色調)   |            | 胎土                     |         | 装飾      |    | 備考              |
|--------|---------------|--------|----|---------|-------|-----------|------------|------------------------|---------|---------|----|-----------------|
|        |               |        |    | 口径      | 高さ    | 内部        | 外面         | 内部                     | 外面      | 内部      | 外面 |                 |
| 第10001 | SD120 c1 P019 | 赤土土器   | 甕  | 21.0    |       | 明茶褐色      | 明茶褐色       | 灰白・右赤・土層・角閃石           | コササ     |         |    | 11層部・125層       |
| 第10002 | SD120 c4 P023 | 赤土土器   | 甕  | 27.0    |       | 明茶褐色      | 明茶褐色       | 灰白・右赤・土層・角閃石・赤褐色       | コササ     |         |    | 11層部・110層 11層不確 |
| 第10003 | SD120 c4 P002 | 赤土土器   | 甕  | 27.0    |       | 明茶褐色      | 明茶褐色       | 灰白・右赤・土層・角閃石・赤褐色       | サ       | コササ     |    | 11層部・100層 11層   |
| 第10004 | SD120 c4 P015 | 赤土土器   | 甕  | 28.0    |       | にふい黄褐色    | にふい黄褐色     | 灰白・右赤・土層・角閃石・赤褐色       | サ       | コササ     |    | 11層部・100層       |
| 第10005 | SD120 c4 P000 | 赤土土器   | 鉢  |         | 7.8   | 灰黄色褐色     | 灰黄色褐色      | 灰白・右赤・土層・角閃石・赤褐色       | 上ササ     | コササ     |    | 底部のみ残存 内面に僅     |
| 第10006 | SD120 c4 P021 | 赤土土器   | 鉢  |         | 6.3   | 暗灰黄色      | にふい黄褐色     | 灰白・右赤・土層・角閃石           | サ       | 上ササ     |    | 底部のみ残存          |
| 第10007 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄褐色      | 灰黄褐色       | 灰白・右赤・土層・角閃石           |         |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10008 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | にふい黄褐色    | 灰黄褐色       | 灰白・右赤・角閃石              |         | 11層実器残サ |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10009 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 黒色        | にふい黄褐色     | 灰白・右赤・赤褐色砂子            | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10010 | SD120 c2 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄色       | 灰黄色        | 右赤・角閃石・土層              | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10011 | SD120 c7 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄色       | にふい黄褐色     | 右赤・土層・赤褐色砂子            |         | 11層実器   |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10012 | SD120 c1 P014 | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄色       | 灰黄色～白色     | 灰白・角閃石・土層              | 11層実器残サ | 平面サ     |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10013 | SD120 c4 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄色       | にふい黄褐色     | 灰白・右赤・角閃石・土層           | 11層実器残サ |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10014 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | にふい黄褐色     | 灰白・角閃石・土層              | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10015 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         | 115.0 | 白色        | 灰黄色砂子～白色   | 右赤・角閃石・土層              | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10016 | SD120 P022    | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 白色         | 灰白・右赤・角閃石・土層           | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10017 | SD120 P024    | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄褐色～灰褐色  | 灰褐色        | 灰白・角閃石・右赤・土層           | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10018 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 白色         | 右赤・角閃石・赤褐色砂子           | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10019 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | にふい黄褐色 黒色 | 灰褐色        | 灰白・角閃石・土層・角閃石          | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10020 | SD120 c7 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 白色         | 右赤・角閃石・土層              | 11層実器残サ | 11層実器残サ |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10021 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄褐色      | 灰黄褐色       | 右赤・角閃石                 | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10022 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 白色         | 右赤・角閃石・土層・角閃石          | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10023 | SD120 c4 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | にふい黄褐色 灰黄色 | 灰白・角閃石・土層              | 11層実器残サ | 11層実器残サ |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10024 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 灰黄色        | 灰白・右赤・角閃石              | 11層実器   | サ       |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10025 | SD120 P002    | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 暗茶褐色      | 灰黄色        | 角閃石・灰白・右赤・土層           | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10026 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 黒褐色       | 灰黄褐色       | 右赤・角閃石                 | 11層実器   |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10027 | SD120 c7 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | にふい黄褐色    | 白色         | 灰白・角閃石・土層・角閃石・赤褐色砂子    |         |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10028 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄色       | にふい黄褐色     | 灰白・右赤・角閃石・土層           | 11層実器   |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10029 | SD120 c7 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | にふい黄褐色     | 灰白・角閃石・土層              | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10030 | SD120 c1 ~294 | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 灰黄色        | 灰白・右赤・角閃石・土層           | 11層実器残サ | サ       |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10031 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 黒色        | 灰黄色        | 右赤・角閃石・土層              | 11層実器残サ | 11層実器   |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10032 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 灰黄色        | 右赤・角閃石・土層              | 11層実器残サ | 11層実器   |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10033 | SD120 c4 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 灰黄褐色      | にふい黄褐色 黒色  | 右赤・角閃石・土層・角閃石・赤褐色砂子    | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10034 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 黒色        | 灰黄色        | 右赤・右赤・角閃石              | 11層実器   |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10035 | SD120 c7 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 白色         | 右赤・角閃石・土層              | 11層実器残サ | サ       |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10036 | SD120 c7 P01  | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 白色        | 白色         | 右赤・角閃石・土層              | 11層実器残サ | 11層実器残サ |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10037 | SD120 P027    | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 黒褐色       | にふい黄褐色     | 灰白・角閃石・右赤・土層・角閃石・赤褐色砂子 | 平面サ     | サ       |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |
| 第10038 | SD120         | 赤土土器早期 | 甕  |         |       | 黒褐色       | 灰褐色        | 灰白・角閃石・右赤・土層           | サ       |         |    | 11層部下に1葉の実器を施す  |

| 採掘番号    | 出土遺構・位置     | 種 別    | 器 種    | 法量 (cm) |    | 色 調 (細調) |        | 胎 土    | 調 整                 |      | 備 考  |                                 |
|---------|-------------|--------|--------|---------|----|----------|--------|--------|---------------------|------|------|---------------------------------|
|         |             |        |        | 口径      | 高さ | 底径       | 内 面    |        | 外 面                 | 内 面  |      | 外 面                             |
| 第138239 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 褐色     | 石灰・灰石・チャート          | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第138240 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 石灰・灰石・赤色粘土          | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第138241 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 石灰・灰石・角閃石           | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148242 | SD120c      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | にぶい黄褐色 | 石灰・角閃石・白色粘土         | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148243 | SD120c      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 灰黄褐色   | 灰黄褐色   | 石灰・角閃石・雲母・赤色粘土      | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148244 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 浅黄褐色   | 浅黄褐色   | 石灰・灰石・角閃石           | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148245 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 浅黄褐色   | 石灰・灰石・雲母            | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148246 | SD120a P067 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | にぶい黄褐色 | 灰石・角閃石・石灰・白色粘土・赤色粘土 | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148247 | SD120a 1.2割 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 浅黄褐色   | 浅黄褐色   | 角閃石・灰石・石灰           | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148248 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 浅黄褐色   | 石灰・灰石・角閃石           | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148249 | SD120a P183 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒褐色    | 黒褐色    | 灰石・角閃石・石灰・雲母        | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148250 | SD120a P202 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒褐色    | 相対色黄褐色 | 灰石・角閃石・石灰・雲母        | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ) 内・外面に用      |
| 第148251 | SD120a P121 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 灰白色    | 灰石・石灰・白色粘土・チャート     | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148252 | SD120a P012 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 浅黄褐色   | 灰石・角閃石・石灰・白色粘土      | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の突帯を巡らす(Ⅱ)               |
| 第148253 | SD120a P004 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 浅黄褐色   | 浅黄褐色   | 灰石・角閃石・石灰           | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148254 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | にぶい褐色  | にぶい褐色  | 石灰・灰石・角閃石           | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148255 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | にぶい黄褐色 | 石灰・角閃石・赤色粘土         | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148256 | SD120a P198 | 弥生土器早期 | 深鉢 (Ⅱ) | -       | -  | -        | 褐色     | 浅黄褐色   | 灰石・角閃石・石灰・雲母・白      | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ) 土器(Ⅱ)内・外面に用 |
| 第148257 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 灰黄褐色   | 石灰・角閃石・白色粘土         | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148258 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒褐色    | にぶい褐色  | 石灰・角閃石・雲母           | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148259 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 褐色     | 石灰・角閃石              | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148260 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 浅黄褐色   | 石灰・灰石・角閃石           | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ) 内面に用        |
| 第148261 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 褐色     | 石灰・灰石・角閃石           | 目録表後 | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148262 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 浅黄褐色   | 石灰・角閃石・赤色粘土         | 目録表後 | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148263 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 灰黄褐色   | 石灰・灰石・角閃石           | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148264 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 黒色     | 石灰・角閃石・雲母・チャート      | 目録表後 | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148265 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 石灰・角閃石・赤色粘土・チャート    | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148266 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 石灰・灰石・赤色粘土・チャート     | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148267 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 浅黄褐色   | 褐色     | 石灰・角閃石・雲母           | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ) 内面に用        |
| 第148268 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 灰黄褐色   | 石灰・灰石・角閃石・雲母        | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148269 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒褐色    | 灰黄褐色   | 石灰・灰石               | ナデ   | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148270 | SD120a 土層   | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒色     | 浅黄褐色   | 角閃石・石灰・白色粘土         | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148271 | SD120a      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 灰黄褐色   | 灰黄褐色   | 石灰・灰石・角閃石           | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148272 | SD120c      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 浅黄褐色   | 石灰・角閃石・雲母・赤色粘土      | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148273 | SD120a 1.2割 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒褐色    | 浅黄褐色   | 灰石・角閃石・石灰           | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148274 | SD120b      | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 灰黄褐色   | にぶい黄褐色 | 石灰・灰石・角閃石           | 目録表後 | ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148275 | SD120a P209 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 褐色     | 浅黄褐色   | 角閃石・雲母・石灰・チャート      | ナデ   | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |
| 第148276 | SD120a P264 | 弥生土器早期 | 深鉢     | -       | -  | -        | 黒褐色    | 浅黄褐色   | 灰石・角閃石・石灰・白色粘土      | 目録表後 | 目録表後 | 口縁部下に1条の斜目突帯を巡らす(Ⅱ)             |

| 採種番号    | 出土遺構・位置      | 種 別   | 器種 | 法量 (cm) |    | 色 調 (地調)      |                      | 胎 土                       | 調 整     |         | 備 考                                  |
|---------|--------------|-------|----|---------|----|---------------|----------------------|---------------------------|---------|---------|--------------------------------------|
|         |              |       |    | 口縁      | 底縁 | 内 面           | 外 面                  |                           | 内 面     | 外 面     |                                      |
| 第150277 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 石黄・角閃石・<br>白色砂子           | 染灰後ナデ   | 目設染灰    | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150278 | SD120a P125  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 長石・角閃石・<br>石黄             | 目設染灰後ナデ | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150279 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | にぶい黄<br>褐色           | 石黄・長石・雲<br>母              | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150280 | SD120c       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅黄褐色          | 浅黄褐色                 | 石黄・長石・角<br>閃石             | 目設染灰    | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150281 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 黒灰色                  | 石黄・白色砂子・<br>チャーム          | 目設染灰    | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150282 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 灰黄褐色                 | 石黄・長石・角<br>閃石             | 目設染灰後ナデ | 目設染灰    | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150283 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | にぶい黄<br>褐色           | 石黄・角閃石・<br>白色砂子           | 染灰      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150284 | SD120b P283  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | 灰黄褐色                 | 角閃石・白色砂<br>子・石黄           | ナデ      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150285 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 灰黄褐色                 | 石黄・長石・角<br>閃石・白色砂子        | 目設染灰後ナデ | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150286 | SD120b 下側    | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 黒灰色                  | 角閃石・石黄・<br>雲母             | 目設染灰後ナデ | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150287 | SD120b 上側    | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅灰褐色          | 浅灰褐色                 | 長石・角閃石・<br>白色砂子           | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150288 | SD120b 下側    | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | にぶい黄<br>褐色→ 灰<br>黄褐色 | 長石・角閃石・<br>赤色砂子・石黄        | 目設染灰後ナデ | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150289 | SD120b 上側    | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | にぶい黄<br>褐色           | 石黄・長石・雲<br>母              | 染灰後ナデ   | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150290 | SD120        | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 灰白→<br>黒灰色           | 石黄・長石・角閃<br>石・赤色砂子        | 目設染灰    | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150291 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | にぶい黄<br>褐色           | 長石・石黄・白色<br>砂子・赤色砂子       | 目設染灰    | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150292 | SD120a 上側    | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | にぶい黄<br>褐色           | 石黄・長石・白<br>色砂子            | 目設染灰後ナデ | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150293 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒色            | 黒色                   | 石黄・長石・白<br>色砂子            | 目設染灰後ナデ | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150294 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 長石・角閃石・石<br>黄・白色砂子        | 染灰後平滑ナデ | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150295 | SD120c 1.288 | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅黄褐色          | にぶい黄<br>褐色           | 長石・石黄・角<br>閃石・赤色砂子        | ナデ      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150296 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | にぶい黄<br>褐色           | 石黄・長石・角<br>閃石             | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見) 内面に指紋が<br>残る |
| 第150297 | SD120c       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒色            | 浅黄褐色                 | 石黄・長石・雲<br>母              | 染灰後ナデ   | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150298 | SD120a P288  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅黄褐色          | 浅黄褐色                 | 角閃石・長石・<br>石黄・赤色砂子        | 目設染灰後ナデ | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150299 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | 浅黄褐色<br>→ 灰黄褐色       | 石黄・角閃石・<br>雲母             | 目設染灰後ナデ | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150300 | SD120b P206  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | にぶい黄<br>褐色    | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 長石・角閃石・<br>石黄・雲母          | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150301 | SD120c 1.288 | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 長石・石黄・角<br>閃石・白色砂子        | ナデ      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150302 | SD120b P225  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 黒褐色                  | 長石・角閃石・<br>石黄             | ナデ      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150303 | SD120c       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色 | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 角閃石・長石・<br>石黄・雲母・白<br>色砂子 | ナデ      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150304 | SD120b 最下側   | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 棕色            | 棕色                   | 長石・角閃石・<br>P100砂子・石黄      | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見) チャーム         |
| 第150305 | SD120b 下側    | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 棕色            | 棕色                   | 長石・角閃石・<br>石黄・雲母・赤<br>色砂子 | ナデ      | 目設染灰後ナデ | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150306 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | 黒灰色                  | 石黄・長石・雲<br>母・角閃石・白<br>色砂子 | 染灰後ナデ   | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見) 斜目に指紋が<br>残る |
| 第150307 | SD120b       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 石黄・角閃石・<br>チャーム           | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150308 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰褐色           | にぶい黄<br>褐色           | 石黄・赤色砂子                   | 平滑ナデ    | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150309 | SD120b P055  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | 灰黄褐色                 | 長石・角閃石・<br>石黄・赤色砂子・<br>雲母 | 目設染灰    | 目設染灰    | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150310 | SD120a       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 灰黄褐色          | 浅黄褐色                 | 長石・角閃石・<br>赤色砂子           | ナデ      | 染灰後ナデ   | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150311 | SD120a P018  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 棕色            | 浅黄褐色                 | 長石・石黄・赤<br>色砂子            | 目設染灰後ナデ | ナデ      | 口縁部不明面処理。斜目突帯<br>(上見)                |
| 第150312 | SD120c       | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅黄褐色          | 浅黄褐色                 | 石黄・赤色砂子                   | ナデ      | 目設染灰    | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150313 | SD120b P301  | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 黒褐色           | 浅黄褐色<br>→ 黒褐色        | 角閃石・石黄・<br>白色砂子           | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |
| 第150314 | SD120        | 甕土器早期 | 深鉢 | —       | —  | 浅黄褐色          | 浅黄褐色                 | 石黄・長石・角<br>閃石・チャーム        | ナデ      | ナデ      | 口縁部下に1条の斜目突帯を<br>施す(上見)              |

| 試験番号    | 市上地番・位置     | 種別    | 路線 | 法面 (cm) |    |       | 色調 (色調)    |         | 動土                 | 調査      |         | 備考                         |
|---------|-------------|-------|----|---------|----|-------|------------|---------|--------------------|---------|---------|----------------------------|
|         |             |       |    | 口幅      | 高さ | 底幅    | 内面         | 外面      |                    | 内面      | 外面      |                            |
| 第169815 | S1020b 1961 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | 灰褐色     | 灰石・角閃石・白砂子・土層      | ナシ      | 11段築成ナシ | 1段目土に1本の切目発露を認める(1)        |
| 第169816 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | 灰褐色     | 灰石・角閃石・白砂子         | ナシ      | ナシ      | 1段目土に1本の切目発露を認める(1)        |
| 第169817 | S1020b 2期   | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰色         | 灰褐色     | 角閃石・灰石・石炭・土層       | 11段築成ナシ | 11段築成ナシ |                            |
| 第169818 | S1020b 1902 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | 灰褐色     | 灰石・石炭・赤色           | 11段築成ナシ | 11段築成ナシ | 面による割目                     |
| 第169819 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 | 17.60   |    |       | にふい黄褐色～灰褐色 | にふい黄褐色  | 石炭・角閃石・角閃石・土層・赤色砂子 | 11段築成ナシ | 平割ナシ    | 断面に1本の切目発露を認める(1)          |
| 第169820 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | にふい黄褐色     | にふい黄褐色  | 石炭・角閃石・赤色砂子        | ナシ      | 11段築成   |                            |
| 第169821 | S1020b 1903 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・土層       | 11段築成ナシ | 11段築成ナシ |                            |
| 第169822 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 棕色         | にふい黄褐色  | 石炭・灰石・角閃石・赤色砂子     | ナシ      | 11段築成ナシ | 内・外面方向より地味感や土              |
| 第169823 | S1020b 1290 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | にふい黄褐色     | にふい黄褐色  | 角閃石・灰石・石炭・赤色砂子     | ナシ      | ナシ      |                            |
| 第169824 | S1020b 1903 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | にふい黄褐色～灰褐色 | 灰褐色     | 灰石・角閃石・白砂子・石炭      | 1号ナシ    | ナシ      | 断面状態による文様                  |
| 第169825 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰色         | 灰色      | 石炭・角閃石・白砂子・赤色砂子    | 平割ナシ    | 平割ナシ    |                            |
| 第169826 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 黒褐色        | にふい黄褐色  | 石炭・角閃石・白砂子         | 平割ナシ    | ナシ      |                            |
| 第169827 | S1020b P160 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰白色        | 灰白色     | 灰石・角閃石・石炭          | ナシ      | 無文様ナシ   |                            |
| 第169828 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | にふい黄褐色  | 石炭・角閃石・白砂子         | 築成ナシ    | 築成ナシ    |                            |
| 第169829 | S1020b 1903 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | にふい黄褐色     | にふい黄褐色  | 灰石・角閃石・石炭・土層       | ナシ      | ナシ      | 断面状態による文様                  |
| 第169830 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | にふい黄褐色  | 石炭・灰石・角閃石・土層       | 平割ナシ    | ナシ      | 断面状態による文様・断面の土は赤色砂子層と認められる |
| 第169831 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰色         | 灰褐色     | 石炭・灰石・角閃石・土層       | 平割ナシ    | ナシ      |                            |
| 第169832 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | 灰褐色        | 灰褐色～灰褐色 | 灰石・角閃石・白砂子         | ナシ      | ナシ      | 内・外面に断面状態と認められる            |
| 第169833 | S1020b 1908 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.65  | 灰褐色        | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・白砂子・赤色砂子 | ナシ      | 断面の調整   | 断面の調整                      |
| 第169834 | S1020b 1905 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.85  | にふい黄褐色     | にふい黄褐色  | 角閃石・石炭・土層・赤色砂子     | ナシ      | ナシ      | 1段目土 外面に断面状態と認められる         |
| 第169835 | S1020b 1908 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.85  | 灰褐色        | 棕色      | 灰石・角閃石・石炭・土層       | 11段築成ナシ | 11段築成ナシ | 断面のみ2段目                    |
| 第169836 | S1020b 1906 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.81  | 灰褐色        | にふい黄褐色  | 灰石・角閃石・石炭          | 11段築成ナシ | 11段築成ナシ | 1号目土 断面                    |
| 第169837 | S1020b 1909 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 10.00 | 灰色         | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・赤色砂子     | 11段築成   | 11段築成ナシ | 1号目土 断面                    |
| 第169838 | S1020b 1933 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    |       | にふい黄褐色     | 棕色      | 灰石・角閃石・石炭・赤色砂子     | ナシ      | 11段築成ナシ | 1号目土 断面に断面状態と認められる         |
| 第169839 | S1020b P137 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.00  | 灰褐色        | 灰白色     | 灰石・角閃石・石炭          | 平割ナシ    | 平割ナシ    | 断面に断面状態と認められる              |
| 第169840 | S1020b 1903 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.00  | 灰色         | 基本灰色    | 石炭・灰石・角閃石          | ナシ      | 断面の調整   | 1号目土 断面                    |
| 第169841 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0     | 灰色         | 灰褐色     | 石炭・灰石・角閃石・白砂子      | ナシ      | ナシ      |                            |
| 第169842 | S1020b 1950 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.80  | 灰褐色        | 棕色      | 石炭・白砂子・灰石・角閃石      | ナシ      | ナシ      | 1号目土 断面築成ナシ                |
| 第169843 | S1020b 1921 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.60  | 灰褐色        | 灰褐色     | 灰石・角閃石・赤色砂子・石炭     | ナシ      | ナシ      | 1号目土 断面                    |
| 第169844 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 0.60  | 灰褐色        | 灰褐色     | 石炭・灰石・角閃石          | ナシ      | 11段築成ナシ | 1号目土 断面                    |
| 第169845 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 10.00 | 棕色         | にふい黄褐色  | 石炭・灰石・角閃石・白砂子      | 11段築成ナシ | 11段築成ナシ |                            |
| 第169846 | S1020b P166 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 10.00 | 灰色         | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・土層       | ナシ      | ナシ      | 1号目土 断面                    |
| 第169847 | S1020b P181 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 10.00 | にふい黄褐色～灰褐色 | にふい黄褐色  | 灰石・角閃石・石炭・土層       | ナシ      | ナシ      | 1号目土 断面                    |
| 第169848 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 11.00 | 灰色         | 棕色      | 石炭・角閃石・白砂子         | ナシ      | ナシ      |                            |
| 第169849 | S1020b      | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 10.00 | 灰色         | 灰褐色     | 石炭・灰石・角閃石・土層       | 平割ナシ    | 11段築成ナシ |                            |
| 第169850 | S1020b 45   | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 09.00 |            | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・土層・赤色砂子  | ナシ      | 11段築成ナシ | 1号目土 断面                    |
| 第169851 | S1020b 45   | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 09.00 |            | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・土層       | ナシ      | 11段築成ナシ | 1号目土 断面                    |
| 第169852 | S1020b P171 | 谷上1号墳 | 2区 |         |    | 11.00 |            | 灰褐色     | 灰石・角閃石・石炭・赤色砂子     | ナシ      | ナシ      | 1号目土 断面                    |

| 母岩番号    | 出土遺構・位置     | 種別     | 面積  | 柱長 (mm) |     | 色 調 (軸面) |            | 胎 土               | 面 積            |                | 備 考                                        |
|---------|-------------|--------|-----|---------|-----|----------|------------|-------------------|----------------|----------------|--------------------------------------------|
|         |             |        |     | 口底      | 口縁  | 内 面      | 外 面        |                   | 内 面            | 外 面            |                                            |
| 第17図153 | SD120c P156 | 弥生土器早期 | 浅鉢? | -       | -   | -        | 灰白色        | 長石・角閃石・石英         | -              | ナテ             | 1/10保存 接合面で剥離                              |
| 第17図154 | SD122a-1    | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | (11.0)   | 褐色         | 長石・角閃石・石英・云母      | (ナテ)           | 1/122条破片ナテ     | 1/122保存 接合面で剥離                             |
| 第17図155 | SD120a      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | (10.0)   | 浅黄褐色       | 石英・長石・角閃石         | ナテ             | 1/122条破片ナテ     | 接合ナテ 外側に節理面が認められる                          |
| 第17図156 | SD120c P160 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | 褐色       | 灰白色        | 長石・角閃石・石英・云母      | ナテ             | ナテ             | ナテ                                         |
| 第17図157 | SD120b P285 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 黒褐色        | 角閃石・長石・石英・赤色鉄屑    | ナテ?            | ナテ             | 1/122条破片1本の斜目突起を認める(断面)                    |
| 第17図158 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰白色～灰褐色    | 石英・角閃石            | ナテ             | ナテ             | 口縁下に1本の斜目突起を認める(断面)                        |
| 第17図159 | SD120b P161 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | 0.6     | 0.6 | -        | 灰白色        | 角閃石・長石・石英・赤色鉄屑    | 平割ナテ           | 1/161本         | 1/161による断面 割製下部が破片ナテナテ 割製最大径2.0            |
| 第17図160 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 黒褐色        | 石英・長石・角閃石・云母・白色鉄屑 | ナテ             | ナテ             | 口縁部と胴部断面に斜目突起を認める(断面)                      |
| 第17図161 | SD120c      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | 0.5     | 0.5 | -        | 浅黄褐色       | 石英・角閃石・云母         | ナテ             | 1/122条破片ナテ     | 口縁部断面に斜目突起を認める(断面)                         |
| 第17図162 | SD120a P168 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | 0.1     | 0.6 | -        | 褐色         | 長石・角閃石・石英・白色鉄屑    | 1/122条破片1/162本 | 1/122条破片1/162本 | 口縁部断面に斜目突起を認める(断面)                         |
| 第18図163 | SD120a      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 褐色         | 石英・長石             | 平割ナテ           | 平割ナテ           | 内・外面に赤色顔料散布が認められる                          |
| 第18図164 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | にぶい黄褐色～黒褐色 | 石英・長石・白色鉄屑        | 平割ナテ           | 平割ナテ           | ナテ                                         |
| 第18図165 | SD120a P291 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰白色～灰褐色    | 角閃石・長石・石英・白色鉄屑    | 1/165本         | 1/165本         | ナテ                                         |
| 第18図166 | SD120a      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 赤褐色        | 石英・赤色鉄屑・白色鉄屑      | 1/166本         | 1/166本         | 赤色顔料散布が認められる                               |
| 第18図167 | SD120b 以下付  | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | にぶい黄褐色     | 石英・長石・赤色鉄屑・白色鉄屑   | ナテ             | ナテ             | ナテ                                         |
| 第18図168 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | にぶい黄褐色     | 灰白色               | 1/168本         | 1/168本         | ナテ                                         |
| 第18図169 | SD120a      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 黒褐色        | 長石・角閃石・白色鉄屑・石英    | ナテ             | ナテ             | 口縁部下に1本の浅割を認める                             |
| 第18図170 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 褐色～黒褐色     | 石英・長石・白色鉄屑        | 1/170本         | 1/170本         | 外側に赤色顔料散布                                  |
| 第18図171 | SD120       | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 黒褐色        | 石英・角閃石・云母・赤色鉄屑    | 平割ナテ           | 平割ナテ           | ナテ                                         |
| 第18図172 | SD120a P165 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰白色        | 長石・角閃石・石英・赤色鉄屑    | 1/165条破片1/172本 | 1/165条破片1/172本 | ナテ                                         |
| 第18図173 | SD120a P166 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰黄褐色       | 長石・角閃石・白色鉄屑・云母    | 1/166本         | ナテ             | ナテ                                         |
| 第18図174 | SD120       | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰黄褐色～黒褐色   | 石英・長石・赤色鉄屑        | ナテ             | ナテ             | ナテ                                         |
| 第18図175 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰白色        | 石英・長石・角閃石・白色鉄屑    | 1/175条破片1/175本 | 1/175条破片1/175本 | ナテ                                         |
| 第18図176 | SD120a P282 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | 0.8     | 0.8 | -        | 褐色         | 角閃石・長石・石英・云母・白色鉄屑 | 1/176条破片1/176本 | 1/176条破片1/176本 | 外側に赤色顔料散布が認められる 胴部断面に斜目突起を認める 外側に節理面が認められる |
| 第18図177 | SD120c P155 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰白色～灰褐色    | 長石・角閃石・石英         | ナテ             | 平割ナテ           | ナテ                                         |
| 第18図178 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | にぶい黄褐色     | 石英・角閃石・白色鉄屑       | 平割ナテ           | 1/178条破片ナテ     | ナテ                                         |
| 第18図179 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 褐色         | 石英・長石・角閃石         | 1/179本         | 1/179本         | ナテ                                         |
| 第18図180 | SD120a P148 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 明黄褐色       | 赤色鉄屑・石英・白色鉄屑      | ナテ             | ナテ             | 胴部断面に斜目突起を認める(口縁)                          |
| 第18図181 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 灰白色        | 石英・長石・角閃石         | 1/181本         | 1/181本         | ナテ                                         |
| 第18図182 | SD120b 以下付  | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 浅黄褐色       | 石英・長石             | ナテ             | 平割ナテ           | ナテ                                         |
| 第18図183 | SD120a      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 浅黄褐色       | 石英・長石・角閃石         | 平割ナテ           | 平割ナテ           | ナテ                                         |
| 第18図184 | SD120b 以下付  | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 褐色         | 石英・角閃石・云母・長石・白色鉄屑 | 平割ナテ           | 1/184本         | 外側に赤色顔料散布が認められる                            |
| 第18図185 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | (15.0)  | -   | -        | 灰黄褐色～灰褐色   | 石英・角閃石・白色鉄屑       | 1/185条破片平割ナテ   | 1/185条破片平割ナテ   | ナテ                                         |
| 第18図186 | SD120a P169 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | 3.3     | 3.3 | -        | 浅黄褐色～灰褐色   | 長石・角閃石・石英・白色鉄屑    | 1/186本         | ナテ             | 口縁部断面に斜目突起を認める(断面)                         |
| 第18図187 | SD120a P161 | 弥生土器早期 | 浅鉢  | (14.2)  | -   | -        | 灰白色        | 長石・角閃石・石英・赤色鉄屑    | 平割ナテ           | 平割ナテ           | 口縁部断面に斜目突起を認める(断面)                         |
| 第18図188 | SD120a      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | にぶい赤褐色     | 長石・角閃石・石英・赤色鉄屑    | 1/188本         | 1/188本         | ナテ                                         |
| 第18図189 | SD120a 以下付  | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 浅黄褐色～灰褐色   | 長石・角閃石・石英         | 1/189本         | 1/189本         | ナテ                                         |
| 第18図190 | SD120b      | 弥生土器早期 | 浅鉢  | -       | -   | -        | 浅黄褐色       | 石英・長石             | 1/190条破片平割ナテ   | 1/190条破片平割ナテ   | 口縁部に施成面が認められる                              |

| 岸段番号     | 出土遺構・位置     | 種別     | 基層      | 法量 (cm) |    |     | 色調 (軸測) |        | 胎土             | 調製        |           | 備考                                |
|----------|-------------|--------|---------|---------|----|-----|---------|--------|----------------|-----------|-----------|-----------------------------------|
|          |             |        |         | 口徑      | 基高 | 底径  | 内面      | 外面     |                | 内面        | 外面        |                                   |
| 第1892191 | SD120a      | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 黒褐色     | 灰黄褐色   | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892192 | SD120b      | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 灰黄褐色    | にぶい黄褐色 | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 平割ナデ      |                                   |
| 第1892193 | SD120c 1割   | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 褐色      | 灰黄褐色   | 角閃石・長石・石英・白砂   | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892194 | SD120c P255 | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 黒褐色     | 灰黄褐色   | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892195 | SD120       | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 褐色      | 褐色     | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892196 | SD120c P066 | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 淡茶色     | 淡茶色    | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      | 外面に市による割目                         |
| 第1892197 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 黒色      | 黒色     | 石英・角閃石・石・白砂    | 平割ナデ      | 平割ナデ      | 外面に赤色顔料塗布・加部圧痕が認められる              |
| 第1892198 | SD120       | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | にぶい黄褐色  | にぶい黄褐色 | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 平割ナデ      |                                   |
| 第1892199 | SD120c 下割   | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 淡黄褐色    | 淡黄褐色   | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | ナデ        | (破欠片)                             |
| 第1892200 | SD120c      | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 灰黄褐色    | にぶい黄褐色 | 石英・角閃石・石・白砂    | 平割ナデ      | ナデ        | 内・外面に赤色顔料塗布が認められる                 |
| 第1892201 | SD120c P247 | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 灰白色     | 灰黄褐色   | 長石・角閃石・石・白砂    | 平割ナデ      | ナデ        | (リボン状欠片)                          |
| 第1892202 | SD120c P062 | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | にぶい黄褐色  | にぶい黄褐色 | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 平割ナデ      | 外面に赤色顔料塗布が認められる                   |
| 第1892203 | SD120a      | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | にぶい黄褐色  | にぶい黄褐色 | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892204 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 褐色      | 褐色     | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 1.5g      | 平割ナデ      | 内・外面に赤色顔料塗布が認められる                 |
| 第1892205 | SD120c P069 | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 褐色      | 淡黄褐色   | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892206 | SD120c P180 | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 灰白色・褐色  | 灰黄褐色   | 長石・角閃石・石・白砂    | 目録表前後1.5g | 目録表前後1.5g | 1.5g残存 外面に赤色顔料塗布が認められる            |
| 第1892207 | SD120a P068 | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 灰黄褐色    | にぶい黄褐色 | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      |                                   |
| 第1892208 | SD120a      | 赤生土器早期 | 方型浅鉢    | -       | -  | -   | 黒褐色     | 黒褐色    | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | ナデ        | 平割ナデ      |                                   |
| 第1892209 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 褐色      | にぶい黄褐色 | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | ナデ        | 外面沈着による施文                         |
| 第1892210 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | 黄褐色     | 黄褐色    | 石英・角閃石・石・白砂    | 平割ナデ      | ナデ        | 外面沈着による施文                         |
| 第1892211 | SD120a      | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | -   | にぶい黄褐色  | にぶい黄褐色 | 石英・長石          | 目録表前後平割ナデ | 平割ナデ      | 内・外面に指部印痕が認められる                   |
| 第1892212 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 灰黄褐色    | 灰黄褐色   | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 1.5g      | 口縁部内面に1葉外面に2葉の沈着を認める              |
| 第1892213 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 淡黄褐色    | 淡黄褐色   | 石英・長石・石・白砂     | 1.5g      | ナデ        | 外面に赤色顔料塗布が認められる                   |
| 第1892214 | SD120a      | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 黒褐色     | 淡黄褐色   | 石英・長石・石・白砂     | 平割ナデ      | ナデ        | 口縁部下に1葉の沈着を認める                    |
| 第1892215 | SD120a      | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 灰黄褐色    | 灰黄褐色   | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 平割ナデ      | ナデ        |                                   |
| 第1892216 | SD120a      | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 褐色      | 褐色     | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 目録表前後平割ナデ | 目録表前後ナデ   |                                   |
| 第1892217 | SD120       | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 赤褐色     | 赤褐色    | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | ナデ        | ナデ        | 内・外面に赤色顔料塗布が認められる                 |
| 第1892218 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | にぶい黄褐色  | にぶい黄褐色 | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 平割ナデ      | 平割ナデ      | 口縁部下に5本の沈着を認める                    |
| 第1892219 | SD120       | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 黒褐色     | にぶい黄褐色 | 石英・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | 目録表前後平割ナデ | 口縁部に1葉の沈着を認める                     |
| 第1892220 | SD120       | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 赤褐色     | 赤褐色    | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 1.5g      | 目録表前後1.5g | 内・外面に赤色顔料塗布が認められる (口縁部に1葉の沈着を認める) |
| 第1892221 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 褐色      | 褐色     | 石英・角閃石・石・白砂    | ナデ        | ナデ        |                                   |
| 第1892222 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 鉢 (1.2) | -       | -  | -   | 褐色      | 褐色     | 石英・長石          | ナデ        | 目録表前後ナデ   | 口縁部下に外面から内面への順に前穿孔が認められる          |
| 第1892223 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 淡黄褐色    | 灰黄褐色   | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 目録表前後ナデ   | 目録表前後ナデ   |                                   |
| 第1892224 | SD120a      | 赤生土器早期 | 鉢 (1.2) | -       | -  | -   | にぶい黄褐色  | 灰白色    | 長石・角閃石・石・白砂    | ナデ        | ナデ        | 外面から内面穿孔が2ヶ所認められる                 |
| 第1892225 | SD120a      | 赤生土器早期 | 鉢       | -       | -  | -   | 灰白色     | 褐色     | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | ナデ        | ナデ        |                                   |
| 第1892226 | SD120c P263 | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | 5.2 | 褐色      | 黒褐色    | 長石・角閃石・石・白砂    | 1.5g      | ナデ        | 底面ナデ                              |
| 第1892227 | SD120c P110 | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | 4.7 | 褐色      | 茶褐色    | 石英・長石・石・白砂     | ナデ        | ナデ        | 底面目録表前後ナデ                         |
| 第1892228 | SD120 b     | 赤生土器早期 | 浅鉢      | -       | -  | 6.0 | 淡黄褐色    | 淡黄褐色   | 石英・長石・角閃石・石・白砂 | 平割ナデ      | ナデ        |                                   |

| 採出番号    | 出土遺構・位置                                     | 種別     | 器種 | 法製 (cm)      |      | 色 調 (軸面) |        | 胎 土                | 調 整                |         | 備 考       |
|---------|---------------------------------------------|--------|----|--------------|------|----------|--------|--------------------|--------------------|---------|-----------|
|         |                                             |        |    | 口徑           | 底径   | 内 面      | 外 面    |                    | 内 面                | 外 面     |           |
| 第100229 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | —        | 黒褐色    | 石灰・角閃石             | —                  | —       | 底部外面見込みナシ |
| 第100230 | SD120c P006                                 | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 6.15     | にふい黄褐色 | 長石・角閃石・白色粘土・石灰・赤褐色 | ナシ                 | ナシ      | 目録表破損ナシ   |
| 第100231 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 6.41     | 灰色     | 褐色                 | 石灰・長石・角閃石・雲母・赤褐色   | —       | ナシ        |
| 第100232 | SD120b                                      | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 6.83     | 褐色     | にふい黄褐色             | 石灰・長石・角閃石・雲母       | ナシ      | 目録表破損ナシ   |
| 第100233 | SD120c P082                                 | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 6.83     | 灰褐色    | 赤褐色・赤褐色            | 長石・石灰・角閃石・白色粘土     | ナシ      | ナシ        |
| 第100234 | SD120c P058                                 | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 6.63     | 褐色     | にふい黄褐色             | 角閃石・白色粘土・石灰・赤褐色    | ナシ      | ナシ        |
| 第100235 | SD120c P063                                 | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 7.25     | 赤褐色    | 赤褐色                | 長石・角閃石・雲母・石灰       | ナシ      | ナシ        |
| 第100236 | SD120c P001                                 | 赤生土器早期 | 浅鉢 | —            | —    | 8.6      | 赤褐色    | 赤褐色                | 長石・角閃石・石灰・赤褐色      | ナシ      | ナシ        |
| 第100237 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 黒褐色    | にふい褐色              | 石灰・角閃石・雲母          | 赤褐色ナシ   | 平造ナシ      |
| 第100238 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | にふい黄褐色 | にふい黄褐色             | 石灰・長石・角閃石・白色粘土     | ナシ      | ナシ        |
| 第100239 | SD120b                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 赤褐色    | 赤褐色                | 石灰・長石・角閃石・雲母       | 目録表破損ナシ | 目録表破損ナシ   |
| 第100240 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 壺  | 39           | —    | —        | 赤褐色    | 赤褐色                | 石灰・長石・角閃石・雲母       | 目録表破損ナシ | ナシ        |
| 第100241 | SD120b                                      | 赤生土器早期 | 壺  | 39.80        | —    | —        | 褐色     | 赤褐色                | 石灰・長石・赤褐色粘土        | ナシ      | 平造ナシ      |
| 第100242 | SD120b                                      | 赤生土器早期 | 壺  | 39.80 (20.4) | —    | —        | 赤褐色    | 赤褐色                | 石灰・角閃石・赤褐色粘土・雲母    | 赤褐色ナシ   | ナシ        |
| 第100243 | SD120c                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 赤褐色    | 赤褐色                | 石灰・長石・角閃石・雲母       | 不明      | ナシ        |
| 第100244 | SD120b 上割                                   | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | にふい黄褐色 | 赤褐色                | 石灰・角閃石・長石・赤褐色粘土    | 目録表破損ナシ | 平造ナシ      |
| 第100245 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | にふい黄褐色 | 赤褐色                | 石灰・角閃石・雲母          | ナシ      | ナシ        |
| 第100246 | SD120a                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 黒色     | 赤褐色                | 石灰・角閃石             | ナシ      | ナシ        |
| 第100247 | SD120c 1.249                                | 赤生土器早期 | 不明 | 5.1          | 3.5  | 2.1      | 褐色     | 褐色                 | 角閃石・長石・石灰          | ヌビヤサエ   | ヌビヤサエ     |
| 第100248 | SD120c P270                                 | 縄文土器後期 | 深鉢 | —            | —    | —        | 灰褐色    | 明褐色                | 角閃石・石灰・雲母          | ナシ      | 同席文       |
| 第100249 | SD120c                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | にふい黄褐色 | にふい黄褐色             | 長石・角閃石             | ヨコナシ    | ヨコナシ      |
| 第100250 | SD120c                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 黒色     | 赤褐色                | 角閃石・長石・石灰・白色粘土     | ナシ      | ナシ        |
| 第100251 | SD120c P100・106・129・137・140                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | 4.5      | にふい褐色  | にふい黄褐色             | 長石・石灰・雲母・赤褐色粘土     | ナシ      | ナシ        |
| 第100252 | SD120c P145・149                             | 赤生土器早期 | 壺  | 39.80        | —    | —        | にふい褐色  | 褐色                 | 石灰・長石・角閃石・雲母       | ナシ      | ナシ        |
| 第100253 | SD120c P045                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 褐色     | 褐色                 | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ヨコナシ    | ヨコナシ      |
| 第100254 | SD120c P047                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | にふい黄褐色 | 褐色                 | 長石・石灰・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヨコナシ    | ヨコナシ      |
| 第100255 | SD120c                                      | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 赤褐色    | 赤褐色                | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ヨコナシ    | ヨコナシ      |
| 第100256 | SD120c P124                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | にふい褐色  | 褐色                 | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ヨコナシ    | ヨコナシ      |
| 第100257 | SD120c P071                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 褐色     | 褐色                 | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ヨコナシ    | ヨコナシ      |
| 第100258 | SD120c P136                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | —        | 褐色     | 褐色                 | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ナシ      | ヨコナシ      |
| 第100259 | SD120c P152                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | 5.5      | にふい赤褐色 | 赤褐色                | 石灰・長石・角閃石          | ヨコナシ    | ナシ        |
| 第100260 | SD120c P054                                 | 赤生土器早期 | 壺  | —            | —    | 6.7      | にふい黄褐色 | 褐色                 | 長石・石灰・角閃石・赤褐色粘土    | ナシ      | ナシ        |
| 第100261 | SD120c P107・115                             | 赤生土器早期 | 壺  | 32.20        | —    | —        | 赤褐色    | 赤褐色                | 石灰・長石              | 王冠ナシナシ  | ナシ        |
| 第100262 | SD120c P151・152・162                         | 赤生土器早期 | 壺  | 12.5         | —    | —        | にふい黄褐色 | 褐色                 | 石灰・長石・角閃石          | ナシ      | ナシ        |
| 第100263 | SD120c P095・128・130                         | 赤生土器早期 | 壺  | 18.20        | —    | —        | 褐色     | 褐色                 | 長石・角閃石・石灰・雲母       | ナシ      | ナシ        |
| 第100264 | SD120c P001・004・007・009・011・019・044         | 赤生土器早期 | 壺  | 27.5         | —    | —        | 褐色     | 褐色                 | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ナシ      | ナシ        |
| 第100265 | SD120c P214・123・127                         | 赤生土器早期 | 壺  | 16.6         | 18.3 | 5.6      | 赤褐色    | 赤褐色                | 長石・石灰・角閃石・雲母       | ナシ      | ナシ        |
| 第100266 | SD120c P015・016・017・018・023・086・110・112・119 | 赤生土器早期 | 壺  | 114.6        | 22.7 | 6.53     | 赤褐色    | 赤褐色                | 長石・石灰・雲母・角閃石       | ナシ      | ナシ        |



| 図号      | 出土遺構・位置                                | 種別   | 図様     | 法長 (cm) | 色調 (軸測) |        | 土質         |                   | 備考                      |                               |                               |                                    |
|---------|----------------------------------------|------|--------|---------|---------|--------|------------|-------------------|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|
|         |                                        |      |        |         | 口徑      | 高さ     | 底径         | 内面                | 外面                      | 内面                            | 外面                            |                                    |
| 第272817 | SK006 P100+106・109・125・138             | 赤生土器 | 甕      | 20.1    | 26.45   | 4.6    | にぶい褐色      | 長石・石英・赤褐色粒        | ヤズリ→ナデ<br>ヨコナデ          | 13縁部～腰部上段にかけて約1/2穴開 外面に黒      |                               |                                    |
| 第272818 | SK006 P100+041・073・084・096・125・132・133 | 赤生土器 | 甕      | 18.00   | 29.8    | 5.6    | 褐色         | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 | ヤズリ→「寧ろ」ナデ→ヨコナデ<br>ヨコナデ | 13縁部～腰部上段にかけて3/4穴開 外面に黒       |                               |                                    |
| 第280219 | SK006 P102+077・034・088+118             | 赤生土器 | 鉢      | 17.0    | 6.5     | 9.9    | 黒褐色        | 石英・長石             | 王具ナデ<br>ヨコナデ            | 13縁部～腰部1/4穴開 外面に黒             |                               |                                    |
| 第31281  | SK115 P029                             | 赤生土器 | 甕      | 11.80   | —       | —      | にぶい褐色 明赤褐色 | 長石・石英・角閃石         | 王具ナデ                    | 13縁部から胴部上段にかけて約1/8穴開          |                               |                                    |
| 第31282  | SK115 P012・017・018                     | 赤生土器 | 甕      | 14.4    | —       | —      | にぶい赤褐色     | 石英・長石・赤褐色粒        | ヤズリ→ナデ<br>ナデ            | 13縁部から胴部上段 穿孔あり 赤褐色粒(赤褐色外面)   |                               |                                    |
| 第31283  | SK115 P009                             | 赤生土器 | 甕      | —       | —       | —      | にぶい赤褐色     | 石英・長石・角閃石・赤褐色粒    | ナデ                      | 底部の1/7穴開 外面に黒                 |                               |                                    |
| 第31284  | SK115 上層                               | 赤生土器 | 高杯又は高台 | —       | —       | (17.2) | にぶい黄褐色     | 長石・石英             | ハケメ→ハケメナデ               | 13縁部の1/8穴開 外面に黒               |                               |                                    |
| 第31285  | SK115                                  | 赤生土器 | 甕      | 12.00   | —       | —      | にぶい黄褐色     | 長石・石英・雲母・角閃石      | ナデ ユビオサ<br>ナデ           | 13縁部の1/12穴開                   |                               |                                    |
| 第31286  | SK115 上層                               | 赤生土器 | 甕      | 03.08   | —       | —      | 黄褐色        | 明赤褐色              | 長石・石英・雲母                | ナデ ユコナデ                       | 13縁部の1/8穴開                    |                                    |
| 第31287  | SK115                                  | 赤生土器 | 甕      | 07.40   | —       | —      | 褐色         | 明赤褐色              | 長石・石英・雲母                | ヨコナデ                          | ハケメ→ヨコナデ ユコナデ                 |                                    |
| 第31288  | SK115                                  | 赤生土器 | 甕      | 05.36   | —       | —      | 褐色         | 褐色                | 長石・石英・雲母                | ナデ ユコナデ                       | 13縁部の1/8穴開 口径不確定              |                                    |
| 第31289  | SK115                                  | 赤生土器 | 甕      | 02.60   | —       | —      | にぶい黄褐色     | 長石・石英・雲母・赤褐色粒     | ナデ ユコナデ                 | ナデ ユコナデ                       |                               |                                    |
| 第312910 | SK115                                  | 赤生土器 | 甕      | 01.36   | —       | —      | 褐色 明赤褐色    | 石英・長石・雲母・赤褐色粒     | ハケメ→ナデ<br>ナデ ユコナデ       | ハケメ→ナデ ユコナデ                   |                               |                                    |
| 第312911 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 甕      | 02.60   | —       | —      | にぶい黄褐色     | 褐色                | 長石・石英・赤褐色粒              | ナデ 王具ヨコナデ ユビオサ                | ハケメヨコナデ                       |                                    |
| 第312912 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 甕      | 03.70   | —       | —      | にぶい褐色      | にぶい褐色             | 長石・石英・雲母・赤褐色粒           | ハケメ→ナデ<br>ヨコナデ                | ハケメ→ナデ ユコナデ                   |                                    |
| 第312913 | SK115 P016                             | 赤生土器 | 甕      | 11.70   | —       | —      | にぶい褐色      | にぶい褐色             | 石英・長石・雲母・赤褐色粒           | ナデ ユビオサ<br>ナデ ユコナデ            | ハケメ→ナデ ユコナデ                   |                                    |
| 第312914 | SK115 P000                             | 赤生土器 | 甕      | 03.08   | —       | —      | 褐色 明赤褐色    | 褐色                | 石英・長石・雲母・赤褐色粒           | ナデ                            | ハケメ→ナデ ユコナデ                   |                                    |
| 第312915 | SK115 P009                             | 赤生土器 | 甕      | 03.80   | —       | —      | 褐色         | 褐色                | 石英・長石                   | ナデ ユビオサ<br>ヨコナデ→ナデ<br>ヨコナデ    | ハケメ→ハケメヨコナデ                   |                                    |
| 第312916 | SK115 P002                             | 赤生土器 | 高杯又は鉢  | —       | (4.5)   | —      | 褐色         | にぶい褐色             | 石英・長石・雲母・赤褐色粒           | ナデ→ナデ                         | ナデ                            |                                    |
| 第312917 | SK115 P064                             | 赤生土器 | 甕      | —       | (6.3)   | 褐色     | 褐色         | 石英・長石・角閃石         | ナデ                      | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 底部の1/2穴開                      |                                    |
| 第312918 | SK115                                  | 赤生土器 | 鉢      | —       | 4.3     | 褐色     | にぶい褐色 褐色   | 石英・長石・角閃石・雲母      | ナデ                      | ナデ ユビオサ<br>ナデ ユコナデ            | 底部のみ穴開 外面に黒                   |                                    |
| 第312919 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 鉢      | —       | 4.6     | 褐色     | 褐色         | 石英・長石・赤褐色粒        | 王具ナデ                    | ナデ→ナデ<br>ナデ                   | 底部のみ穴開 外面に黒                   |                                    |
| 第312920 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 甕      | —       | 5.15    | 黒      | にぶい褐色 褐色   | 石英・長石・角閃石         | ナデ                      | ナデ 王具ナデ                       | 底部のみ穴開                        |                                    |
| 第312921 | SK115 P006                             | 赤生土器 | 甕      | —       | 5.5     | 黒褐色    | 赤褐色 明赤褐色   | 石英・長石・角閃石・赤褐色粒    | 王具ナデ                    | ナデ ユコナデ<br>ナデ                 | 底部のみ穴開                        |                                    |
| 第312922 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 甕      | —       | (5.75)  | 灰黄褐色   | 明赤褐色       | 石英・長石・赤褐色粒        | ナデ ユビオサ<br>ナデ           | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 底部の1/2穴開                      |                                    |
| 第312923 | SK115 P045                             | 赤生土器 | 甕      | —       | 5.3     | 黒褐色    | にぶい黄褐色     | 石英・長石・角閃石         | ナデ ユビオサ<br>ナデ           | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 底部のみ穴開                        |                                    |
| 第312924 | SK115 P068                             | 赤生土器 | 甕      | —       | 5.95    | 黒      | 赤褐色 明赤褐色   | 石英・長石             | ヤズリ→ナデ                  | ナデ                            | 底部のみ穴開 二次焼成による孔               |                                    |
| 第312925 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 甕      | —       | 6.15    | 灰黄褐色   | 灰黄褐色 明赤褐色  | 石英・長石・角閃石         | ナデ ユビオサ<br>ナデ           | ナデ ユビオサ<br>ハケメ→ナデ             | 底部のみ穴開                        |                                    |
| 第312926 | SK115                                  | 赤生土器 | 甕      | —       | 5.5     | にぶい褐色  | 褐色         | 石英・長石・角閃石         | ナデ ユビオサ<br>ナデ           | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 底部のみ穴開                        |                                    |
| 第312927 | SK115 P072                             | 赤生土器 | 高杯又は鉢  | —       | (4.35)  | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色     | 石英・長石・赤褐色粒        | 王具ナデ→ナデ                 | ナデ 王具ナデ                       | 13縁1/2部 腰部1/4穴開               |                                    |
| 第312928 | SK115 P022                             | 赤生土器 | 高杯又は鉢  | —       | 5.2     | 黒      | 明赤褐色       | 石英・長石・角閃石         | ナデ                      | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 底部と腰部の1/3穴開                   |                                    |
| 第312929 | SK115 P044                             | 赤生土器 | 甕      | —       | 4.35    | にぶい黄褐色 | 赤褐色        | 長石・石英・角閃石         | ハケメ又は王具ナデ               | ナデ ハケメ→ナデ                     | 底部～腰部下段穴開 外面に黒                |                                    |
| 第312930 | SK115                                  | 赤生土器 | 鉢      | 12.40   | —       | —      | 明赤褐色       | 明赤褐色              | 長石・石英・雲母・赤褐色粒           | ナデ ユコナデ                       | ハケメ→ナデ<br>ナデ ユコナデ             |                                    |
| 第312931 | SK115 P065                             | 赤生土器 | 甕      | 03.50   | —       | —      | にぶい褐色      | 褐色                | 長石・石英・雲母・角閃石            | 王具ナデ<br>ヨコナデ                  | ハケメ→ナデ<br>ナデ ユコナデ             |                                    |
| 第312932 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 鉢      | 13.30   | —       | —      | 灰黄褐色       | 灰黄褐色 明赤褐色         | 石英・長石・雲母・角閃石            | ナデ ユビオサ<br>ナデ ユビオサ<br>ナデ ユビオサ | ナデ ユビオサ<br>ナデ ユビオサ<br>ナデ ユビオサ |                                    |
| 第312933 | SK115 P031・005                         | 赤生土器 | 鉢      | 16.90   | 8.3     | 3.2    | にぶい黄褐色     | 明赤褐色              | 砂粒                      | ハケメ→ナデ<br>ナデ                  | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 13縁部～腰部上段の1/2穴開と底部のみ穴開 赤褐色粒(赤褐色外面) |
| 第312934 | SK115 P047                             | 赤生土器 | 鉢      | 10.00   | —       | —      | 灰黄褐色       | 黄褐色               | 石英・長石・赤褐色粒              | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | ナデ ユビオサ<br>ナデ                 | 13縁部～腰部上段の1/2穴開と底部のみ穴開 外面に黒        |
| 第312935 | SK115 上層                               | 赤生土器 | 鉢      | 19.60   | —       | —      | 褐色         | 明赤褐色              | 長石・石英・雲母・赤褐色粒           | ヤズリ→ナデ<br>ナデ                  | ナデ                            | 13縁部から腰部中段にかけて1/4穴開 赤褐色粒(赤褐色外面)    |

| 洋館番号    | 出土品名・位置              | 種別   | 器種 | 法線 (cm) | 色調 (他種) |        | 胎土       | 割        |               | 備考                   |                                       |
|---------|----------------------|------|----|---------|---------|--------|----------|----------|---------------|----------------------|---------------------------------------|
|         |                      |      |    |         | 口縁      | 底縁     |          | 内面       | 外面            |                      | 内面                                    |
| 第338206 | SK115 P003・010       | 甕生土器 | 片  | (10.0)  | -       | -      | にぶい黄褐色   | 明赤褐色     | 石黄・黒石・雲母・赤褐色  | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部下段にかけて1/4の破損 赤褐色の帯状物あり         |
| 第338207 | SK115                | 甕生土器 | 片  | (9.0)   | -       | -      | 褐色       | 褐色       | 石黄・黒石・雲母・赤褐色  | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 等孔あり               |
| 第338208 | SK115 P028           | 甕生土器 | 片  | (10.0)  | -       | -      | 褐色       | 褐色       | 石黄・黒石・雲母・赤褐色  | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 等孔あり 外面に黒い点あり      |
| 第338209 | SK115 P003           | 甕生土器 | 片  | (10.1)  | 5.1     | 10.8   | 明赤褐色 赤褐色 | 明赤褐色 赤褐色 | 石黄・黒石・雲母・赤褐色  | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 等孔あり 外面に黒い点あり      |
| 第338240 | SK115 P001           | 甕生土器 | 片  | -       | -       | -      | にぶい褐色 褐色 | にぶい褐色 褐色 | 石黄・黒石・角閃石・雲母  | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり 外面に黒い点あり |
| 第338241 | SK115 P002           | 甕生土器 | 片  | -       | -       | 11.2   | 暗灰色      | 赤褐色      | 石黄・黒石・雲母・赤褐色  | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり 外面に黒い点あり |
| 第34801  | SK300                | 甕生土器 | 浅鉢 | -       | -       | -      | 赤褐色      | 赤褐色      | 角閃石・黒石        | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34802  | SK300                | 甕生土器 | 浅鉢 | -       | -       | -      | 暗灰色      | にぶい黄褐色   | 角閃石・石黄・黒石     | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34803  | SK300                | 甕生土器 | 浅鉢 | -       | -       | -      | 灰黄色      | 暗灰黄色     | 白色粒・角閃石       | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34804  | SK300                | 甕生土器 | 浅鉢 | -       | -       | (10.0) | 黄褐色      | にぶい黄褐色   | 白色粒・角閃石・黒石    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34805  | SK1009               | 甕生土器 | 出  | (14.0)  | 12.7    | (14.0) | 赤褐色 褐色   | 赤褐色 褐色   | 角閃石・黒石・雲母・赤褐色 | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34806  | SK764 P001           | 甕生土器 | 浅鉢 | -       | -       | 7.7    | 灰黄色      | 灰黄色      | 角閃石・白色粒・黒石    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34807  | SK003 SP016          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・黒色粒・白色粒    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34808  | SK003 SP016          | 土器   | 土器 | 4.8     | 2.8     | -      | 浅黄色      | 浅黄褐色     | 角閃石・黒石        | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34809  | SK004 SP296          | 土器   | 土器 | -       | -       | -      | にぶい黄褐色   | にぶい黄褐色   | 石黄・角閃石・白色粒    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34810  | SK006 SP214          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 白色粒           | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34811  | SK007 SP037 SP038    | 灰器   | 灰器 | (14.0)  | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・黒色粒        | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34812  | SK007 SP045          | 灰器   | 灰器 | (12.0)  | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・白色粒・黒色粒    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34813  | SK007 SP045          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | にぶい黄褐色   | にぶい黄褐色   | 角閃石・白色粒       | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34814  | SK007 SP036          | 土器   | 土器 | -       | -       | -      | にぶい黄褐色   | にぶい黄褐色   | 石黄・角閃石・白色粒    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34815  | SK008 SP043          | 灰器   | 灰器 | (12.0)  | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・白色粒・黒色粒    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34816  | SK008 SP054          | 灰器   | 灰器 | (13.0)  | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・黒色粒        | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34817  | SK008 SP063          | 灰器   | 灰器 | (9.0)   | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 角閃石・石黄・黒石     | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34818  | SK008 SP054          | 土器   | 土器 | (14.0)  | -       | -      | オリーブ色    | オリーブ色    | 角閃石・金雲母・白色粒   | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34819  | SK011 SP387          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 白色粒           | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34820  | SK012 SP132          | 灰器   | 灰器 | (10.1)  | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・白色粒・黒色粒    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34821  | SK012 SP012 491      | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | にぶい黄褐色   | にぶい黄褐色   | 角閃石・白色粒       | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34822  | SK012 SP011 P001     | 土器   | 土器 | (11.0)  | -       | -      | にぶい褐色    | にぶい褐色    | 角閃石・黒石・雲母・赤褐色 | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34823  | SK012 SP011 P001・002 | 土器   | 土器 | (13.1)  | 6.1     | -      | 明赤褐色     | 明赤褐色     | 角閃石・黒石・雲母・赤褐色 | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34824  | SK013 SP792          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄・黒色粒        | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34825  | SK013 SP792 P001     | 土器   | 土器 | -       | -       | -      | にぶい褐色    | 褐色       | 角閃石・雲母・赤褐色    | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34826  | SK013 SP720 P001     | 土器   | 土器 | (11.0)  | -       | -      | 明赤褐色     | 暗灰色      | 角閃石・黒石・雲母・赤褐色 | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34827  | SK014 SP471          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 石黄            | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34828  | SK017 SP705          | 灰器   | 灰器 | -       | -       | -      | 暗赤褐色     | 暗赤褐色     | 石黄            | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34829  | SK017 SP960 P001     | 土器   | 土器 | (18.0)  | -       | -      | 褐色       | 褐色       | 石黄・黒色粒・角閃石・黒石 | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34830  | SK020 SP070          | 灰器   | 灰器 | (11.0)  | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 白色粒・石黄        | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34831  | SK020 SP907          | 土器   | 土器 | (21.0)  | -       | -      | 黒色       | 褐色       | 角閃石・黒石・雲母・赤褐色 | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |
| 第34832  | SK020 SP907          | 土器   | 土器 | -       | -       | -      | 灰色       | 灰色       | 白色粒・黒色粒       | ナデ ヌビヤナエ ヌビヤナエ ヌビヤナエ | 口縁部から体部にかけて約1/5の破損 赤褐色の帯状物あり          |

| 研究番号   | 出土遺構・位置                                              | 種別  | 母体                          | 法量 (cm)         |    | 色調 (輪面)            |                                   | 胎土                                | 調 整               |                          | 備 考                           |
|--------|------------------------------------------------------|-----|-----------------------------|-----------------|----|--------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------------------|
|        |                                                      |     |                             | 口徑              | 高さ | 内面                 | 外面                                |                                   | 内面                | 外面                       |                               |
| 第7382  | SH2706                                               | 須恵器 | 灰蓋                          | (13.5)          | —  | 灰色                 | 灰色                                | 白色粒・黒色粒                           | 回転ナデ              | 回転ヘラツキリ<br>回転ナデ          | 11層部1/10残存                    |
| 第7501  | SH206 P005                                           | 須恵器 | 皿                           | —               | —  | 灰色                 | 灰色                                | 石英                                | 回転ナデ              | 回転ヘラツキリ<br>回転ナデ          | 11層部文相 断面一部表面割<br>断、内面にしほり痕あり |
| 第7502  | SH206                                                | 土師器 | 甕                           | (17.8)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 赤褐色粒・角<br>閃石・長石                   | 赤褐色粒・角<br>閃石・長石                   | ナデ ユリナデ<br>ナデハケナデ | ハケナデナデ                   | 11層部1/10残存                    |
| 第7731  | SH250                                                | 土師器 | 甕                           | (18.5)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 赤褐色粒・長<br>石・白色粒・角<br>閃石・長石        | 赤褐色粒・長<br>石・白色粒・角<br>閃石・長石        | 土具ナデ ユ<br>リナデ     | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部1/10残存                    |
| 第8001  | SP200                                                | 須恵器 | 灰蓋                          | —               | —  | 灰白色                | 灰白色                               | 石英・黒色粒                            | 回転ナデ              | 回転ヘラツキリ<br>回転ナデ          | 11層部破片                        |
| 第8002  | SP200                                                | 須恵器 | 灰蓋                          | —               | —  | 灰色                 | 灰色                                | 白色粒                               | 回転ナデ              | 回転ナデ                     | 11層部破片                        |
| 第8003  | SP200                                                | 須恵器 | 灰蓋                          | —               | —  | 灰色                 | 灰色                                | 白色粒                               | 回転ナデ              | 回転ナデ                     | 11層部破片 焼き不確実                  |
| 第8401  | SH100 a/c                                            | 須恵器 | 灰蓋                          | —               | —  | 灰色                 | 灰色                                | 白色粒                               | 回転ナデ              | 回転ナデ                     | 11層部破片                        |
| 第8402  | SH100 断面(c-d)                                        | 須恵器 | 灰身                          | —               | —  | 灰色                 | 灰色                                | 白色粒                               | 回転ナデ              | 回転ナデ                     | 11層部破片                        |
| 第8403  | SH100                                                | 須恵器 | 用蓋                          | (13.2)          | —  | 灰色                 | 灰色                                | 石英                                | 回転ナデ              | 回転ナデ                     | 11層部の1/10残存 口徑不確<br>実         |
| 第8404  | SH100 断面(c-d)                                        | 土師器 | 甕                           | (14.4)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 黄褐色・長石・<br>白色粒                    | 黄褐色・長石・<br>白色粒                    | 土具ナデナデ<br>ユリナデ    | ユリナデナデ ユ<br>リナデ          | 11層部1/10残存                    |
| 第8405  | SH100 d/c                                            | 土師器 | 甕                           | (15.4)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 黄褐色・長石・<br>石英・赤褐色粒<br>・白色粒        | 黄褐色・長石・<br>石英・赤褐色粒<br>・白色粒        | ナデ                | ハケナデユリナ<br>デ             | 11層部の1/10残存 口徑不確<br>実         |
| 第8406  | SH100 P215                                           | 土師器 | 甕                           | (14.8)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 黄褐色・長石・<br>白色粒・赤褐色<br>粒           | 黄褐色・長石・<br>白色粒・赤褐色<br>粒           | ナデ ハケナデ<br>ユリナデ   | ハケナデユリナ<br>デ             | 11層部の1/7残存                    |
| 第8407  | SH100 P088                                           | 土師器 | 甕                           | (19.2)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 長石・角閃石・赤<br>褐色粒・白色粒               | 長石・角閃石・赤<br>褐色粒・白色粒               | ナデ ユリナデ           | ユリナデ ハケ<br>ナデ            | 11層部1/10残存                    |
| 第8408  | SH100 P192                                           | 土師器 | 甕                           | (15.2)          | —  | 褐色                 | にぶい黄<br>褐色                        | 黄褐色・長石・<br>石英・赤褐色粒<br>・白色粒        | ナデ ハケナデ<br>ユリナデ   | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部の1/8残存                    |
| 第8409  | SH100 d/c                                            | 土師器 | 甕                           | (14.7)          | —  | 黒褐色                | 黄褐色                               | 黄褐色・長石・<br>石英・赤褐色粒<br>・白色粒        | ナデ ユリナデ           | ハケナデナデ<br>ハケナデユリナ<br>デ   | 11層部の1/8残存                    |
| 第84010 | SH100 P068                                           | 土師器 | 甕                           | (19.5)          | —  | 褐色                 | 褐色                                | 長石・石英・角<br>閃石・赤褐色粒<br>・白色粒        | ユリナデ 一部<br>ハケナデ   | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部の1/8残存                    |
| 第84011 | SH100 P221                                           | 土師器 | 甕                           | (11.2)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 褐色                                | 長石・石英・雲母・<br>角閃石                  | ナデナデ<br>ナデナデ      | ハケナデナデ酒<br>しハケナデ<br>ユリナデ | 11層部・体部土位にかけて1/4<br>残存 外面に黒斑  |
| 第84012 | SH100 P114+<br>115                                   | 土師器 | 甕                           | (15.9)          | —  | にぶい赤<br>褐色         | 褐色                                | 長石・石英・雲母・<br>赤褐色粒                 | 土具ナデ ユ<br>リナデ     | ハケナデ ハケ<br>ナデ            | 11層部・断面にかけて約1/6<br>残存         |
| 第84013 | SH100 P06101+<br>121+122+123+<br>124+125+126+<br>127 | 土師器 | 甕                           | (15.0)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 長石・石英・赤<br>褐色粒・角閃石・<br>赤褐色粒       | 長石・石英・赤<br>褐色粒・角閃石・<br>赤褐色粒       | 土具ナデ ユ<br>リナデ     | ハケナデ ハケ<br>ナデ            | 11層部1/2 体部1/40残存              |
| 第84014 | SH100 P092                                           | 土師器 | 甕                           | 15.7            | —  | 明赤褐色<br>にぶい<br>黄褐色 | 明赤褐色<br>長石・石英・赤<br>褐色粒            | 明赤褐色<br>長石・石英・赤<br>褐色粒            | 土具ナデ ユ<br>リナデ     | ハケナデナデ酒<br>しハケナデ<br>ユリナデ | 断面欠損                          |
| 第84015 | SH100 P15453+<br>155+156+158                         | 土師器 | 甕                           | (15.4)          | —  | 明赤褐色               | 明赤褐色                              | 長石・石英・雲母・<br>赤褐色粒                 | ハケナデユリ<br>ナデ      | ハケナデ ハケ<br>ナデ            | 11層部・体部土位にかけて約<br>1/10残存      |
| 第84016 | SH100 P19121+<br>122+124+125+<br>132+134+136         | 土師器 | 甕                           | 14.9 19.95      | —  | にぶい黄<br>褐色         | 長石・石英・雲母・<br>角閃石・赤褐色<br>粒         | 長石・石英・雲母・<br>角閃石・赤褐色<br>粒         | ナデナデ 土具<br>ナデ     | ハケナデナデ酒<br>しハケナデ<br>ユリナデ | 体部下位約1/20 断面に<br>一部欠損あり 外面に黒  |
| 第84017 | SH100 P0706+<br>080+085+084                          | 土師器 | 甕                           | (19.5)          | —  | にぶい赤<br>褐色         | 長石・石英・雲母・<br>赤褐色粒                 | 長石・石英・雲母・<br>赤褐色粒                 | ナデナデ ユ<br>リナデ     | ハケナデナデ酒<br>しハケナデ<br>ユリナデ | 11層部・体部土位にかけて約<br>1/3残存 破片有   |
| 第84018 | SH100 P039                                           | 土師器 | 甕                           | —               | —  | にぶい黄<br>褐色         | 黄褐色・長石・<br>白色粒・雲母                 | 黄褐色・長石・<br>白色粒・雲母                 | ナデ ユリナデ           | ナデ ユリナデ                  | 11層・断面の破片                     |
| 第84019 | SH100 P224                                           | 土師器 | 甕                           | (13.4)          | —  | 明赤褐色               | 褐色                                | 長石・角閃石・赤<br>褐色粒                   | ナデ ユリナデ           | ナデ 一部ハ<br>ケナデ            | 11層部・体部1/4残存、外面<br>に黒斑        |
| 第84020 | SH100 P129                                           | 土師器 | 甕                           | (13.1)          | —  | 灰褐色                | 灰褐色                               | 黄褐色・長石・<br>赤褐色粒・白色<br>粒           | ナデ ユリナデ           | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部・体部1/8残存                  |
| 第84021 | SH100d/c                                             | 土師器 | 甕                           | (13.4)          | —  | 褐色                 | 褐色                                | 黄褐色・長石・角<br>閃石・赤褐色粒<br>・白色粒       | ナデナデ ユ<br>リナデ     | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部・体部1/8残存                  |
| 第84022 | SH100 d/c                                            | 土師器 | 甕                           | (14.0)          | —  | 褐色                 | 褐色                                | 石英・長石・角<br>閃石・赤褐色粒<br>・白色粒        | ナデ ユリナデ           | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部・体部1/7残存                  |
| 第84023 | SH100 P097+100                                       | 土師器 | 甕                           | (12.7)          | —  | 明赤褐色               | 明赤褐色                              | 長石・石英・雲母・<br>角閃石・赤褐色<br>粒         | 土具ナデナデ            | 不明                       | 全体の約1/3残存                     |
| 第84024 | SH100 P148+149<br>+150                               | 土師器 | 甕                           | (14.5) 5.7      | —  | 明赤褐色<br>にぶい<br>黄褐色 | 明赤褐色<br>長石・石英・雲母・<br>角閃石・赤褐色<br>粒 | 明赤褐色<br>長石・石英・雲母・<br>角閃石・赤褐色<br>粒 | 土具ナデナデ<br>ユリナデ    | ナデナデ ユ<br>リナデ            | 全体の約1/2残存                     |
| 第84025 | SH100 P220                                           | 土師器 | 甕                           | (13.6) 6.2      | —  | 褐色                 | 褐色                                | 長石・石英・雲母・<br>赤褐色粒                 | ナデナデ 土具<br>ナデ     | ハケナデ ユ<br>リナデ            | 体部下位約1/6残存 11層部<br>わずかに残存     |
| 第84026 | SH100 d/c                                            | 土師器 | 甕                           | (8.7)           | —  | 黒色                 | 灰褐色                               | 黄褐色・長石・<br>赤褐色粒                   | 土具ナデ              | 土具ナデ ナデ                  | 全体の1/2残存                      |
| 第84027 | SH100 P266                                           | 土師器 | 土<br>ニ<br>ツ<br>ナ<br>デ<br>上蓋 | 3.2 2.4         | —  | 灰褐色                | 灰褐色                               | 黄褐色・白色粒                           | ユリナデ              | ユリナデ                     | 放棄に口縁を打ち付いたもの<br>か?           |
| 第84028 | SH100 a・b/c<br>等溝                                    | 土師器 | 土<br>ニ<br>ツ<br>ナ<br>デ<br>上蓋 | (2.3) 3.6 (2.6) | —  | にぶい黄<br>褐色         | にぶい黄<br>褐色                        | 長石・石英・角<br>閃石・赤褐色粒                | ナデナデ ユ<br>リナデ     | ユリナデ ユ<br>リナデ            | 内底部約3/4欠損                     |
| 第8731  | SH105 上層                                             | 須恵器 | 皿                           | (13.4)          | —  | 灰色                 | 灰色                                | 白色粒                               | 回転ナデ              | 回転ナデ                     | 11層部1/4残存                     |
| 第8732  | SH105 P001                                           | 土師器 | 甕                           | (12.4)          | —  | 灰黄褐色               | 灰黄褐色                              | 黄褐色・角閃石・<br>白色粒                   | ハケナデナデ            | ハケナデナデ<br>ユリナデ           | 11層部1/6残存                     |
| 第8733  | SH105 P003                                           | 土師器 | 甕                           | (14.7)          | —  | にぶい黄<br>褐色         | 黄褐色・赤褐色<br>粒・白色粒                  | 黄褐色・赤褐色<br>粒・白色粒                  | ナデ ユリナデ<br>ユリナデ   | ナデ ユリナデ<br>ユリナデ          | 11層部・体部 1/6残存                 |

| 邦内番号   | 出土遺物・位置                        | 種別  | 器種 | 法量 (mm) |        |        | 色澤 (輪郭) |            |                   | 胎土          | 調査          |             | 備考                  |
|--------|--------------------------------|-----|----|---------|--------|--------|---------|------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------|
|        |                                |     |    | 口徑      | 高さ     | 底径     | 内面      | 外面         | 断面                |             | 内面          | 外面          |                     |
| 第8784  | SH105 P046                     | 土師器 | 甕  | (13.6)  | —      | —      | にふい褐色   | にふい褐色・赤褐色粒 | 角閃石・白色・赤褐色粒       | シガキ・ヨコナデ    | シガキ・ヨコナデ    | シガキ・ヨコナデ    | 口縁部～体部 1/4残存        |
| 第8785  | SH105 検出時                      | 土師器 | 高杯 | —       | —      | —      | 浅黄褐色    | 浅黄褐色       | 角閃石・石英            | ナデ          | ナデ          | ナデ          | 口縁部1/3残存            |
| 第8786  | SH105 P017・019・020             | 土師器 | 高杯 | (16.6)  | (13.5) | (12.4) | にふい褐色   | にふい褐色      | 角閃石・赤褐色粒          | ヘラウズリ・シガキ   | ヘラウズリ・シガキ   | ヘラウズリ・シガキ   | 口縁部～体部 1/4残存        |
| 第90801 | SH110 P121・131・135・137・150・177 | 土師器 | 甕  | (16.4)  | —      | —      | 褐色      | 褐色         | 石英・赤褐色粒           | ナデ・ハケメ・ヨコナデ | ナデ・ハケメ・ヨコナデ | ナデ・ハケメ・ヨコナデ | 口縁部～体部1/3残存         |
| 第90802 | SH110 P153                     | 土師器 | 甕  | —       | —      | —      | 褐色      | 灰黄褐色       | 角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒   | ナデ・ハケメ・ヨコナデ | ナデ・ハケメ・ヨコナデ | ナデ・ハケメ・ヨコナデ | 口縁部破片               |
| 第90803 | SH110 P050                     | 土師器 | 甕  | (18.8)  | —      | —      | にふい褐色   | にふい褐色      | 角閃石・白色粒           | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部～体部1/2残存         |
| 第90804 | SH110 P008                     | 土師器 | 甕  | 15.2    | —      | —      | 浅黄褐色    | 浅黄褐色       | 赤褐色粒・石英           | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部～体部1/3残存         |
| 第90805 | SH110 P030                     | 土師器 | 鉢  | (12.8)  | —      | —      | にふい褐色   | にふい褐色      | 角閃石・石英・白色粒        | ハケメ・シガキ     | ハケメ・シガキ     | ハケメ・シガキ     | 口縁部～体部 1部残存、外面に破    |
| 第90806 | SH110 P091                     | 土師器 | 鉢  | —       | —      | —      | 灰白色     | 灰白色        | 長石・石英             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部～体部1/2残存、外面に破    |
| 第90807 | SH110 M5                       | 土師器 | 鉢  | (12.0)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 白色粒・黒色粒・石英        | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部～体部1/2残存         |
| 第90808 | SH110 M5                       | 土師器 | 高杯 | —       | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 白色粒・黒色粒           | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部破片               |
| 第90809 | SH110 M5                       | 土師器 | 鉢  | —       | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 黒色粒               | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部破片               |
| 第90810 | SH110 P003                     | 土師器 | 甕  | —       | —      | —      | 浅黄褐色    | 浅黄褐色       | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ハケメ・ナデ・ヨコナデ | ハケメ・ナデ・ヨコナデ | ハケメ・ナデ・ヨコナデ | 口縁部破片               |
| 第90811 | SH110 P011                     | 土師器 | 甕  | (14.0)  | —      | —      | 褐色      | 褐色         | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/2残存            |
| 第90812 | SH110 P007                     | 土師器 | 甕  | (13.1)  | 6.2    | —      | 褐色・浅黄褐色 | 褐色・浅黄褐色    | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/2残存            |
| 第90813 | SH110 P016                     | 土師器 | 甕  | 12.9    | 6.0    | —      | 褐色      | 褐色         | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部と底部のごく一部を欠損、外面に破 |
| 第90814 | SH115 P035・306                 | 土師器 | 鉢  | (13.6)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 外面に自然剥落    |
| 第90815 | SH115 P064                     | 土師器 | 鉢  | (14.2)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 外面に自然剥落    |
| 第90816 | SH115 P209                     | 土師器 | 鉢  | (13.1)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 外面に自然剥落    |
| 第90817 | SH115 P134                     | 土師器 | 鉢  | (14.4)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 ロウロ同軸      |
| 第90818 | SH115 P096                     | 土師器 | 鉢  | (15.8)  | —      | —      | 灰白色     | 灰白色        | 石英・長石・黒色粒         | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 ロウロ同軸      |
| 第90819 | SH115 P011                     | 土師器 | 鉢  | —       | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 ロウロ同軸      |
| 第90820 | SH115 P011                     | 土師器 | 鉢  | —       | —      | —      | 灰白色     | 灰白色        | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90821 | SH115 P220                     | 土師器 | 鉢  | (13.0)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90822 | SH115 P011                     | 土師器 | 鉢  | (12.2)  | —      | —      | 灰白色     | 灰白色        | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90823 | SH115 P070・577                 | 土師器 | 鉢  | (12.3)  | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90824 | SH115 P013・319・374・375         | 土師器 | 鉢  | (12.9)  | 5.8    | 8.8    | 灰白色     | 灰白色        | 石英・長石             | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90825 | SH115 P278                     | 土師器 | 高杯 | —       | —      | —      | 灰色      | 灰色         | 砂粒                | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90826 | SH115 P147                     | 土師器 | 鉢  | (12.0)  | —      | —      | にふい褐色   | にふい褐色      | 角閃石・赤褐色粒          | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90827 | SH115 P146                     | 土師器 | 鉢  | (8.8)   | —      | —      | 明赤褐色    | 明赤褐色       | 角閃石・赤褐色粒          | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部～体部にかけて1/4残存     |
| 第90828 | SH115 P088                     | 土師器 | 甕  | (14.4)  | —      | —      | にふい褐色   | 褐色         | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90829 | SH115 P083                     | 土師器 | 甕  | —       | —      | —      | にふい黄褐色  | にふい黄褐色     | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部破片 外面に破          |
| 第90830 | SH115 P078                     | 土師器 | 甕  | (15.0)  | —      | —      | 褐色      | 灰黄褐色       | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90831 | SH115 P090                     | 土師器 | 甕  | (19.2)  | —      | —      | 褐色      | 褐色         | 角閃石               | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存            |
| 第90832 | SH115 P049                     | 土師器 | 甕  | (22.2)  | —      | —      | にふい黄褐色  | にふい黄褐色     | 長石・石英・黒色・角閃石      | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 黒斑         |
| 第90833 | SH115 P002                     | 土師器 | 甕  | (21.4)  | —      | —      | 褐色      | 浅黄褐色       | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 外面に黒斑      |
| 第90834 | SH115 P119・153                 | 土師器 | 甕  | (14.4)  | —      | —      | 明赤褐色    | 明赤褐色       | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部1/4残存 外面に黒斑      |
| 第90835 | SH115 P043                     | 土師器 | 甕  | —       | —      | —      | 灰黄褐色    | 灰黄褐色       | 長石・石英・黒色・角閃石・赤褐色粒 | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | ナデ・ヨコナデ     | 口縁部破片               |

| 国産番号   | 出土遺構・位置                    | 種別  | 形状 | 法量 (cm) |      | 色調 (和色) |             | 胎土                    | 調製                 |               | 備考                          |
|--------|----------------------------|-----|----|---------|------|---------|-------------|-----------------------|--------------------|---------------|-----------------------------|
|        |                            |     |    | 口徑      | 高さ   | 底径      | 内面          | 外面                    | 内面                 | 外面            |                             |
| 第90223 | SH135 P654                 | 土師器 | 甕  | (14.6)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ハナメ→ヨコナデ           | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存                  |
| 第90224 | SH135 P422                 | 土師器 | 甕  | (17.6)  | -    | -       | にぶい褐色       | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ハナメ→ヨコナデ       | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存                  |
| 第90225 | SH135 P647                 | 土師器 | 甕  | (17.6)  | -    | -       | 褐色にぶい黄褐色    | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ハナメ→ヨコナデ           | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存 外面に黒斑            |
| 第90226 | SH135 P121                 | 土師器 | 甕  | (17.4)  | -    | -       | 浅黄褐色        | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ナデ→ヨコナデ            | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存                  |
| 第90227 | SH135 P447                 | 土師器 | 甕  | (13.6)  | -    | -       | にぶい黄褐色 明赤褐色 | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ハナメ→ヨコナデ           | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存 外面に黒斑            |
| 第90228 | SH135 P072                 | 土師器 | 甕  | (13.4)  | -    | -       | にぶい褐色       | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存 黒斑               |
| 第90229 | SH135 P029                 | 土師器 | 甕  | (17.6)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存                  |
| 第90230 | SH135 P003                 | 土師器 | 甕  | (15.4)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 石黄・灰石・角閃石             | ナデ→ハナメ→ヨコナデ        | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存                  |
| 第90231 | SH135 P425                 | 土師器 | 甕  | (17.2)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ナデ→ハナメ→ヨコナデ        | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80残存 横付着              |
| 第90232 | SH135 P174                 | 土師器 | 甕  | (15.6)  | -    | -       | 明褐色・灰黄褐色    | 石黄・灰石・雲母・角閃石          | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ       | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ  | 13段部1/80残存 外面に黒斑            |
| 第90233 | SH135 P167・223             | 土師器 | 甕  | (18.4)  | -    | -       | 褐色・にぶい黄褐色   | 石黄・灰石・雲母・角閃石          | 工具ナデ→ヨコナデ          | 工具ナデ→ヨコナデ     | 13段部1/200残存 外面に横            |
| 第90234 | SH135 P023                 | 土師器 | 甕  | (16.2)  | -    | -       | 灰黄褐色        | 石黄・灰石・雲母・赤褐色粒         | ヤタリ→ハナメ→ナデ         | ハナメ→ハナメ→ナデ    | 13段部1/80残存                  |
| 第90235 | SH135 P003                 | 土師器 | 甕  | (16.4)  | -    | -       | 明赤褐色        | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ハナメ→ヨコナデ       | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ  | 13段部1/80残存                  |
| 第90236 | SH135 P307                 | 土師器 | 甕  | (15.6)  | -    | -       | 浅黄褐色        | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | 工具ナデ→ヨコナデ          | ハナメ→ナデ→ヨコナデ   | 13段部1/400残存                 |
| 第90237 | SH135 P420                 | 土師器 | 甕  | (15.3)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 長石・石黄・角閃石             | ナデ→ハナメ→ヨコナデ        | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ  | 13段部1/400残存                 |
| 第90238 | SH135 P338                 | 土師器 | 甕  | (16.6)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 石黄・灰石・雲母・角閃石          | ナデ→ハナメ→ヨコナデ        | ハナメ→ナデ→ヨコナデ   | 13段部1/400残存                 |
| 第90239 | SH135 P369                 | 土師器 | 甕  | (19.3)  | -    | -       | 明褐色         | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ナデ→ヨコナデ            | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/400残存                 |
| 第90240 | SH135 P369                 | 土師器 | 甕  | (15.2)  | -    | -       | にぶい褐色       | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ナデ→ハナメ→ヨコナデ        | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ  | 13段部1/80残存 横付着              |
| 第90241 | SH135 P427                 | 土師器 | 甕  | (16.8)  | -    | -       | にぶい黄褐色      | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ハナメ→ナデ→ナデ          | ハナメ→ハナメ→ナデ    | 13段部1/400残存                 |
| 第90242 | SH135 P461                 | 土師器 | 甕  | (16.8)  | -    | -       | 明赤褐色にぶい黄褐色  | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ナデ→ハナメ→ヨコナデ        | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ  | 13段部1/400残存                 |
| 第90243 | SH135 P403                 | 土師器 | 甕  | (16.8)  | -    | -       | にぶい褐色       | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ナデ→ヨコナデ            | ハナメ→ナデ→ヨコナデ   | 13段部→底部にかけて1/4残存            |
| 第90244 | SH135 P112                 | 土師器 | 甕  | (16.2)  | -    | -       | 褐色          | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ナデ→ヨコナデ            | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部→底部にかけての1/6残存 外面に黒斑     |
| 第90245 | SH135 P521                 | 土師器 | 甕  | (14.6)  | -    | -       | 明赤褐色        | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ハナメ→ヨコナデ       | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/400残存                 |
| 第90246 | SH135 P464                 | 土師器 | 甕  | 15.8    | -    | -       | 褐色 浅黄褐色     | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ヨコナデ           | 工具ナデ→ヨコナデ     | 13段部→底部にかけて3/400残存          |
| 第90247 | SH135 P140・141・130・131     | 土師器 | 甕  | (17.6)  | -    | -       | にぶい赤褐色      | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ハナメ→ハナメ→ヨコナデ  | 13段部1/300残存 外面に横            |
| 第90248 | SH135 P246                 | 土師器 | 甕  | (10.4)  | -    | -       | 褐色 にぶい黄褐色   | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/80 底部1/400残存          |
| 第90249 | SH135 P243・255・436         | 土師器 | 甕  | (15.6)  | -    | -       | 褐色          | 長石・石黄・雲母・角閃石          | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部→底部にかけての1/4残存 外面に黒斑     |
| 第90250 | SH135 P515                 | 土師器 | 甕  | 99.30   | -    | -       | にぶい褐色       | 石黄・灰石・雲母・角閃石          | 強い工具ナデ→ヨコナデ        | 工具ナデ→ハナメ→ヨコナデ | 13段部→底部にかけての1/20残存 外面に黒斑    |
| 第90251 | SH135 P300                 | 土師器 | 甕  | (13.0)  | -    | -       | 褐色 褐色にぶい褐色  | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒・白色粒 | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ   | 全体1/4000残存 全体的に横付着 外面に黒斑    |
| 第90252 | SH135 P218・255・269・271・272 | 土師器 | 甕  | 13.9    | 21.2 | -       | 明赤褐色 明赤褐色   | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | 工具ナデ→ヤタリ→工具ナデ→ヨコナデ | ヤタリ→工具ナデ→ヨコナデ | 底部部分に欠損あり 13段部1/200欠損 外面に黒斑 |
| 第90253 | SH135 P261・612・633・636     | 土師器 | 甕  | -       | -    | -       | 明赤褐色        | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒・白色粒 | 工具ナデ→ヨコナデ          | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部欠損 底部1/200欠損 粗さ不揃い      |
| 第90254 | SH135 P005                 | 土師器 | 鉢  | 10.55   | -    | -       | 褐色          | 石黄・灰石・雲母・角閃石          | 工具ナデ→ナデ→ナデ         | ナデ→ナデ→ナデ      | 13段部3/4欠損                   |
| 第90255 | SH135 P007                 | 土師器 | 鉢  | 36.5    | 9.85 | 6.3     | にぶい赤褐色      | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | 工具ナデ→ナデ→ナデ         | ナデ→ナデ→ナデ      | 完全 外面に横 内面に黒斑               |
| 第90256 | SH135 P262                 | 土師器 | 鉢  | 36.4    | 13.2 | 17.9    | 褐色 明赤褐色     | 長石・石黄・雲母・角閃石・赤褐色粒     | 工具ナデ→ヨコナデ          | ヤタリ→ハナメ→ヨコナデ  | ほぼ完全 全体的に横付着                |
| 第90257 | SH135 P236                 | 土師器 | 碗  | (17.6)  | -    | -       | 黒褐色         | 石黄・灰石・雲母・角閃石          | ナデ→ヨコナデ            | ハナメ→ヨコナデ      | 13段部1/800残存 外面に横 欠損により外面剥落  |
| 第90258 | SH135 P392                 | 土師器 | 碗  | (12.15) | -    | -       | 明赤褐色        | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ナデ→ヨコナデ            | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ   | 13段部→底部にかけて1/400残存          |
| 第90259 | SH135 P091                 | 土師器 | 碗  | (10.9)  | 5.45 | 4.1     | 褐色 灰褐色      | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | ヤタリ→ナデ→ヨコナデ        | ハナメ→ナデ→ヨコナデ   | 13段部1/400残存                 |
| 第90260 | SH135 P018                 | 土師器 | 碗  | 9.8     | 5.5  | -       | 明赤褐色        | 石黄・灰石・雲母・角閃石・赤褐色粒     | 工具ナデ→ヨコナデ          | ナデ→ヨコナデ       | 13段部1/200欠損 外面に黒斑 底部に黒斑     |

| 図面番号    | 出土位置・位置                            | 種類   | 器種 | 法量 (cm) |      | 色調 (釉面) |        | 胎 土        |            | 装 飾        |            | 備 考                           |
|---------|------------------------------------|------|----|---------|------|---------|--------|------------|------------|------------|------------|-------------------------------|
|         |                                    |      |    | 口径      | 通径   | 底径      | 内面     | 外面         | 内面         | 外面         |            |                               |
| 0000001 | SH135 404                          | 1.5g | 灰  | 13.5    | 6.6  |         | 棕色・黄棕色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 3gZ11                  |
| 0000002 | SH135 1003                         | 1.5g | 灰  | 12.9    | 6.1  | 7.2     | 棕色・黄棕色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 定形・2gZ1 黄面に黄                  |
| 0000003 | SH135 1002                         | 1.5g | 灰  |         |      |         | 棕色・黄棕色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11~15gZ11にかけて、黄           |
| 0000004 | SH135 1010                         | 1.5g | 灰  | 12.0    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 8gZ11                  |
| 0000005 | SH135 1029                         | 1.5g | 灰  | 12.6    |      |         | 棕色     | 棕色         | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 8gZ11                  |
| 0000006 | SH135 1052                         | 1.5g | 灰  | 11.0    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 12gZ11                 |
| 0000007 | SH135 1041                         | 1.5g | 灰  | 13.5    |      |         | 棕色     | 棕色         | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11~15gZ11にかけて、11gZ11      |
| 0000008 | SH135 1001                         | 1.5g | 灰  | 11.5    |      |         | 棕色     | 棕色         | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 8gZ11                  |
| 0000009 | SH135 1008                         | 1.5g | 灰  | 11.0    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 全体→11gZ11 8gZ11               |
| 0000010 | SH135 1015                         | 1.5g | 灰  | 11.65   |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 全体→11gZ11 19gZ11 黄面に黄         |
| 0000011 | SH135 1025                         | 1.5g | 灰  | 13.5    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11~15gZ11にかけて、11gZ11      |
| 0000012 | SH135 1000                         | 1.5g | 灰  | 15.2    |      |         | 棕色・黄棕色 | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11~15gZ11にかけて、11gZ11 黄面に黄 |
| 0000013 | SH135 1000                         | 1.5g | 灰  | 13.25   |      |         | 棕色     | 棕色         | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11~15gZ11にかけて、11gZ11 黄    |
| 0000014 | SH135 1007                         | 1.5g | 灰  | 11.1    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11・15gZ11 20gZ11          |
| 0000015 | SH135 1002                         | 1.5g | 灰  | 13.7    |      |         | 灰褐色    | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11~15gZ11 10gZ11          |
| 0000016 | SH135 1005・1020                    | 1.5g | 灰  | 12.2    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 全体→11gZ11 20gZ11 黄面に黄         |
| 0000017 | SH135 1009・253・140                 | 1.5g | 灰  | 12.7    |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 2gZ11 黄面に黄             |
| 0000018 | SH135 1008                         | 1.5g | 灰  | 10.8    | 4.7  |         | 棕色・黄棕色 | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 2gZ11 黄                |
| 0000019 | SH135 1002                         | 1.5g | 灰  | 13.5    | 5.2  |         | 棕色     | 黄棕色        | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 17gZ11                 |
| 0000020 | SH135 1005                         | 1.5g | 灰  | 12.1    | 5.1  | 2.1     | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 17gZ11 黄面に黄            |
| 0000021 | SH135 1030                         | 1.5g | 灰  | 12.8    | 6.1  | 5.25    | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 17gZ11 黄面に黄            |
| 0000022 | SH135 1022                         | 1.5g | 灰  | 11.1    | 6.1  | 5.3     | 明木褐色   | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 全体→11gZ11 黄面に黄                |
| 0000023 | SH135 1027                         | 1.5g | 灰  | 13.7    | 6.25 |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 18gZ11 黄面に黄            |
| 0000024 | SH135 1071                         | 1.5g | 灰  | 11.1    | 5.7  | 6.1     | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 8gZ11                  |
| 0000025 | SH135 1027                         | 1.5g | 灰  | 7.9     |      |         | 棕色・黄棕色 | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 10gZ11                 |
| 0000026 | SH135 1003                         | 1.5g | 灰  | 19.0    |      |         | 棕色・黄棕色 | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 10gZ11                 |
| 0000027 | SH135 1051                         | 1.5g | 灰  | 7.6     |      | 66.15   | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 2gZ11 黄                |
| 0000028 | SH135 1020                         | 1.5g | 灰  |         |      | 69.0    | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 全体→11gZ11 19gZ11 黄・6gZ11      |
| 0000029 | SH135 1024                         | 1.5g | 灰  |         |      | 7.9     | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 10gZ11               |
| 0000030 | SH135 1047                         | 1.5g | 灰  |         |      | 69.6    | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 3                    |
| 0000031 | SH135 1021                         | 1.5g | 灰  |         |      | 111.1   | 黄褐色    | 黄褐色        | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 灰・黄・15gZ11 11gZ11    |
| 0000032 | SH135 1006                         | 1.5g | 灰  |         |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 灰                    |
| 0000033 | SH135 1075                         | 1.5g | 灰  |         |      |         | 棕色・黄棕色 | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 灰                    |
| 0000034 | SH135 1029                         | 1.5g | 灰  |         |      |         | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 灰                    |
| 0000035 | SH135 1001                         | 1.5g | 灰  |         |      | 17.0    | 棕色・黄棕色 | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 黄・11gZ11 19gZ11               |
| 0000036 | SH135 1023・302・303・304・305・306・307 | 1.5g | 灰  | 10.8    | 20.5 | 10.20   | 明木褐色   | 明木褐色       | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 全体→約11gZ11 黄面に黄               |
| 0000037 | SH135 1051                         | 1.5g | 灰  | 2.9     | 2.15 |         | 棕色・黄棕色 | 棕色・黄棕色     | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 定形                            |
| 0000038 | SH135 1020                         | 1.5g | 灰  | 3.1     | 2.1  |         | 灰褐色    | 灰褐色        | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 白色・黄白色・赤褐色 | 11gZ11 2gZ11 黄                |

| 採出番号    | 出土遺構・位置          | 種 別 | 器種                | 法量 (cm) |      | 色 調 (輪調) |        | 土 質    |                    | 割 装   |      | 備 考                                |
|---------|------------------|-----|-------------------|---------|------|----------|--------|--------|--------------------|-------|------|------------------------------------|
|         |                  |     |                   | 口徑      | 高さ   | 底径       | 内 面    | 外 面    | 土 質                | 内 面   | 外 面  |                                    |
| 第978299 | SH135 P095       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.6     | 2.0  | —        | にふい赤褐色 | にふい赤褐色 | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部欠損あり                            |
| 第978300 | SH135 P224       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.65    | 2.35 | —        | 明赤褐色   | 明赤褐色   | 長石・石英・雲母・角閃石       | ヌビナデ  | ヌビナデ | 約1/3欠損                             |
| 第978301 | SH135 P437       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 14.00   | —    | —        | にふい褐色  | にふい褐色  | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | 全体の1/40欠損                          |
| 第978302 | SH135 P210       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.9     | 2.4  | —        | 明赤褐色   | 明赤褐色   | 長石・石英・雲母・角閃石       | ヌビナデ  | ヌビナデ | 定形                                 |
| 第978303 | SH135 P285       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.7     | 2.5  | —        | 褐色     | 褐色     | 長石・石英・雲母・角閃石       | ヌビナデ  | ヌビナデ | 定形                                 |
| 第978304 | SH135 P432       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 4.05    | 2.2  | —        | 褐色     | 褐色     | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | ほぼ定形                               |
| 第978305 | SH135 南北・ベルト     | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 14.80   | 2.5  | —        | 褐色     | 褐色     | 赤褐色粘土・角閃石・長石・白色    | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部まで1/4欠損                      |
| 第978306 | SH135 P139・419   | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 6.45    | 3.1  | —        | にふい黄褐色 | にふい黄褐色 | 石英・長石・角閃石・赤褐色粘土    | ナゲリ   | ナゲリ  | ほぼ定形 穿孔あり                          |
| 第980207 | SH135 P164       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 2.7     | 2.1  | —        | にふい赤褐色 | にふい赤褐色 | 石英・長石・角閃石・赤褐色粘土    | ヌビナデ  | ヌビナデ | 定形                                 |
| 第980208 | SH135 P130       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 2.65    | 2.75 | —        | 褐色     | 褐色     | 石英・長石・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | 定形                                 |
| 第980209 | SH135 P019       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.0     | 3.0  | —        | 明赤褐色   | 明赤褐色   | 長石・石英・雲母・角閃石       | ヌビナデ  | ヌビナデ | 定形                                 |
| 第980210 | SH135 P297       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.9     | 3.75 | —        | 灰褐色    | 灰褐色    | 石英・長石・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | 定形                                 |
| 第980211 | SH135 P043       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 5.05    | 4.25 | —        | 褐色     | 褐色     | 石英・長石・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | ほぼ定形 黒斑                            |
| 第980212 | SH135 P001       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 6.4     | 5.95 | —        | 褐色     | 褐色     | 石英・長石・雲母・角閃石・赤褐色粘土 | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/8欠損 穿孔あり 外面に黒斑         |
| 第980213 | SH135 P024       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 5.4     | 4.7  | 15.30    | にふい褐色  | にふい褐色  | 長石・石英・雲母・角閃石       | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部1/2部、底部1/2強欠損                   |
| 第980214 | SH135 P015       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | —       | —    | —        | 灰褐色    | 灰褐色    | 白色粘土・角閃石           | ナゲリ   | ナゲリ  | 破片                                 |
| 第980215 | SH135 aE5        | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | —       | —    | —        | 淡赤褐色   | 淡赤褐色   | 赤褐色粘土 黒色粘土         | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部破片 焼き不確実 二次比熱外側                 |
| 第980216 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | —       | —    | —        | にふい黄褐色 | にふい黄褐色 | 石英 赤褐色粘土           | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部破片 焼き不確実 二次比熱外側 接合痕あり           |
| 第980217 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | —       | —    | —        | 淡黄白色   | 淡黄白色   | 石英 赤褐色粘土           | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/8欠損 焼き不確実 二次比熱外側 接合痕あり |
| 第980218 | SH135 aE5        | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 2.98    | —    | —        | 褐色     | 褐色     | 赤褐色粘土 金雲母          | 工具コナデ | ヌビナデ | 口縁部1/5欠損 二次比熱内側 口縁部～外面             |
| 第980219 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.0     | —    | —        | 灰白色    | 灰白色    | 黒色粘土               | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部の1/4欠損 二次比熱内側                   |
| 第980220 | SH135 M5         | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.25    | —    | —        | 黄灰色    | 灰白色    | 黒色粘土 白色粘土          | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部1/5欠損 二次比熱内側                    |
| 第980221 | SH135 横市西        | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.0     | —    | —        | 灰白色    | 灰白色    | 黒色粘土               | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/4欠損 二次比熱外側             |
| 第980222 | SH135 M5         | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.35    | —    | —        | 明黄灰色   | 明黄灰色   | 金雲母 石英 赤褐色粘土       | —     | ヌビナデ | 口縁部1/5欠損 二次比熱内側                    |
| 第980223 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.38    | —    | —        | 暗黄灰色   | 暗黄灰色   | 石英 金雲母 赤褐色粘土       | 工具ナデ  | ナゲリ  | 口縁部1/5欠損 二次比熱内側                    |
| 第980224 | SH135 P134 a・aE5 | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.0     | —    | —        | 黄灰色    | 明黄灰色   | 赤褐色粘土 金雲母 石英       | 工具ナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて2/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980225 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 5.25    | —    | —        | 黄灰色    | 黄灰色    | 石英 白色粘土 赤褐色粘土      | ヌビナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980226 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 14.00   | —    | —        | 明黄灰色   | 暗黄灰色   | 赤褐色粘土 石            | 工具ナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980227 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.15    | —    | —        | 褐色     | 褐色     | 赤褐色粘土 角閃石 金雲母      | 工具コナデ | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980228 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 14.00   | —    | —        | 褐色     | 明黄灰色   | 金雲母 石英 赤褐色粘土       | 工具ナデ  | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980229 | SH135 M5         | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.15    | —    | —        | 暗黄灰色   | 暗黄灰色   | 金雲母 石英 赤褐色粘土       | 工具コナデ | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980230 | SH135 P471 aE5   | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.15    | —    | —        | 黄灰色    | 灰白色    | 赤褐色粘土 石            | ナゲリ   | ヌビナデ | 口縁部～底部にかけて1/2欠損 二次比熱外側             |
| 第980231 | SH135 aE5        | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 14.00   | —    | —        | 淡黄白色   | 淡黄白色   | 石英                 | ヌビナデ  | ヌビナデ | 1/10欠損 二次比熱外側                      |
| 第980232 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.60    | —    | —        | 黄灰色    | 黄灰色    | 金雲母 赤褐色粘土 角閃石      | 工具コナデ | 布ナゲリ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980233 | SH135 P506       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.80    | —    | —        | 淡黄白色   | 黄灰色    | 石英粘土               | 工具コナデ | 布ナゲリ | 口縁部～底部にかけて1/5欠損 二次比熱外側             |
| 第980234 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | —       | —    | —        | 黄灰色    | 黄灰色    | 石英 赤褐色粘土           | ヌビナデ  | ヌビナデ | 底部付近1/3欠損 二次比熱内側                   |
| 第980235 | SH135            | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.45    | —    | —        | 灰白色    | 灰白色    | 石英 金雲母             | ナゲリ   | ヌビナデ | 口縁部～底部付近にかけて1/5欠損 外面に押し出しの痕あり      |
| 第980236 | SH135 P426       | 土師器 | 土師器<br>土師器<br>土師器 | 3.75    | —    | —        | 黄灰色    | 黄灰色    | 金雲母 赤褐色粘土 長石       | 工具コナデ | ヌビナデ | 口縁部～底部付近にかけて1/5欠損 二次比熱外側           |

| 邦内番号    | 出土遺構・位置        | 種 別 | 器種                              | 法量 (cm)   |            | 色 澤 (釉面)     |              | 土 質                  | 面 積                           |                               | 備 考                                     |
|---------|----------------|-----|---------------------------------|-----------|------------|--------------|--------------|----------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------|
|         |                |     |                                 | 口徑        | 底径         | 内 面          | 外 面          |                      | 内 面                           | 外 面                           |                                         |
| 第103021 | SH140          | 壺口蓋 | 灰土                              | —         | —          | 灰色           | 灰色           | 黒色粒・白色粒              | 同軸ナデ                          | 同軸ナデ                          | 口縁部破片                                   |
| 第103022 | SH140 P088・073 | 土師器 | 甕                               | (15.4)    | —          | にふい<br>褐色    | 灰褐色          | 石黄・長石・赤褐色<br>点状      | ヨコナデ                          | ヨコナデ                          | 口縁の1/8破片                                |
| 第103023 | SH140 P062     | 土師器 | 甕                               | (21.6)    | —          | にふい<br>褐色    | にふい<br>褐色    | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | ナデナデ・ハヤメ<br>→ヨコナデ             | ナデナデ・ハヤメ<br>→ヨコナデ             | 口縁部1/10破片                               |
| 第103024 | SH140 P043     | 土師器 | 甕                               | (15.4)    | —          | 灰褐色<br>灰褐色   | 灰褐色          | 石黄・長石・雲母             | ハヤメ→ヨコナデ                      | ハヤメ→ヨコナデ                      | 口縁の1/3割残存 外面に黒                          |
| 第103025 | SH140 P053     | 土師器 | 甕                               | (15.2)    | —          | 黒褐色          | 黒褐色          | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | ヨコナデ ナデ                       | ヨコナデ ナデ                       | 口縁部1/4割残存                               |
| 第103026 | SH140 P088     | 土師器 | 甕                               | (11.4)    | —          | 褐色           | 褐色           | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | ナデナデ ヨコナデ                     | ナデナデ ヨコナデ                     | 口縁部1/4破片                                |
| 第103027 | SH140 P105     | 土師器 | 甕                               | (13.8)    | —          | にふい<br>褐色    | にふい<br>褐色    | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | ナデ ヨコナデ                       | ハヤメ→ナデ<br>→ヨコナデ               | 口縁部1/6破片 外面に黒                           |
| 第103028 | SH140 焼出時      | 土師器 | 甕                               | (13.8)    | —          | にふい<br>褐色    | にふい<br>褐色    | 白色粒・長石・<br>黄褐色       | 土質ナデ ハヤ<br>メ→ヨコナデ             | ハヤメ ヨコナ<br>デ                  | 口縁部→頸部1/4破片                             |
| 第103029 | SH140 c/c上層    | 土師器 | 甕                               | (18.8)    | —          | 灰黄褐色         | にふい<br>黄褐色   | 長石・黄褐色・白色<br>粒・赤褐色粒  | ナデ 土質ナデ<br>→ヨコナデ              | ナデ ハヤメ<br>→ヨコナデ               | 口縁部→頸部の1/4破片                            |
| 第103030 | SH140 P019     | 土師器 | 甕                               | (19.2)    | —          | にふい<br>褐色    | にふい<br>褐色    | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ ヨコ                       | ハヤメ→ナデ<br>→ヨコナデ               | 口縁部→体部上段にかけて1/4<br>割残存                  |
| 第103031 | SH140 上層       | 土師器 | 甕                               | (8.9)     | —          | にふい<br>黄褐色   | にふい<br>黄褐色   | 長石・黄褐色・<br>点状        | ハヤメ→土質<br>ナデ ヨコナデ             | ハヤメ ハヤ<br>メ→ヨコナデ              | 口縁部→頸部 1/4破片                            |
| 第103032 | SH140 P107・120 | 土師器 | 甕                               | (14.0)    | —          | にふい<br>褐色    | にふい<br>褐色    | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ・ハヤ<br>メ→ヨコナデ             | ハヤメ→ナデ<br>→ヨコナデ               | 口縁部1/2割残存                               |
| 第103033 | SH140 P143     | 土師器 | 甕                               | (14.6)    | —          | にふい<br>黄褐色   | 灰白色          | 長石・石黄・雲母             | ナデ ヨコナデ                       | ナデ ヨコナデ                       | 口縁部→頸部にかけて1/6破片                         |
| 第103034 | SH140 P019     | 土師器 | 甕                               | (10.0)    | —          | 褐色 明<br>赤褐色  | 褐色 明<br>赤褐色  | 長石・石黄・雲母・<br>黄褐色・赤褐色 | ナデナデ・ナ<br>デ→ヨコナ<br>デ→ヨコナ<br>デ | ナデナデ・ナ<br>デ→ヨコナ<br>デ→ヨコナ<br>デ | 口縁部→体部中位にかけて1/2<br>割残存 外面に黒             |
| 第103035 | SH140 P001     | 土師器 | 甕                               | 15.1 32.5 | —          | 褐色 明<br>赤褐色  | 褐色 明<br>赤褐色  | 長石・石黄・雲母・<br>黄褐色・赤褐色 | ナデナデ→土質<br>ナデ ハヤメ→<br>ヨコナデ    | ハヤメ ハヤ<br>メ→ヨコナ<br>デ          | 頸部中位約3/4割 外面に<br>黒→黄                    |
| 第103036 | SH140 P074     | 土師器 | 鉢                               | (12.2)    | —          | 褐色 明<br>赤褐色  | 褐色 明<br>赤褐色  | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ ヨコ<br>ナデ                 | ナデ ヨコナ<br>デ                   | 口縁→体部の1/8破片                             |
| 第103037 | SH140 P172     | 土師器 | 鉢                               | (15.2)    | —          | にふい<br>黄褐色   | にふい<br>黄褐色   | 石黄・長石                | ナデ ヨコナデ                       | 土質ナデ→ナ<br>デ ヨコナ<br>デ          | 口縁→体部の1/10破片                            |
| 第103038 | SH140 P071     | 土師器 | 鉢                               | (29.1)    | —          | にふい<br>褐色    | にふい<br>褐色    | 長石・石黄・雲母・<br>黄褐色・赤褐色 | ナデナデ→ナ<br>デ ヨコナ<br>デ          | ナデナデ ヨコ<br>ナデ                 | 口縁部約1/6体部中位約1/4破片<br>外面に黒               |
| 第103039 | SH140 P135     | 土師器 | 鉢                               | (14.6)    | —          | にふい<br>黄褐色   | 長石・土質<br>黄褐色 | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | ナデ ヨコナデ                       | ハヤメ→ナ<br>デ ヨコナ<br>デ           | 口縁→体部の1/8破片                             |
| 第103040 | SH140 P063・067 | 土師器 | 鉢                               | (13.4)    | —          | 褐色           | 褐色           | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | ヨコナデ→ヨ<br>コナデ                 | 不明                            | 口縁→体部の1/4破片                             |
| 第103041 | SH140 P006     | 土師器 | 鉢                               | (13.0)    | —          | 明赤褐色<br>灰白色  | 明赤褐色<br>灰白色  | 石黄・長石・黄<br>褐色        | ヨコナデ                          | ナデ ユビナ<br>デ                   | 口縁→体部の1/2割残存                            |
| 第103042 | SH140 P125     | 土師器 | 鉢                               | (13.0)    | —          | 明赤褐色<br>褐色   | 明赤褐色<br>褐色   | 長石・石黄・黄<br>褐色        | 1/2割ナデ ヨコ<br>ナデ               | ハヤメ ヨコ<br>ナデ                  | 口縁→体部の1/3破片                             |
| 第103043 | SH140 P117     | 土師器 | 鉢                               | (14.0)    | —          | 明赤褐色         | 明赤褐色         | 石黄・長石                | ナデ ヨコナデ                       | ハヤメ ヨコ<br>ナデ                  | 口縁→体部の1/7破片                             |
| 第103044 | SH140 P076     | 土師器 | 鉢                               | (14.4)    | —          | 褐色           | 褐色           | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | 1/2割ナデ ヨコ<br>ナデ               | ナデ ヨコナ<br>デ                   | 口縁→体部の1/4破片                             |
| 第103045 | SH140 P149     | 土師器 | 鉢                               | (14.6)    | —          | にふい<br>褐色    | 灰黄褐色         | 石黄・長石・雲母・<br>黄褐色     | 土質ナデ ヨコ<br>ナデ                 | ナデ ヨコナ<br>デ                   | 全体の1/5破片 外面に黒                           |
| 第103046 | SH140 P102     | 土師器 | 鉢                               | 13.4 6.2  | —          | 黒褐色<br>褐色    | 黒褐色<br>褐色    | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ ヨコ<br>ナデ                 | ハヤメ ハヤ<br>メ→ヨコナ<br>デ          | 口縁→体部上半の1/3割 外面に<br>黒                   |
| 第103047 | SH140 P090     | 土師器 | 鉢                               | (7.35)    | —          | 褐色           | にふい<br>黄褐色   | 長石・石黄                | 土質ナデ→ナ<br>デ ユビナ<br>デ          | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 口縁→体部の1/3割                              |
| 第103048 | SH140 P113     | 土師器 | 高杯                              | —         | 9.9        | —            | 明赤褐色<br>灰黄褐色 | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ→ナ<br>デ ユビナ<br>デ          | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 頸部のみ残存                                  |
| 第103049 | SH140 P189     | 土師器 | 高杯                              | —         | 12.0       | 明赤褐色<br>灰黄褐色 | 明赤褐色<br>灰黄褐色 | 石黄・長石・雲<br>母         | 土質ナデ→ナ<br>デ ユビナ<br>デ          | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 杯部欠損                                    |
| 第103050 | SH140 P074     | 土師器 | 高杯                              | 134.006   | —          | 褐色           | 赤褐色<br>赤褐色   | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ ヨコ<br>ナデ                 | ハヤメ ハヤ<br>メ→ヨコナ<br>デ          | 口縁部一部残存 体部→頸部<br>中央部の2/3破片 赤褐色点状<br>赤褐色 |
| 第103051 | SH140 P055     | 土師器 | 高杯                              | (12.9)    | 9.9 9.3    | 明赤褐色         | 明赤褐色         | 長石・石黄・黄褐色<br>点状      | ヨコナデ                          | ナデナデ ヨコ<br>ナデ                 | 杯部1/2欠損                                 |
| 第103052 | SH140 P101・085 | 土師器 | 高杯                              | (13.2)    | 10.55 10.0 | 褐色           | 褐色 明<br>赤褐色  | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | 土質ナデ ヨコ<br>ナデ                 | 土質ナデ→ナ<br>デ ユビナ<br>デ          | 口縁部一部残存 他は全体<br>の1/2欠損                  |
| 第103053 | SH140 P139     | 土師器 | 高杯                              | —         | —          | 赤褐色          | 赤褐色          | 石黄・長石・雲母・<br>黄褐色     | —                             | ハヤメナデ ヨ<br>コナデ ナ<br>デ         | 頸部の1/2割残存                               |
| 第103054 | SH140 焼出時      | 土師器 | 瓶                               | —         | —          | 灰黄褐色         | 灰黄褐色         | 長石・黄褐色・白色<br>粒・赤褐色粒  | —                             | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 把手のみ残存                                  |
| 第103055 | SH140 P058     | 土師器 | ミ<br>ニ<br>ア<br>ッ<br>パ<br>上<br>部 | 3.05      | 2.1        | 褐色           | 褐色           | 石黄・長石・黄褐色<br>点状      | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 完形                                      |
| 第103056 | SH140 P177     | 土師器 | ミ<br>ニ<br>ア<br>ッ<br>パ<br>上<br>部 | 3.85      | 2.3        | 赤褐色          | 赤褐色          | 長石・石黄                | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 完形 内面に付着物                               |
| 第103057 | SH140 P003     | 土師器 | ミ<br>ニ<br>ア<br>ッ<br>パ<br>上<br>部 | 4.5       | 3.45       | 褐色 明<br>赤褐色  | 褐色 明<br>赤褐色  | 長石・石黄・雲母             | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 完形                                      |
| 第103058 | SH140 P099     | 土師器 | ミ<br>ニ<br>ア<br>ッ<br>パ<br>上<br>部 | 2.8       | 3.25 2.7   | 褐色           | 褐色           | 長石・石黄                | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | ユビナデ ユ<br>ビナデ                 | 一部欠損                                    |



| 探区番号    | 出土遺構・位置    | 種別  | 器種         | 数量 (cm)     | 口縁 | 高さ | 底径 | 色調 (釉面) | 内面     | 外面                            | 胎土                   | 調査                 |         | 備考                |
|---------|------------|-----|------------|-------------|----|----|----|---------|--------|-------------------------------|----------------------|--------------------|---------|-------------------|
|         |            |     |            |             |    |    |    |         |        |                               |                      | 内面                 | 外面      |                   |
| 第104839 | SH140 P094 | 土師器 | 土師器<br>土師器 | 9.1 6.5     | —  | —  | —  | 明赤褐色    | 明赤褐色   | 長石・石英・角閃石・赤褐色                 | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 内面・全面黒色あり         |
| 第104840 | SH140 P190 | 土師器 | 土師器<br>土師器 | 8.5 6.3 6.6 | —  | —  | —  | 明赤褐色    | 褐色     | 石英・長石・雲母                      | ナデ ユビササ<br>ナデ ユビササ   | ナデ ユビササ<br>ナデ ユビササ | ナデ ユビササ | 完全                |
| 第104841 | SH140 P118 | 土師器 | 土師器<br>土師器 | — — —       | —  | —  | —  | にふい黄褐色  | にふい黄褐色 | 赤色粒 石英                        | ユビササ 土師器<br>ユビササ 土師器 | —                  | —       | 口縁部破片 二次比内外面      |
| 第104842 | SH140 土師   | 土師器 | 土師器<br>土師器 | — — —       | —  | —  | —  | にふい黄褐色  | にふい黄褐色 | 赤色粒 金雲母 長石                    | ナデ ユビササ<br>ナデ ユビササ   | ユビササ<br>ユビササ       | ユビササ    | 口縁部破片 二次比内外面      |
| 第104843 | SH145 P027 | 土師器 | 甕          | (14.0)      | —  | —  | —  | 褐色      | 褐色     | 長石・石英・角閃石・赤褐色・角閃石・赤褐色・角閃石・赤褐色 | ナデ ユビササ<br>ナデ ユビササ   | ユビササ<br>ユビササ       | ユビササ    | 口縁部1/8残存          |
| 第104844 | SH145 P024 | 土師器 | 甕          | 13.0        | —  | —  | —  | 褐色      | 褐色     | 長石・石英・角閃石・赤褐色・角閃石・赤褐色         | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | ユビササ<br>ユビササ       | ユビササ    | 口縁部と体部上段の1/3残存    |
| 第104845 | SH145 P007 | 土師器 | 甕          | —           | —  | —  | —  | 黒褐色     | 灰黄褐色   | 長石・石英・雲母                      | ナデ ユビササ<br>ナデ ユビササ   | ユビササ<br>ユビササ       | ユビササ    | 口縁部破片             |
| 第104846 | SH145 P021 | 土師器 | 甕          | (13.0) 8.6  | —  | —  | —  | 褐色・灰黄褐色 | にふい褐色  | 長石・石英・雲母                      | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | ユビササ<br>ユビササ       | ユビササ    | 口縁・底部1/2残存        |
| 第104847 | SH150      | 土師器 | 杯蓋         | —           | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 石英・赤褐色・角閃石・赤褐色                | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第104848 | SH150      | 土師器 | 杯蓋         | (10.0)      | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 石英・黒色粒                        | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存、口縁不確定    |
| 第104849 | SH150      | 土師器 | 杯蓋         | (13.2)      | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 石英・角閃石                        | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存          |
| 第104850 | SH150      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 白色粒                           | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第104851 | SH150      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 石英                            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/2残存、口縁不確定    |
| 第104852 | SH150      | 土師器 | 杯身         | (12.8)      | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 石英                            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存          |
| 第104853 | SH150      | 土師器 | 甕          | —           | —  | —  | —  | にふい褐色   | にふい褐色  | 赤褐色・角閃石・角閃石・白色粒               | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第104854 | SH150      | 土師器 | 甕          | (15.9)      | —  | —  | —  | 灰褐色     | 褐色     | 赤褐色・角閃石・角閃石・石英・白色粒            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存          |
| 第104855 | SH150      | 土師器 | 甕          | (20.0)      | —  | —  | —  | にふい褐色   | にふい褐色  | 赤褐色・角閃石・角閃石・白色粒               | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存          |
| 第104856 | SH150      | 土師器 | 甕          | (19.6)      | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 赤褐色・角閃石・角閃石・白色粒               | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存、内面に黒斑    |
| 第104857 | SH150      | 土師器 | 志          | (11.6)      | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 角閃石・長石・赤褐色・角閃石・白色粒            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁・体部の1/8残存、外面に黒斑 |
| 第104858 | SH150      | 土師器 | 鉢          | —           | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 赤褐色・角閃石・角閃石・白色粒               | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片、柄不確定        |
| 第104859 | SH150      | 土師器 | 鉢          | (19.1)      | —  | —  | —  | 褐色      | にふい褐色  | 角閃石・長石・石英・赤褐色・角閃石・白色粒         | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存          |
| 第104860 | SH150      | 土師器 | 土師器        | (7.0)       | —  | —  | —  | 明赤褐色    | 明赤褐色   | 角閃石・長石・赤褐色・角閃石・白色粒            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁・体部の1/8残存       |
| 第104861 | SH150 b1c  | 土師器 | 土師器        | 3.9 2.5     | —  | —  | —  | にふい黄褐色  | にふい黄褐色 | 角閃石・長石・白色粒                    | ユビササ<br>ユビササ         | ユビササ<br>ユビササ       | ユビササ    | ほぼ完全、外面に黒斑        |
| 第110001 | SH155 P001 | 土師器 | 甕          | (21.6)      | —  | —  | —  | 褐色      | にふい黄褐色 | 長石・石英・赤褐色・角閃石・白色粒             | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存 内面に黒斑    |
| 第110002 | SH155 P002 | 土師器 | 甕          | 15.8        | —  | —  | —  | 褐色      | にふい褐色  | 長石・石英・赤褐色・角閃石・白色粒             | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 1/4残存             |
| 第112201 | SH160      | 土師器 | 杯蓋         | —           | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 白色粒                           | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第112202 | SH160      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰白色     | 灰白色    | 石英                            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 受け部破片             |
| 第112203 | SH160      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰色      | 灰色     | 白色粒                           | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第112204 | SH160      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰白色     | 灰白色    | 角閃石・石英                        | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第112205 | SH160      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰白色     | 灰白色    | 角閃石・石英                        | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第112206 | SH160      | 土師器 | 杯身         | —           | —  | —  | —  | 灰黄褐色    | 黒色     | 白色粒・角閃石・長石・赤褐色・角閃石・赤褐色        | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 受け部の1/8残存         |
| 第112207 | SH160      | 土師器 | 甕          | —           | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 赤褐色・角閃石・角閃石・長石・白色粒            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部破片             |
| 第112208 | SH160      | 土師器 | 甕          | (15.8)      | —  | —  | —  | 浅黄褐色    | にふい褐色  | 角閃石・長石・白色粒                    | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/10残存         |
| 第112209 | SH160      | 土師器 | 甕          | (16.8)      | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 角閃石・長石・石英・赤褐色・角閃石・赤褐色         | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/8残存          |
| 第112210 | SH160      | 土師器 | 志          | (13.0)      | —  | —  | —  | 褐色      | 褐色     | 石英・赤褐色・角閃石・角閃石・白色粒            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部1/7残存          |
| 第112211 | SH160      | 土師器 | 甕          | (15.2)      | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 角閃石・長石・赤褐色・角閃石・白色粒            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁・体部の1/8残存       |
| 第112212 | SH160      | 土師器 | 甕          | (13.8) 5.9  | —  | —  | —  | 褐色      | 明赤褐色   | 赤褐色・角閃石・角閃石・白色粒・長石            | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 全体の1/4残存          |
| 第112213 | SH160      | 土師器 | 甕          | (14.4) 6.7  | —  | —  | —  | にふい褐色   | 褐色     | 白色粒・角閃石・赤褐色・角閃石・白色粒           | 土師器ナデ<br>土師器ナデ       | 土師器ナデ<br>土師器ナデ     | 土師器ナデ   | 口縁部の1/2を欠損、内面に黒斑  |

| 調査番号     | 産出地・産種                              | 地層   | 層位 | 厚さ (cm) | 色調 (Munsell) |      | 地質   | 調査                |          | 備考                             |
|----------|-------------------------------------|------|----|---------|--------------|------|------|-------------------|----------|--------------------------------|
|          |                                     |      |    |         | 口内           | 口外   |      | 内面                | 外面       |                                |
| 第117001  | S1220 P1006                         | 治念石  | 坪倉 | 100.75  | 1.25         | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏            | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117002  | S1220 P1053                         | 1.5m | 坪倉 |         |              | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117003  | S1220 P1068                         | 1.5m | 坪倉 | 8.55    | 13.50        | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117004  | S1220 P1177                         | 1.5m | 坪倉 | 6.80    | 11.6         | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117005  | S1220 P1271                         | 1.5m | 坪倉 | 9.55    | 11.3         | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117006  | S1220 P1401                         | 1.5m | 坪倉 | 17.36   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117007  | S1220 P1402                         | 1.5m | 坪倉 | 16.25   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117008  | S1220 P1536                         | 1.5m | 坪倉 | 17.46   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117009  | S1220 P1638                         | 1.5m | 坪倉 | 15.40   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117010  | S1220 P1655                         | 1.5m | 坪倉 | 17.1    |              | 明木褐色 | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117011  | S1220 P1692                         | 1.5m | 坪倉 | 11.86   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117012  | S1220 P1833 + 133                   | 1.5m | 坪倉 | 16.8    |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117013  | S1220 P1925 + 029 + 035             | 1.5m | 坪倉 | 17.1    |              | 明木褐色 | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117014  | S1220 P1952 + 080 + 100 + 130 + 201 | 1.5m | 坪倉 | 16.0    |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117015  | S1220 P1930                         | 1.5m | 坪倉 | 13.33   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117016  | S1220 P2153 + 311                   | 1.5m | 坪倉 | 18.50   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117017  | S1220 P1947 + 018                   | 1.5m | 坪倉 | 16.46   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117018  | S1220 P2141 + 255 + 216 + 219       | 1.5m | 坪倉 | 11.60   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第117019  | S1220 P1992                         | 1.5m | 坪倉 | 11.86   |              | 灰色   | 灰色   | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180001 | S1220 P1992                         | 1.5m | 坪倉 | 16.1    | 20.8         | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180002 | S1220 P250                          | 1.5m | 坪倉 |         |              | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180003 | S1220 P117 + 241 + 622              | 1.5m | 坪倉 | 13.0    |              | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180004 | S1220 P191 + 197 + 193              | 1.5m | 坪倉 | 12.9    | 5.75         | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180005 | S1220 P190                          | 1.5m | 坪倉 | 13.1    | 6.1          | 明木褐色 | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180006 | S1220 P127                          | 1.5m | 坪倉 | 11.5    | 6.2          | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180007 | S1220 P193 + 201 + 194              | 1.5m | 坪倉 | 12.2    | 5.35         | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180008 | S1220 P193 + 201 + 194              | 1.5m | 坪倉 | 12.2    | 5.35         | 灰色   | 明木褐色 | 石灰石・石膏・方解石・石膏・方解石 | ナシ・ナシ・ナシ | 1170001～1170005 5層にわたって約1.3m存在 |
| 第1180009 | S1220 P193 + 201 + 194              | 1.5m | 坪倉 | 12.2    | 5.35         |      |      |                   |          |                                |

| 研究番号     | 出土遺構・位置         | 種別  | 発掘 | 法線 (cm) |      | 色調 (軸面) |        | 胎土          | 調査                 |                   | 備考                                |
|----------|-----------------|-----|----|---------|------|---------|--------|-------------|--------------------|-------------------|-----------------------------------|
|          |                 |     |    | 口徑      | 高さ   | 底径      | 内面     | 外面          | 内面                 | 外面                |                                   |
| 第124004  | SH360 P17・b・c区  | 土師器 | 垂  | —       | —    | —       | 浅黄色    | 浅黄色         | 工具ナデ ココナデ          | 工具ナデ ココナデ         | 第227号 体部上位1/4残存<br>口縁部1/4の破片あり 珎  |
| 第124005  | SH360 P003+006  | 土師器 | 垂  | 14.6    | —    | —       | 棕色     | 棕色          | 工具ナデ+ナデ<br>ココナデ    | 工具ナデ ココナデ         | 体部上位1/4 体部下欠損<br>口縁部1/4と5/6の破片あり  |
| 第124006  | SH360 下層・b区     | 土師器 | 垂  | (15.9)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | 棕色 棕色       | ケズリナデ<br>ココナデ ヌビナデ | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部~体部上位にかけて残存<br>口縁部1/4の破片あり     |
| 第124007  | SH360 b区・下層     | 土師器 | 垂  | 15.7    | 42.6 | —       | にぶい黄褐色 | 棕色          | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部~体部上位にかけて残存<br>口縁部1/4の破片あり     |
| 第124008  | SH360 P020      | 土師器 | 垂  | 16.3    | —    | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石       | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部~体部上位にかけて残存<br>口縁部1/4の破片あり     |
| 第124009  | SH360 P019      | 土師器 | 垂  | (11.5)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | 明赤褐色 棕色 灰黄色 | 右翼・長石・雲母・角閃石・赤褐色粒  | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部1/4残存 外面に珎                     |
| 第124010  | SH360 c区        | 土師器 | 垂  | (14.4)  | —    | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石       | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部1/4残存 外面に珎                     |
| 第1250011 | SH360 P009・a・b区 | 土師器 | 垂  | 14.6    | 36.6 | —       | 浅黄色    | 浅黄色         | 長石・石英・雲母・角閃石       | 工具ナデ ナデ<br>ココナデ→1 | 口縁部1/4 体部的1/4欠損あり 珎               |
| 第1250012 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (20.6)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・長石・角閃石・雲母       | ナデ ココナデ           | 口縁部1/3残存                          |
| 第1250013 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (18.8)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・長石・角閃石          | ナデ ココナデ           | 口縁部1/3残存                          |
| 第1250014 | SH360 c区        | 土師器 | 垂  | (14.4)  | —    | —       | 棕色     | 棕色 棕色       | 長石・長石・角閃石・雲母       | ナデ ハケメ<br>ココナデ→1  | 口縁部1/3残存 外面に珎                     |
| 第1250015 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (16.6)  | —    | —       | 灰黄色    | にぶい黄褐色      | 長石・長石・角閃石・雲母       | ナデ ココナデ           | 口縁部1/4残存                          |
| 第1250016 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (16.6)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい赤褐色      | 長石・長石・角閃石          | ナデ ココナデ           | 口縁部1/4残存 赤色顔料塗布                   |
| 第1250017 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (15.6)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい赤褐色      | 長石・長石・角閃石・雲母       | ナデ 工具ナデ           | 口縁部~体部上位にかけて1/4残存 赤色顔料塗布          |
| 第1250018 | SH360 c区        | 土師器 | 垂  | (15.8)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい赤褐色      | 長石・長石・雲母・角閃石       | ナデ ココナデ           | 口縁部1/3残存 内面に珎                     |
| 第1250019 | SH360 a・b区      | 土師器 | 垂  | (19.4)  | —    | —       | 浅黄色    | 浅黄色         | 長石・長石・角閃石          | 工具ナデ+ナデ<br>工具ナデ   | 口縁部1/3残存                          |
| 第1250020 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (21.8)  | —    | —       | 浅黄色    | 浅黄色         | 長石・長石・雲母・角閃石       | ナデ 工具ナデ<br>ココナデ   | 口縁部のみ残存                           |
| 第1250021 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (15.8)  | —    | —       | 棕色     | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ 工具ナデ           | 口縁部1/4残存                          |
| 第1250022 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (14.6)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部~体部上位1/3残存                     |
| 第1250023 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (13.2)  | —    | —       | 棕色     | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | 工具ナデ+ナデ<br>工具ナデ   | 口縁部~体部上位にかけて1/4残存                 |
| 第1250024 | SH360 c区・下層     | 土師器 | 垂  | (14.6)  | —    | —       | 浅黄色    | 浅黄色         | 長石・石英・雲母・角閃石       | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部~体部上位にかけて約1/4残存                |
| 第1250025 | SH360 b・c区      | 土師器 | 垂  | (23.8)  | —    | —       | 棕色     | 棕色 棕色       | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部1/8 体部上位1/2残存                  |
| 第1250026 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (19.2)  | —    | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 体部上位1/4残存、口縁部わずかに残存               |
| 第1250027 | SH360 P007      | 土師器 | 垂  | (18.8)  | —    | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石       | ナデ ケズリ<br>ココナデ    | 口縁部~体部上位にかけて約1/2残存                |
| 第1250028 | SH360 b区        | 土師器 | 垂  | (16.6)  | —    | —       | 灰白色    | 灰白色         | 長石・長石・角閃石          | ナデ ココナデ           | 口縁部~体部上位1/4残存                     |
| 第1250029 | SH360 P021・c区   | 土師器 | 垂  | (18.2)  | —    | —       | 棕色     | 棕色          | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部1/8、体部上位1/4残存 内面に珎             |
| 第1250030 | SH360 b・c区      | 土師器 | 垂  | (16.6)  | —    | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 全体1/4残存                           |
| 第1260031 | SH360 b・c区      | 土師器 | 珎  | 34.2    | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部~体部上位にかけて1/2残存 外面に珎            |
| 第1260032 | SH360 b区        | 土師器 | 珎  | (19.8)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石       | ナデ 工具ナデ           | 口縁部~体部上位にかけて1/4残存                 |
| 第1260033 | SH360 P013      | 土師器 | 珎  | (18.8)  | —    | —       | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石       | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部~体部上位にかけて1/4残存                 |
| 第1260034 | SH360 b区        | 土師器 | 珎  | 16.6    | 10.3 | 7.9     | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色      | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部1/8 体部上位1/2残存                  |
| 第1260035 | SH360 b・c区      | 土師器 | 珎  | (16.6)  | 12.3 | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部~体部上位にかけて3/4欠損 外面に珎            |
| 第1260036 | SH360 a・b区      | 土師器 | 珎  | (16.6)  | 12.3 | —       | 暗灰黄色   | 暗灰黄色        | 長石・石英・雲母・角閃石       | ナデ ココナデ           | 全体1/2残存 外面に珎                      |
| 第1260037 | SH360 c区        | 土師器 | 高坪 | 09.3    | —    | —       | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石       | ナデ ココナデ           | 口縁部1/4残存 赤色顔料塗布                   |
| 第1260038 | SH360 P015      | 土師器 | 高坪 | —       | —    | (18.0)  | 灰黄色    | 灰黄色         | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部1/4残存 赤色顔料塗布                   |
| 第1260039 | SH360 P010      | 土師器 | 高坪 | (25.2)  | 30.6 | (17.0)  | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部~体部上位1/4 底部7/8欠損 外部に珎あり 赤色顔料塗布 |
| 第1260040 | SH360 P005      | 土師器 | 高坪 | —       | —    | 20.6    | 明赤褐色   | 明赤褐色        | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | ナデ ココナデ           | 口縁部~体部上位1/4 底部7/8欠損 外部に珎あり 赤色顔料塗布 |
| 第127001  | SH360 P027      | 土師器 | 珎  | (17.6)  | —    | —       | 棕色     | 棕色          | 長石・石英・雲母・角閃石・赤褐色粒  | 工具ナデ ココナデ         | 口縁部1/4残存                          |

| 試料番号     | 出土遺構・位置                | 種 別   | 素材 | 法線 (cm) |        | 色 調 (色別) |       | 胎 土                |      | 割 削  |                                | 備 考 |
|----------|------------------------|-------|----|---------|--------|----------|-------|--------------------|------|------|--------------------------------|-----|
|          |                        |       |    | 口徑      | 高さ     | 内面       | 外面    | 内面                 | 外面   | 内面   | 外面                             |     |
| 第127002  | SI500 1909             | 1.50蓋 | 甌  | 16.0    |        | 土色・黄緑    | 棕色    | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25 1.00右                   |     |
| 第127003  | SI500 1902             | 1.50蓋 | 甌  | 16.1    |        | 灰色       | 棕色    | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25 1.00右                   |     |
| 第127004  | SI500 1901             | 1.50蓋 | 甌  | 11.1    |        | 灰黄色      | 土色・棕色 | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部下部にナメテ1.00右           |     |
| 第127005  | SI500 1922             | 1.50蓋 | 甌  |         |        | 土色・灰色    | 土色・棕色 | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 20.31 1.10.25 1.00右            |     |
| 第127006  | SI500 1910・011・025・026 | 1.50蓋 | 甌  | 18.2    |        | 棕色       | 棕色    | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 体部1.50→体部5.00にナメテ突脚外面に灰        |     |
| 第129001  | SI570                  | 1.50蓋 | 甌  |         |        | 灰色       | 灰色    | 白色砂・黒色砂            | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 2.00蓋部右                        |     |
| 第129002  | SI570                  | 1.50蓋 | 甌  |         |        | 灰白色      | 灰黄色   | 右黄・左黒色砂            | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25 1.00右                   |     |
| 第129003  | SI570                  | 1.50蓋 | 甌  |         |        | 土色・灰黄色   | 土色・棕色 | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25蓋部                       |     |
| 第129004  | SI570 1900             | 1.50蓋 | 甌  | 17.5    |        | 棕色       | 棕色    | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第129005  | SI570                  | 1.50蓋 | 甌  | 11.5    |        | 土色・棕色    | 棕色    | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第129006  | SI570                  | 1.50蓋 | 甌  |         |        | 棕色       | 棕色    | 土色・角内右・白色砂         | ナメテ  | ナメテ  | 110.25蓋部                       |     |
| 第129007  | SI570                  | 1.50蓋 | 甌  | 11.1    | 0.00   | 土色・灰黄色   | 土色・棕色 | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.20右                |     |
| 第130001  | SI155                  | 1.50蓋 | 甌  | 12.5    |        | 灰黄色      | 棕色    | 土色・角内右・左・角内左・白色砂   | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第130002  | SI155                  | 1.50蓋 | 甌  | 16.2    |        | 灰色       | 棕色    | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第130003  | SI155                  | 1.50蓋 | 甌  | 17.9    |        | 土色・棕色    | 棕色    | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第130004  | SI155                  | 1.50蓋 | 甌  | 13.0    |        | 灰色       | 棕色    | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第130005  | SI155                  | 1.50蓋 | 甌  | 17.0    |        | 棕色       | 棕色    | 角内右・土色・角内左・白色砂     | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |
| 第137001  | SK20 1909              | 0.50蓋 | 珪土 | 12.0    |        | 灰色       | 灰色    | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25蓋部 1.00右 ロウ同砂ナメ 1.00右    |     |
| 第137002  | SK20 1901              | 0.50蓋 | 珪土 | 12.1    |        | 灰色       | 灰色    | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25 1.00右 ロウ同砂ナメ            |     |
| 第137003  | SK20 1903              | 0.50蓋 | 珪土 | 12.5    |        | 黄灰色      | 暗灰色   | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25 1.00右                   |     |
| 第137004  | SK20                   | 0.50蓋 | 珪土 | 11.9    |        | 灰色       | 灰色    | 白色砂                | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25→体部 1.10右                |     |
| 第137005  | SK20 1900              | 0.50蓋 | 珪土 | 13.1    |        | 灰色       | 灰色    | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25 1.00右 ロウ同砂ナメ            |     |
| 第137006  | SK20 1907              | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 土色・右黄・黒色砂          | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 体部蓋部 ロウ同砂ナメ 外面に白黄褐色            |     |
| 第137007  | SK20 1928              | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 土色・右黄・角内右          | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25蓋部 破損→内輪にナメテナメ ロウ同砂ナメ    |     |
| 第137008  | SK20                   | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 土色・右黄              | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25蓋部 破損→内輪にナメテナメ           |     |
| 第137009  | SK20 1903              | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 土色・右黄              | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 体部蓋部 ロウ同砂ナメ                    |     |
| 第1370010 | SK20 1900              | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 体部 1.00右 ロウ同砂ナメ                |     |
| 第1370011 | SK20 1922              | 0.50蓋 | 珪土 | 12.0    |        | 同砂       | 同砂    | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25 1.00右 ロウ同砂ナメ            |     |
| 第1370012 | SK20                   | 0.50蓋 | 珪土 | 11.7    |        | 灰色       | 灰色    | 白色砂                | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 110.25→体部 1.20右                |     |
| 第1370013 | SK20                   | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 土色・右黄・角内右          | ナメテ  | 同砂ナメ | 體部・のみ右                         |     |
| 第1370014 | SK20 1901              | 0.50蓋 | 珪土 |         |        | 灰色       | 灰色    | 土色・右黄・角内右・土角       | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 體部・のみ右                         |     |
| 第1370015 | SK20 1901              | 0.50蓋 | 珪土 |         | 111.50 | 黄灰色      | 暗灰色   | 同砂                 | 同砂ナメ | 同砂ナメ | 體部100%右 ロウ同砂ナメ                 |     |
| 第1370016 | SK20 1925              | 1.50蓋 | 甌  | 19.0    |        | 土色・黄緑    | 土色・黄緑 | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部上部にナメテ1.00右 内面に灰      |     |
| 第1370017 | SK20 1916              | 1.50蓋 | 甌  | 17.0    |        | 同砂       | 土色・黄緑 | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部上部にナメテ1.00右 内面に灰 外面に灰 |     |
| 第1370018 | SK20                   | 1.50蓋 | 甌  | 19.5    |        | 土色・黄緑    | 土色・黄緑 | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25 1.00右                   |     |
| 第1370019 | SK20 1951              | 1.50蓋 | 甌  | 19.0    |        | 灰黄色      | 灰黄色   | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25 1.20右 破損→内輪にナメテナメ       |     |
| 第1370020 | SK20 1909              | 1.50蓋 | 甌  | 113.0   |        | 土色・黄緑    | 土色・黄緑 | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25 1.00右                   |     |
| 第1370021 | SK20 1907              | 1.50蓋 | 甌  | 111.50  |        | 明木褐色     | 明木褐色  | 土色・右黄・土角・角内右・左・角内左 | ナメテ  | ナメテ  | 110.25→体部 1.00右                |     |



| 探出番号    | 出土遺構・位置   | 種 別         | 部 種        | 法量 (cm) |      | 色 調 (軸測)         |                   | 胎 土     | 調 整                       |           | 備 考                         |
|---------|-----------|-------------|------------|---------|------|------------------|-------------------|---------|---------------------------|-----------|-----------------------------|
|         |           |             |            | 口徑      | 底径   | 内 面              | 外 面               |         | 内 面                       | 外 面       |                             |
| 第155025 | 8X300 土割  | 陶器          | 志          | —       | —    | 灰白色              | 灰白色               | 無釉      | 無釉                        | 鉄粉        | 製部破片 化粧土あり 磁州               |
| 第155026 | 8X300 中割  | 陶器          | 志          | —       | —    | 灰白色              | 灰白色               | 無釉      | 無釉                        | 鉄粉        | 製部破片 化粧土あり 磁州               |
| 第155027 | 8X300 下割  | 陶器          | 志          | —       | —    | 灰白色              | 灰白色               | 無釉      | 無釉                        | 鉄粉        | 製部破片 化粧土あり 磁州               |
| 第156028 | 8X300     | 青華軸陶器       | 梅花瓶 (8.7)  | —       | —    | 青色               | 青色                | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 口縁部1/3残存                    |
| 第156029 | 8X300     | 青華軸陶器       | 梅花瓶        | —       | —    | 青色               | 青色                | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 口縁部破片                       |
| 第156030 | 8X300     | 華南三彩        | 盤?         | —       | —    | 緑色<br>緑色         | 緑色<br>緑色          | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 製部破片                        |
| 第156031 | 8X300     | 華南三彩        | 水盂?        | —       | —    | —                | 緑色                | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 製部破片                        |
| 第156032 | 8X300     | 華南三彩        | 水盂         | —       | —    | —                | 緑色                | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 製部破片                        |
| 第156033 | 8X300     | 華南三彩        | 水盂         | —       | —    | —                | 緑色                | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 製部破片                        |
| 第156034 | 8X300 土割  | 華南三彩        | 盤          | —       | —    | オリーブ<br>色<br>黄緑色 | オリーブ<br>色<br>黄緑色  | にふい・棕色  | 無釉                        | 無釉        | 製部破片                        |
| 第156035 | 8X300 下割  | 軒平瓦         | —          | —       | —    | 黒褐色              | 黒褐色               | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第156036 | 8X300 下割  | 軒平瓦         | —          | —       | —    | 灰色               | 灰色                | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第156037 | 8X300 下割  | 平瓦          | —          | —       | —    | にふい・黄<br>棕色      | にふい・黄<br>棕色       | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第156038 | 8X300 下割  | 平瓦          | —          | —       | —    | にふい・黄<br>棕色      | にふい・黄<br>棕色       | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第156039 | 8X300 下割  | 平瓦          | —          | —       | —    | 灰色               | 灰色                | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第156040 | 8X300 下割  | 平瓦          | —          | —       | —    | 黒色               | 黒色                | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第156041 | 8X300 下割  | 瓦           | —          | —       | —    | 灰色               | 灰色                | —       | —                         | —         | 破片                          |
| 第157042 | 8X300 下割  | 肥前系磁器<br>染付 | 皿 (13.8)   | 3.2     | 6.4  | 灰白色<br>青色        | 灰白色               | 白灰色     | 染付 無釉                     | 無釉        | 1/4残存 口縁 高台縁付着              |
| 第157043 | 8X300 下割  | 肥前系磁器<br>染付 | 碗 (8.6)    | —       | —    | 明オリーブ<br>灰白色     | 灰白色<br>青色         | 白灰色     | 無釉                        | 染付 無釉     | 口縁部1/3残存                    |
| 第157044 | 8X300 土割  | 唐津系陶器       | 大皿         | —       | —    | 透明釉              | 透明釉               | 灰白色     | 無釉                        | 無釉        | 口縁部破片                       |
| 第157045 | 8X300     | 唐津系陶器       | 皿          | —       | —    | 灰色               | 灰色 褐色             | 灰褐色     | 無釉(白濁釉)                   | 下半無釉(白濁釉) | 口縁部破片                       |
| 第157046 | 8X300     | 唐津系陶器       | 皿          | —       | 14.4 | 灰オリーブ<br>色       | 褐色                | 灰色      | 無釉                        | 無釉        | 底部1/3残存 粘土目焼みね              |
| 第157047 | 8X300     | 唐津系陶器       | 皿          | —       | 8.4  | 灰白色              | 灰白色               | 灰褐色     | 無釉(白濁釉)                   | 下半無釉(白濁釉) | 底部1/3残存 粘土目焼みね              |
| 第157048 | 8X300 下割  | 陶器          | 折縁<br>ソコ皿  | (10.2)  | 2.2  | 灰白色              | オリーブ<br>黄褐色       | 灰白色     | 無釉                        | 無釉        | 1/4残存                       |
| 第157049 | 8X300 下割  | 陶器          | 皿          | —       | —    | 灰白色              | 灰白色               | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 破片                          |
| 第157050 | 8X300 土割  | 陶器          | 向付         | —       | —    | 半透明              | 半透明               | 淡黄色     | 無釉                        | 無釉        | 破片                          |
| 第157051 | 8X300 下割  | 備前焼         | 磁鉢 (8.8)   | —       | —    | 褐色               | 褐色 黒<br>色         | 白色粒状    | 同焼コナナデ                    | 同焼コナナデ    | 口縁部破片                       |
| 第157052 | 8X300 下割  | 備前焼         | 磁鉢         | —       | —    | 褐色               | 褐色                | 白色粒状    | 同焼コナナデ                    | 同焼コナナデ    | 口縁部破片                       |
| 第157053 | 8X300 下割  | 備前焼         | 磁鉢         | —       | —    | 暗褐色              | にふい・赤<br>褐色       | 白色粒状    | 同焼コナナデ                    | 同焼コナナデ    | 口縁部破片                       |
| 第157054 | 8X300 下割  | 備前焼         | 磁鉢 (23.4)  | —       | —    | 灰色               | にふい・赤<br>褐色<br>灰色 | 白色粒状    | 同焼コナナデ                    | 同焼コナナデ    | 口縁部破片                       |
| 第157055 | 8X300 下割  | 備前焼         | 磁鉢         | —       | —    | 褐色               | 褐色                | 白色粒状    | 同焼コナナデ                    | 同焼コナナデ    | 口縁部1/3残存                    |
| 第157056 | 8X300 越下割 | 京都系<br>土器器  | 皿 (10.8)   | —       | —    | にふい・黄<br>棕色      | にふい・黄<br>棕色       | 白色粒状    | ナデ                        | ナデ        | 口縁部1/3残存                    |
| 第157057 | 8X300 F割  | 京都系<br>土器器  | 皿 10.2     | 2.5     | —    | 灰白色              | 灰白色               | 白色粒状    | コナナデ (1の)<br>アサデ 方向<br>ナデ | コナナデ      | ほぼ完整 口縁部破片                  |
| 第157058 | 8X300 下割  | 京都系<br>土器器  | 皿 (13.6)   | 2.3     | —    | 灰白色              | 灰白色               | 金雲母     | ナデ 一方同ナ<br>デ              | コナナデ      | 1/5残存                       |
| 第157059 | 8X300     | 土器品         | とりへ (10.6) | —       | —    | 灰オリーブ<br>色       | 灰色                | 石英      | コナナデ                      | コナナデ      | 口縁部1/3残存 口縁部破片に黒色のスラフ<br>付着 |
| 第157060 | 8X300 F割  | 瓦葺上蓋        | 火鉢         | —       | —    | 灰色               | 灰色                | 白色粒状    | ナデ                        | ナデ        | 口縁部破片                       |
| 第157061 | 8X300 FM  | 土師瓦         | 幅目1        | 1.5     | —    | 灰白<br>褐色<br>黄褐色  | —                 | 石英 白色粒状 | ナデ                        | ナデ        | 破片                          |
| 第157062 | 8X300     | 須恵器         | 蓋          | —       | —    | 灰白色              | 灰白色               | 石英 肉門石  | 同焼ナデ                      | 同焼ナデ      | 天井部のみ残存                     |

| 研究番号     | 出土遺構・位置        | 種別    | 図様             | 法量 (cm) |     |       | 色調 (軸調) |        | 胎土             | 調整                |                        | 備考                                  |
|----------|----------------|-------|----------------|---------|-----|-------|---------|--------|----------------|-------------------|------------------------|-------------------------------------|
|          |                |       |                | 口徑      | 器高  | 底径    | 内面      | 外面     |                | 内面                | 外面                     |                                     |
| 第1570965 | SK300          | 須恵器   | 蓋              | (16.0)  | —   | —     | 灰色      | 灰色     | 石英 白色粒子        | 回転ナデ              | 回転ナデ                   | 口縁部1/6残存                            |
| 第1570964 | SK300 上層       | 土製品   | 灯火具            | —       | —   | (6.4) | にぶい黄褐色  | にぶい黄褐色 | 石英 軽石粒         | —                 | ユビオサエーナデ               | 1/3残存                               |
| 第1570963 | SK300 下層       | 須恵器   | 蓋              | —       | —   | —     | 灰色      | 灰色     | 石英             | ヨコナデ              | ヨコナデ                   | 口縁部破片                               |
| 第1570966 | SK300 第22層     | 緑釉陶器  | 皿              | —       | —   | —     | オリーブ灰色  | 灰白色    | 灰色             | 施釉                | 施釉                     | 底部1/8残存                             |
| 第165201  | 一括             | 織文土器  | 浅鉢             | (30.0)  | —   | —     | 黒褐色     | 黒褐色    | 角閃石・金雲母        | ミガキ               | ミガキ                    | 口縁部1/16残存                           |
| 第165202  | 表探             | 常土土器  | 壺              | (15.4)  | —   | —     | 灰黄色     | 赤色     | 長石・石英・雲母・角閃石   | 玉目ナデ・サデ・ヨコナデ・ミガキ等 | ミガキ ヨコナデ               | 口縁部～腰部上位にかけて1/4残存 赤色釉料塗布 黒          |
| 第165203  | 表探             | 土師器   | 埴              | (12.7)  | —   | —     | 赤褐色     | 赤褐色    | 石英・角閃石・長石・白色粒子 | ナデ                | ハヤメ                    | 表面一部割落2次焼成による赤化著しい。口縁部から胴部にかけて1/6残存 |
| 第165204  | F-11           | 須恵器   | 坏蓋             | —       | —   | —     | 灰色      | 灰褐色    | 石英             | ナデ 別転ナデ           | 別転ナデ                   | 天井部1/3残存                            |
| 第165205  | G-14           | 須恵器   | 坏身             | —       | —   | (7.8) | 灰色      | 灰色     | —              | 回転ナデ              | 回転ナデ                   | 底部1/8残存                             |
| 第165206  | 一括             | 緑釉陶器  | 碗              | —       | —   | —     | にぶい緑    | にぶい緑   | にぶい黄褐色         | 施釉                | 施釉                     | 底部破片                                |
| 第165207  | 一括             | 緑釉陶器  | 皿              | (14.5)  | —   | —     | 濃緑      | 濃緑     | 灰色             | 施釉                | 施釉                     | 1/8残存                               |
| 第165208  | N-6            | 白磁    | 皿              | —       | —   | (6.4) | 白色      | 白色     | 淡黄白色           | 施釉 輪割ぎ            | 施釉 輪割ぎ                 | 底部1/6残存                             |
| 第165209  | J-5            | 陶器    | 皿              | —       | —   | —     | 透明      | 灰色     | 無釉             | 施釉 象眼             | 施釉 象眼                  | 胴部破片 高麗産                            |
| 第1652010 | K-M-1~4        | 青磁    | 海面金差           | —       | —   | —     | 明オリーブ灰色 | オリーブ灰色 | 淡灰白色           | 施釉                | 施釉 片切彫り                | 口縁部破片                               |
| 第1652011 | K-M-1~4        | 陶器    | 皿              | —       | —   | (4.0) | 灰白色     | 灰白色    | 淡黄灰色           | 施釉                | 施釉 6~8mmの砂(焼酎本切)～高白滑出物 | 底部のみ残存 朝鮮産緑釉陶器                      |
| 第1652012 | K-M-1~4        | 陶器    | 壺              | —       | —   | —     | 灰白色     | 淡黄褐色   | 灰白色            | 施釉                | 施釉 鉄絵                  | 胴部破片 化粧土あり 延州系系                     |
| 第1652013 | K-2            | 滑津系陶器 | 皿              | —       | —   | (4.1) | 黒褐色     | 黒褐色    | 暗黒褐色           | 笠形押り菊花文・扇線 施釉     | 施釉 砂目磨削                | 底部1/5残存                             |
| 第1652014 | D-6            | 青磁    | 香炉             | (5.0)   | 7.7 | (6.2) | オリーブ灰色  | オリーブ灰色 | 淡黄白色           | 口縁部以外無釉           | 施釉                     | 1/8残存                               |
| 第1652015 | K-7            | 青磁    | 香炉             | (5.8)   | —   | —     | オリーブ灰色  | オリーブ灰色 | 灰白色            | 施釉                | 施釉                     | 口縁部から胴部にかけて1/6残存                    |
| 第1652016 | 一括             | 青磁    | 香炉             | —       | —   | —     | オリーブ灰色  | オリーブ灰色 | 灰白色            | 口縁部以外無釉           | 施釉                     | 口縁部破片                               |
| 第1652017 | N-9            | 青磁    | 香炉             | —       | —   | —     | 明オリーブ灰色 | オリーブ灰色 | 灰白色            | 口縁部以外無釉           | 施釉                     | 口縁部破片                               |
| 第1652018 | H-9            | 青磁    | 香炉             | —       | —   | —     | オリーブ灰色  | オリーブ灰色 | 灰白色            | 口縁部以外無釉           | 施釉                     | 口縁部破片                               |
| 第1652019 | B-19第1面<br>枕山内 | 青磁    | 香炉             | —       | —   | —     | 緑灰色     | 緑灰色    | 灰白色            | 口縁部以外無釉           | 施釉                     | 口縁部破片                               |
| 第1652020 | 表探             | 青磁    | 香炉             | —       | —   | —     | オリーブ灰色  | オリーブ灰色 | 灰白色            | 口縁部以外無釉           | 施釉 高伏文様                | 口縁部破片                               |
| 第1652021 | N-7            | 青磁    | 香炉             | —       | —   | —     | オリーブ灰色  | オリーブ灰色 | 灰白色            | 施釉                | 施釉                     | 口縁部破片                               |
| 第1652022 | E・F-11・12      | 青磁    | 香炉             | —       | —   | (8.5) | —       | オリーブ灰色 | 灰白色            | 無釉                | 施釉                     | 底部1/4残存                             |
| 第1652023 | J-5            | 陶器    | 碗              | (6.7)   | 5.1 | (2.8) | 灰白色     | 灰白色    | 灰黄色            | 施釉                | ビラ掛け                   | 1/6残存                               |
| 第1652024 | J-11           | 華南三彩  | —              | —       | —   | —     | 緑色      | 緑色     | 淡黄色            | 施釉                | 施釉                     | 破片                                  |
| 第1652025 | E-11           | 華南三彩? | 瓶<br>または<br>水注 | —       | —   | —     | —       | 緑色     | 淡黄色            | 無釉                | 施釉                     | 底部破片                                |
| 第1652026 | M-7            | 朝鮮系陶器 | 梅花皿            | —       | —   | —     | 青色      | 青色     | 淡黄色            | 施釉                | 施釉                     | 口縁部破片                               |
| 第1652027 | 一括             | 朝鮮系陶器 | 梅花皿            | —       | —   | —     | 青色      | 青色     | 淡黄色            | 施釉                | 施釉                     | 口縁部破片                               |

第8表 出土土鍾観察表

| 国版  | 番号 | 出土位置        | P番 | 方位     | 胎土  | 長さ<br>(cm) | 外径<br>(cm) | 孔径上<br>(cm) | 孔径下<br>(cm) | 重さ<br>(g) | 備考    |
|-----|----|-------------|----|--------|-----|------------|------------|-------------|-------------|-----------|-------|
| 170 | 1  | F-10グリッド    | -  | 一括     | 土師質 | (2.35)     | 2.60       | 0.90        | 0.60        | 13.0      | 下半欠損  |
| 170 | 2  | SX300       | -  | 一括     | 土師質 | (3.60)     | 2.50       | 0.80        | 0.80        | 17.5      | 下半欠損  |
| 170 | 3  | J-12グリッド    | -  | 一括     | 土師質 | (5.35)     | 2.10       | 0.65        | 0.80        | 22.6      | 下端欠損  |
| 170 | 4  | 表採          | -  | 一括     | 土師質 | (4.60)     | 1.90       | 0.60        | 0.65        | 17.3      | 下端欠損  |
| 170 | 5  | 遺跡          | -  | 一括     | 土師質 | (4.00)     | 1.75       | 0.60        | 0.55        | 13.9      | 下半欠損  |
| 170 | 6  | J-5グリッド     | -  | 一括     | 土師質 | 4.50       | 2.10       | 0.50        | 0.50        | 19.9      |       |
| 170 | 7  | N-7グリッド     | -  | 一括     | 土師質 | 4.80       | 1.95       | 0.60        | 0.50        | 19.7      |       |
| 170 | 8  | J-5グリッド     | -  | 一括     | 土師質 | 4.70       | 1.55       | 0.30        | 0.30        | 11.6      |       |
| 170 | 9  | G-7グリッド     | -  | 一括     | 土師質 | 4.60       | 1.55       | 0.55        | 0.55        | 11.5      |       |
| 170 | 10 | G-J-5~8グリッド | -  | 一括     | 土師質 | 5.50       | 1.70       | 0.55        | 0.50        | 13.1      | 上下端微欠 |
| 170 | 11 | 表採          | -  | 一括     | 土師質 | 4.70       | 1.45       | 0.45        | 0.35        | 11.1      |       |
| 170 | 12 | SX300東西ベルト  | -  | 一括 334 | 灰質  | (4.50)     | 1.70       | 0.45        | 0.60        | 10.5      | 下端欠損  |
| 170 | 13 | 表採          | -  | 一括     | 土師質 | 5.35       | 1.30       | 0.25        | 0.30        | 7.0       | 上下端微欠 |
| 170 | 14 | SX300       | -  | 一括     | 灰質  | 4.40       | 1.10       | 0.30        | 0.30        | 5.3       |       |
| 170 | 15 | O-7グリッド     | -  | 一括     | 土師質 | 4.35       | 1.25       | -           | -           | 6.2       |       |
| 170 | 16 | SX300       | -  | 一括 中割  | 土師質 | (3.85)     | 1.40       | 0.25        | 0.30        | 7.2       | 上端欠損  |
| 170 | 17 | 表採          | -  | 一括     | 土師質 | 4.05       | 1.30       | 0.40        | 0.40        | 6.6       |       |
| 170 | 18 | D-I-9グリッド   | -  | 一括     | 土師質 | (4.00)     | 1.10       | 0.30        | 0.40        | 5.5       | 上端欠損  |
| 170 | 19 | SX300       | -  | 一括 下割  | 土師質 | (4.00)     | 1.10       | 0.35        | 0.30        | 4.9       | 上端欠損  |

第9表 出土鉄器観察表

| 国版番号    | 出土遺構・位置 | 種別 | 器種 | 法 量 (cm) |      | 色 調  |    |    | 胎土 | 調 整 |    | 備 考              |
|---------|---------|----|----|----------|------|------|----|----|----|-----|----|------------------|
|         |         |    |    | 長さ       | 幅    | 厚さ   | 内面 | 外面 |    | 内面  | 外面 |                  |
| 第87号48  | SH105   | 鉄器 | 鉄鏃 | (10.0)   | 0.65 | 0.7  | -  | -  | -  | -   | -  | サビ事付首のため形態、法量不確実 |
| 第126号41 | SH360   | 鉄器 | 鉄鏃 | 4.75     | 1.85 | 0.95 | -  | -  | -  | -   | -  |                  |



第10表 出土石器銅器表

[illegible]

[illegible]

第11表 出土白玉・小玉・紡錘車觀察表

[illegible]

第12表 出土管玉觀察表

| 1d(t) | d(μ) | f <sub>s</sub> | F <sub>max</sub> | H <sub>02</sub> | G <sub>1</sub> | E <sub>1</sub> | t <sub>1</sub> | H <sub>1</sub> | c <sub>1</sub> (mm) | c <sub>2</sub> (mm) | P <sub>1</sub> (mm) | a <sub>1</sub> (g) | 備註    | Z |
|-------|------|----------------|------------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|-------|---|
| 21    | 250  | NH20           | -45              | T鋼              | 管工車成品          |                | 9.76±0.1       |                | 1.05                | 0.80                | 0.25                | 0.29               | 磁環及天線 |   |
| 21    | 200  | NH20           | -45              |                 | 管工車成品          |                | 9.76±0.1       |                | 0.80                | 0.525               |                     | 0.3                |       |   |

第13表 出土石器器種・石材別組成集計表(上…個數、下…重量g) 弥生時代

[illegible]

第14表 出土石器器種・石材別組成集計表(上…個數、下…重量g) 古墳時代

[illegible]

第15表 出土石器器種・石材別組成集計表（上…個数、下…重量 g）時期不明

| 器種                    | 板状<br>岩類      | カン<br>ラン<br>石 | 砂<br>岩         | 凝<br>灰<br>岩 | 金山<br>S n   | サ<br>サ<br>ウ<br>イ<br>ト | 頁<br>岩    | 安<br>山<br>岩<br>類 | 角<br>閃<br>岩<br>A n | 結<br>晶<br>片<br>岩 | 緑<br>泥<br>片<br>岩 | 凝<br>灰<br>岩  | 砂<br>岩     | 泥<br>岩     | チャ<br>ート     | メ<br>ノウ<br>石<br>類 | 石<br>炭        | 水<br>晶<br>石   | 輝<br>石     | 大<br>理<br>石 | 面<br>粉<br>花<br>崗<br>岩 | 合<br>計         |
|-----------------------|---------------|---------------|----------------|-------------|-------------|-----------------------|-----------|------------------|--------------------|------------------|------------------|--------------|------------|------------|--------------|-------------------|---------------|---------------|------------|-------------|-----------------------|----------------|
| 写<br>真<br>玉           | 1<br>14.1     |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>14.1      |
| 写<br>真<br>玉           |               | 1<br>0.5      |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             | 1<br>1.1              | 2<br>1.6       |
| 石<br>炭                |               |               | 12<br>16.0     |             |             | 1<br>0.3              |           | 1<br>0.9         |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 14<br>17.2     |
| 石<br>炭<br>玉           | 1<br>11.2     |               | 10<br>38.8     |             | 3<br>13.3   |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              | 1<br>13.7         |               |               |            |             |                       | 15<br>77.0     |
| 板<br>孔<br>玉           | 1<br>2.4      |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>2.4       |
| 板<br>孔<br>玉           | 1<br>21.9     |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>21.9      |
| 石<br>炭                | 1<br>4.5      |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>4.5       |
| 石<br>炭                |               |               | 160<br>333.3   | 3<br>4.8    | 2<br>6.4    |                       |           | 2<br>196.3       | 1<br>43.9          | 5<br>160.5       |                  |              | 1<br>290.0 | 1<br>73.1  |              |                   |               |               |            |             |                       | 175<br>333.3   |
| 上<br>割<br>片           | 8<br>108.5    | 1<br>11.8     | 63<br>208.0    | 2<br>5.0    | 3<br>37.0   |                       |           | 11<br>207.5      | 1<br>12.3          | 29<br>637.1      | 1<br>3.3         | 4<br>129.1   |            |            |              | 1<br>4.7          |               |               |            |             |                       | 124<br>1354.3  |
| 割<br>片                | 17<br>104.3   | 20<br>38.4    | 1585<br>2155.7 | 42<br>49.9  | 43<br>92.7  | 1<br>14.3             |           | 26<br>367.4      |                    | 379<br>4141.3    | 17<br>191.4      | 15<br>467.5  |            |            |              | 37<br>55.6        | 40<br>177.0   | 4<br>16.6     |            |             |                       | 2217<br>7872.1 |
| 使用<br>割<br>片          |               |               | 4<br>12.3      | 1<br>2.9    | 1<br>3.0    |                       |           | 1<br>11.6        |                    |                  |                  |              |            |            |              | 2<br>7.2          | 2<br>31.4     |               |            |             |                       | 11<br>68.4     |
| 石<br>炭                | 1<br>480.0    | 1<br>10.8     | 111<br>958.7   | 1<br>3.3    | 1<br>21.7   |                       |           | 2<br>153.7       |                    | 1<br>4.4         |                  |              |            |            |              | 5<br>47.1         | 9<br>523.0    |               |            |             |                       | 132<br>2182.7  |
| 磨<br>製<br>石<br>炭      | 1<br>4.0      | 1<br>9.2      |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 2<br>13.2      |
| 磨<br>製<br>石<br>炭      |               |               |                |             | 1<br>9.2    |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>9.2       |
| 磨<br>製<br>石<br>炭      | 1<br>41.0     |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>41.0      |
| 打<br>製<br>石<br>炭      |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    | 6<br>170.4       | 3<br>166.2       |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 9<br>336.6     |
| 石<br>炭<br>丁           |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              | 1<br>47.3         |               |               |            |             |                       | 1<br>47.3      |
| 練<br>器                |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    | 1<br>85.1        |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>85.1      |
| 磨<br>石<br>片           | 13<br>237.9   | 1<br>18.4     |                |             |             |                       |           | 3<br>87.3        |                    | 2<br>82.0        | 1<br>53.8        |              | 3<br>237.5 |            |              |                   |               | 4<br>142.5    |            |             |                       | 27<br>859.4    |
| 磨<br>石<br>/<br>石<br>炭 |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    | 2<br>124.3       |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 2<br>124.3     |
| 石<br>炭                |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              | 1<br>329.5        |               |               |            |             |                       | 1<br>329.5     |
| 台<br>石                |               |               |                |             |             | 12<br>9               |           | 3<br>3           |                    | 1<br>1           | 6<br>6           |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 31<br>2999.7   |
| 磨<br>石<br>/<br>石<br>炭 |               |               |                |             |             |                       |           | 2<br>430.2       |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 2<br>430.2     |
| 磨<br>石<br>/<br>石<br>炭 |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    | 1<br>68.1        |                  | 1<br>379.5   |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 2<br>447.6     |
| 紙<br>石                | 1<br>144.6    |               | 2<br>1.6       |             |             |                       | 3<br>46.0 | 12<br>498.9      | 11<br>316.9        | 21<br>1494.7     | 7<br>439.8       | 35<br>2705.4 |            |            | 1<br>111.7   |                   |               |               | 4<br>96.9  | 2<br>232.0  |                       | 99<br>7989.5   |
| 浮<br>子                |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               | 1<br>24.4  |             |                       | 1<br>24.4      |
| 分割<br>磚               |               |               |                |             |             |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              | 1<br>1560.0       | 1<br>197.9    |               |            |             |                       | 2<br>1757.9    |
| 原<br>石                |               |               |                |             | 9.0         |                       |           |                  |                    |                  |                  |              |            |            |              |                   |               |               |            |             |                       | 1<br>9.0       |
| 機<br>・<br>機<br>片      | 74<br>330.1   |               | 9<br>28.2      |             |             |                       |           | 4<br>239.5       | 1<br>19.3          | 5<br>729.4       |                  | 12<br>455.4  |            |            |              | 3<br>28.8         | 13<br>79.7    | 634<br>8912.8 |            | 2<br>8.1    |                       | 757<br>2951.5  |
| 磨<br>器<br>類           |               |               | 2<br>19.4      |             | 2<br>13.6   | 1<br>58.6             |           | 3<br>109.3       |                    | 2<br>53.7        |                  |              |            |            |              | 1<br>4.6          |               |               |            |             |                       | 11<br>259.3    |
| 使用<br>合計              | 121<br>1504.5 | 25<br>89.1    | 1958<br>2772.0 | 50<br>74.9  | 56<br>186.9 | 3<br>73.2             | 3<br>46.0 | 79<br>7253.1     | 24<br>7305.9       | 447<br>3018.9    | 30<br>963.2      | 74<br>6106.0 | 5<br>631.1 | 1<br>111.7 | 50<br>1759.7 | 67<br>1627.3      | 642<br>9071.9 | 0<br>0.0      | 7<br>128.4 | 2<br>232.0  | 1<br>1.1              | 3645<br>6948.9 |

|     |        |       |        |       |       |       |      |         |         |         |        |        |        |       |        |        |         |     |       |       |     |  |         |
|-----|--------|-------|--------|-------|-------|-------|------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|---------|-----|-------|-------|-----|--|---------|
| 全時器 | 195    | 84    | 2332   | 132   | 130   | 14    | 3    | 119     | 78      | 628     | 38     | 95     | 20     | 3     | 67     | 143    | 763     | 3   | 13    | 6     | 1   |  | 5697    |
| 合計  | 4574.5 | 133.7 | 5467.5 | 203.6 | 327.8 | 615.8 | 46.0 | 15859.0 | 27963.4 | 24987.7 | 3001.3 | 8066.7 | 3679.3 | 148.2 | 1816.4 | 1901.7 | 30521.8 | 0.8 | 799.9 | 432.9 | 1.1 |  | 11109.1 |

## 第IV章 自然科学分析

### 1. 若宮八幡宮遺跡第1次調査から出土した土器等の蛍光X線分析

株式会社 古環境研究所

#### 1. はじめに

物質にX線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー（蛍光X線）が放出され、この蛍光X線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類と量を調べることができる。この方法を用いて、考古学分野では指標となる特定の元素の検出パターンの比較から土器（須恵器など）や石器（黒曜石など）の産地推定が試みられている。

#### 2. 試料

試料は、若宮八幡宮遺跡第1次調査のSH135堅穴建物跡（古墳時代後期）から出土した在地系土師器2点、大飯湾一帯で使用されていたものと同型の製塩土器（須恵器系、黒色系、白色系、赤色系）8点、およびSH140堅穴建物跡（古墳時代後期）から出土したミニチュア土器P177（付着物）1点の計11点である。

#### 3. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析システム（日本電子製、JSX3201）を用いて、元素の同定およびファンゲメントラルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。測定の条件は、測定時間600秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空で、X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi（Li）半導体検出器である。土器片については、ダイヤモンドカッターを用いて表面を研磨し、土器のコア部分を抽出して測定を行った。

#### 4. 分析結果

第16表に各元素の定量分析結果（wt%）を示し、Fig. 4に主な元素の検出状況を示す。また、Fig. 5にK<sub>2</sub>O-CaO分布図およびRb<sub>2</sub>O-SrO分布図を示す。

#### 5. 考察

##### (1) 在地系土師器と製塩土器

土器（胎土）に含まれる元素のうち、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）の4元素は、土器胎土の地域性を示す有効な因子とされており、K<sub>2</sub>O-CaO分布図やRb<sub>2</sub>O-SrO分布図を主な指標として土器の産地同定が行われている（三辻, 1999）。

K<sub>2</sub>O-CaO分布図によると、在地系土師器（試料1、2）はカルシウム（CaO）含量が1.7%以上と比較的高く、カリウム（K<sub>2</sub>O）含量が1.3%未満と比較的低いのが特徴的であり、製塩土器（試料3～10）とは分布領域が明らかに異なっている。また、Rb<sub>2</sub>O-SrO分布図でも、在地系土師器（試料1、2）はストロンチウム（SrO）の含量が0.03%以上、カリウム（K<sub>2</sub>O）含量が0.01%未満であり、製塩土器（試料3～10）とは分布領域が明らかに異なっている。したがって、在地系土師器と製塩土器は、素材となった粘土の給源が異なっている可能性が高いと考えられる。

製塩土器のうち、黒色系（試料5、6）と赤色系（試料9）の3点は、カルシウム（CaO）含量が1.0%以上、ストロンチウム（SrO）含量が0.02%前後であり、その他の製塩土器とは分布領域が異なっている。

したがって、これらの土器は、その他の製塩土器とは素材となった粘土の給源が異なっている可能性が考えられる。

上記以外の元素については、製塩土器（試料6）でマグネシウム（ $MgO$ ）の含量が3.4%と比較的高く、在地系土器（試料1、2）でリン酸（ $P_2O_5$ ）の含量が1.8～2.5%と比較的高いことなどが特徴的であるが、土器系統の検討に關係するような特に明瞭な傾向は認められなかった。

## (2) ミニチュア土器の付着物

SH140竪穴建物跡（古墳時代後期）から出土したミニチュア土器の内部には、灰白色の粘土状物質が付着している。付着物の蛍光X線分析では、珪酸（ $SiO_2$ ）の含量が52%、アルミニウム（ $Al_2O_3$ ）が17%、鉄（ $Fe_2O_3$ ）が17%であり、珪酸が主成分となっている。また、土器と比較して、鉄（ $Fe_2O_3$ ）、カルシウム（ $CaO$ ）、リン酸（ $P_2O_5$ ）、イオウ（ $SO_3$ ）の含量が高く、珪酸（ $SiO_2$ ）やアルミニウム（ $Al_2O_3$ ）の含量がやや低いのが特徴的である。実体顕微鏡による観察では、粘土状物質中に石英と見られる0.5mm以下のガラス質の粒子や、黒曜石の碎片のように見える0.2mm前後の半透明～黒色の微細な粒子が多数認められた（顕微鏡写真参照）。

ミニチュア土器の内部に付着した粘土状物質については、蛍光X線分析の結果のみから特定することは困難であるが、仮にこの物質が研磨剤であるとする、これらの粒子が対象物の研磨に作用していると考えられる。今回は非破壊分析のため、各粒子の抽出や分析は行わなかったが、今後はX線粉末回折装置やEPM A分析装置を用いて粒子ごとの鉱物組成や成分を測定するなど、さらに詳細な検討が必要と思われる。

## 文献

- 小野寺 浩・安東 和人（1995）エネルギー分散型蛍光X線分析装置JSX3200の紹介。日本電子㈱。25p。  
西勝 英雄（2000）X線分析の特徴と使い分けーなぜX線分析を使うのかー。X線分析最前線。アグネ技術センター。p.9-56。  
三辻 利一（1998）元素分析による古代土器の胎土研究。人類史研究第10号。p.11-39。  
三辻 利一（1999）元素分析による須恵器の産地推定。考古学と自然科学4。同成社。p.294-313。

第16表 若宮八幡宮遺跡における蛍光X線分析結果

| 単位: wt(%) |                                |               |               |               |               |              |              |              |              |              |               |              |        |                |
|-----------|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------|----------------|
| 地点・試料     |                                | SH135在地系土器    |               | SH135製塩土器     |               |              |              |              |              |              |               | SH140ミニチュア土器 |        |                |
| 原子No      | 化学式                            | 1土師器<br>11.1g | 2土師器<br>16.1g | 3須恵器系<br>1.4g | 4須恵器系<br>0.9g | 5黒色系<br>3.2g | 6黒色系<br>1.2g | 7白色系<br>1.3g | 8白色系<br>1.2g | 9赤色系<br>1.1g | 10赤色系<br>0.9g | 11a付着物       | 11b付着物 | 11c土器<br>18.1g |
| 11        | Na <sub>2</sub> O              | 1.341         | 1.500         | 0.997         | 1.290         | 1.169        | 1.683        | 0.828        | 0.704        | 0.678        | 0.807         | 0.653        | 0.510  | 1.038          |
| 12        | MgO                            | 0.597         | 0.885         | 1.114         | 1.406         | 0.921        | 3.445        | 1.160        | 1.080        | 0.723        | 1.035         | 0.735        | 0.637  | 0.553          |
| 13        | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 19.142        | 16.781        | 22.797        | 19.626        | 23.965       | 19.189       | 23.708       | 22.738       | 21.960       | 19.761        | 17.155       | 16.963 | 20.423         |
| 14        | SiO <sub>2</sub>               | 61.823        | 65.966        | 64.304        | 63.658        | 61.467       | 58.056       | 63.195       | 64.151       | 64.162       | 67.241        | 52.018       | 52.484 | 56.716         |
| 15        | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 2.527         | 1.827         | 0.629         | 0.546         | 0.991        | 0.686        | 0.598        | 1.147        | 1.847        | 0.716         | 2.897        | 2.901  | 1.036          |
| 16        | SO <sub>3</sub>                | 0.000         | 0.000         | 0.000         | 0.000         | 0.000        | 0.000        | 0.000        | 0.000        | 0.000        | 0.000         | 1.112        | 1.186  | 0.167          |
| 19        | K <sub>2</sub> O               | 1.069         | 1.277         | 2.674         | 2.441         | 1.878        | 3.211        | 2.731        | 2.718        | 2.473        | 2.557         | 1.246        | 1.355  | 1.504          |
| 20        | CaO                            | 1.761         | 2.323         | 0.415         | 0.785         | 1.258        | 1.653        | 0.416        | 0.551        | 1.053        | 0.302         | 4.371        | 4.613  | 1.987          |
| 22        | TiO <sub>2</sub>               | 1.317         | 1.568         | 1.018         | 0.950         | 1.162        | 1.251        | 1.001        | 0.976        | 1.027        | 0.848         | 2.196        | 2.119  | 1.813          |
| 23        | V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 0.039         | 0.038         | 0.025         | 0.030         | 0.033        | 0.043        | 0.033        | 0.021        | 0.019        | 0.022         | 0.049        | 0.049  | 0.051          |
| 25        | MnO                            | 0.125         | 0.160         | 0.112         | 0.142         | 0.192        | 0.280        | 0.082        | 0.078        | 0.158        | 0.132         | 0.471        | 0.400  | 0.246          |
| 26        | Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 10.177        | 7.587         | 5.8559        | 9.067         | 6.916        | 10.430       | 6.1797       | 5.7741       | 5.828        | 6.525         | 16.866       | 16.598 | 14.246         |
| 37        | Rb <sub>2</sub> O              | 0.009         | 0.009         | 0.017         | 0.017         | 0.011        | 0.021        | 0.019        | 0.021        | 0.018        | 0.017         | 0.020        | 0.011  | 0.031          |
| 38        | SrO                            | 0.036         | 0.043         | 0.015         | 0.015         | 0.019        | 0.021        | 0.015        | 0.015        | 0.024        | 0.011         | 0.136        | 0.116  | 0.085          |
| 40        | ZrO <sub>2</sub>               | 0.040         | 0.038         | 0.029         | 0.028         | 0.021        | 0.033        | 0.034        | 0.027        | 0.030        | 0.027         | 0.077        | 0.057  | 0.104          |



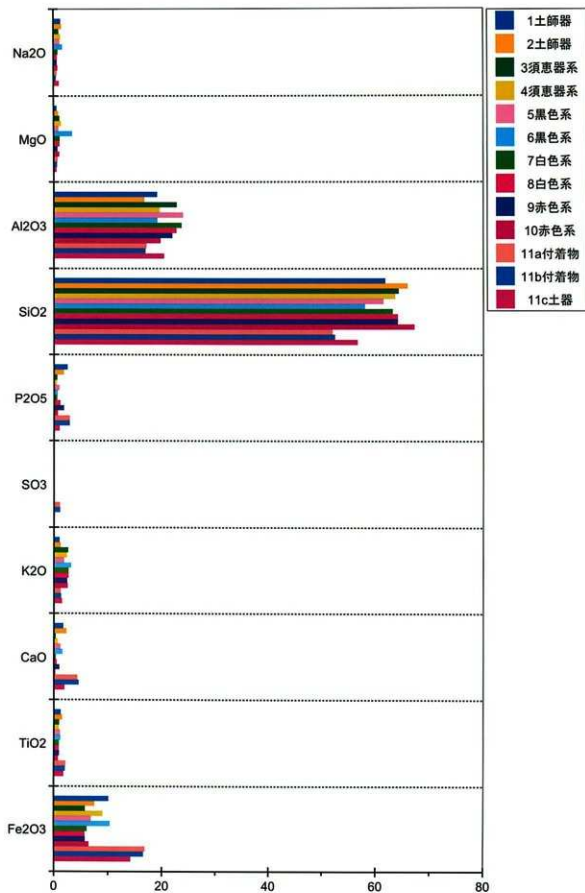
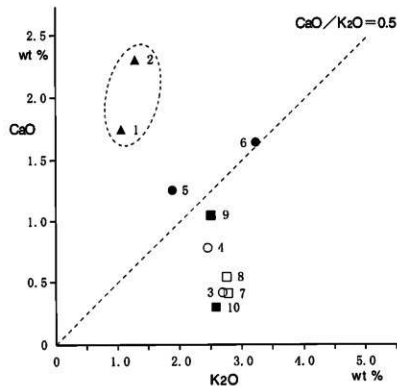
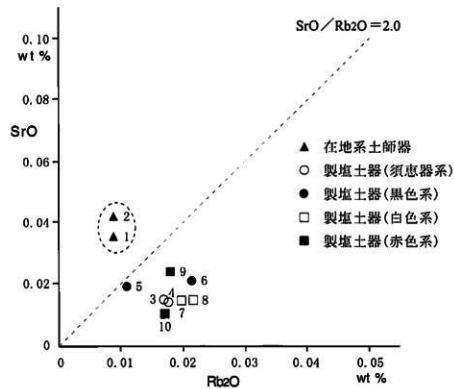


Fig.4 若宮八幡宮遺跡における蛍光X線分析結果（主な元素：wt/%）



K<sub>2</sub>O-CaO分布図



Rb<sub>2</sub>O-SrO分布図

Fig. 5 若宮八幡宮遺跡から出土した土器のK<sub>2</sub>O - CaO分布図およびRb<sub>2</sub>O - SrO分布図

- ▲ 在地系土師器
- 製塩土器(須恵器系)
- 製塩土器(黒色系)
- 製塩土器(白色系)
- 製塩土器(赤色系)



SH140 P177 ミニチュア土器

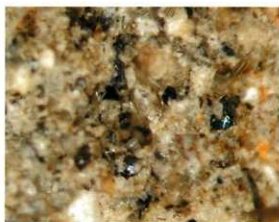


SH140 P177 ミニチュア土器



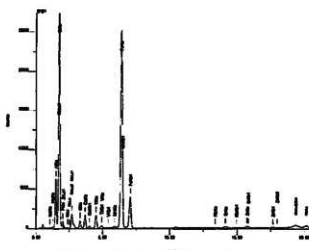
SH140 P177 ミニチュア土器

0.5mm



SH140 P177 ミニチュア土器

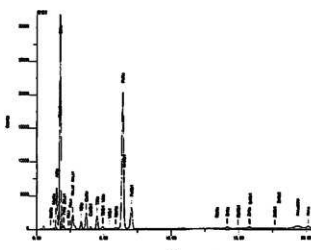
0.5mm



ファイル名: E-100001.000 測定日時: 2009年10月21日14時34分52秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 0.200mA 1/7 Filt: 600.00nm /CX: Yuo  
測定部位: 器底  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, Cl, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Run | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値       | 検出率    | 標準値    |
|-----|----------|---------|-----------|-----------|--------|--------|
| 1   | 11 Na2O  | 1.3405  | 1.5487    | 0.003725  | 795    | 0.0115 |
| 2   | 12 MgO   | 0.5948  | 1.0386    | 0.0037725 | 829    | 0.2784 |
| 3   | 13 Al2O3 | 19.1479 | 13.4579   | 0.0643225 | 68811  | 0.1381 |
| 4   | 14 SiO2  | 61.8221 | 73.4776   | 0.2694910 | 288163 | 0.1563 |
| 5   | 15 P2O5  | 2.1293  | 1.7345    | 0.0035093 | 11946  | 0.2577 |
| 6   | 16 S2O3  | 1.0989  | 0.8134    | 0.0135093 | 13264  | 0.0484 |
| 7   | 17 Cl2   | 1.1503  | 2.3484    | 0.0191715 | 18135  | 0.0412 |
| 8   | 19 K2O   | 1.3179  | 1.1653    | 0.0113863 | 24107  | 0.0240 |
| 9   | 20 CaO   | 0.5999  | 0.9162    | 0.0025825 | 821    | 0.0064 |
| 10  | 22 TiO2  | 0.1248  | 0.1287    | 0.0018897 | 8228   | 0.0172 |
| 11  | 26 Fe2O3 | 18.1748 | 4.8633    | 0.1278890 | 427104 | 0.0135 |
| 12  | 27 Mn2O3 | 0.0089  | 0.0034    | 0.0004190 | 1268   | 0.0122 |
| 13  | 28 SrO   | 0.0090  | 0.0039    | 0.0018861 | 4270   | 0.0134 |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0023  | 0.0028    | 0.0018799 | 4141   | 0.0181 |

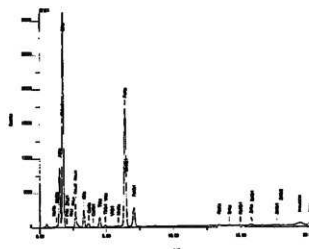
### 1土師器



ファイル名: E-100002.000 測定日時: 2009年10月21日15時14分20秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 0.180mA 1/7 Filt: 600.00nm /CX: Yuo  
測定部位: 器底  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, Cl, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Run | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値       | 検出率    | 標準値    |
|-----|----------|---------|-----------|-----------|--------|--------|
| 1   | 11 Na2O  | 1.4888  | 1.8752    | 0.0031888 | 881    | 0.2621 |
| 2   | 12 MgO   | 0.6853  | 1.1519    | 0.0037188 | 1270   | 0.2802 |
| 3   | 13 Al2O3 | 16.7927 | 11.3761   | 0.0514480 | 56700  | 0.1614 |
| 4   | 14 SiO2  | 62.0880 | 76.2821   | 0.2181420 | 232776 | 0.1176 |
| 5   | 15 P2O5  | 1.8265  | 1.6884    | 0.0195734 | 12284  | 0.1353 |
| 6   | 16 S2O3  | 1.2734  | 0.9273    | 0.0148837 | 14238  | 0.0836 |
| 7   | 17 Cl2   | 1.3229  | 2.6889    | 0.0205144 | 12864  | 0.0537 |
| 8   | 19 K2O   | 1.6238  | 1.2842    | 0.0118888 | 20105  | 0.0449 |
| 9   | 20 CaO   | 0.4679  | 0.8144    | 0.0021120 | 689    | 0.0090 |
| 10  | 22 TiO2  | 0.1188  | 0.1168    | 0.0022848 | 7177   | 0.0223 |
| 11  | 26 Fe2O3 | 7.5882  | 2.2025    | 0.1026100 | 361484 | 0.0228 |
| 12  | 27 Mn2O3 | 0.0089  | 0.0032    | 0.0004288 | 1258   | 0.0145 |
| 13  | 28 SrO   | 0.0026  | 0.0034    | 0.0020811 | 5875   | 0.0180 |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0089  | 0.0113    | 0.0018837 | 4644   | 0.0216 |

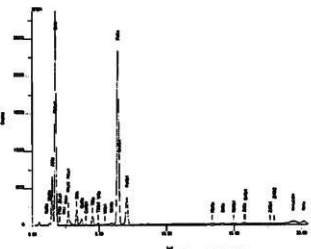
### 2土師器



ファイル名: E-100003.000 測定日時: 2009年10月21日15時30分31秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 0.200mA 1/7 Filt: 600.00nm /CX: Yuo  
測定部位: 器底  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, Cl, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Run | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値       | 検出率    | 標準値    |
|-----|----------|---------|-----------|-----------|--------|--------|
| 1   | 11 Na2O  | 0.6985  | 1.288     | 0.0037924 | 678    | 0.1272 |
| 2   | 12 MgO   | 1.1138  | 1.6231    | 0.0037924 | 1059   | 0.2324 |
| 3   | 13 Al2O3 | 22.7874 | 16.8279   | 0.0727714 | 84167  | 0.1544 |
| 4   | 14 SiO2  | 64.2629 | 74.0769   | 0.272268  | 322468 | 0.1198 |
| 5   | 15 P2O5  | 0.6288  | 0.3989    | 0.0026711 | 2982   | 0.1173 |
| 6   | 16 S2O3  | 0.4128  | 0.8813    | 0.0026711 | 2982   | 0.0818 |
| 7   | 20 CaO   | 0.4146  | 0.8171    | 0.0026711 | 8167   | 0.0841 |
| 8   | 22 TiO2  | 1.1173  | 1.1188    | 0.0026711 | 2982   | 0.0523 |
| 9   | 26 Fe2O3 | 0.6288  | 0.3989    | 0.0026711 | 8167   | 0.0288 |
| 10  | 27 Mn2O3 | 0.0131  | 0.0064    | 0.0002671 | 2770   | 0.0128 |
| 11  | 28 SrO   | 0.0089  | 0.0034    | 0.0002671 | 2982   | 0.0211 |
| 12  | 40 ZrO2  | 0.0145  | 0.0066    | 0.0002671 | 2770   | 0.0142 |
| 13  | 28 SrO   | 0.0145  | 0.0066    | 0.0002671 | 2770   | 0.0142 |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0200  | 0.0164    | 0.0014522 | 3599   | 0.0191 |

### 3須恵器系

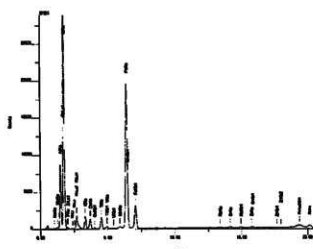


ファイル名: E-100004.000 測定日時: 2009年10月21日15時31分48秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 0.200mA 1/7 Filt: 600.00nm /CX: Yuo  
測定部位: 器底  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, Cl, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Run | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値        | 検出率    | 標準値    |
|-----|----------|---------|-----------|------------|--------|--------|
| 1   | 11 Na2O  | 1.2885  | 1.6231    | 0.0037924  | 777    | 0.0805 |
| 2   | 12 MgO   | 1.4888  | 2.4818    | 0.0037924  | 2071   | 0.2129 |
| 3   | 13 Al2O3 | 16.7927 | 11.3761   | 0.0514480  | 64194  | 0.1453 |
| 4   | 14 SiO2  | 62.0880 | 76.2821   | 0.2181420  | 302586 | 0.1898 |
| 5   | 15 P2O5  | 1.8265  | 1.6884    | 0.0195734  | 12284  | 0.1453 |
| 6   | 16 S2O3  | 1.2734  | 0.9273    | 0.0148837  | 14238  | 0.0925 |
| 7   | 17 Cl2   | 1.3229  | 2.6889    | 0.0205144  | 12864  | 0.0484 |
| 8   | 19 K2O   | 0.7954  | 0.8944    | 0.0018888  | 17783  | 0.0201 |
| 9   | 20 CaO   | 0.4679  | 0.8144    | 0.0021120  | 689    | 0.0090 |
| 10  | 22 TiO2  | 0.0188  | 0.0116    | 0.00022848 | 672    | 0.0342 |
| 11  | 26 Fe2O3 | 0.0089  | 0.0032    | 0.0004288  | 1258   | 0.0145 |
| 12  | 27 Mn2O3 | 0.0089  | 0.0032    | 0.0004288  | 1258   | 0.0145 |
| 13  | 28 SrO   | 0.0145  | 0.0066    | 0.0002671  | 2770   | 0.0142 |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0277  | 0.0164    | 0.0014522  | 3599   | 0.0191 |

### 4須恵器系

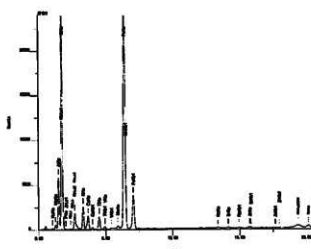
Fig.6 蛍光X線分析結果①



ファイル名 : E:\教育用1.5PC 測定日時 : 2009年10月21日 16時28分25秒  
測定条件 : 電圧 : 30.0kV 電流 : 0.20mA S/F Y/L : 600.00sec /A : Vac  
測定場所 : 環境  
分析結果 : Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Hf

| Num | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mole %) | 測定強度      | 標準強度   |
|-----|----------|---------|-------------|-----------|--------|
| 1   | Na       | 0.1461  | 1.3371      | 0.0041999 | 768    |
| 2   | 11 Na2O  | 0.0056  | 0.0182      | 0.0019999 | 1422   |
| 3   | 12 Mg    | 22.9646 | 86.6489     | 0.0049999 | 86702  |
| 4   | 13 Al2O3 | 81.4467 | 72.8456     | 0.0079999 | 308193 |
| 5   | 14 Si    | 0.0919  | 0.4961      | 0.0005999 | 6720   |
| 6   | 15 P2O5  | 1.8716  | 4.1133      | 0.0023999 | 21927  |
| 7   | 20 CaO   | 1.2579  | 1.5009      | 0.0140799 | 18966  |
| 8   | 22 TiO2  | 1.1811  | 1.0009      | 0.0169999 | 21168  |
| 9   | 23 V2O5  | 0.0329  | 0.0729      | 0.0005999 | 776    |
| 10  | 24 Cr    | 0.1917  | 0.1816      | 0.0009999 | 8043   |
| 11  | 26 Fe2O3 | 0.0161  | 0.0711      | 0.0001999 | 227854 |
| 12  | 38 SrO   | 0.0189  | 0.0541      | 0.0009999 | 1446   |
| 13  | 38 Sr    | 0.0193  | 0.0532      | 0.0009999 | 1461   |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0298  | 0.0129      | 0.0011999 | 2945   |

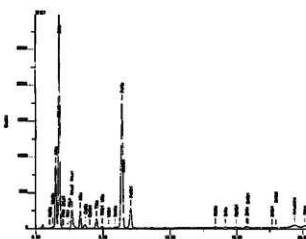
5黒色系



ファイル名 : E:\教育用1.5PC 測定日時 : 2009年10月21日 20時11分 49秒  
測定条件 : 電圧 : 30.0kV 電流 : 0.30mA S/F Y/L : 600.00sec /A : Vac  
測定場所 : 環境  
分析結果 : Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Hf

| Num | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mole %) | 測定強度      | 標準強度   |
|-----|----------|---------|-------------|-----------|--------|
| 1   | Na       | 0.1433  | 1.3357      | 0.0033999 | 733    |
| 2   | 11 Na2O  | 0.0052  | 0.0178      | 0.0018999 | 1408   |
| 3   | 12 Mg    | 22.9646 | 86.6489     | 0.0049999 | 86702  |
| 4   | 13 Al2O3 | 81.4467 | 72.8456     | 0.0079999 | 308193 |
| 5   | 14 Si    | 0.0919  | 0.4961      | 0.0005999 | 6720   |
| 6   | 15 P2O5  | 1.8716  | 4.1133      | 0.0023999 | 21927  |
| 7   | 20 CaO   | 1.2579  | 1.5009      | 0.0140799 | 18966  |
| 8   | 22 TiO2  | 1.1811  | 1.0009      | 0.0169999 | 21168  |
| 9   | 23 V2O5  | 0.0329  | 0.0729      | 0.0005999 | 776    |
| 10  | 24 Cr    | 0.1917  | 0.1816      | 0.0009999 | 8043   |
| 11  | 26 Fe2O3 | 0.0161  | 0.0711      | 0.0001999 | 227854 |
| 12  | 38 SrO   | 0.0189  | 0.0541      | 0.0009999 | 1446   |
| 13  | 38 Sr    | 0.0193  | 0.0532      | 0.0009999 | 1461   |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0298  | 0.0129      | 0.0011999 | 2945   |

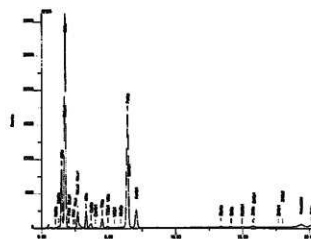
6黒色系



ファイル名 : E:\教育用1.5PC 測定日時 : 2009年10月22日 09時59分 58秒  
測定条件 : 電圧 : 30.0kV 電流 : 0.30mA S/F Y/L : 600.00sec /A : Vac  
測定場所 : 環境  
分析結果 : Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Hf

| Num | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mole %) | 測定強度      | 標準強度   |
|-----|----------|---------|-------------|-----------|--------|
| 1   | Na       | 0.0776  | 0.6462      | 0.0114999 | 149    |
| 2   | 11 Na2O  | 1.1464  | 2.6759      | 0.0046999 | 1884   |
| 3   | 12 Mg    | 22.7077 | 16.3728     | 0.0089999 | 82605  |
| 4   | 13 Al2O3 | 82.1863 | 74.6016     | 0.0151999 | 306918 |
| 5   | 14 Si    | 0.0981  | 0.5987      | 0.0049999 | 6720   |
| 6   | 15 P2O5  | 2.7511  | 6.6116      | 0.0074999 | 21168  |
| 7   | 20 CaO   | 0.4198  | 0.5222      | 0.0074999 | 6996   |
| 8   | 22 TiO2  | 1.0914  | 0.8925      | 0.0171999 | 19977  |
| 9   | 23 V2O5  | 0.0332  | 0.0738      | 0.0043999 | 777    |
| 10  | 24 Cr    | 0.0914  | 0.0919      | 0.0191999 | 2638   |
| 11  | 26 Fe2O3 | 0.1167  | 0.2949      | 0.0752999 | 306918 |
| 12  | 37 BaO   | 0.0193  | 0.0773      | 0.0090999 | 2932   |
| 13  | 38 SrO   | 0.0147  | 0.0499      | 0.0049999 | 1461   |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0348  | 0.0194      | 0.0116999 | 4805   |

7白色系

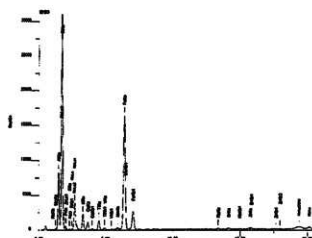


ファイル名 : E:\教育用1.5PC 測定日時 : 2009年10月22日 10時32分 18秒  
測定条件 : 電圧 : 30.0kV 電流 : 0.30mA S/F Y/L : 600.00sec /A : Vac  
測定場所 : 環境  
分析結果 : Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Hf

| Num | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mole %) | 測定強度      | 標準強度   |
|-----|----------|---------|-------------|-----------|--------|
| 1   | Na       | 0.7603  | 0.7971      | 0.0116999 | 1709   |
| 2   | 11 Na2O  | 1.0795  | 1.6797      | 0.0049999 | 1884   |
| 3   | 12 Mg    | 22.7377 | 16.3422     | 0.0089999 | 82605  |
| 4   | 13 Al2O3 | 84.1868 | 74.6016     | 0.0151999 | 306918 |
| 5   | 14 Si    | 0.0981  | 0.5987      | 0.0049999 | 6720   |
| 6   | 15 P2O5  | 2.7511  | 6.6116      | 0.0074999 | 21168  |
| 7   | 20 CaO   | 0.4198  | 0.5222      | 0.0074999 | 6996   |
| 8   | 22 TiO2  | 1.0914  | 0.8925      | 0.0171999 | 19977  |
| 9   | 23 V2O5  | 0.0332  | 0.0738      | 0.0043999 | 777    |
| 10  | 24 Cr    | 0.0914  | 0.0919      | 0.0191999 | 2638   |
| 11  | 26 Fe2O3 | 0.1167  | 0.2949      | 0.0752999 | 306918 |
| 12  | 37 BaO   | 0.0193  | 0.0773      | 0.0090999 | 2932   |
| 13  | 38 SrO   | 0.0147  | 0.0499      | 0.0049999 | 1461   |
| 14  | 40 ZrO2  | 0.0348  | 0.0194      | 0.0116999 | 4805   |

8白色系

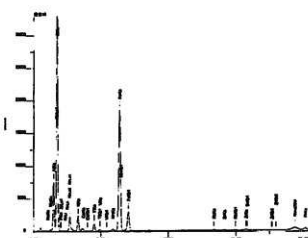
Fig.7 蛍光X線分析結果②



ファイル名: E:\データ\10.20°C 測定日時: 2009年10月21日18時41分15秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 8.380mA 517 f/L 600.00sec /LX Vac  
測定場所: 環境  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Num | 元素 / 化学式                          | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値      | 標準値              |
|-----|-----------------------------------|---------|-----------|----------|------------------|
| 1   | 11 Na <sub>2</sub> O              | 0.670   | 0.368     | 0.000000 | 440<br>0.7407    |
| 2   | 12 MgO                            | 0.1234  | 0.1617    | 0.000000 | 1170<br>0.1277   |
| 3   | 13 Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 21.8804 | 18.1818   | 0.017000 | 78010<br>0.1864  |
| 4   | 14 SiO <sub>2</sub>               | 84.1617 | 76.4729   | 0.238000 | 227300<br>0.1207 |
| 5   | 15 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 1.8467  | 0.8148    | 0.000000 | 8011<br>0.1595   |
| 6   | 16 S                              | ref     |           |          |                  |
| 7   | 19 K <sub>2</sub> O               | 0.2772  | 0.1457    | 0.023000 | 27600<br>0.0632  |
| 8   | 20 CaO                            | 0.0629  | 0.1109    | 0.000000 | 10100<br>0.0602  |
| 9   | 21 TiO <sub>2</sub>               | 0.0270  | 0.0217    | 0.000000 | 20070<br>0.0446  |
| 10  | 22 V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 0.0192  | 0.0074    | 0.000100 | 444<br>0.0099    |
| 11  | 26 FeO                            | 0.1800  | 0.1660    | 0.017000 | 7400<br>0.0217   |
| 12  | 27 CoO                            | 0.0202  | 0.0087    | 0.000000 | 20200<br>0.0019  |
| 13  | 37 Rb <sub>2</sub> O              | 0.0176  | 0.0048    | 0.000700 | 2760<br>0.0133   |
| 14  | 38 SrO                            | 0.024   | 0.0100    | 0.000000 | 2720<br>0.0148   |
| 15  | 40 ZrO <sub>2</sub>               | 0.0297  | 0.0109    | 0.002100 | 2632<br>0.0168   |

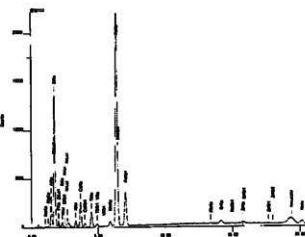
9赤色系



ファイル名: E:\データ\10.20°C 測定日時: 2009年10月22日 20時11分50秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 8.330mA 517 f/L 600.00sec /LX Vac  
測定場所: 環境  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Num | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値      | 標準値    |        |
|-----|----------|---------|-----------|----------|--------|--------|
| 1   | 11 Na2O  | 0.800   | 0.4017    | 0.012300 | 105    | 0.8245 |
| 2   | 12 MgO   | 0.1253  | 0.1797    | 0.000000 | 1802   | 0.1277 |
| 3   | 13 Al2O3 | 18.7612 | 17.4206   | 0.047000 | 27180  | 0.1166 |
| 4   | 14 SiO2  | 87.2434 | 72.5656   | 0.238200 | 200007 | 0.0632 |
| 5   | 15 P2O5  | 0.7157  | 0.3494    | 0.000000 | 2401   | 0.1127 |
| 6   | 16 S     | ref     |           |          |        |        |
| 7   | 19 K2O   | 0.2406  | 0.1272    | 0.027000 | 28121  | 0.0632 |
| 8   | 20 CaO   | 0.0414  | 0.0728    | 0.000000 | 4263   | 0.0398 |
| 9   | 21 TiO2  | 0.0270  | 0.0217    | 0.000000 | 20070  | 0.0446 |
| 10  | 22 V2O5  | 0.0192  | 0.0074    | 0.000100 | 444    | 0.0099 |
| 11  | 26 FeO   | 0.1800  | 0.1660    | 0.017000 | 7400   | 0.0217 |
| 12  | 27 CoO   | 0.0202  | 0.0087    | 0.000000 | 20200  | 0.0019 |
| 13  | 37 Rb2O  | 0.0176  | 0.0048    | 0.000000 | 2760   | 0.0133 |
| 14  | 38 SrO   | 0.024   | 0.0100    | 0.000000 | 2720   | 0.0148 |
| 15  | 40 ZrO2  | 0.0297  | 0.0109    | 0.002100 | 2632   | 0.0168 |

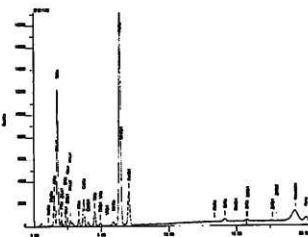
10赤色系



ファイル名: E:\データ\11.20°C 測定日時: 2009年10月22日 18時51分59秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 8.330mA 517 f/L 600.00sec /LX Vac  
測定場所: 環境  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Num | 元素 / 化学式                          | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値      | 標準値    |        |
|-----|-----------------------------------|---------|-----------|----------|--------|--------|
| 1   | 11 Na <sub>2</sub> O              | 0.6235  | 0.3289    | 0.000700 | 268    | 0.6935 |
| 2   | 12 MgO                            | 0.1281  | 0.1759    | 0.000700 | 585    | 0.1286 |
| 3   | 13 Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 17.8647 | 17.4176   | 0.000000 | 20070  | 0.2084 |
| 4   | 14 SiO <sub>2</sub>               | 82.0177 | 68.0802   | 0.043700 | 143140 | 0.2448 |
| 5   | 15 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 2.8860  | 1.3360    | 0.000000 | 8760   | 0.1541 |
| 6   | 16 S                              | 1.1179  | 0.5460    | 0.000000 | 5272   | 0.0983 |
| 7   | 19 K <sub>2</sub> O               | 1.2488  | 0.6941    | 0.000700 | 8167   | 0.0713 |
| 8   | 20 CaO                            | 0.0406  | 0.0708    | 0.000100 | 38680  | 0.0217 |
| 9   | 21 TiO <sub>2</sub>               | 0.0287  | 0.0234    | 0.000700 | 22350  | 0.0442 |
| 10  | 22 V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 0.0192  | 0.0074    | 0.000000 | 444    | 0.0099 |
| 11  | 26 FeO                            | 0.1713  | 0.1600    | 0.011100 | 10750  | 0.0217 |
| 12  | 27 CoO                            | 0.0202  | 0.0087    | 0.000000 | 20070  | 0.0019 |
| 13  | 37 Rb <sub>2</sub> O              | 0.0176  | 0.0048    | 0.000100 | 1125   | 0.0133 |
| 14  | 38 SrO                            | 0.024   | 0.0100    | 0.000000 | 1486   | 0.0148 |
| 15  | 40 ZrO <sub>2</sub>               | 0.0297  | 0.0109    | 0.000000 | 2624   | 0.0168 |

11a付着物

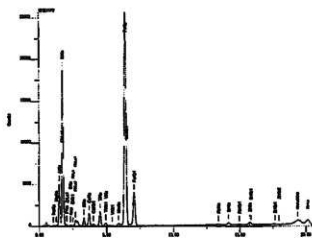


ファイル名: E:\データ\11.20°C 測定日時: 2009年10月22日 18時52分22秒  
測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 8.330mA 517 f/L 600.00sec /LX Vac  
測定場所: 環境  
分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Pb

| Num | 元素 / 化学式 | wt (%)  | at/(mol%) | 測定値      | 標準値    |        |
|-----|----------|---------|-----------|----------|--------|--------|
| 1   | 11 Na2O  | 0.6102  | 0.3172    | 0.001500 | 185    | 0.6917 |
| 2   | 12 MgO   | 0.1272  | 0.1751    | 0.000000 | 450    | 0.1271 |
| 3   | 13 Al2O3 | 18.8622 | 17.4722   | 0.007000 | 27172  | 0.2084 |
| 4   | 14 SiO2  | 82.4801 | 68.4880   | 0.043000 | 138176 | 0.1880 |
| 5   | 15 P2O5  | 2.9912  | 1.3324    | 0.000000 | 7764   | 0.1814 |
| 6   | 16 S     | 1.1021  | 1.1107    | 0.000000 | 4970   | 0.0716 |
| 7   | 19 K2O   | 1.2653  | 0.6786    | 0.001000 | 7626   | 0.0716 |
| 8   | 20 CaO   | 0.0412  | 0.1071    | 0.000000 | 34193  | 0.0219 |
| 9   | 21 TiO2  | 0.0287  | 0.0234    | 0.000447 | 19648  | 0.0442 |
| 10  | 22 V2O5  | 0.0192  | 0.0074    | 0.000000 | 444    | 0.0099 |
| 11  | 26 FeO   | 0.1694  | 0.1592    | 0.007200 | 8032   | 0.0217 |
| 12  | 27 CoO   | 0.0202  | 0.0087    | 0.000000 | 20070  | 0.0019 |
| 13  | 37 Rb2O  | 0.0176  | 0.0048    | 0.000000 | 1125   | 0.0133 |
| 14  | 38 SrO   | 0.024   | 0.0100    | 0.000000 | 1486   | 0.0148 |
| 15  | 40 ZrO2  | 0.0297  | 0.0109    | 0.000000 | 2624   | 0.0168 |

11b付着物

Fig.8 蛍光X線分析結果③



ファイル名: E:\測定1\192\_192 測定日時: 2005年10月22日 4時 5分19秒  
 測定条件: 電圧: 20.0kV 電流: 1.22mA 917 P/A: 600.00sec /1A: Yes  
 測定部: 分析室  
 分析結果: Na, Mg, Al, Si, P, S, Cl, K, Ca, Ti, V, Mn, Fe, Ni, Sr, Zr, Rh

| Peak | 元素記号 | 原子序 | wt(%)   | at(Atom%) | 測定強度      | 積分強度   | 標準強度   |
|------|------|-----|---------|-----------|-----------|--------|--------|
| 1    | Na   | 11  | 0.0284  | 1.2262    | 0.0007597 | 225    | 0.0021 |
| 2    | Mg   | 12  | 0.0257  | 1.0134    | 0.0005489 | 161    | 0.0021 |
| 3    | Al   | 13  | 0.2722  | 14.8847   | 0.0009180 | 48488  | 0.2062 |
| 4    | Si   | 14  | 51.88   | 68.9617   | 0.0005176 | 191416 | 0.168  |
| 5    | P    | 15  | 0.0388  | 0.0382    | 0.0004353 | 9862   | 0.1848 |
| 6    | S    | 16  | 0.1071  | 0.1042    | 0.0003885 | 991    | 0.1072 |
| 7    | Cl   | 17  | 1.0664  | 1.1069    | 0.0000097 | 12468  | 0.1711 |
| 8    | Ca   | 20  | 1.8870  | 2.0188    | 0.0007072 | 21593  | 0.0028 |
| 9    | Ti   | 22  | 1.0126  | 0.0287    | 0.0000094 | 26766  | 0.0021 |
| 10   | V    | 23  | 0.0609  | 0.0057    | 0.0000710 | 849    | 0.0174 |
| 11   | Mn   | 25  | 0.2481  | 0.2505    | 0.0000444 | 7002   | 0.0088 |
| 12   | Fe   | 26  | 14.2462 | 6.0027    | 0.0000841 | 448132 | 0.0091 |
| 13   | Ni   | 27  | 0.0070  | 0.0122    | 0.0000063 | 2003   | 0.0023 |
| 14   | Sr   | 38  | 0.0848  | 0.0006    | 0.0000089 | 6988   | 0.0046 |
| 15   | Zr   | 40  | 0.1041  | 0.0025    | 0.0000013 | 7076   | 0.0021 |

11c土器

Fig.9 蛍光X線分析結果④

## 第V章 考 察

### 1. 若宮八幡宮遺跡津田島地点出土の石器について

荻 幸二

本遺跡では1万点を超える膨大な量の石器が出土しており、その殆どは弥生時代～古墳時代の所産と考えられ、他地域に産する石材も多量に見られ、当時の大分平野中央部の石器製作において拠点的な遺跡であることは間違いない。また、菅玉・勾玉・F玉などの玉類の成品・未成品が多数検出され、古墳時代後期の玉類の製作跡でもあったと推察される。

今のところ県内で弥生時代から古墳時代にかけての玉類の製作に関する報告は皆無に近く、重要な発見であったと考えられるので、本節では、玉作り製作に関することを中心に見てゆきたい。

#### 1. 玉類の製作の様相

ここでは、先述の菅玉・勾玉・F玉を初め、本遺跡で出土した玉類に関して、製作の様相を中心に観察していく。

##### ① ガラス玉 (第17表)

本遺跡からガラス玉は7点が出土しており、形態的には小玉が6点、F玉が1点という組成になっている。そのうち5点は時期が特

定できる遺構から出土しており、5世紀末～6世紀中葉の古墳時代後期に収まる。また、色彩的には青色を呈するものが4点、緑色のものが2点で、残る1点のF玉のみが藍色をしている。

法量的には、直径は0.2～0.55mm、重量0.01未満～0.25gと両一性がなく、絶対量も7点と多くなく、製作に関わる他の道具類も認められないため、本遺跡内で制作された可能性は低いと考えられる。

また、ガラスの成分については古環境研究所の厚意によって、青色及び藍色ガラスについて蛍光X線分析を行なった(第19表)。その結果、両者とも主成分の二酸化珪素が7～8割を占めたのは当然として、青色ガラスではその他の成分としてカリウム・アルミニウム・銅の順で比率が比較的高く、藍色ガラスではカリウム・アルミニウム・鉄・マンガン・リン・カルシウムの順で比率が比較的高くなっていった。両者とも鉛は殆ど見られず、カリウムガラスに属すると考えられ、また発色の違いは両者ともに比率の高いカリウム・アルミニウムではなく、銅と鉄・マンガンの成分によるか。

##### ② 紡錘車

紡錘車は玉類とは言えないが、玉類と共通する石材も用いられ、また製作方法・最終形態が類似するので、ここで採り上げることとする。

第18表 SH220出土石器の器種・石材別組成

| 器種     | 蛇紋岩 | サカイト | メノウ | 玉髓 | 石英 | 結晶岩 | 凝灰岩 | 緑泥岩 | 砂岩 | 角閃石<br>安山岩 | 安山岩 | 天草石 | ガラス | 合計 |
|--------|-----|------|-----|----|----|-----|-----|-----|----|------------|-----|-----|-----|----|
| 紡錘車    | 1   |      |     |    |    |     |     |     |    |            |     |     |     | 1  |
| 紡錘車未成品 |     | 1    |     |    |    |     |     |     |    |            |     |     |     | 1  |
| F玉     | 1   |      |     |    |    | 2   |     |     |    |            |     |     | 1   | 2  |
| 次加工割片  |     | 4    |     |    |    | 7   | 1   |     |    |            |     |     |     | 6  |
| 割・砕片   | 2   | 5    | 1   | 1  |    |     |     |     |    | 4          | 1   |     |     | 17 |
| 台石     |     |      |     |    |    |     |     | 1   | 1  |            |     | 3   |     | 5  |
| 砥石     |     |      |     |    | 1  |     | 1   |     |    |            |     |     |     | 2  |
| 台石/磨石  |     |      |     |    |    |     |     |     | 1  | 1          |     |     |     | 2  |
| 砥・磨片   |     |      |     |    | 14 |     |     |     | 1  |            |     |     |     | 15 |
| 合計     | 4   | 10   | 1   | 1  | 15 | 9   | 2   | 1   | 3  | 5          | 1   | 3   | 1   | 56 |



第19表 若宮八幡宮遺跡第1次調査出土ガラス玉の成分

| 測定条件: 電圧: 30.0kV 電流: 0.680mA ライブタイム: 300.00sec バス: Vac             |          |         |            |           |        |        |
|--------------------------------------------------------------------|----------|---------|------------|-----------|--------|--------|
| 定量条件: 定量法: 標準                                                      |          |         |            |           |        |        |
| 試料名: ガラス玉 SH220b区 上層一括                                             |          |         |            |           |        |        |
| 分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, S, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Zr, Rh, Ba  |          |         |            |           |        |        |
| Num                                                                | 元素/化学式   | wt(%)   | at/(mole%) | 測定強度比     | 積分強度   | 標準偏差   |
| * 1                                                                | 11 Na20  | 0.2125  | 0.2205     | 0.0014069 | 64     | 0.3550 |
| * 2                                                                | 12 MgO   | 0.4446  | 0.7094     | 0.0011385 | 331    | 0.1592 |
| 3                                                                  | 13 Al2O3 | 3.0348  | 1.9145     | 0.0041530 | 5109   | 0.0728 |
| 4                                                                  | 14 SiO2  | 80.8854 | 86.5887    | 0.1766997 | 228436 | 0.0469 |
| * 5                                                                | 15 P2O5  | 1.2480  | 0.5655     | 0.0044320 | 2944   | 0.0640 |
| 6                                                                  | 16 S03   | 0.0465  | 0.0374     | 0.0000559 | 174    | 0.0400 |
| 7                                                                  | 19 K20   | 8.0300  | 5.4828     | 0.0356250 | 40059  | 0.0308 |
| 8                                                                  | 20 CaO   | 1.1586  | 1.3289     | 0.0041266 | 6605   | 0.0300 |
| 9                                                                  | 22 TiO2  | 0.2390  | 0.1924     | 0.0006614 | 1844   | 0.0283 |
| 10                                                                 | 25 MnO   | 2.1013  | 1.9054     | 0.0103893 | 39457  | 0.0117 |
| 11                                                                 | 26 Fe2O3 | 2.2882  | 0.9217     | 0.0108916 | 45215  | 0.0116 |
| * 12                                                               | 37 Rb20  | 0.0230  | 0.0079     | 0.0004664 | 1554   | 0.0066 |
| * 13                                                               | 38 SrO   | 0.0146  | 0.0090     | 0.0002781 | 967    | 0.0073 |
| * 14                                                               | 40 ZrO2  | 0.0121  | 0.0063     | 0.0002405 | 696    | 0.0098 |
| * 15                                                               | 56 BaO   | 0.2614  | 0.1086     | 0.0021705 | 2070   | 0.0468 |
| 試料名: SH105 一括                                                      |          |         |            |           |        |        |
| 分析元素: Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Fe, Cu, As, Rb, Sr, Zr, Rh, Pb |          |         |            |           |        |        |
| Num                                                                | 元素/化学式   | wt(%)   | at/(mole%) | 測定強度比     | 積分強度   | 標準偏差   |
| * 1                                                                | 11 Na20  | 0.3778  | 0.4002     | 0.0018820 | 190    | 0.3800 |
| * 2                                                                | 12 MgO   | 0.3065  | 0.4991     | 0.0005848 | 380    | 0.1308 |
| 3                                                                  | 13 Al2O3 | 4.5418  | 2.9241     | 0.0046336 | 12742  | 0.0594 |
| 4                                                                  | 14 SiO2  | 76.6402 | 83.7331    | 0.1232005 | 356022 | 0.0650 |
| * 5                                                                | 15 P2O5  | 0.7472  | 0.3455     | 0.0020361 | 3024   | 0.0607 |
| 6                                                                  | 19 K20   | 11.9449 | 8.3237     | 0.0388474 | 97644  | 0.0256 |
| * 7                                                                | 20 CaO   | 0.5633  | 0.6594     | 0.0013822 | 4946   | 0.0265 |
| 8                                                                  | 22 TiO2  | 0.3216  | 0.2643     | 0.0006191 | 3859   | 0.0212 |
| 9                                                                  | 26 Fe2O3 | 0.9258  | 0.3806     | 0.0032068 | 29757  | 0.0097 |
| 10                                                                 | 29 CuO   | 2.6056  | 2.1503     | 0.0140348 | 142106 | 0.0067 |
| 11                                                                 | 33 As2O3 | nd      |            |           |        |        |
| 12                                                                 | 37 Rb20  | 0.0774  | 0.0272     | 0.0010109 | 7528   | 0.0063 |
| * 13                                                               | 38 SrO   | 0.0004  | 0.0003     | 0.0000054 | 42     | 0.0069 |
| 14                                                                 | 40 ZrO2  | 0.0574  | 0.0306     | 0.0007078 | 4579   | 0.0096 |
| 15                                                                 | 82 PbO   | 0.8900  | 0.2618     | 0.0138147 | 48054  | 0.0143 |

成品・未成品ともに古墳時代後期1-1期の所産と考えられるSH220からのみ出土している。SH220からは117点の石器類が出土しているが、所属時期のことを考慮すると弥生時代中期には利用が杜絶すると予測される姫島産黒曜石・腰岳系黒曜石・金山産サヌカイトと、大分県地域では縄文時代後・晩期には限定される器種である扁平打製石斧を除外すると、56点の石器が本聖穴建物跡に伴うと推察される(第19表)。

主な成品は臼玉と紡錘車のみであるが、臼玉はガラス・蛇紋岩製が各1点で未成品や製作に伴う剥片類も認められず、SH220内で製作したとは考えられない。一方、紡錘車は成品・未成品が見られ、製作に伴うと推測される剥片類も出土しており、SH220内で製作された蓋然性が高く、台石7点・砥石5点・敲石2点はその製作に直接関わったものと推察される。利用石材は成品の蛇紋岩と未成品のサヌカイトが想定されるが、残存数から後者の利用がより顕著である。また、サヌカイトの産地であるが、野田雅之氏から豊後大野市人野町ではないかと教示を受けた。

以下でSH220から出土した成品・未成品・調整剥片などから、紡錘車の製作工程の復原を試みることにする(第171図)。

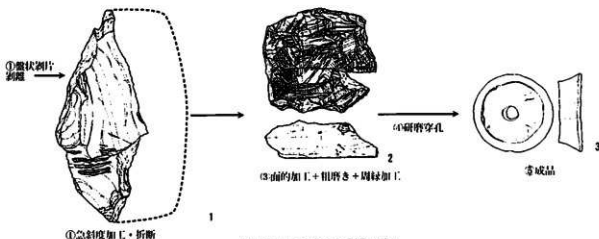
まず、製作工程初期の未成品として第171図1を挙げることができる。第119図38・39・41が接合しており、2種の加工が看取される。即ち、①表面中央左半の切縁用加工具と考えられる深い擦痕上の決りと、②左側縁上半部への裏面からの90度に近い急斜度の二次加工である。①は深い決りを何度も入れることでの切断、ないしはその後の加撃で折断することによる、全体形の整形と小形化を目的したと推測される。

第17図1は折断しない縁辺の外形線の粗い整形を期したと考えられる。なお本資料は、第171図3、更に実測していない割片1点とも同一個体と推測される。右半の破線部分は急斜度加工により欠損しており、そのために遺棄されたと考えられる。

次に製作工程の進展した未成品として第171図2が挙げられる。欠損して2個の遺物として出上しており、接合すると亀甲形を呈していたこと、そして、基本的に順序を辿れる3種の加工が施されていることが判る。即ち、最初にⅠ表・裏面の中央の平坦面を残した周辺部への斜度の大幅な面的加工——表面の方が顕著に行なわれており、整った亀甲形を見せるが、裏面は粗く部分的である——で、次いでⅡ表・裏面への無数の擦痕を伴った粗目の磨き整形——これも表面の方が著しく、ほぼ全面に及んでいるが、裏面は中央の平坦面に限定されている——で、最後にⅢ周縁部への急斜度の二次加工——裏面から正面へのみ加えられている——である。Ⅰは全体形の粗い整形と目指す大きさへの小形化を、Ⅱは表・裏面の平坦化を、Ⅲは外形線を凸レンズ状ないしは直線状にすることを、それぞれ目的にしていると推察される。なお、Ⅲは全周に及んでおらず、その途上で中央から欠損して製作を断念し、遺棄したものと考えられる。

更に、未成品（第171図2）と成品（第171図3）の差異から考慮すると、周縁部への更なる急斜度加工による外形線の整形——表・裏面及び側面への丁寧な磨き整形と穿孔が予測されるが、整形と穿孔の順序は判然とせず、また、成品からすると穿孔は片面からである。そして、未成品の両面中央の平坦部が表面で狭く、裏面で広いのは、最初から断面台形の成品を想定していたからだと推察され、また、表面の平坦面の広さが成品の直径を決定づけたと考えられる。

更に未成品（第171図1）から予測される素材を加味して、製作工程全体を考察すると、①礫片ないしは分割礫を石核として分厚い板状割片を剥離→②縁辺の急斜度調整+切刃用加工具による抉り入れからの折断による大まかな整形→③表・裏面への面的加工による粗整形と小形化+表・裏面の粗磨き整形+縁辺部への急斜度加工による外形線の整形、小形化→④表・裏・側面の研磨+穿孔の、4工程が復原される。



第171図 紡錘車の製作工程

### ③ 碧玉

碧玉は、成品は出上しておらず、未成品とその製作に伴う割片類が、出上した上器から弥生時代中期が最終埋没時期と推測されるSD120と6世紀半ば～後半の可能性のあるSI1100から出上しており、いずれもカンラン石製である。SD120については溝状遺構である上、明らかに他時期の遺物も含まれており、一括性に人に問題はあがあるが、割り引いて考えることとし、両遺構の碧玉製作に関わる可能性のある石器の組成が第20表である。

両遺構の所属時期は大きく異なるが、出上した遺物を見る限り、製作技法に大きな差異が感じられないので、以下カンラン石で両者を一括して製作工程の復原を試みる（第172図）。

第172図1（SD120出土）は二次加工割片だが、やや厚めの幅広割片を素材とし、上下端・左右側縁に折断が施されている。恐らく、このような折断され四角形状に整えた割片を棒状に折断分割して、碧玉の

第20表 SD120・SH100出土の管玉製作に関わる石器類の組成

| 遺構名   | 石 材     | 管玉未成品 | 次加工剥片 | 剥・砕片 | 敲 石 | 台石/敲石 | 台 石 | 凹 石 | 砥 石 | 合 計 |
|-------|---------|-------|-------|------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|
| SH100 | カンラン石   | 1     |       | 4    |     |       |     |     |     | 5   |
|       | 結 晶 片 岩 |       |       |      |     |       |     |     | 1   | 1   |
|       | 合 計     | 1     | 1     | 4    |     |       |     |     | 1   | 7   |
| SD120 | カンラン石   | 2     |       | 3    |     |       |     |     |     | 5   |
|       | 蛇 紋 岩   |       |       |      | 6   |       |     |     |     | 6   |
|       | 結 晶 片 岩 |       |       |      | 1   | 1     |     |     | 1   | 3   |
|       | 緑 泥 片 岩 |       |       |      |     |       |     | 1   |     | 1   |
|       | 砂 岩     |       |       |      | 1   | 1     | 2   |     | 1   | 5   |
|       | ガラス質安山岩 |       |       |      |     |       | 1   |     |     | 1   |
|       | 安 山 岩   |       |       |      | 1   | 1     | 7   |     |     | 9   |
|       | 角閃石安山岩  |       |       |      | 2   | 3     | 14  |     |     | 19  |
|       | 凝 灰 岩   |       |       |      |     |       | 1   |     | 2   | 3   |
|       | 合 計     | 2     |       | 3    | 11  | 6     | 25  | 1   | 4   | 52  |

直接的な素材を形成すると推測されるが、そのような資料は本遺跡からは出土していない。

第172図2は縦長の調整剥片で、棒状に分割した素材の上下端を打面として側面から剥離し、更に左右方向からの微細な剥離も行なわれ、四角柱に近い形状に整形することを目的とすると考えられる。

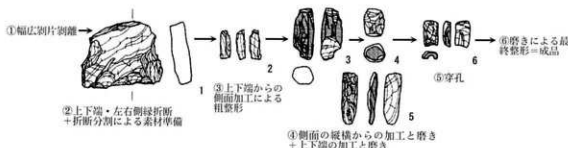
第172図3 (SH100出土) は整形はなお粗く、断面は分厚い凸レンズ状に近く、外形線も紡錓形を呈しており、上下端も平坦面を形成していないが、上下端を除く面には表裏面・左右側面と4単位に分割されており、磨き整形が施されている未成品である。下端を平坦化する調整を施す時点で下端から裏面下半にかけて欠損し、製作を断念して遺棄したと推測される。

第172図4 (SD120出土) は、側面には縦横方向からの加工痕が残るものの、磨き整形が施され始めて断面は不整楕円形状を呈し、上下端も平坦化して磨き整形が認められる、第172図3よりも工程が進んだ未成品である。この段階の縦割れした欠損品として第172図5 (SH100出土) があり、表面には縦横方向からの整形痕、側面には磨き整形が看取される。

第172図6 (SD120出土) は4に穿孔が実施された未成品で、下端から中央に及ぶ穿孔と上端から中央部に達しない穿孔が看取され、上端からの穿孔の初期に縦割れ欠損を起こしたため製作を断念し、遺棄したものと推測される。一般的な成品と本資料の差異を比較すると、穿孔の後、側面部への最終的な磨き整形を施して、断面円形に仕上げたであろう。

総合すると、①石核からのやや厚めの幅広剥片の剥離→②上下端・左右側縁の折断+折断分割での棒状素材の準備→③上下端からの側面加工で素材の四角柱化による粗整形→④側面の左右側縁からの調整と粗磨き+上・下端への調整と磨きで平坦化することによる整形→⑤上下端からの穿孔→⑥磨きによる最終整形、という6段階の製作工程が推察される。

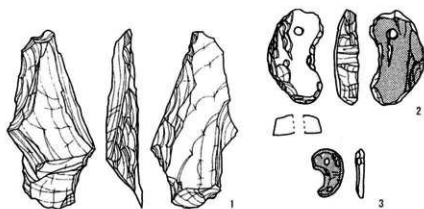
なお、SD120の最終埋没段階は出土土器からは弥生時代中期と判断されているが、両遺構出土の管玉の製作技法の類似と石材の共通性から、少なくとも管玉製作関連品に関しては同時期の可能性がある。また、第172図4・6の未成品から、成品の長さが1.0cm未満と推測され、他遺跡出土の一般的な管玉の長さからすると、やや短いのが本遺跡の管玉の特徴であると言えよう。



第172図 管玉の製作工程 (2/3)

#### ④ 勾 玉

勾玉関連品が出土しているのは、古墳時代後期の所産のSH135のみである。利用された石材は蛇紋岩で、成品1・未成品1・製作途中と推測される二次加工剥片1（第173図3・2・1）で、若干の剥片類も検出されて



第173図 SH135出土の勾玉関連品（1/1）

いるが、白玉の製作も行なわれており、どちらの器種に帰属するのか不明なのでここでは採り上げない。敵石・台石・砥石も多数出土しており、製作自体は明確だと考えられるが、白玉・白玉未成品が90点余出土しているのに比較すると、勾玉の製作は小規模である。

第173図1は二次加工剥片で、周縁部に折断加工ないしは急斜度調整を施しており、縦長に近い形状になることを目的にしていると推測される。

第173図2は未成品で、表・裏面には若干の加工痕が残るものの磨き整形が施されており、また裏面からの穿孔も見られるが側面部は加工痕や擦り切り痕がそのまま残存し、磨き整形が為されておらず、全体形がなお歪である。

第173図3は成品で、2との差異から表・裏面及び側面への最終的な磨き整形が介在したものと推察される。

この3点を並べてみると、明らかに製作工程に抜け落ちが看取される。先ず素材剥片の欠如と、1の長方形に近い折断剥片から2の未成品の間に勾玉形状化するための片側縁の挟み込み加工である。石核と素材剥片の欠如は、素材の剥離という製作工程の前半段階が他遺構もしくは他遺跡で行なわれ、SH135では若干の素材が持ち込まれ、製作の後半段階が主に実施された可能性が高い。

SH135では製作工程の全段階を復元することは不可能なので、本道跡内から出土した蛇紋岩製の全石器を見渡してみた。すると、同時期性に問題はあがあるが、第173図1・2の間を埋める資料をピックアップすることができた。即ち、G-12グリッド出土の資料（第174図2）で、周縁部に折断及び急斜度加工によって縦長に近い形状に整えた後、左側縁中央部に半円形の挟みを入れる急斜度調整を施して、勾玉形状の前半段階を作り出している。ここには、鑿状の間接ハンマーの存在が予想される。また、蛇紋岩製ではなく同様の質感を持つ粘板岩製だが、同様の加工によって酷似する形態を形成している資料も見出せた。即ち、第174図3（SD120出土）で、やはり周縁部に折断・急斜度加工を施して縦長に整えた後、左側縁中央部に半円形の挟みを入れる急斜度調整を施している。

これから勾玉の製作工程を想定すると、①幅が広くやや厚めの横長に近い剥片の剥取→②素材剥片の周縁に折断・急斜度加工を施して長方形に近い縦長形状を形成→③片側縁中央部に急斜度調整によって半円形の挟みを入れ、勾玉形の前形態を準備→④周縁部に90度に近い加工施して意図した大きさにすると共に、勾玉形に整形→表・裏面に粗磨き→穿孔→⑤側面・表裏面への磨きによる最終整形、となる。

なお、カンラン石製の④段階の未成品（第174図5）が、時期不明のSH370から出土している。カンラン石製の砕片も相伴しており、少なくとも④・⑤という最終段階の製作工程がSH370で行われた可能性がある。また、勾玉の成品のサイズは、第174図4・5から想定される2cm程度のものと、第174図6のように1cm程度のものの2種が最低でも存在するようで、それらは素材剥片時の大きさから差異を有していたと推察される。



第174図 勾玉の製作工程

## ⑤ 白玉

白玉の成品ないしは成品にごく近い未成品は、SH130・135・220の3竪穴建物跡から出土しており、使用されている石材は全て蛇紋岩ないしはカンラン石である。

そのうち、SH220からは蛇紋岩製白玉の成品が1点のみ出土しているだけで、白玉の製作に関わるような蛇紋岩・カンラン石の石器は全く認められず——蛇紋岩製の石器では他に紡錘車の成品が1点検出されただけである——、当該遺構での白玉製作の可能性は低い。

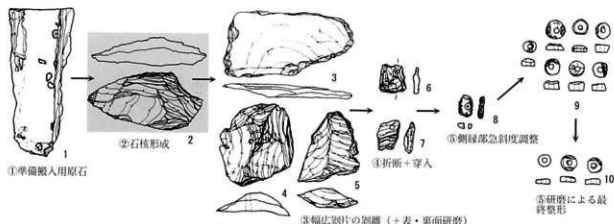
SH135では、白玉の製作に関わると考えられる蛇紋岩・カンラン石製品が34点出土しており、変成度が異なるだけで色彩・質感の似る蛇紋岩と、本道跡を遺した人々から同様の扱いを受けたと推測される千枚岩も併せて35点を第21表に提示した。未成品で、①としたのは製品にごく近く、磨き整形が施されてほぼ円形となっているもので、②はその前段階で周縁部は折衝・急斜度加工のみで、形状がなお四角形を成すものとして、区別した。蛇紋岩は、製作工程最初期の搬入用原石、剥・砕片、二次加工剥片、未成品①・②、成品と、石核・素材剥片を欠くものの、ほぼ製作工程に関わる一連の器種が揃っており、当該遺構内で白玉が製作されたと推定される。カンラン石も二次加工剥片、剥・砕片、未成品①、成品を有し、少なくとも製作工程の後半段階は同道構内で行われたと推測される。

SH130では、蛇紋岩は石核・剥片・未成品①を各1点、カンラン石も剥・砕片6、未成品①を1点ずつ有しており、SH135に比べると小規模ながら、白玉の若干の製作が実施された可能性がある。

ここで、表で両遺構を通じて両石材を対照してみると、器種的に大きな違いが認められる。即ち、蛇紋岩は搬入用原石・未成品②を持つが、カンラン石は有さないことである。これは、SH135でカンラン石の白玉製作は素材剥片を持ち込んで以降の後半段階のみが実施されたことを示している訳ではなく、両石材ともに製作の全工程が為されたが、両石材の大きさ・搬入量の違いによって、残り方が異なっていると推察される。これは、両遺構を併せて、蛇紋岩が18個・1244.2gなのに対し、カンラン石は33個・23.9gとなっており、個数的には後者が2倍近い（白玉・未成品①の個数でも同様）のに、重量では前者が約52倍となっていることが立証している——道跡全体を俯瞰しても同様で、蛇紋岩類は193点・4542.8g出土しているが、カンラン石は84点・153.7gしか検出されておらず、1個平均の重量も後者は1.8gしかないのに、前者は約13倍の23.5g有している——。つまり、蛇紋岩は一定以上の重量と大きさを持った大礫ないしは礫片で持ち込まれているのに対し、カンラン石は最大で数10g程度の小形の礫・礫片での搬入が予測され、両石材の器種の異同から白玉の製作技法にも差異が生じたと推測される。

第21表 SH135・SH130出土の白玉関連遺物

| 遺構名   | 石材     |   | 蛇紋岩            | カンラン石         | 千枚岩         | 合計 |
|-------|--------|---|----------------|---------------|-------------|----|
|       | 器種     | 玉 |                |               |             |    |
| SH135 | 白玉     |   | 3              | 8             |             | 11 |
|       | 白玉未成品① |   | 5              | 8             |             | 13 |
|       | 白玉未成品② |   | 4              |               |             | 4  |
|       | 二次加工剥片 |   | 1              | 1             | 1           | 3  |
|       | 剥・砕片   |   | 1              | 9             |             | 10 |
|       | 分 割 礫  |   | 1              |               |             | 1  |
| SH130 | 合 計    |   | 15             | 26            | 1           | 42 |
|       | 白玉未成品① |   | 1              | 1             |             | 2  |
|       | 剥・砕片   |   | 1              | 6             |             | 7  |
|       | 石 核    |   | 1              |               |             | 1  |
|       | 合 計    |   | 3              | 7             |             | 10 |
| 合 計   |        |   | 18個<br>1244.2g | 33個<br>23.87g | 1個<br>11.6g |    |



第175図 蛇紋岩製白玉の製作工程

何となれば、蛇紋岩は、搬入用原石・直接的な白玉素材よりかなり大形の二次加工割片の存在と、時期は若干異なるがSH130から蛇紋岩製の石核が検出されていることも加味して勘案すると、搬入用原石（一石核）→素材割片→折断→穿孔→加工→研磨→成品という工程が想定されるのに対して、カンラン石では、（小礫片→石核→小形素材割片）→折断→加工→粗研磨→穿孔→側面研磨→成品という製作過程が予測される。

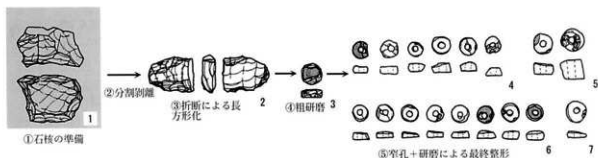
製作工程の詳細については以下で復原してゆく。

まず、蛇紋岩製だが（第175図）、①搬入用原石の形で持ち込み→②石核の形成→③小形幅広割片の剥取→④折断もしくは切断による整形・小形化+穿孔→⑤側縁部の急斜度調整による小形長方形・正方形化+表・裏面への面的調整による平坦化→⑥表裏面・側面への研磨による最終整形、という6段階の工程が想定される。なお、第175図5は遺跡一括資料だが、周縁の一端（2か所）を折断し、縁辺への若干の二次加工を行ない、縁辺の薄い部分から折断を始めようとしている、第175図4に類似する資料である。第175図4の切断には石鋸の存在が、第175図5の折断には先端の小さな鑿状の金属製間接ハンマーの存在が予想される。また、第175図4の裏面全面と、表面の甲高な部分には研磨が看取され、素材割片に重みが大きい場合には切断（折断）の前に研磨の工程が挟まることもあるようである。

但し、この工程とは別系統の資料の存在が第175図3である。即ちこれは、いわゆる「板状加工品」と称されるもので、表・裏面に研磨が、上下側縁に表・裏面からの擦り切りの痕跡が認められ、左右側縁も直線状にするための急斜度調整が看取される。しかし、西北九州で一般的な、表・裏面から格子目状の擦り切りを施して板チョコ状とし、方形チップを折り取っていくのではなく、擦り切りは上下側縁の縦方向のみに限られ、横方向には認められない。これは松尾尚哉氏の提唱された、板状加工品に縦方向の切れ込みを入れて折り取った「棒状素材」（松尾 2005）に形態的には似る。だが、その棒状素材も板状加工品を元として、数枚の棒状素材が折り取られるのが原則で、板状加工品の素材割片はかなりの大形品であると推察される。が、第175図3は、擦り切りによって折断される前の大きさが、主要剥離面のリングの観察からすると、現況と大きく異なるとは考えられず、1枚の素材割片から1枚の棒状素材しか作られておらず、しかも折り取られる方形チップの数はせいぜい3枚程度と推測される。しかし、小形の素材割片から1枚の方形未成品が作られる工程とは別系統であるのは明瞭である。

更に、研磨痕を残す方形チップが全く検出されていないことから、一般的にあり方とは考えられない。或いは、蛇紋岩の産地を有する佐賀県方面（＝南海部郡）からの搬入品である可能性も予想される。

次いで、カンラン石製だが（第176図）、①礫・礫片を分割して石核を準備→②素材割片を分割に近い技法で剥離→③表・裏面研磨と折断・急斜度調整によって正方形に近い形状に整形→④側面への二次加工・粗研磨→⑤穿孔+研磨による最終整形、という5段階の製作工程が復原される。第176図1はグリッド一括遺物だが、分割に近い剥離が認められる石核で、サンプルとして採り上げておく。また、第176図2はSH135から出土しており、折断して正方形に近い形状に整形された資料だが、裏面に鑿ないしは楔による分割剥離の際の微細な剥離痕が打面側に残る資料である。両者とも事実記載の項では実測図を載せていない。



第176図 カンラン石製白玉の製作工程

蛇紋岩製白玉との著しい差異は、穿孔の段階と折断・切断による小形化の段階を経ない点である。穿孔は、蛇紋岩では研磨の前に、カンラン石では粗研磨の後である。これは、カンラン石の方が硬質で厚めの素材が剥離されるために、穿孔が粗研磨の後でも欠損することはないが、蛇紋岩ではやや軟質で、平坦剥離や研磨によって薄くした後は石材が保たないためだと考えられる。白玉の製作技法の基本線は変わらないが、両者に現れる差異は、石材に即した臨機応変な対応だと推察される。

最後に、本遺跡で製作された白玉の大きさについて見ていくが、ここでは、成品と成品にごく近い未成品①の直径と重量を採り上げる。

Fig.10に示したように、白玉の成品は、直径は0.325~0.525cm、重量は0.03~0.09gの間に収まる。が、2つのまとまりが図から見て取れる。即ち、長径0.40~0.475cm・重量0.03~0.06gの範囲に入る小形群と、長径0.45~0.575cm・重量0.06~0.10gの範囲に入るやや大形群の2群で、直径で約0.10cm、重量で約0.03gの差を有する。小形の1群は1点を除き全てカンラン石であり、やや大形の1群は蛇紋岩とカンラン石が相半ばし、蛇紋岩の方がカンラン石より大形のものが明らかに多い。これは未成品①においても同様で、カンラン石では殆どが直径0.575cm以下・重量0.08g未満に収まるが、蛇紋岩では直径0.45~0.625cm・重量0.06~0.16gとかなりの差が認められ、また蛇紋岩の成品と未成品に通じて見られる長径・重量比と、カンラン石のそれには明らかな違いが看取される。これは、製作工程の復原のところでも述べたが、両石材の搬入原石の大きさや剥離される素材剥片の大きさの違いに大きく拠っていると推察され、石材によって大きさの異なる白玉を製作することを最初から意図していた可能性が高い。

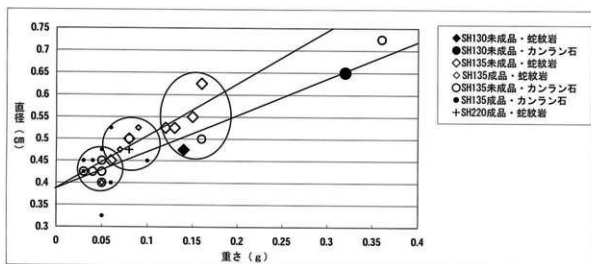


Fig. 10 SH130・135出土白玉の大きさ

## 2. 玉類の製作に関わる道具類

ここでは、玉類の製作に使用された石製の道具類であろうと推測される、敲石・台石・砥石を取り上げて検討してゆく。その際、玉類の製作が行なわれた可能性のあるSH100・130・135・220・370の5堅穴建物跡から出土したものを中心に扱ってゆく。

### ① 敲 石

敲石は、既述の5堅穴建物跡のうちSH135・220・370の3軒から6点しか検出されておらず、検討するには少ないので、古墳時代の所産であると考えられる他の遺構から出土したもの、ここでは取り扱うものとする。

古墳時代の遺構から出土した敲石は12点で、その出土遺構と属性について記載したのが第22表である。

石材としては全て自然礫で、角閃石安山岩が4点と最も多く、次いで砂岩が2点とそれに次ぎ、他はチャート・安山岩・緑泥片岩・石英・凝灰岩・蛇紋岩が各1点という構成になっている。大部分は在地の河原で容易に入手できるものであり、蛇紋岩・石英については、大分市東端の佐賀岡町産であると推測され、両石材ともに円礫の形で何に利用されたのかは不明だが、本遺跡内に大量に搬入されている。緑泥片岩についても結晶片岩と共に大量に搬入されており、同じく佐賀岡産と推定される。また凝灰岩については、何種類かが認められるが、比較的均質で良質のものは雄城台産で、一定量が遺跡内に持ち込まれ、台石・砥石等に利用されている。

利用された自然礫の形状には、2種に大別することが可能である。即ち、棒状を呈するものと、楕円形ないしは不整楕円形のものであり、前者が5点、後者が8点で組成に偏りはない。重量的には、最小で12.0g、最大で590.0gとかなりばらつきが見られる。50.0g未満のものを小形、50.0g以上100.0g未満のものを中形、100.0g以上のものを大形と便宜的に分類すると、小形が1点、中形が4点、大形が7点となる。3種類のサイズの敲石の存在は、対象物によって使い分けられていたからだと推測される。何となれば、蛇紋岩製の礫ないしは礫片を分割・石核の粗整形をする段階では大形～中形品が、素材剥片の剥離や分割粗整形の段階では中形品が、半円剥離や側面部への細部整形には小形品が用いられる、というような使い分けが予測される。なお、切斷・折斷などの加工には鑿や楔のような金属製品の間接ハンマーの使用も、半円形の挟りが認められる二次加工剥片の存在から予想される。なお、半ば程度欠損している2点の敲石については、現状の重量を2倍にすることで復原予想した重さを提示している。

第22表 古墳時代の遺構から出土した敲石の属性

| 出土位置     | 属性   | 石 材     | 重 量(g)  | 大 き さ | 形 状 | 機能部位     | 併用機能 | 備 考    |
|----------|------|---------|---------|-------|-----|----------|------|--------|
| SH110    | P163 | チャート    | 93.6    | 中     | 棒 状 | 上下端      | —    |        |
| SH135    | P214 | 角閃石安山岩  | 325.0   | 大     | 楕円形 | 上下端      | 台石   |        |
| SH135    | P218 | 角閃石安山岩  | (217.6) | 大     | 楕円形 | 下端       | 台石   | 半欠損    |
| SH135    | P316 | 安 山 岩   | 590.0   | 大     | 楕円形 | 上下端      | 台石   |        |
| SH135一括① |      | 砂 岩     | 68.0    | 中     | 棒 状 | 上下端      | —    |        |
| SH140    | P137 | 砂 岩     | 122.0   | 大     | 楕円形 | 下端       | —    |        |
| SH145    | P28  | 角閃石安山岩  | 334.5   | 大     | 楕円形 | 上下端・左右側縁 | 台石   |        |
| SH220    | P39  | 凝 灰 岩   | 172.4   | 大     | 棒 状 | 上下端・左右側縁 | —    |        |
| SH220    | P290 | 石 英     | 89.6    | 中     | 楕円形 | 上下端・右側中央 | —    |        |
| SH370一括② |      | 蛇 紋 岩   | (12.0)  | 小     | 楕円形 | 上下端      | —    | 縦割れ半欠損 |
| SB008一括  |      | 緑 泥 片 岩 | 82.8    | 中     | 棒 状 | 上下端・片側縁  | —    |        |
| SB019一括  |      | 角閃石安山岩  | 416.0   | 大     | 棒 状 | 上下端・左右側縁 | 砥石   |        |



機能部位については、12点中8点が棒状・楕円形を問わず、縦長に置いた時の上下端ないしは下端のみの端部に潰れ痕が認められるが、残る4点については左右側縁部にも看取される。が、基本的には上下の端部を機能部位として用いるのが一般的であると考えられる。

また、13点中4点は別の機能を併せ持っている。即ち、表・裏面或いは片面に敲打痕が看取され、台石としても使用されており、他の1点は研ぎによると考えられる擦痕が認められ、砥石でもあったと推察される。その全てが、一定以上の重量を必要とする台石と機能を併用するためか、200.0g以上を有する大形品である。

全ての属性を総合的に観察してみると、次のようなことが言える。即ち、大形品には在地で入手が容易な角閃石安山岩・安山岩・砂岩が用いられ、中形品には、珪質・ガラス質で若干の稀少性を有するチャート・石英が多く、小形品は古墳時代の確実な所産の製品としては蛇紋岩製1点のみだが、本遺跡内からは蛇紋岩・石英の円盤製のものが割合と出土している。つまり、小形ほどガラス質か緻密質の石材が用いられているようである。

## ② 台 石

台石も、玉類の製作が行なわれた可能性のある5軒の竪穴建物跡のうちSH135・220の2軒からしか検出されていないが、16点出土しており（第23表）分析に堪え得ると考えられるので、検討を試みる。

石材的には、16点中12点と75%が角閃石安山岩製で占められる。残りは凝灰岩製2点、安山岩・砂岩製各1点という構成になっている。先述のように、一定量以上本遺跡内に搬入されている雄城台産と推測される凝灰岩を除くと、全て在地の河原で容易に入手できる石材が利用されているのが判るが、その比率は砥石よりも高い。

大きさとしては、長さと重さの2点に考慮して、11.0cm未満・600g台までの大人の掌サイズで、容易に持ち運び可能なものを小形、長さ・重量ともにそれ以上で据え置きサイズのもの大形に大別した。但し、SH135 P398の長さは18.0cmを超えるが、幅が小さく、軽質の凝灰岩製のため600g台で収まるため、小形の方に入れた。大・小の組成比を両竪穴建物跡で比較してみると、SH135は5：3と小形の方が多く、SH220は1：4と大形の方が多い。これは、製作されている石器の種類によると推察される。何となれば、SH135は白玉・勾玉と小形の玉類を製作しているのに対して、SH220は管玉の製作も若干認められるが、大勢は紡錘車が製作されている。径が約0.5cmの白玉に対して、4.0cmを超える紡錘車は実に8倍以上に達する。つまり、その差が台石の大きさの組成比の差に繋がっていると考えられる。また、セットで使用される砥石のサイズとも連動していると考えのが妥当だろう。

形状は、大きく多角形のもの楕円形のものに大別される。これは周縁整形を為されるかどうかと有機的に結び付いていると言える。即ち、自然産をそのまま利用したものは楕円形ないしは不整形楕円形のものが多いのが一般的で、周縁整形を施されたものは製作者の好みによって三角形以上の多角形に仕上げられている。殊に、SH220 P199の安山岩製の資料は、側縁部に磨き整形も施すほど丁寧に作られている。しかし、周縁整形されていないものの方が多く、当時の人々が整形に拘っているとは考えられず、使い易い大きさ・形状をした産ないしは断片ならそのまま用いているという印象を受ける。

第23表 SH135・220から出土した台石の属性

| 遺跡名   | P 番      | 石 材    | 長さ (cm) | 重量 (g)  | 大きさ | 形状  | 整形加工 | 機能部位 | 併用機能 | 備 考    |
|-------|----------|--------|---------|---------|-----|-----|------|------|------|--------|
| SH135 | P247     | 角閃石安山岩 | 8.90    | 630.0   | 小   | 多角形 | 無    | 表・裏面 | —    | —      |
|       | P82      | 角閃石安山岩 | —       | (1115)  | 大   | —   | 有    | 表・裏面 | —    | 破片     |
|       | P158     | 凝 灰 岩  | 6.55    | 54.7    | 小   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | 凹石     |
|       | P159     | 角閃石安山岩 | 14.25   | 1810    | 大   | 多角形 | 有    | 表・裏面 | —    | 若干欠損   |
|       | P214     | 角閃石安山岩 | 9.90    | 325.0   | 小   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | —      |
|       | P218     | 角閃石安山岩 | (4.30)  | (217.6) | 小   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | —      |
|       | P316     | 角閃石安山岩 | 10.25   | 590.0   | 小   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | —      |
|       | P398     | 凝 灰 岩  | 18.20   | 640.0   | 小   | 台形  | 有    | 表・裏面 | —    | —      |
|       | P472     | 角閃石安山岩 | —       | —       | —   | —   | —    | 表・裏面 | —    | —      |
|       | P485     | 角閃石安山岩 | 23.90   | 2780    | 大   | 三角形 | 無    | 表・裏面 | —    | 破片     |
| SH220 | SP965 P1 | 角閃石安山岩 | (17.55) | (2175)  | 大   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | 1/3欠損  |
|       | SP981 P1 | 角閃石安山岩 | (11.80) | 880.0   | 大   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | 若干欠損   |
|       | P158     | 角閃石安山岩 | —       | —       | —   | —   | 有    | 表・裏面 | —    | 磨石     |
|       | P199     | 安 山 岩  | 10.00   | 520.0   | 小   | 四角形 | 有    | 表・裏面 | —    | 破片     |
|       | P305     | 角閃石安山岩 | 16.60   | 470.0   | 大   | 三角形 | 有    | 表・裏面 | —    | 側面磨き整形 |
|       | SP965 P2 | 砂 岩    | 12.70   | 860.0   | 大   | 楕円形 | 無    | 表・裏面 | —    | 磨石     |
|       | —        | —      | —       | —       | —   | —   | —    | —    | —    | —      |

機能部位は、2点を除く全ての製品が表・裏面となっており、敲打痕も顕著なものが多く、かなり高い頻度で長期に亘って使用されたものと推察される。

まとめると、本道跡の玉類を製作している竪穴建物跡で使われていた台石は、殆どが在地で容易に入手可能な石材を利用しており、積極的な周縁整形を施す傾向は見受けられず、持ち運び可能な小形と据え置き用と推測される大形の2種に大別され、それは対象となる玉類の大きさ・製作工程の進度に応じて、大・中・小形の敲石と連動して使い分けられるようで、表・裏面に顕著に認められる敲打痕から頻繁かつ長期に亘って使用されたものが多い、と言える。

### ③ 砥石

砥石は、玉類の製作を行なった可能性のある竪穴建物跡のうち3軒から12点が出土している。

石材としては、佐賀関産と考えられる緑泥片岩製が4点と最も多く、熊本県天草諸島に産する流紋岩系の天草石製が3点とそれに次ぎ、在地的で入手が容易な角閃石安山岩・砂岩・凝灰岩製が2・1・1点、やはり佐賀関産と推測される結晶片岩が1点という構成になっている。つまり、遠隔地産（天草石）と比較的近距離だが在地的ではない佐賀関産（緑泥片岩・結晶片岩）が3/4を占め、在地的石材（角閃石安山岩・砂岩）が1/4しか検出されていない。即ち、同じ玉類製作に関わる道具でありながら、台石では9割以上、敲石でも3/4を在地的石材で占有される状況とは全く異なる。

大きさ的には、長さ9.5cm未満・重量300g未満の持ち運びが容易な小形サイズのもので、不明品を除き6点と半ばを占め、長さが9.5cm以上14.0cm未満の中形品が4点、据え置き型の長さ26.0cm・重量1400gの特品1点という構成になっている。中形は更に重量が、300g未満の薄型と500gを超える厚型に細分される。中形薄型は小形品と同様に持ち運びが容易であったと推測され、中形厚型品はどちらかと言えば据え置きタイプと推察される。薄型か厚型の境界値は長さ2.5cmに置いたが、結晶片岩・緑泥片岩は全て薄型で、角閃石安山岩・天草石・凝灰岩は全て厚型と、石材に規制されている。なお、欠損しているものは長さ・重さ共に補正してある。

周縁整形の加工技術としては、急斜度の二次加工・折断・敲打・擦り切り（切断）の4種類を挙げることができるが、敲打は折断と結びついており、単独で用いられた例は本道跡にはない。周縁整形の見られない例は12点中3点と1/4に過ぎず、整形するのが一般的である。また、擦り切りの技術は天草石製にのみ用いられており、形状は他石材の殆どと異なり直方体が殆どとなっており、外来的な要素であるといえ、原石・素材・調整剤などの資料を欠き、製品搬入の可能性が非常に高い。緑泥片岩製で折断により直方体を呈する例が1点認められるが、天草石製砥石を真似て作られたものと推測される。周縁整形の施されないものは、自然磨きそのままの形状で、楕円形ないしは不整楕円形を呈し、二次加工を行なったものでは楕円形と台形・平行四辺形の2種に分かれる。外来品と考えられる天草石製を除くと、本道跡の玉類に関わる砥石では楕円形・四角形が主流と言える。

第24表 SH100・135・220から出土した砥石の属性

| 遺構名   | P番        | 石 材    | 長さ(cm)  | 幅(cm) | 重さ(g)   | 周縁整形  | 磨き整形 | 形 状   | 断面形 | 機能部位 | 備 考   |
|-------|-----------|--------|---------|-------|---------|-------|------|-------|-----|------|-------|
| SH100 | b区一括      | 結晶片岩   | 8.05    | 0.75  | 46.0    | 二次加工  | 表面   | 楕円形   | 長方形 | 表面   |       |
| SH135 | P487      | 緑泥片岩   | 12.45   | 1.45  | 112.2   | 二次加工  | 表・裏面 | 平行四辺形 | 長方形 | 表・裏面 |       |
|       | 一括        | 緑泥片岩   | (8.10)  | 2.50  | 65.3    | 折断    | 表面   | 直方体   | 長方形 | 表面   | 1/3欠損 |
|       | 一括        | 凝灰岩    | 7.75    | 3.05  | 179.5   | 折断    | 無    | 平行四辺形 | 長方形 | 表・裏面 |       |
|       | 一括        | 角閃石安山岩 | 10.70   | 5.00  | 537.0   | 折断・敲打 | 無    | 台形    | 長方形 | 表面   |       |
|       | P14       | 緑泥片岩   | 8.20    | 1.80  | (260.4) | 二次加工  | 表・裏面 | 楕円形   | 長方形 | 表面   | 1/2欠損 |
| SH220 | P93       | 砂 岩    | (13.20) | 2.25  | (270.4) | 無     | 表面   | 楕円形   | 長方形 | 表・裏面 |       |
|       | P220      | 緑泥片岩   | 26.00   | 2.35  | 1400    | 二次加工  | 表・裏面 | 台形    | 長方形 | 表・裏面 |       |
|       | P261・P264 | 天 草 石  | 9.30    | 3.55  | 181.7   | 擦り切り  | 表・裏面 | 直方体   | 長方形 | 表面   |       |
|       | SP967 P1  | 天 草 石  | 5.70    | 2.80  | (92.8)  | 擦り切り  | 表面   | 楕円形   | 長方形 | 表面   | 半欠損   |
|       | P266      | 天 草 石  | —       | —     | —       | 擦り切り  | 表面   | 直方体?  | 長方形 | 表面   |       |
|       | SP964 P1  | 角閃石安山岩 | 9.90    | 6.30  | 530.0   | 無     | 無    | 楕円形   | 三角形 | 表面   |       |

磨き整形は、12点中9点に見られ一般的であるが、逆に、素材が平坦な面を有する場合には施されない、安直なものも製作されたとも言える。磨き整形の施される部位は、当然ながら機能部位に直結しており、9点中7点は完全に一致する。残る2点のうち砂岩製のものは、表面しか磨き整形が施されていないが、表・裏面が機能部位となっており、もう1点の天草石製のものは、表裏面・左右側面の4面が研磨されているが、明確な機能部位は表面のみである。

形状は周縁整形の項で既に述べているが、横断面の形状について述べると、殆どが表・裏面とも平坦に整形するかそういう形状の自然礫・礫片を用いるため長方形を呈するが、角閃石安山岩製の1点のみは三角形に近い形状を見せ、周縁・磨き整形ともに見られない、非常に安直な資料であり、同時に上下端・片側縁中央に潰れ痕が顕著に認められ、砥石としてこれのみ砥石の機能も併せ持っていたと推察される。

総合的に見ると、以下のようなことが判る。

先ず、台石では9割以上、砥石でも3/4を在地系石材が占める状況にあって、砥石は在地系以外の石材が大半を占め、製品搬入品と考えられる製品（＝天草石製）を3点持ち、台石の3割程度しか周縁整形が施されていないのに対して、砥石には8割以上に認められ、また3/4に磨き整形も行なわれている。即ち、他の道具に比して、石材・製作技術的に意を用いている、と言える。即ち、同時に玉類の製作者たちが、その製作・整形に関して他の道具類より重要性を感じていたことが窺える。これにやや匹敵するのは、小形・中形の砥石に近接地だが在地的でない石材である佐賀県産の石英・蛇紋岩の円礫を利用したことぐらいである。因みに、古墳時代の全ての遺構から出土した砥石を見てみると、非在地系の石材は6割と比率が若干落ちる。これは他の遺構では砥石の出土も少ないが、石材に玉作り遺構ほど意を払わないことの表れだろう。

次いで、大きさに、小形、中形・薄型、中形・厚形、特大形の3種を有しており、砥石の小・中・大形、台石の小・大形に対応し、やはり対象物の大きさ・製作工程の進度によって使い分けられていたと考えられる。何となれば、小形の玉である白玉・勾玉を主に製作していたSH135では、5点中3点が小形であり、残る2点中1点も持ち運びの容易な中形・薄型であるのに比べ、大形の玉類である紡錘車を主に製作していたSH220では、大きさの判別できる5点中1点は特大品であり、残る4点中2点は据え置き型に近い中形・厚型である。

### 3. 玉類の製作地としての若宮八幡宮遺跡津田島地点

ここでは、本遺跡における玉類の製作の様相を様々な視点から総合的に見てゆく。先ず、時期ごとに検討することによって玉類の製作の本遺跡での消長の様子を、次いで用いられている石材から判る、その原産地と本遺跡の立地関係を考慮することで本遺跡の石材環境を、更に墓内の玉類を製作している遺跡、延いては玉作りの中心地のひとつである西北九州の遺跡群と、製作工程・各種玉類の製作の消長・石材などを比較・対照することによって、本遺跡の玉作りが県内・九州北部の中でどのような位置を占めているのかを考究していくことにする。

#### ① 本遺跡における各種玉類の製作の時期ごとの様相

各遺構の所属時期については事実記載の項で述べられているので詳細は省き、ここでは玉類の製作が行なわれていた可能性のあるSH100・130・135・220・370の時期を第Ⅵ章の時期区分に応じて、時期ごとと通時的に見てゆく。

##### i) 古墳時代後期Ⅰ－Ⅰ期

この時期の玉類の製作が行なわれた墓穴建物跡はSH220であるが、SH135との切り合い関係から、SH370も本時期の可能性が推測される。

この時期以前の竪穴建物跡で、玉類の製作の痕跡が認められるものは存在しないので、本遺跡において玉類の製作が開始されたのは当時期だと考えるのが妥当であろう。既述のように、SH220では製作の痕跡はササカイトによる紡錘車のそれだけだが、搬入品と考えられる蛇紋岩・ガラス製のF玉が各1点ずつ検出されている。ガラス製品についてはやはり先述のように、本遺跡の全時期を通じて製作された様子が全く見受けられない。が、蛇紋岩製のF玉については本時期以降の竪穴建物跡での製作が確認されており、本時期にも既に製作が開始されていた可能性がある。なおササカイトについては、石材鑑定を依頼した野田氏の教示によると豊後大野市大野町に産するものと類似するという。そして、SH370では勾玉の製作工程の少なくとも後半が実施された可能性がある。

何となれば、本遺跡では当時期から玉類の製作が開始され、その器種は確実なものだけでも紡錘車で勾玉と、白玉も可能性がある、いうことになる。

#### ii) 古墳時代後期Ⅰ-2期

当時期の玉類の製作が行なわれた竪穴建物跡はSH135である。内容としては、蛇紋岩・カンラン石製の白玉と蛇紋岩製の勾玉の製作であるが、ガラス製小玉の3点の搬入も認められる。詳細は製作工程の復原の項でも述べたが、白玉は成品と成品に近い未成品28点と未成品5点の他、二次加工は剥片や調整剥片なども出上っており、濃密な製作が窺え、勾玉は成品・未成品各1点の他、素材剥片や調整剥片などが検出されており、やはりF玉ほどでなくとも製作の痕跡が看取される。但し、成品は使用される場所へ搬出されるのが一般的と考えられるから、F玉の成品及び成品に近い未成品が多量に残されているのは、住居の廃棄儀礼に伴う可能性がある。また、SH140では結晶片岩製の平玉の製品搬入が認められる。そしてSH370はSH135に切られているが、時間的には当時期に含まれる可能性がある。

一方、前代に認められた紡錘車の製作の痕跡は見られず、その製作は本時期には杜絶したか。前代に製作の開始された可能性のある白玉は製作が継続しており、勾玉に関しては製作の開始は本段階まで下がるかもしれない、という状況である。

#### iii) 古墳時代後期Ⅱ-1・2期

古墳時代後期Ⅱ-1期とⅡ-2期は時期差が小さく、Ⅱ-1期の遺構が少ないこともあってまとめた。既述のように、当該時期の玉類の製作が行なわれた可能性のある竪穴建物跡はSH130とSH100のみである。調査区の南西部を占め、前代と同様の位置を踏襲しているようである。

SH130ではF玉の製作が実施された可能性があり、蛇紋岩では成品に近い未成品・剥片・石核が各1点、カンラン石では成品に近い未成品1点・剥片2点・砕片4点が検出されている。また、SH100では管玉の製作が行なわれた可能性があり、カンラン石製の未成品1点と剥・砕片4点が出土している。SD120から出土した管玉関連品も製作技術・形態の面から、当時期の可能性が推察される。SH160では蛇紋岩製と考えられる垂玉の製品搬入が認められる。

即ち、白玉の製作は前々代から継続しており、前代同様、石材として蛇紋岩・カンラン石の両者が引き続き利用されているが、勾玉の製作は途絶えたらしい。そして、管玉模造品の製作も始められるが、本時期のみであると考えられる。一方で、古代以降近世までの時期が明確な遺構は本遺跡では殆ど検出されておらず、玉類の製作址としての本遺跡の利用は本時期で終了したと推測される。

#### iv) 通時期

ここでは、本遺跡における玉類の製作の様相を通時的に見てゆくことにする。

各時期及び玉類の製作及び成品搬入の状況を器種・石材ごとにまとめたのが、第25表である。時間的には前項で示した3時期の他、時期不詳或いは時期の特定できない遺構から出土したものを併せて時期不明として記載してあるが、玉類の製作址としての性格を本遺跡が有した前掲3時期を大きく超えることとはないと考えられる。

第25表 若宮八幡宮遺跡第1次調査における各時期の玉類製作の器種と石材

| 時期        | 石材<br>器種 | ササカイト<br>紡錘車 | 蛇紋岩類 |    |    |      |     | カンラン石 |    |    | ガラス |    | 水晶 | 結晶片岩 | その他 |
|-----------|----------|--------------|------|----|----|------|-----|-------|----|----|-----|----|----|------|-----|
|           |          |              | 白玉   | 勾玉 | 垂玉 | 穿孔円盤 | 紡錘車 | 白玉    | 勾玉 | 管玉 | 白玉  | 小玉 | 丸玉 | 平玉   | 勾玉  |
| 古墳時代前期    |          |              |      |    |    |      |     |       |    |    |     | △  |    |      |     |
| 古墳後期Ⅰ-Ⅰ   |          | ○            | △    |    |    |      | △   |       | ○  |    | △   |    |    |      | △   |
| 古墳後期Ⅰ-Ⅱ   |          |              | ○    | ○  |    |      |     | ○     | ○  |    |     | △  |    |      |     |
| 古墳後期Ⅱ-Ⅰ・Ⅱ |          |              | ○    |    | △  |      |     |       |    | ○  |     |    |    |      |     |
| 時期不明      |          |              |      |    |    | △    | △   |       | △  | ○  |     | △  | △  |      | △   |

○は製作、△は単品出土

本道跡の玉類の製作は、弥生時代の遺構も少なくないがその痕跡を示すものは認められず、古墳時代後期Ⅰ-Ⅰ期に開始されるが、器種としては、勾玉と紡錘車から始められている。勾玉はカンラン石製であり、紡錘車の方は製作過程品が出土しているのはササカイト製であるが、蛇紋岩製の紡錘車の成品も出土しており、蛇紋岩でも製作されていた可能性も高い。一方、紡錘車を製作したことが確実なSH220から搬入品ではあるが、本段階以降と同様の石材である蛇紋岩製の白玉が搬入品ながら出土しており、本道跡内で白玉の製作が始められていた可能性がある。つまり、本道跡の玉類製作の主要石材である蛇紋岩・カンラン石が、既に佐賀県から搬入・消費・廃棄されているといえる。但し、前述のように勾玉に関しては次段階まで製作開始が下る可能性がある。また、ガラス製品を製作した痕跡は通時的に認められないが、古墳時代前期からガラス製小玉の搬入品も若干ながら見られ、一般的集落ではない玉類製作地的な性格も既に有している。

玉類の製作が本格化するの、次代の古墳時代後期Ⅰ-Ⅱ期である。製作址はSH135が1軒ながら、F1玉の成品及び成品に近い未成品が28点も出土し、他時期を圧倒しており、玉類製作址として本道跡の最盛期でもある。具体的に製作されている器種は白玉と勾玉で、紡錘車の製作は途絶えたが、前時期に始まった器種の製作を継続している。しかも前代では、紡錘車と勾玉が2軒に機能分離して製作されていたのが、当代ではF1玉・勾玉ともに1軒の住居で集約して製作されている。石材的には、F1玉が蛇紋岩・カンラン石の両者で、勾玉は蛇紋岩製である。小形分割罐かつ搬入量の僅少なカンラン石では小形のF1玉の製作に専念し、対する大量搬入・大形原石の蛇紋岩は両玉類の製作に振り分けたとも考えられる。一方、搬入品ではガラス製小玉が持ち込まれており、やはり外観的にも玉類製作址の性格を有し続けている。平玉の単品出土もあるが、本道跡に大量に持ち込まれている結晶片岩製なので、道跡内で製作された可能性もある。

更に次代の古墳時代後期Ⅱ-Ⅰ・Ⅱ期でも玉類の製作は継続されており、集落の中での玉作り工房の古く地位も前代を踏襲して調査区南西部である。が、製作される玉類の器種的には転換を迎えている。即ち、F1玉の製作は継続するものの、勾玉の製作は見られなくなり、替って管玉かつ製作され始める。石材としては、F1玉は蛇紋岩・カンラン石の両者を用いており、管玉はカンラン石製である。ガラス製品の搬入品は所属時期の明確な遺構からは認められておらず、或いは当時期にはガラス製品の搬入が途絶えた可能性がある。

時期不明を見渡すと単品出土には、玉に転化した蛇紋岩製紡錘車の他、蛇紋岩製石製穿孔円盤・水晶製丸玉・珪質頁岩製勾玉未成品が検出されている。事実記載の項でも述べたように、水晶は剥・砕片類も殆ど出土しておらず、成品搬入だと考えられる。石製穿孔円盤は本道跡で一般的な蛇紋岩製であり、当道跡で製作した可能性がある。結晶片製の勾玉未成品については、蛇紋岩と同様の質感を持つ結晶片製で、蛇紋岩と判別して用いられたとは考えられないので、ここでは検討しない。

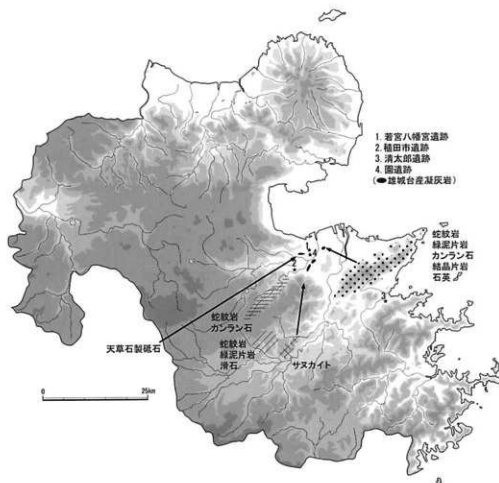
通時的に見ると、器種的には古墳時代後期Ⅰ-Ⅰ期=紡錘車・勾玉（・F1玉）→古墳時代後期Ⅰ-Ⅱ期=白玉・勾玉→古墳時代後期Ⅱ-Ⅰ・Ⅱ期=F1玉・管玉という変遷を見せる。Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ期間では紡錘車の欠落、Ⅰ-Ⅱ・Ⅱ-Ⅰ期間では勾玉から管玉への転化、という時期の変わり目ごとに両期を有している。

また、Ⅰ-2・Ⅱ-1期間ではガラス製品の搬入品の杜絶という転換点も有している。が、石材的にはⅠ-1期の紡錘車にサヌカイトを用いる他は、全時期を通じて佐賀産の蛇紋岩・カンラン石を用い続け、これが本道跡の玉類製作の一大特徴だと推察される。また、Ⅰ-1期では白玉は蛇紋岩で、勾玉はカンラン石で作分けられる傾向あったが、Ⅰ-2期では白玉は両石材が、勾玉は蛇紋岩のみで製作されるようになり、Ⅱ-1・2期段階では白玉はやはり両石材で、管玉はカンラン石である、という変遷を示す。そして、蛇紋岩、カンラン石は滑石とごく近い石材であり、時期で言っても、周辺地域の滑石模造品に相当すると考えられる。

## ② 若宮八幡宮遺跡の石材環境

本道跡は大分平野中央部やや西よりの、現代では大分川下流の西岸に位置する。本道跡に玉類の製作に関連して搬入された石材は先述のように、勾玉・白玉・管玉では蛇紋岩・カンラン石、紡錘車ではサヌカイトと蛇紋岩、敲石では蛇紋岩・石英・緑泥片岩、台石では凝灰岩、砥石では結晶片岩・緑泥片岩・凝灰岩・天草石である。

そのうち、結晶片岩は確実に大分市東端の佐賀関で採取した石材だと推察される。蛇紋岩・緑泥片岩は、本道跡に比較的近い距離にある産地としては、やはり佐賀関と豊後大野市大野町・朝地町境界付近・野津原町があるが、筆者が肉眼で観察した限りでは本道跡出土の両石材は、佐賀関産のものに酷似する。カンラン石も石材鑑定を依頼した野田雅之氏から佐賀関の石材に酷似すると教示を受けた。敲石に用いられた蛇紋岩・石英の円礫はやはり佐賀関で多量に産する。これら蛇紋岩・カンラン石・緑泥片岩・結晶片岩・石英を佐賀関産石材と総称することとする。



第177図 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点の石材環境と周辺道跡

台石・砥石に用いられた比較的均質で硬質の凝灰岩は既述のように、本道跡に近接し、本道跡かよりやや遡った大分川中流域から七瀬川流域に産する石材であると、肉眼観察から推定される。代表的産地である雄城台に代表させて、雄城台産凝灰岩と呼んでおく。

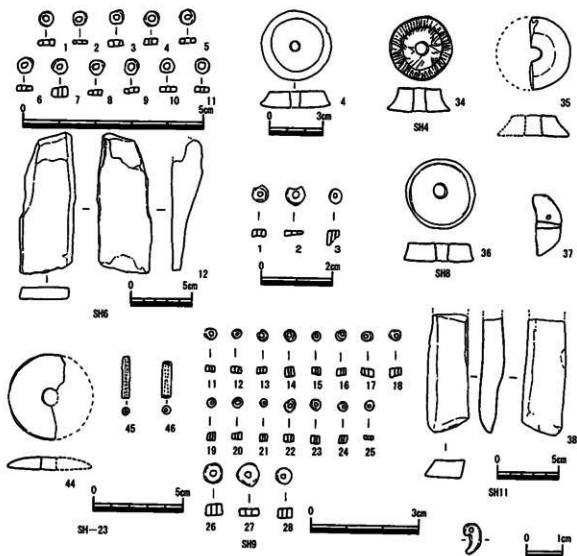
最後に、砥石で製品搬入されたと推察される淡黄色流紋岩系石材は、熊本県天草町皿山に産する天草石と考えられる。弥生時代中期の金属器の普及以降、砥石の石材として盛んに採取された石材である。

即ち本道跡は、東側から佐賀県産石材を、近接する大分川・七瀬川流域からは雄城台産凝灰岩を、そして西側からは遠隔地の天草石を搬入し、そして道跡の近在では角閃石安山岩・安山岩などの在地系石材を採集して利用していたと推測される。

### ③ 大分県内の玉類製作道跡、福岡県出土の玉類との比較

#### i) 大分市周辺の玉類製作道跡

大分市周辺の古墳時代の道跡で玉類を製作した可能性があるのは、現況で市内の植田市道跡（大分県教育委員会 1994）・岡道跡（大分県教育委員会 1993）と臼杵市清太郎道跡（大分県教育委員会 2001）の3か所である。



第178図 植田市出土の玉および関連遺物（『植田市道跡』より）

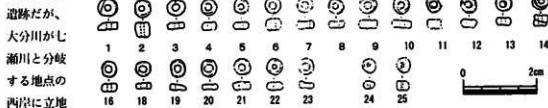
先ず、植田市道 第28表 植田市道跡における各時期の玉類製作の器種と石材

| 時 期      | 遺構・石材名<br>器種 | 滑 石 |    |    |     | 玉髓? |    | 結晶片岩 |    | 砂岩 |
|----------|--------------|-----|----|----|-----|-----|----|------|----|----|
|          |              | F1玉 | 管玉 | 勾玉 | 紡錘車 | F1玉 | 管玉 | 砥石   | 砥石 |    |
| 5世紀中葉～後半 | SH 6         | 11  |    |    |     |     |    | 1    |    |    |
|          | SH 4         |     |    |    |     |     | 1  |      |    |    |
| 5世紀末～    | SH 8         | 3   |    |    |     |     |    |      |    |    |
|          | SH 9         | 3   |    |    |     | 15  |    |      |    |    |
| 6世紀初頭    | SH 23        |     | 2  |    |     | 1   |    |      |    |    |
|          | J1           | 6   | 2  |    | 2   | 15  |    |      |    |    |
| 不 明      | SR 1         |     |    |    |     | 3   |    |      | 1  | 1  |
|          | SL 2         |     |    | 1  |     |     |    |      |    |    |

いる（第177図）。弥生時代早期から近世以降に至る遺構が検出されている。古墳時代中～後期では25軒の住居跡が検出されており、そのうち、5軒の住居跡から玉類とその製作に関わると思われる砥石が出土しており、また遺構自体の時期は判然としなが、1条の流路からも同様の時期の所産と推察される紡錘車と砥石が見つかった（第178図・第26表）。玉類の素材と調整剥片などは報告されていないが、玉類の出土量と砥石の存在などから、当該跡内での製作された可能性が高いと考えておく。

先ず、玉類の出土している時期だが、明確なものとしては、5世紀中葉～後半と5世紀末～6世紀初頭の2時期となっており、若宮八幡跡より前者は1段階古く、後者はその最古段階と合致する。5世紀中葉～後半のSH 6では滑石製F1玉11点と結晶片岩製の砥石1点が出土している。5世紀末～6世紀初頭の段階では、SH 4・8・9・23の4軒の住居跡から合計で、滑石製ではF1玉6点・管玉2点・紡錘車2点、赤褐色の石材と報告されており、玉髓ないしは鉄石英と推測される石製のF1玉15点が出土している。また、遺構の時期は不明ながら、流路SR 1から滑石製紡錘車3点と結晶片岩製の穿孔円盤1点が、弥生～古墳時代の包含層SLから滑石製勾玉1点が出土しており、前者は紡錘車中心であることから5世紀末～6世紀初頭の時期が推察され、後者は滑石製なので、少なくとも5世紀中葉～6世紀初頭の範囲に収まると考えられる。

次いで

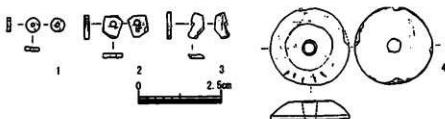


第179図 園遺跡出土の玉類（園遺跡より）（1～23が白玉、24・25はガラス製小玉）

図）。製作に関わる道具類・未成品・調整剥片類の報告がないが、1号住居跡では18点のF1玉と2点の剣形模造品が集中して出土しており、遺跡内で製作された可能性がある。所属時期としては5世紀末に比定されている。また、6世紀の中葉の所産である2号住居跡からもF1玉・有孔円盤各1点が、他に白玉4点・ガラス製小玉2点が出土しているがまとまっておらず、住居の廃棄儀礼ないしは単なる廃棄だと推測される。F1玉はいずれも滑石製と報告されているが、前掲の野田氏に鑑定して戴いたところ、佐賀県産ではなく七瀬川上流域産のカンラン石ではないかとご教示を戴いた。

次に、清太郎道跡だが、F1軒川中流域の右岸台地上に立地する（第177図）。縄文時代から近世に至る

遺構が検出されている。古墳時代では11軒の竪穴建物跡が検出されて



第180図 清太郎道跡3号住居跡出土の玉類（「清太郎道跡」より）



いる。そのうち7世紀前半の所産と考えられる3号住居跡から、白玉成品1点・未成品2点、紡錘車1点の他、砂岩製の敲石・磨石・台石各1点、結晶片岩製の砥石1点が出土しており(第180図)、未成品・道具類の存在から製作が推定される。なお白玉及び白玉未成品・紡錘車について報告書では、前者が緑泥片岩、後者が滑石と報告されているが、筆者が肉眼及び実体顕微鏡で実見したところ、白玉製品はカンラン石、白玉未成品と紡錘車は蛇紋岩と考えられ、いずれも佐賀関産と見られ、若宮八幡宮遺跡と同様の石材組成を示す。

## ii) 福岡県出土の滑石製玉類製作の概観

本項では、平尾和久氏の論考(平尾 2005)を基本として福岡県出土の滑石製玉類の製作について概観する。福岡県では玉類の滑石製模造品の製作は、確実には筑前・筑後地域で古墳時代前期に遡るとされる。石材は、福岡県三郡山地に代表される複数箇所へ原産する滑石を利用している。製作技術としては、5世紀半ばまでは剥片を素材とするが、それ以降は板状加工品を素材とし一表・裏面から格子目状の擦り切りを施し→大量の方形チップを折り取り→穿孔・研磨仕上げする工法(第181図)を中心とするようになるが、6世紀を通して剥片素材の工法も部分的に残るようだ。また、豊前地域では確実には古墳時代中期から滑石模造品の製作が始まるとされ、製作技術的には表・裏面を研磨するが擦り切りを伴わない板状加工品を素材にするという。また、沖の島遺跡(原田大六 1958)の例からすると滑石模造品製作は7世紀代まで残ると考えられる。



第181図 福岡県牛ガ熊白玉製作工程復元図(『牛ガ熊遺跡』より)

## iii) 若宮八幡宮遺跡と大分県内の玉類製作遺跡、福岡の滑石製模造品製作の様相との比較

まず、大分市周辺で滑石製模造品製作の最古の例は今のところ、植田市遺跡の5世紀中葉～後半ということになる。これは、先進地の福岡県の筑前・筑後地域で確実には古墳時代前期に滑石製模造品の製作が開始され、豊前などの周辺地域に伝播していくのが古墳時代中期であり、それと時期的に合致している。植田市でも滑石製の白玉が製作されており、西北九州の滑石模造品を製作する技術の周辺地域への拡がりということで捉えて、間違いないと考えられる。製作技術については植田市遺跡の例は判然とせず、福岡地域との比較はできない。

次に、古墳時代後期初頭以降の時期には、植田市・園及び若宮八幡宮遺跡第1次調査地点において玉類の製作の痕跡ないしはその可能性が推察される。そのうち、前二者は野津原・三重町ないしは福岡県産と推測される滑石製品と七瀬川上流産カンラン石製品であるが、後者のみは佐賀関産蛇紋岩・カンラン石製である。これは、植田市・園の2遺跡は福岡県地域ないしはそれに近接する豊後西部地域の滑石模造品製作文化圏の強い影響下にあるが、若宮八幡宮遺跡のみは石材的に在地化の傾向を見せているのではないかと推察され、蛇紋岩・カンラン石製玉類も滑石製模造品の一種と考えることができる。元来、蛇紋岩・カンラン石も滑石と同系統の片岩である。なお、滑石は佐賀関にも認められるが、もし佐賀関産滑石を植田市・園両遺跡が使用しているとすれば、蛇紋岩・カンラン石も混在していると推測され、若宮八幡宮遺跡の様相から鑑みて、意図的に滑石を選択しているとすれば、植田市遺跡の滑石は大分県

産とすれば大分市より西側に産するものと予想した。

同じ大分平野内で、植田市・岡田遺跡と岩宮八幡宮遺跡に現れる、滑石・七瀬川上流域産カンラン石対佐賀関産蛇紋岩・カンラン石という石材的差異だが、これは古墳時代の玉類の製作に限らず、弥生時代の石包丁の石材選択でも既に見られる様相である。即ち、筆者が行った大分平野出土の石包丁の考察(萩 2006)で、石包丁ないしは石包丁状打製石製品が、大分平野の東西で異なるのである。何となれば、大分平野東部の下部遺跡群(大分市教育委員会 1990,1991,2005)・岩宮八幡宮遺跡第1次調査地点・中安遺跡(大分市教育委員会 2005)では殆どが佐賀関産結晶片岩・雲母片岩製で、西部の上野遺跡群(大分市教育委員会 1993)・玉沢地蔵堂里跡各地区(大分県教育委員会)・上七ヶ子遺跡では佐賀関産結晶片岩製も僅かに認められるものの、殆どは在地系の角閃石安山岩などと雄城台産凝灰岩で製作されている。これは、同様に筆者が大分平野出土の縄文時代後期～近世の所産と考えられる不定形石鐙においても同様の結果が出ている(萩 2005)。その東西の境界は、現況の大分川西岸の岩宮八幡宮遺跡付近を通る大分川と平行する南北ラインにありそうである。これは、大分川の旧川道が現況よりやや西側にあることを考え併せると、旧川道の大分川と分岐してからは七瀬川を結ぶ南北ラインを想定して大分平野を東西に分けると説明がつきそうである。つまり利用石材的に考えて、東部は佐賀関石材側に、西部は在地・大分平野西部以西石材側と、言うことができそう、古墳時代後期においても大分郡の中に東西の勢力圏の存在が予想され、東部は海部との結び付きが、西部は大野郡を含む県西部延いては筑後方面との同盟関係が想定される。

また、紡錘車の確実な製作は、古墳時代後期初頭の植田市・岩宮八幡宮遺跡に限られる。これは、紡錘車の製作自体は弥生時代以降古代に至るまで継続するだろうが、滑石製(蛇紋岩を含む)の紡錘車が大分市周辺で盛んに製作される時期として、古墳時代後期初頭に集中する傾向を示しているのではないかと考えられる。

滑石製模造品として最も一般的なF1玉の製作技術については、6世紀代の岩宮八幡宮遺跡についてしか判然としないが、西北九州で5世紀中葉以降に一般的な、板状加工品→格子目状縦切りによる折り取り→方形チップ→穿孔・側面研磨→成品という工程は認められず、小形彫片素材→切断・折断→表裏面・側面研磨→成品という、西北九州で滑石模造品が大量製作され始められる以前の技術が継続している。但し、小形彫片素材の部分的な面的研磨や、中形彫片素材による横方向の擦り切りの見られない「小形棒状加工品」とでもいうべき資料も認められ、「板状加工品」という製作過程の情報は伝播していると推測される。これは西北九州に比べて、大規模な祭祀を行う大量生産に対応していない技術形態だと考えられ、製作技術的には模倣的に在地化というより、周辺地域化していると予想される。

7世紀前半では清太郎遺跡のみとなるが、福岡県域での状況からしても、大分市周辺の玉類製作の下限と考えていだろう。清太郎遺跡では搬入品と考えられる紡錘車とF1玉未成品は既述のように蛇紋岩製で、F1玉成品はカンラン石製で、いずれも佐賀関産と推察され、佐賀関産石材側に含まれると考えられる。製作技術的には、表・裏面を研磨した方形チップの存在から、少なくとも小形板状加工品の存在が想定される。これが、7世紀代には大分市周辺でも板状加工品が一般化するのか、岩宮八幡宮遺跡のように部分的擦り切りの表れなのかは、清太郎遺跡の出土F1玉の成品1点・未成品2点と小規模なため判然としない。その解明には、石材産地である佐賀関地域での各時期の玉類製作址の発見が望まれ、同様に、滑石製玉類の製作技術の解明には大分平野西部の製作址の増加が期待される。

#### 【参考・引用文献】

大分市教育委員会 1992 『岡田遺跡』

大分県教育委員会 1994 『植田市遺跡 七瀬川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

- |           |      |                                                                       |
|-----------|------|-----------------------------------------------------------------------|
| 大分県教育委員会  | 2001 | 『大分県文化財調査報告書 第115輯 東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(2) 清太郎遺跡』                    |
| 萩 幸二      | 2005 | 「大分平野出土の不定形石鍾について」『下郡遺跡群Ⅲ－大分市下郡地区土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2－』 大分市教育委員会 |
| 萩 幸二      | 2006 | 「大分平野出土の石包丁について」『下郡遺跡群』 大分市教育委員会                                      |
| 下関市立考古博物館 | 2003 | 『平成15年度企画 玉つくり』                                                       |
| 須恵町教育委員会  | 1993 | 『牛ガ熊遺跡』                                                               |
| 平尾 和久     | 2005 | 「滑石石材の流通と模造品生産－工房跡から復元される石材の流通－」『第54回埋蔵文化財研究集会 古墳時代の滑石製品－その生産と消費－』    |
| 松尾 尚哉     | 2005 | 「滑石製白玉の製作工程－宇美中学校遺跡の事例から－」『七隈史学会第7回大会第3部会(考古学)発表資料』                   |

## 2. 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点出土の大阪湾岸産製塩土器について

上野 淳也

### (1) 若宮八幡宮遺跡出土の製塩土器について

若宮八幡宮遺跡出土の製塩土器は、莖頭卵形を呈し、所謂、広瀬和雄氏の型式設定における丸底Ⅰ式に該当する<sup>1)</sup>。また、益田雅司氏のⅡ式<sup>2)</sup>、富加見泰彦氏の丸底Ⅰ式a類<sup>3)</sup>、横山洋氏の編年によるF2類に該当する<sup>4)</sup>（第182図参照）。第182図は、これら先行研究における分類案の対照表をまとめたものである。

若宮八幡宮遺跡において、このタイプの製塩土器は、SH100・SH135（SP656）・SH140・S106・SH370・SB001（SP106）・SX300から出土している（第183図参照）。SH100・SH135（SP656）・SH140という3つの堅穴建物跡からの出土が大半を占め、破片点数で87%、総重量で91%を占める。中でもSH135出土資料に関しては、若宮八幡宮遺跡出土製塩土器の内、破片点数で81%、総重量で83%を占める。これ以外の遺構からの出土量は、極少量であり、後世の混ざり込みの可能性も考えられる（第27表参照）。

また、SH135・SH140に関しては、共伴の須恵器などから、ほぼ同時期の遺構であると考えられる（第29表参照）。したがって、これらの建物跡出土製塩土器は、極限られた時期に流入したもので、断続的に安定供給されたものではないことが指摘される。しかし、これらの住居跡からは、MT15～TK10併行資料が出土しており、本来、製作年代の下限がTK47である丸底Ⅰ式とは時期的なズレが生じている。また、前述の3住居跡のいずれからも、玉作り関連遺物が出土していることは注目に値する。

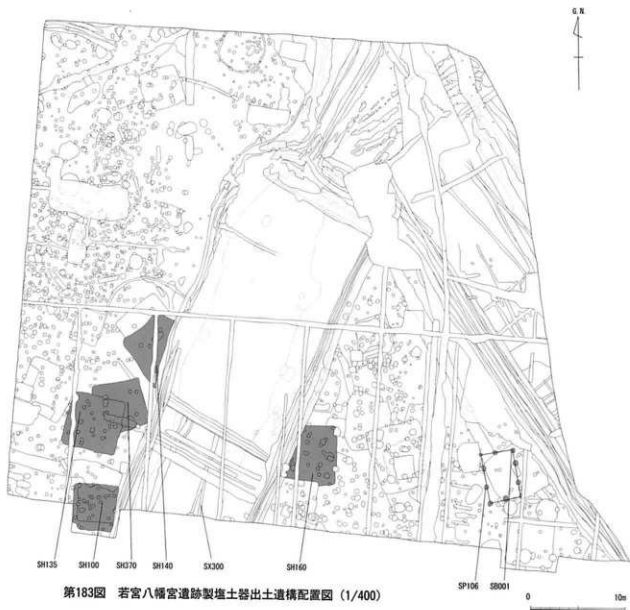
従来、大阪湾岸で製作された丸底Ⅰ式は、湾外では確認されておらず、今回の出土例が初の近畿外における確認となる。よって、まずは、大阪湾岸における丸底Ⅰ式資料の出土状況を概観した後、それらの資料と当遺跡出土資料の比較を試み、当遺跡出土資料を位置付けることとする。



第182図 分類案対照図 (1/8)

| 遺構番号          | 破片数 (個) | 重さ (g)  |
|---------------|---------|---------|
| SH100         | 8 3%    | 18 3%   |
| SH135         | 219     | 440     |
| (SP656)       | 3       | 7       |
| 小計            | 222 81% | 447 83% |
| SH140         | 8 3%    | 28 5%   |
| SH160         | 1 1%    | 1 1%    |
| SH370         | 2 1%    | 4 1%    |
| SB001 (SP106) | 1 1%    | 1 1%    |
| SX300         | 9 3%    | 14 3%   |
| 調査区一括         | 20 7%   | 24 4%   |
| 計             | 271     | 537     |

第27表 若宮八幡宮遺跡出土丸底Ⅰ式出土点数



第183図 若宮八幡宮遺跡製塩土器出土遺構配置図 (1/400)

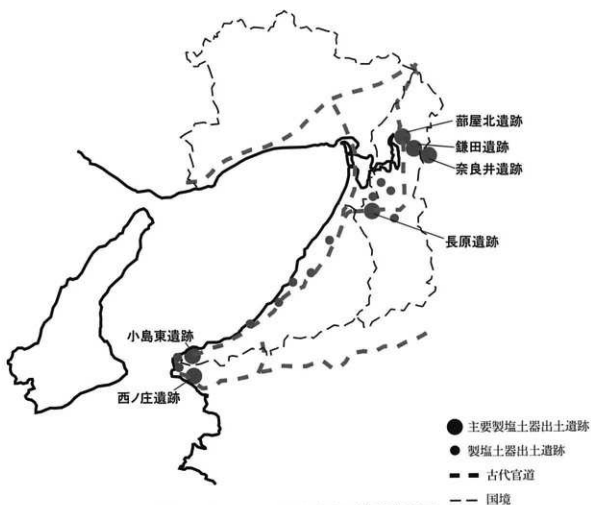
## (2) 土器製塩技術の伝播と流通

土器製塩は、備讃瀬戸地域において弥生時代中期に始まるが、それが本格化するのは古墳時代中期以降となる。

その画期となるのは、5世紀中頃のことと、初期須恵器に代表されるように新たな韓半島からの多種多様な技術伝播と連動するものであると考えられる。その証拠に、旧河内・和泉方面においては、丸底1式と呼ばれる製塩土器が朝鮮半島系土器と供伴して出土する事例が多く見受けられる。同方面においては、この丸底化の進展、すなわち、製塩土器が、脚台付から丸底へと変遷するのと同調して、製塩炉が地床炉から石敷炉へと移行することが指摘されている。

この古墳時代中期に、比較的まとまって土器製塩がおこなわれるのは、大阪湾岸と瀬戸内(備讃瀬戸)のみであり、この両地域以外においては規模が小さく且つ限定的なものに限られる。また、この両地域外における土器製塩に関しては、両地域から二次的に土器製塩技術が伝播したと考えられるものが多いようである。当然、その背景として工人の移動と、その技術の伝播が考えられるのであるが、現在、大阪湾岸で製作された丸底1式は、当道出土資料以外は、近畿外における確認が成されていない。

しかし、注目すべき点は、畿内遺跡における丸底1式の在り方にある。この丸底1式に関しては、生産地に限らず、消費地においても大量に出土する傾向が見られる。横山氏は、F類を「遠距離の運搬容器」としても使用するものとして位置付けている。



第184図 河内・和泉・紀伊製塩土器出土遺跡分布図

塩の消費地遺跡の代表的な例として、四条畷市の遺跡群を挙げることができる。四条畷市は、『日本書紀』において継体天皇を楠葉宮における即位へと導いた「河内馬飼首荒龍（かわちのうまかいのおびとあらこ）」由来の地で、市域からは「河内馬飼」の記述に相応しい「牧」関連の遺構・遺物群、そして「馬」が大半を占める動物遺存体が検出され続けている。代表的なものとして「奈良井遺跡」や「鎌田遺跡」、讃良条里遺跡内の「都屋北遺跡」の3遺跡を挙げることができる<sup>1</sup>（第184図参照）。

鎌田遺跡・奈良井遺跡に関しては、起伏に富み、岡部川と清武川に挟まれているという隔離性も含めて放牧に適した環境内にあった。草食動物である馬の飼育には、ミネラル分が必要不可欠である。体温調節時に大量に発汗をする馬は、体内に発生する尿素やアンモニア（すなわち有害物質）を排出するために、大量のナトリウム・カリウム・塩素等の電解質や水分を必要とする。まさに、この事象を肯定するかのよう、四条畷市の先述の3遺跡からは、製塩土器が大量に出土するのである。

当時は、海水面が現在よりも高く、河内湖を形成していたため、海運・水運の便にも恵まれており、瀬戸内海からダイレクトに四条畷地域にも船を着けることができたと考えられている。特に鎌田遺跡出土の製塩土器に関しては、さまざまな生産地から集積されたような様相を呈しており<sup>2</sup>、この「河内馬飼」の土地が馬の生産地として、大量の塩を必要とする代表的な消費地であったことを示唆する。また、その証拠を示すかの如く、都屋北遺跡から出土した木製の「鐙（あぶみ）」と百済の技術を伝える「轡（くつわ）」は、この「河内馬飼」のルーツが百済にあることを示す遺物でもあるとも言える。

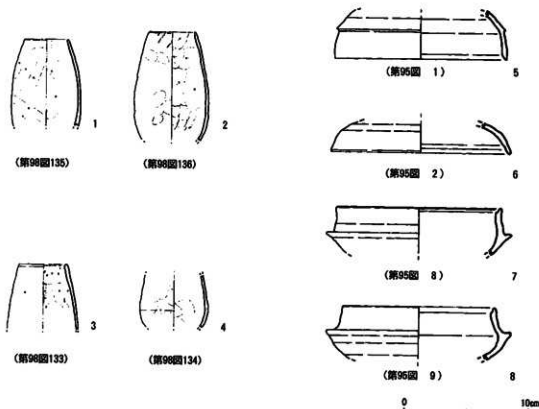
丸底Ⅰ式は、海水域から離れる河内地域においては、当然内陸部からの出土が目立つが、古代官道をプロットすることにより奈良井道跡・鎌田道跡・部尾北道跡・長原道跡といった消費地道跡が後世の古代官道近辺に分布することから、官道敷設以前においても陸路の要衝に分布が偏っていることを指摘することができる。また、和泉南部から紀伊北部という大阪湾南部地域に関しても、後の官道沿いに製塩道跡が分布することが指摘されるが、これは官道が沿岸部を走るため当然のことであるともいえる。しかし、製塩道跡の立地が出荷搬路としての陸路を意識していたということも十分に考えられる。

若宮八幡宮遺跡出土製塩土器は、出土量的に鎌田道跡に及ぶものではないが、同様に複数の生産地から集積された様相を呈している。すなわち、消費地としての様相を呈しているといえる。しかし、四条暖市の海水域からやや離れる奈良井道跡においても、石敷が確認されているため、若宮八幡宮遺跡における塩の使用状況に関しては、生産の可能性を含めて若干の検討を必要とする。以上のような点から、内陸部・消費地の河内地域、沿岸部・生産地の和泉南部・紀伊北部地区の資料との比較検討を試みた。

### (3) 畿内・瀬戸内地域における製塩土器

今回、当道跡出土製塩土器の帰属する年代観・生産地に関して検討を加えるべく、大阪湾岸周辺道跡出土丸底Ⅰ式資料との比較検討を試みた。所謂、広瀬和雄氏の分類における「丸底Ⅰ式」に共伴する須恵器の型式としては、初期須恵器～TK47併行が考えられている。当節においては、積山氏の編年観に順じて、積山編年における大阪湾Ⅱ式-1・2、すなわち大型の初期須恵器並行をF1類、小型化したTK208～TK47併行をF2類として論を進める。

しかし、前述の通り、若宮八幡宮遺跡出土製塩土器は、MT15・TK10併行須恵器と共伴することが判明しており、大阪湾岸における出土傾向と型式学的な齟齬が生じている（第185図参照）。



第185図 若宮八幡宮遺跡 SH135出土遺物 (1/3)

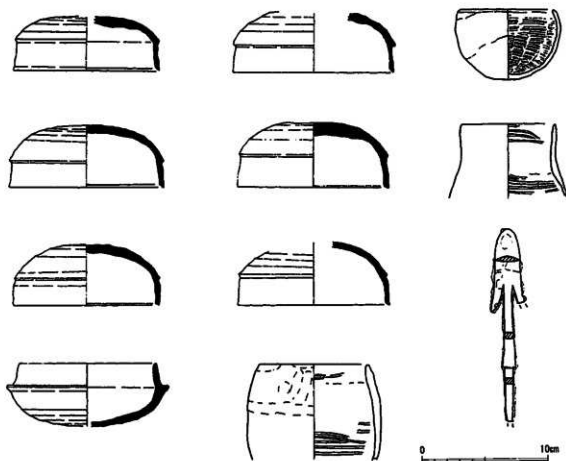
比較検討の対象にした道跡は、西庄道跡（和歌山県）、長原道跡・部屋北道跡・小島東道跡（大阪府）の4道跡である。道跡の性格としては、和泉南部・紀伊北部という大阪湾南岸に位置する小島東道跡・西庄道跡が生産道跡、河内に位置する長原道跡・部屋北道跡が消費地道跡である。消費地道跡からは、須恵器との並行関係から年代観を把握することに努めた。また、消費地道跡に関しては、これらに加えて四條畷市の鐘田道跡出土製塩土器を実見することができた。

製塩を行なった集落道跡として評価されている西庄道跡は、5世紀後半段階に堅穴住居跡の数がピークを示し、6世紀後半へ向けて掘立柱建物跡へとシフトしてゆくことが判明している。そのような調査成果の中で丸底Ⅰ式は、その大半がTK47（Ⅰ型式5段階）にかけての堅穴建物跡からの出土であり、F2類に関しては、930・SB・972・SB・852・SBから出土している。（第186・187図参照）。

西庄道跡2-SB出土資料に関しては、TK23・47型式併行にも関わらず、口径が大きく大容量の特徴を残すものが確認されている（第186図参照）。また、2-SBからは、富加見氏提唱の丸底Ⅰ式の中でも、變形を呈するb類と、截頭卵形のa類、そして、富加見氏丸底Ⅱ式が共存している事例には注目される<sup>1)</sup>。

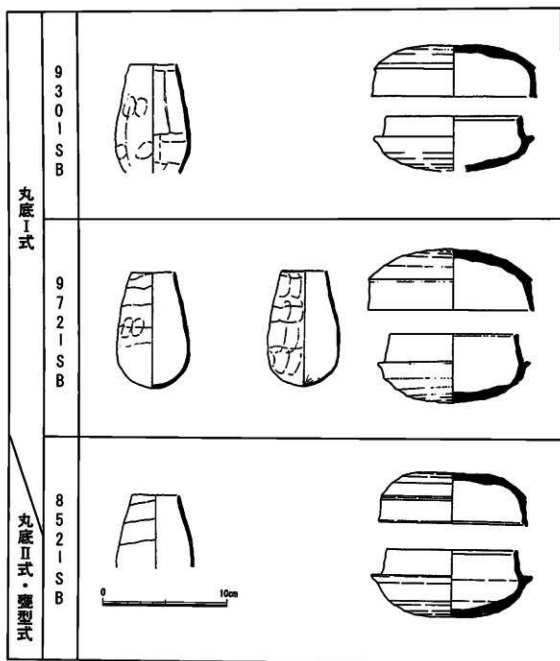
また、同じく生産地道跡である小島東道跡出土製塩土器も、粘土紐接合痕を良く残し、内外面に丁寧にナデ調整を施しており、中には内面に目殺条痕が観察される個体も存在する（第188図参照）。

生産地道跡出土資料における共通の特徴としては、器面の色調が赤橙色もしくは黄白色を呈し、器壁が中厚みをもつものが多く確認され、和泉南部・紀伊北部といった大阪湾南岸の様相を示すものである可能性がある。或いは、時期差を示すものであるかもしれない。



第186図 西庄道跡出土遺物① 2-SB出土遺物 (1/3)



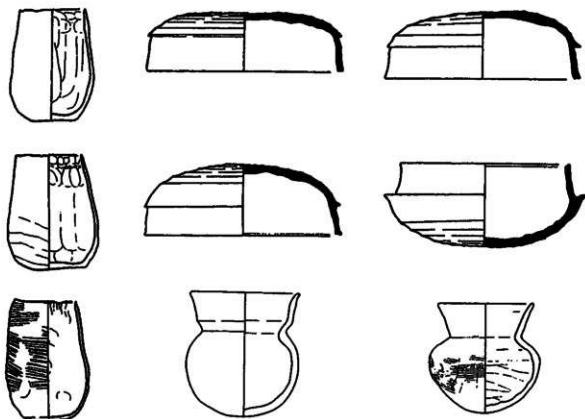


第187圖 西庄遺跡出土遺物② (1/3)



第188圖 小島東遺跡出土遺物 (1/3)





第189図 都屋北道跡出土遺物 (1/3)

0 10cm

長原道跡出土のF1類に関しては、実見する機会を得たが、容量が大きく器壁の薄さは1～2mmほどで、小型で器壁の厚みが2～3mmほどの若宮八幡宮道跡資料とは比較するまでも無かった。F1類は、初期須恵器と共伴する資料であり、このタイプの製塩土器の移入もしくは製作開始当初の形態を示すものであると考えられる。焼成状況に関しては、還元焰焼成が成されており自然釉がかなりの割合で付着している。長原道跡出土F2類に関しても、タタキ痕のような調整痕を顕著に残すものも多く確認され、その質感は須恵器といっても過言ではない仕上がり呈するものもある。勿論、その背景としては、F1類と合わせて須恵器工人の関与が考えられる資料である。また、平底状を呈する固体も確認される。

都屋北道跡出土F2類は、1～2mmという非常に薄い器壁を呈し、その器面にはタタキ痕のような調整痕を残す。器壁は、還元焰焼成により焼き締まっており、器面には自然釉が付着するものが多い。その質感は、須恵器といっても過言ではない仕上がり呈するものもある。その背景として、長原道跡出土資料と同様に、須恵器工人の関与が十分に考えられるようである。また、長原道跡出土F2類と同じく平底状を呈する固体も確認されている。都屋北道跡出土資料は、今回、実見することができた資料の内、最も小型かつ硬質で須恵器的な資料である。

最後に、鎌田道跡出土資料に関しては、製塩土器が複数の生産地から集積されたことを示すかの如く、複数の製作・焼成技法が混在する様相を呈していた。その中には、小島東道跡や西庄道跡の資料に刻印する、器面の色調が赤褐色もしくは黄白色を呈するものを、一定程度、確認することができた。今後、いくつかの生産地道跡から集積されたものなのかを知るためにも、胎土分析等を用いた、製塩土器の集積過程の把握が期待される。

以上のように、河内・和泉・紀伊の丸底Ⅰ式資料を概観してきたが、これらを若宮八幡宮道跡出土資料と比較した場合、所謂、広瀬和雄氏の分類における「丸底Ⅰ式」でも、ほぼタタキ痕のような調整痕の無い種類に限定されていることが指摘される。

若宮八幡宮道跡出土資料は、肉眼観察においては、小島東道跡や西庄道跡といった大阪湾南岸の生産地道跡

出土資料に最も類似する。特に、生産地遺跡であるTK23～TK47併行の小島東遺跡出土資料と類似しており、淡路島を含む大阪湾南部地域で生産されるものと同型式であると考えられる。ただし、若宮八幡宮遺跡出土製塩土器に関しては、郡屋北遺跡と小島東遺跡との比較から和泉でも南部の製品で紀伊寄りの製品、また、生産地である小島東遺跡と西庄遺跡という比較からは、紀伊というよりは和泉南部の製品ではないかという推測が促される。因みに、牧における馬飼いに伴う大量消費地と考えられる四条畛市の鎌田遺跡出土遺物に関しても、極似の遺物を確認することができていることから、他の生産地の存在も想定される。しかし、若宮八幡宮遺跡出土の製塩土器は、器壁が大阪湾岸地域で生産されるものに比べて若干厚い傾向にある。

所謂、広瀬和雄氏の分類における「丸底1式」に共存する須恵器の型式としては、初期須恵器～TK47が考えられている。前述のとおり、植山洋氏は、この「丸底1式」を初期須恵器併行のF1類と、TK208～TK47併行のF2類に分している。若宮八幡宮遺跡出土資料に関しては、この植山洋氏のF2類に該当する。

しかし、大阪湾岸産製塩土器（植山F2類）が大量に出土したSH135号遺構からは、TK10・MT15併行頃の須恵器が出土しており、TK47を下限とする大阪湾岸の遺跡群と、年代観に若干の齟齬が生じている。器壁に若干の肥厚傾向が見られるため、これが若干新しい傾向を示すものかもしれない。

#### (4) 蛍光X線胎土分析結果の読解

丸底1式は、一部が運搬・保管容器として使用されており、長原遺跡や郡屋北遺跡・鎌田遺跡等の消費地と考えられる遺跡から一定量出土している。丸底1式期の大阪湾岸は、土器製塩の最盛期で、小島東遺跡や西庄遺跡等、生産地では数千点もの製塩土器が出土する。これらと比較して、出土点数271点という若宮八幡宮遺跡出土製塩土器に関しては、消費地の様相を呈するものと考えられる。

まずは、若宮八幡宮遺跡出土丸底1式製塩土器を、空間的に位置付けるべく在地産土器と大阪湾岸産と想定される丸底形式を採る製塩土器の胎土を、蛍光X線分析を用いて、産地の異同の確認をおこなった。

分析資料としては、在地系土器器2点とSH135出土製塩土器資料8点の計10点を用いた。製塩土器資料の選定に関しては肉眼による観察結果を基に選定をおこなった。選定した資料は、

- ① 在地系土器器（▲試料1・2）
  - ② 須恵器系（○試料3・4）：還元焙焼成のように暗灰色を呈し須恵器的なもの
  - ③ 黒色系（●試料5・6）：①に近いが焼成不良気味で軟質、器面には炭素を吸着し黒灰色を呈するもの
  - ④ 白色系（□試料7・8）：非常に良く精製された胎土で黄白色を呈するもの
  - ⑤ 赤色系（■試料9・10）：赤色の粒子（くさり礫）を多く含む赤褐色を呈するもの
- 以上、4種類の各2点ずつを分析資料とした。

土器の胎土中、カリウム・カルシウム・ルビジウム・ストロンチウムの4元素は、土器胎土供給源の地域性を示すものとされており、カリウム・カルシウム・ルビジウム・ストロンチウムの検出量を対比した分布図を用いて、胎土の供給源の同定がおこなわれている。また、ルビジウムはカリウムと、ストロンチウムはカルシウムと、補完関係にあるため、その対比は近い結果となる場合が多いが、ストロンチウム・ルビジウムに関しては、その量がカリウム・カルシウムに比べて極少量なため、差異を見出しやすい因子としてより有効なものとなる。

在地系土器器と丸底形式製塩土器における測定結果の比較から、製塩土器と比較して在地系土器器（A領域：▲1・2）は、カルシウム含有量が1.7%以上と比較的高く、逆にカリウム含有量に関しては1.3%未満と比較的低いという差異を把握することができた。また、ストロンチウムに関しては含有量が0.03%以上と高く、カリウムが1.3%未満と比較的低いという、補完関係にある因子においても同様の結果を得ることができている。

したがって、蛍光X線を用いた分析結果からは、在地系土器器と丸底形式製塩土器の胎土供給源が明らかに異なるという指摘を得ることができた。

単位: wt(%)

| 原子No | 化学式                            | SH135 在地系土器 |        | SH135 製塩土器    |               |              |              |              |              |              |               |  |  |
|------|--------------------------------|-------------|--------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--|--|
|      |                                | SH135 在地系土器 |        | SH135 製塩土器    |               |              |              |              |              |              |               |  |  |
|      |                                | 1.1g        | 16.1g  | 3須恵器系<br>1.4g | 4須恵器系<br>0.9g | 5黒色系<br>3.2g | 6黒色系<br>1.2g | 7白色系<br>1.3g | 8白色系<br>1.2g | 9赤色系<br>1.1g | 10赤色系<br>0.9g |  |  |
| 11   | Na <sub>2</sub> O              | 1.341       | 1.500  | 0.997         | 1.290         | 1.169        | 1.683        | 0.828        | 0.704        | 0.678        | 0.807         |  |  |
| 12   | MgO                            | 0.597       | 0.885  | 1.114         | 1.406         | 0.921        | 3.445        | 1.160        | 1.080        | 0.723        | 1.035         |  |  |
| 13   | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 19.142      | 16.781 | 22.797        | 19.626        | 23.965       | 19.189       | 23.708       | 22.738       | 21.960       | 19.761        |  |  |
| 14   | SiO <sub>2</sub>               | 61.823      | 65.966 | 64.304        | 63.658        | 61.467       | 58.056       | 63.195       | 64.151       | 64.162       | 67.241        |  |  |
| 15   | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 2.527       | 1.827  | 0.629         | 0.546         | 0.991        | 0.686        | 0.598        | 1.147        | 1.847        | 0.716         |  |  |
| 16   | SO <sub>3</sub>                | 0.000       | 0.000  | 0.000         | 0.000         | 0.000        | 0.000        | 0.000        | 0.000        | 0.000        | 0.000         |  |  |
| 19   | K <sub>2</sub> O               | 1.069       | 1.277  | 2.674         | 2.441         | 1.878        | 3.211        | 2.731        | 2.718        | 2.473        | 2.557         |  |  |
| 20   | CaO                            | 1.761       | 2.323  | 0.415         | 0.785         | 1.258        | 1.653        | 0.416        | 0.551        | 1.053        | 0.302         |  |  |
| 22   | TiO <sub>2</sub>               | 1.317       | 1.568  | 1.018         | 0.950         | 1.162        | 1.251        | 1.001        | 0.976        | 1.027        | 0.848         |  |  |
| 23   | V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>  | 0.039       | 0.038  | 0.025         | 0.030         | 0.033        | 0.043        | 0.033        | 0.021        | 0.019        | 0.022         |  |  |
| 25   | MnO                            | 0.125       | 0.160  | 0.112         | 0.142         | 0.192        | 0.280        | 0.082        | 0.078        | 0.158        | 0.132         |  |  |
| 26   | Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | 10.177      | 7.587  | 5.8559        | 9.067         | 6.916        | 10.430       | 6.1797       | 5.7741       | 5.828        | 6.525         |  |  |
| 37   | Rb <sub>2</sub> O              | 0.009       | 0.009  | 0.017         | 0.017         | 0.011        | 0.021        | 0.019        | 0.021        | 0.018        | 0.017         |  |  |
| 38   | SrO                            | 0.036       | 0.043  | 0.015         | 0.015         | 0.019        | 0.021        | 0.015        | 0.015        | 0.024        | 0.011         |  |  |
| 40   | ZrO <sub>2</sub>               | 0.040       | 0.038  | 0.029         | 0.028         | 0.021        | 0.033        | 0.034        | 0.027        | 0.030        | 0.027         |  |  |

第28表 若宮八幡宮遺跡SH135出土在地系土器・製塩土器蛍光X線分析結果

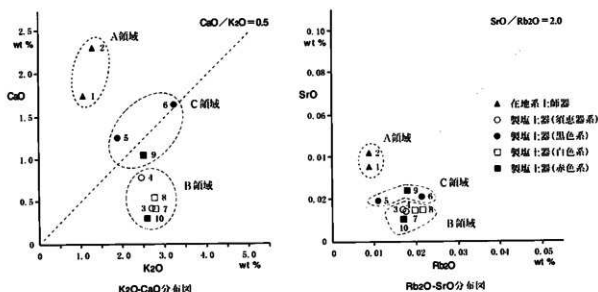


Fig.11 若宮八幡宮遺跡SH135出土在地系土器・製塩土器のK<sub>2</sub>O-CaO分布図およびRb<sub>2</sub>O-SrO分布図

続いて、4種8点の製塩土器間における位置付けであるが、4種の内、②須恵器系・③黒色系・⑤赤色系の試料3・4・7・8・10の5点は分布図の中に一つのまとまった領域を形成する（B領域）。一方、残りの④白色系試料5・6と⑤赤色系試料に関しては、A・B領域とは一線を画した、まとまりの悪い領域を形成する（C領域）。したがって、以上のような、分析結果から、製塩土器の胎土の供給源としては、B領域1地点とC領域内の最大3地点という、合計2～4地点存在する可能性を想定することができる。

前述のとおり、製塩土器は土器形式上は、明らかに大阪湾岸産と認識できる資料である。胎土供給源としては、2～4地点が想定されるものの、総じては近い関係にあることから、B・C領域が大阪湾岸産を示すグループとして理解して差し支えないと考えられる。勿論、今後、大阪湾岸出土丸底Ⅰ式資料における蛍光X線分析結果と照合を試みる必要があることは言うまでもない。また、その結果、大阪湾岸内における地域差が把握されれば、より良い物流経路の把握が期待される。

積山氏は、遠距離の運搬容器としては、当型式（F類（丸底Ⅰ式））のみとなることを指摘されている。そのような生産遺跡における各型式の使用状況をも加味して考えると、やはり、当資料は、大阪湾岸産の製塩土器と考えて間違いないであろう。

若宮八幡宮遺跡からは、鎌田遺跡のように大量に出土したわけではないが、複数の生産地からの集積がなされている点に注目すると、何処かある場所において、一括管理されたものが、二次的に流通したものであると考えられはしないだろうか。その一括管理されたのは、出荷地なのか、集積地なのか、消費地における管理地なのか、純粋に消費の末端としての使用地なのであろうか。おそらく6世紀前半という時期においては、この生産地から消費の末端に至る様々なレベルにおける管理行程がなされていたと考える必要がある。

土器製塩は、通常の煮沸具を使用せず、製塩用の土器を使用するなど、効率的に塩を作ることに終始したものである。奈良時代には、塩を俵やカマスに詰めて運んでおり、大量に塩を運ぶには、丸底Ⅰ式のような小型の容器では非効率的である。しかし、丸底Ⅰ式の存在意義は、消費地の末端で使われることを前提としていたことにあるのではないだろうか。すなわち、消費の末端において、運搬容器とともに焼塩容器としても使用できるところに、その存在意義を見出すことができるのである。また、逆に、若宮八幡宮遺跡の特徴的な出土状況として把握すべきことは、少量の使用量を見越した搬入の仕方にあり、その事象に関しては、滑石製品工房跡との関連を注視すべきである。

#### (5) 若宮八幡宮遺跡出土大阪湾岸産製塩土器出土の意義について — 工房跡からの出土について —

若宮八幡宮遺跡において、大阪湾岸産製塩土器の出土は、竪穴建物跡に限定される。また、玉作り、鍛冶或いはガラス玉の製作をおこなっていると考えられるSH135から、集中して製塩土器が出土しているという出土状況には注目が必要である。

製塩土器で作られる塩は結晶塩であり、その用途について大別すると、SH135における製塩土器の用いられ方は、

- ① 祭祀行為に関わる塩の消費
- ② 玉作り・鍛冶・ガラス玉の製作など工業に関わる塩の消費
- ③ 供膳具に伴う製塩土器

という3つの可能性を考えることができる。

①に関しては、玉製品と共に、竪穴建物跡から大量に出土するミニチュア土器の存在が、祭祀的な意味合いを強調する。前述の四条畷市の奈良井遺跡においては、供膳の対象となったと考えられる馬骨とともに製塩土器が出土する。すなわち、5世紀後半段階において、すでに「塩」が供膳、清浄化の道具としての意味を持っていた可能性が指摘される。或いは、供膳の対象となった馬に対しての塩の意味が込められたものであった

かもしれない。

②に関しては、ガラス工房や鍛冶工房においては、高温に接する人体への塩分供給や、カマドの構築に塩が用いられるなど、ある程度の塩の消費が見込まれるという点である。因みに古代においては、「正倉院文書」に、ガラス製品の原材料として塩が挙げられており、また、「延喜式」には、皮革製品の製作過程において「シオナメシ」という工程があったことが指摘される<sup>1)</sup>。中国の宋代には、製鉄炉の炉壁をつくる際、土に塩を混ぜる記述も残されている<sup>2)</sup>。

③に関しては、大量の土師器埴などの食器各種が共存している点から、食器具の一部的な側面を見出し、その供膳形態に大阪湾岸と直接的な繋がりを持った人物、或いは氏族、工人集団を想定するものである。「延喜式」によると人夫の11日の給与は、米と塩で換算されている<sup>3)</sup>。また、上級の役人の給食は、米、塩、海産物となっている。勿論、塩は、塩漬けや漬け物等の食品加工の道具としても用いられる。山口県長門郡山では、調塩木簡と耐米木簡が出土し、人夫の給与として食塩を使用していた可能性が高く、「延喜式」での給与の換算方法も米と塩である。古代の祭祀のお供え物は、米・塩・海産物で、人の食事と同じ物である。よって、工房から出土する製塩土器は必ずしも祭祀や工業目的としたものではなく、食用であった可能性も考えられる。

SH135から特徴的に出土する他の遺物の出土状況からは、①である可能性が最も高いと考えられるが、いずれにせよ、製塩土器・製塩炉といえども、全てが、鹹水→煎熬→焼塩という全行程を賄うものではなく、当調査区出土製塩土器に関しては、焼塩の行程がおこなわれた痕跡であると考えられる。すなわち、当遺跡出土大阪湾岸産製塩土器は、運搬・保管容器ひいては焼塩という調理の一部に、調理器具としてもたらされた物であると考えられる。「丸底1式」は、製塩土器が最も小型化する時期のものであり、消費地の末端で使用されることを前提としたものと考えられ、当遺跡における出土状況からは、まさにその位置付けが妥当であると考えられる。

## 6) まとめ

例えば、四條畷市のように、古墳時代に需要の高まった蒙古馬の育成のため、多量の塩を必要とした例のように、塩の消費という行為の背景が、どのようなものであったのかを考慮しなければならない。

当遺跡は、消費の末端に位置付けられるが、製塩土器研究の重要な点は、土器の分布から、内容物である塩の流通が推察される点にある。勿論、塩の生産地と、土器の生産地が必ずしも同一地点である保障はない。しかし、この問題の解決を一步進めるためにも、唯一の遠隔地遺跡である若宮八幡宮遺跡出土製塩土器試料との蛍光X線による胎土分析を用いた比較検討の必要性が指摘される。

問題は、何故、豊後国の碩田（大分）という瀬戸内海の東端である大阪湾産のものが、瀬戸内海西端の若宮八幡宮遺跡において出土することになったのかという点にある。この問題に若干の考証を加える為には、まず、年代観に残る問題を解決せねばならない。

まずは、丸底1式の最盛期にあたる5世紀中頃～6世紀初頭にかけての大阪湾岸における倭政権の状況を概観してみたい。TK208即ち、5世紀の中頃に関しては、所謂、倭の五王の時代で、4世紀末の加羅（任那）進出後、百済を初めとして韓半島との関係が次段階に入る時期であり、初期須恵器の生産に代表されるように窯業を始めとした様々な農工業技術が到来する時期でもある。製塩技術も、その中に含まれていたものと考えられ、長原遺跡に代表される初期須恵器併行の製塩土器（F1類）の出土は、この現象を示すものと考えられる。事実、丸底1式には、須恵器のように焼成が硬質なものや、自然釉の付着したものがみられ、須恵器窯のような還元焼成をおこなえる窯を使用している可能性があり、製塩土器製作（成形）は須恵器製作（成形）の技術によるものではないが、製塩土器の焼成技術には須恵器の焼成技術との関連を窺うことができる。しかし、これらの技術が定着し始めたのは、TK208～TK47の間であり、一部の先進地域外への拡散はTK23・TK47併行

期を待たねばならなかった。

この時期、応神天皇の難波大宮・仁徳天皇の難波高津宮に象徴されるように河内飛鳥への後政権の進出著しく、その港津として難波津が整備されていった。大和飛鳥から河内の難波へと抜ける竹内街道・高野街道を押さえていたのは、大和飛鳥南西部を掌握する葛城氏であり、同氏は紀伊へと抜ける道も押さえていた。和泉には大伴氏、紀伊には紀氏があり、それぞれ難波津への連結港津として和泉・和歌山の港津を掌握する両氏は、葛城氏を中核として発展をしたものと考えられる<sup>1)</sup>。その事象を示すがごとく、紀氏関連と思われる岩橋千塚古墳群に代表されるように紀伊北部に群集墳を形成する。紀氏関連といわれる石室構造として「石棚」の分布域が論じられているが、その分布は紀伊北部を最多として、瀬戸内海沿岸、特に東岸（備讃瀬戸地域）に集中的に分布するようである<sup>2)</sup>。

前述の通り、若宮八幡宮遺跡SH135出土丸底1式製塩土器は、MT15・TK10併行の遺物を伴う。SH135は、玉作り工房跡であると考えられ、玉類などの滑石系の石材を用いた製品を製作していたことが判明している。これらの石製遺物の製作は、5世紀中頃～6世紀前半に最盛期を迎え、年代的にMT15・TK10範囲をカバーする。所謂、渡来系文化と関連すると考えられる滑石製模造品の盛行期の晩年に当たる6世紀前半が、社会の変革に起因する様々な産業を断絶する画期、すなわち生産様式上の画期であると理解できるのであれば、若宮八幡宮遺跡出土丸底1式製塩土器は、その最晩期を表すものである可能性が考えられる。また、同工房跡からは、輪羽口等の鍛冶或いはガラス製品製作に関する遺物も出土しており、さまざまな工業製品を作成していたことが判明している。

SH135聖穴建物跡は、「塩」・「玉」・「鉄」という古墳時代における重要な要素を出土遺物に備えている。時間軸としては、継体天皇の治世の晩期、MT15・TK10併行という「磐井の乱」前後の時期をカバーする。周知の通り、継体天皇は、越の国出身の天皇で<sup>3)</sup>、507年に樟葉宮において即位するが、その背景には、「河内馬飼首鹿鹿（かわちのうまかいのおびとあらこ）」等、百濟人を始めとした渡来人、紀氏等が、その政権を支えるべく頻りに大和と九州・河内を、すなわち瀬戸内海を往来したであろう。平安時代初頭に編まれたとされる『新撰姓氏録』からは、河内氏族の約3割が朝鮮半島系の渡来系氏族であったことが伝えられ、この地に古くから渡来系氏族が根付いていたことが推察される。若宮八幡宮遺跡出土製塩土器は、その瀬戸内の西端である豊後に位置し、九州と渡来系・畿内系の人々とのネットワークの一端を示していると考えられるのである。

<sup>1</sup> 広瀬 和雄 1978 『堺町遺跡群発掘調査概要 一小島東遺跡・淡輪遺跡』大阪府文化財調査概要1977 大阪府教育委員会

広瀬 和雄 1994 「大阪府」『日本土器製塩研究』近藤義郎編 吉本書店

<sup>2</sup> 益田 雅司 1994 「和歌山県」『日本土器製塩研究』近藤義郎編 吉本書店

<sup>3</sup> 宮加見泰彦 2001 「紀淡海峡の製塩土器」『久保和上君追悼考古論文集』

<sup>4</sup> 植山 洋 2004 「大阪湾沿岸の古墳時代土器製塩」『畿内の「大古墳とその時代」』季刊考古学・別冊14 広瀬和雄編 雄山閣

<sup>5</sup> 奈良井遺跡（5世紀中葉～6世紀中葉）からは、馬の祭祀場、7頭分以上の馬骨、人牛馬の形やミニチュア土器、馬頭埋葬、製塩土器が馬骨とともに約1500個分出土。

鎌田遺跡からは、牧場遺跡馬の祭祀場、木櫓、飾り台、楽器、馬の頭・食・骨、製塩土器が出土。

瀬田北遺跡からは、大量の製塩土器と木製鹽（古墳時代中期）、馬歯・馬埋葬土坑・馬体全身骨格等の馬を中心とした動物遺存体が出土。

<sup>6</sup> 四條畷市の野島稔主任技師のご好意により、鎌田遺跡出土製塩土器を実見する機会を得ることができた。また、奈良井遺跡における製塩炉の在り方についてご教示を受けた。

- <sup>7</sup> 富加見泰彦 2000 「和歌山県西庄遺跡の生産活動について」 考古学ジャーナル461
- 富加見泰彦 2003 『西庄遺跡都市計画道路西脇山口線道路改良工事に伴う発掘調査報告書』財団法人和歌山県文化財センター
- <sup>8</sup> 宮崎 泰史 2002 『讃良郡条里（郡北遺跡）』発掘調査概要・IV -大阪府四条坂市所在-』大阪府教育委員会
- <sup>9</sup> 広瀬 和雄 1978 『岬町遺跡群発掘調査概要 -小島米遊跡・淡輪遺跡-』大阪府文化財調査概要1977 大阪府教育委員会
- <sup>10</sup> 積山氏は、遠距離の運搬容器としてはF類のみとなることを指摘されている。
- <sup>11・12・13</sup> 大久保徹也氏より御教示
- <sup>14</sup> 門脇慎二・水野正好 1989 『河内飛鳥』古代を考える 吉川弘文館
- <sup>15</sup> 「石棚」は、もう一つ筑前・筑後・肥後という領域にも、その分布が集中しており、527年の「磐井の乱」で知られる磐井氏の勢力圏との関連も指摘されている。しかし、磐井の乱後における筑前・筑後・肥後方面からの影響は考え難い。
- <sup>16</sup> 福井県 1986 『福井県史』資料編13 考古-図版編-
- 大森 次・森川昌和 1994 「福井県（若狹）」『日本土器製塩研究』近藤義郎編 青木書店
- 越には、浜瀬式という、大阪湾岸産丸底Ⅰ式に類似する製塩土器が存在する。
- <sup>17</sup> SH135からは、韓式系の様相を伝える多孔式の甕が出土している。



## 第VI章 まとめ

### 1. 若宮八幡宮遺跡第1次調査地点の遺構変遷

若宮八幡宮遺跡第1次調査地点は、弥生時代～古墳時代、近世～近・現代の遺構が展開する複合遺跡である。この節では、主要遺構を用いて、時期別の変遷をみていく。

#### (1) 弥生時代 (第200図)

早期…SK390、SP764

中期…SD120、SD598、SK115、SK1009

後期…SE096

弥生時代早期に比定される遺構は、前述の2基である。しかし、中期に比定されるSD120からは、下黒野式段階に比定される一群が、一定量出土する。このことから、当調査地、或いは調査地周辺に、弥生時代早期の遺構群の存在が考えられる。つまり、早期段階における当調査地は、微高地としてすでに安定しており、人々が進出し、活動していたようである。前期～中期前半の遺構は、確認されていない。中期後半に比定される遺構としては貯蔵穴跡(SK115)、後期初頭では井戸遺構(SE096)が確認されている。また、堅穴建物跡であるSH125も中期後半～後期初頭の遺構と考えられ、その存在からも、当該期には、生活の場(集落)となっていたと考えられる。そして、弥生時代後期初頭に比定される井戸遺構を最後に、古墳時代初頭まで、遺構は確認されなくなる。

#### (2) 古墳時代 (第201・202図・第29表)

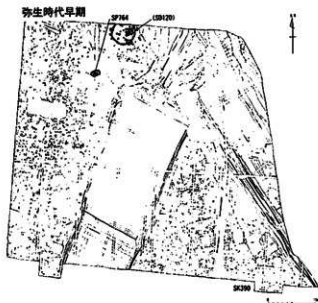
前期…SH360・SD380、SH105、SH110

後期Ⅰ-Ⅰ(TK47～MT15)…SH220

Ⅰ-2(MT15～TK10)…SH135、SH140、  
(SH145)

Ⅱ-Ⅰ(MT85～TK43)…SD270、(SB007、  
SH100)

Ⅱ-2(TK43)…SB003、SB006、SB008、  
SB012～SB014、SB020、  
SD306、SD550、SH130、  
SH150、SH155、SH160、  
SH280、SH555、SK230



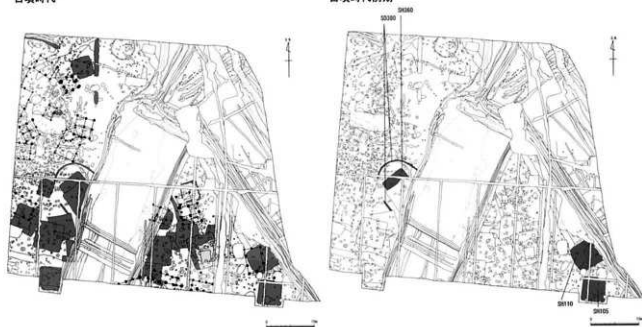
第200図 弥生時代遺構変遷図 (1/800)

第29表 古墳時代遺構変遷表

| 前期    |       | 中期   | 後期    |      |                   |       |
|-------|-------|------|-------|------|-------------------|-------|
| 初頭    | 前葉    | TK47 | MT15  | TK10 | MT85              | TK43  |
| SH105 |       |      |       |      | SH100             |       |
|       | SH110 |      | SH220 |      | SB007             |       |
| SH360 |       |      |       |      |                   |       |
|       |       |      | SH135 |      | SH170             |       |
|       |       |      | SH370 |      | SH670             |       |
|       |       |      | SH140 |      | SB011             |       |
|       |       |      | SH145 |      | SH550             | SH150 |
|       |       |      |       |      | SH555             | SB016 |
|       |       |      |       |      | SH1000            | SB017 |
|       |       |      |       |      | SH210             |       |
|       |       |      |       |      | SH160             | SB012 |
|       |       |      |       |      | SH155             | SB013 |
|       |       |      |       |      |                   | SB020 |
|       |       |      |       |      | SH130             |       |
|       |       |      |       |      | SB018             |       |
|       |       |      |       |      | SK230             |       |
|       |       |      |       |      | SB005             |       |
|       |       |      |       |      | SH280             |       |
|       |       |      |       |      | SB003             |       |
|       |       |      |       |      | SB014             |       |
|       |       |      |       |      | SB006             |       |
|       |       |      |       |      | SB001             |       |
|       |       |      |       |      | SB008             |       |
|       |       |      |       |      | SB004             |       |
|       |       |      |       |      | SB002・SB009・SB015 |       |
|       |       |      |       |      |                   | SF200 |

古墳時代

古墳時代前期

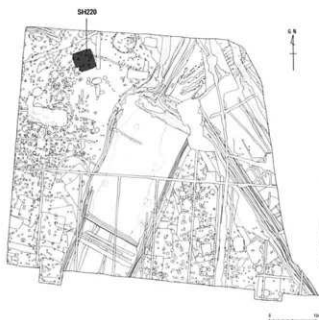


第201図 古墳時代遺構変遷図① (1/800)

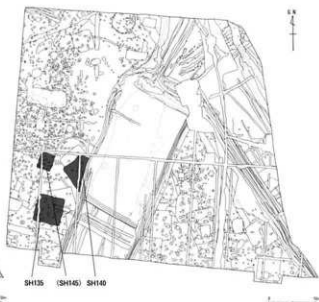
後期は、遺構数が多く、各遺構からの出土遺物に時期差がみられたため、細分を試みた。時期の細分にあたっては、基本的に、出土須恵器を指標としている。

古墳時代前期初頭～前葉は、竪穴建物跡 (SH360・105・110) が検出されており、生活の場であったと考え

古墳時代後期Ⅰ-1



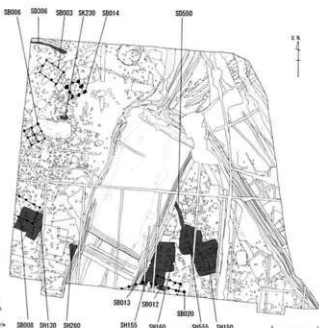
古墳時代後期Ⅰ-2



古墳時代後期Ⅱ-1



古墳時代後期Ⅱ-2



第202図 古墳時代遺構変遷図② (1/800)

られる。中期の遺構は、確認されていない。そして、後期に入ると、竪穴建物跡に加え、掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑などが確認される。特に後期後半には遺構数が増加する傾向にあり、後期Ⅱ-2期には、同時期内において、かなりの遺構の重複がある(第29表)。後期の竪穴建物跡の中には、玉作りをおこなったと考えら

れる建物跡も含まれており、生活の場と手工業生産の場が混在する状況であったと思われる。

古墳時代の集落様相については、第2節で、検討する。

### (3) 古墳時代終末期～古代 (第203図上)

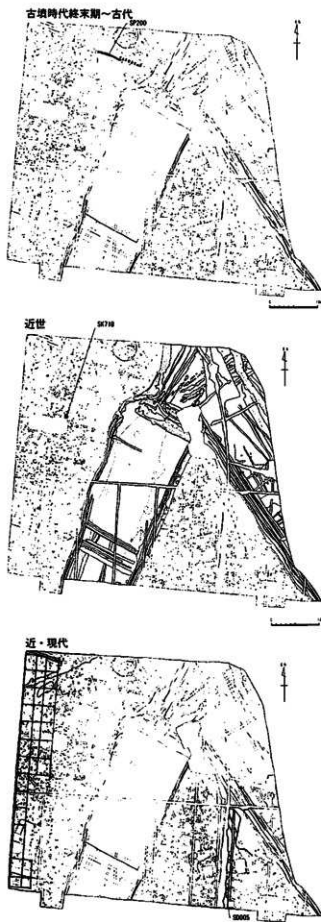
7世紀後半に比定される道路状遺構(SF200)が確認されているが、当該期の遺構に関しては、この1基のみが確認されている。道路という遺構の性格から、遺構と遺構を結節する性格を持つものと考えられるため、同時期に道路状遺構以外の遺構が存在する可能性は高い。しかし、それらの遺構は調査区内で、確認されていないことから、削平を受けたか、調査区外に存在すると考えられる。また、遺構に伴わない遺物ではあるが、8世紀代の須恵器なども出土している。当調査地は、国府推定地である上野台地の裾野に位置しており、7世紀後半～8世紀代に比定される遺構の存在が示唆される。

### (4) 近世～現在 (第203図中・下)

近世には、農業生産の場であったようである。水田遺構が、主な遺構で、溝状遺構や畦畔を伴い調査区中央と東側に展開する。SX300やSDI49の出土遺物から水田構築の時期は、近世初頭と考えられ、水田跡からは、近世全般の遺物が出土していることから、その後、速縮と耕作されたようである。

近代においては工場が建てられ、工業生産の場となった。そして、現在は、上野ヶ丘中学校となり、学びの場となっている。

当調査地点は、少なくとも弥生時代中期以降、安定した微高地上であったことから、断続的ではあるが、現代に到るまで人々の活動の場となっている。特に、弥生時代～古代にかけての当調査地は、周囲の低湿地に比べ、利用しやすい微高地上にあるということから、土地利用における重要度は、非常に高かったと考えられる。



第203図 古墳時代終末期～近・現代遺構変遷図(1/800)

## 2. 古墳時代の若宮八幡宮遺跡第1次調査地点

若宮八幡宮遺跡第1次調査地点における主要遺構は、その多くが、古墳時代に比定される。また、玉作りをおこなっていたと考えられる竅穴建物跡の検出、大阪湾岸で製作された製塩土器の出土など、注目される点も多い。よって、この節では、古墳時代の集落様相に検討を加える。

### (1) 玉作り工房跡の様相

#### i. SH220の様相

SH220では、石製紡錘車の成品が隅溝壁面から、未成品が上柱穴跡の埋上より出土している。また、銅片や砥石などの工具類も出土していることから、SH220内において、紡錘車が製作されていた可能性が指摘される。また、使用した痕跡のある天草石製砥石が出土している。この砥石は、天草石であることから、鉄製品用の砥石である可能性があり、間接的に鉄器の存在が示唆され、紡錘車などの製作に関連する工具として鉄器が使用されていたことが指摘される。出土遺物の中には、輪羽口と炉壁の一部と考えられるものがあり、ガラス玉も1点だけ出土していることから、ガラス玉製作の可能性も考えられる。さらに、石製F玉の未成品も1点出土している。石製F玉に関しては、未成品1点の出土に止まるが、紡錘車も成品と未成品が1点ずつの出土に止まるため、徹底した製品管理を考えれば、建物内に成品が多数残るとは考え難く、よって石製F玉の製作も否定できない。

当遺構は、内部施設として、貼床、隅構に加え、南西コーナーの高まり、間仕切りの可能性がある溝状遺構などが確認されている。特に注目されるのは、東壁中央付近で確認された土坑（SK981）である。土坑底部からは、土師器碗の完形品と台石・礎などが出土し、紡錘車の製作を考えると、いわゆる作業用ピット、或いは、それに準ずる内部施設の可能性がある。

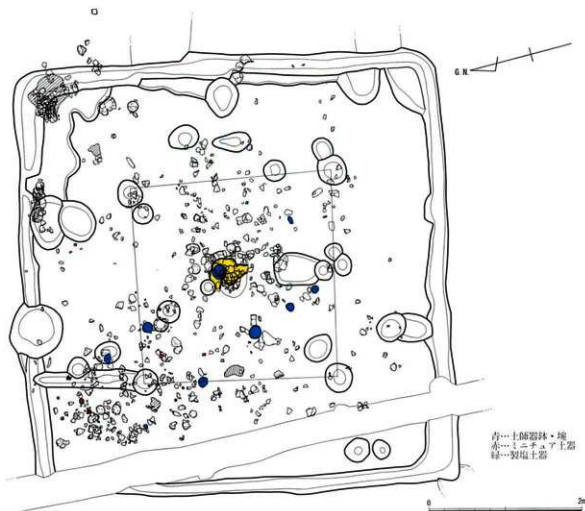
SH220からは、紡錘車の成品・未成品、砥石、土師器、須恵器などが出土しており、出土遺物は、他の建物跡に比べ量的にも多く、焼成後穿孔する小形丸底蓋など、祭祀的様相も僅かに見られる。出土遺物は、床面付近からの出土が多く、また、未成品と砥石が上柱穴の埋上から出土し、土坑の底部から土師器碗や台石が出土する状況から、建物を廃絶する際、SH220建物内で使用していた土器・石器などを、同時に廃棄した可能性がある。

#### ii. SH135の様相

SH135では、石製のF玉と勾玉の成品・未成品、銅片、砥石などの工具類が出土しており、F玉と勾玉が、SH135内で製作されていたと考えられる。また、ガラス玉と輪羽口も出土しており、ガラス玉製作も否定できない。輪羽口に関しては、紡錘車を製作していたSH220からも出土している。輪羽口を出土する竅穴建物跡は、玉作りをおこなっていたSH220とSH135の2棟のみであり、輪羽口は、ガラス玉製作に関連する可能性もあるが、石製の玉作り製作に関連して工房内で使用された可能性も考えられる。

また、大阪湾岸で製作された製塩土器も出土している。製塩土器は、当遺構からの出土量が、最も多く、製塩土器自体の遺存状況も、他の遺構から出土するものに比べ、良好なものが多い。塩は、食用、醸造やガラス玉製作に伴う工業用としての使用などが考えられる。製塩土器とその内容物である塩とのセットは、カマド祭祀・ウマ祭祀といった祭祀目的による使用例が確認されている。また、布留遺跡では、玉作り工房跡からの出土例もあり、祭祀との関連が指摘されている。（大林2006年）。よって、製塩土器の出土理由は、SH135が玉作り工房の性格を有することに起因した、祭祀的要素が強いものと考えられる。一方、玉作り工房と考えられるSH220からは出土しておらず、同時期のSH140からわずかではあるが出土している。また、SH135と同時期に比定される毛井遺跡B地区9号竅穴住居跡から、当遺跡で出土した製塩土器と明らかに様相は異なるが、製塩土器が出土している。このことから、SH135出土の製塩土器は、玉作り工房という建物機能との関連とともに、MT15～TK10という時期にも、出土理由があると考えられる。

遺物の出土状況や地床面の検出状況から考えて、SH220とは異なり、貼床は貼られていない。当遺構の埋没



第204図 SH135遺構実測図 (1/50)

時期は、MT15～TK10併行期頃に比定され、カマドが付設されていてもおかしくない時期であるが、先にも述べたように、SH135では建物中央部で地床<sup>5</sup>を確認している。出土遺物の中には、カマドとセットで用いられる甔が含まれている。时期的な要素と甔の出土から、移動式カマドの可能性も考えられるが、破片は確認されていない。そして、出土した甔は、この時期に一般的な単孔式のものだけでなく、渡来系の要素がある多孔式甔の破片もあり、注目される。

SH135からの遺物出土量は、他の建物跡と比較して量・種類ともに多い。白玉と勾玉の成品・未成品、砥石をはじめ、土師器、須恵器、大阪湾岸で製作された製塩土器などが出土しており、中でも土師器鉢・埴、ミニチュア土器の出土状況は目を引く。第204図は、床面近く或いは床面から出土した土師器鉢・埴、ミニチュア土器、製塩土器をプロットしている。祭祀的要素が強いミニチュア土器の出土点数は多く、また建物跡の北西部分から集中して出土する傾向にある。そして、土師器鉢・埴は、すべて正位置を保って出土しており、その出土位置は、列をなしているようにも見える。このような、ミニチュア土器と土師器鉢・埴の出土状況から、単純な廃棄ではなく、祭祀的意図などがあるものと思われる。また、先に述べた製塩土器の祭祀目的による使用の可能性も考え合わせると、SH135から出土した大量の遺物は、建物自体の廃絶に伴い、祭祀的な目的をもって廃棄されたと考えられる。

### Ⅲ. 玉作り工房跡の様相

SH220とSH135は、建物内で製作された各成品・未成品、その製作に関連する砥石などの道具類、ガラス玉や輪切口など、出土遺物の共通点も多く、両遺構とも、いわゆる玉作り工房の機能を有していたと考えて差し支えない。SH220、SH135ともに、住居兼工房であったか、工房の機能のみを有していたかは、断定できない。

両遺構の出土土器は、時期的に連続しており、このことから、SH220からSH135へと玉作り工房の機能が移り変わったと想定される。SH220では、石製紡錘車を製作していたと考えられ、石製E玉、ガラス玉を製作していた可能性もある。一方、SH135では、石製F玉と勾玉の製作が考えられ、ガラス玉を製作していた可能性もある。以上のことから、SH220からSH135へと工房機能が移転した際、製品内容が変化したと考えられる。SH220は、西側部分が削平されており正確な床面積は不明だが、SH220に比べ、SH135の床面積が広いことは明らかであり、工房機能移転に伴い、建物規模(床面積)が、拡大したとみられる。この建物規模拡大の背景には、製品内容の変更や生産量の拡大などが可能性として挙げられ、断定はできないが、工房機能移転の原因となった可能性が考えられる。

SH220、SH135は、建物自体を廃絶する際、それに伴って、建物内で使用していた土器や石器なども廃棄する状況が想定される。SH220からSH135への工房機能移転の際、製作工具類を次ぎの工房、つまりSH135に持ち込むことは、合理的である。しかし、SH220に一定量、工具類が残されており、SH135でもその状況が確認されることから、玉作り工房では、建物廃絶の際、玉作り工房特有の祭祀行為、或いは廃棄行為が想定される。

SH220・SH135は後期Ⅰ期に比定される。後期Ⅱ期に比定される建物跡の中には、玉作りをおこなっていた可能性が考えられるものもあるが、玉作りに関連する出土遺物も含め、出土遺物の量は少なく、玉作りをおこなっていたとしても、SH220、SH135とは様相を異にするようである。

## (2) 集落の様相

### Ⅰ. 竪穴建物跡の様相

古墳時代前期のSH105、後期のSH135、SH145、SH100、SH130で地床炉を確認している。大分平野におけるカマドの導入は、5世紀末には始まっており、6世紀後半になるとほとんどの竪穴建物に付設される。当調査地点でも、6世紀後半に比定される竪穴建物跡が存在するが、そのいずれにおいても、カマドの痕跡は確認されていない。それどころか、6世紀後半に比定されるSH100、SH130でさえ地床炉が確認されている。大分平野で確認されている同時期の集落と比較し、明らかに異質などが指摘できる。そして、当調査地点の竪穴建物跡は、周溝や貼土に加え、建物内の間仕切りと思われる溝状遺構、溝が連続する柱穴跡、土坑など、内部施設の付設が、他の遺跡に比べ特徴的である。また、張り出しを持つ竪穴建物跡や溝状遺構で囲まれた竪穴建物跡もある。

### Ⅱ. 各時期の集落の様相 (第201・202図・第29表)

前期初頭～前葉には、SH360、SH105、SH110の3棟の竪穴建物跡が、確認されている。SH360とSH105からは鉄線と考えられる遺物が出土し、いわゆる在地系の土器が出土している。一方、SH110は、外來系の要素を持つ土器が共存しており、SH360・SH105との建物内部施設の付設状況の相違とともに注目される(第30表)。

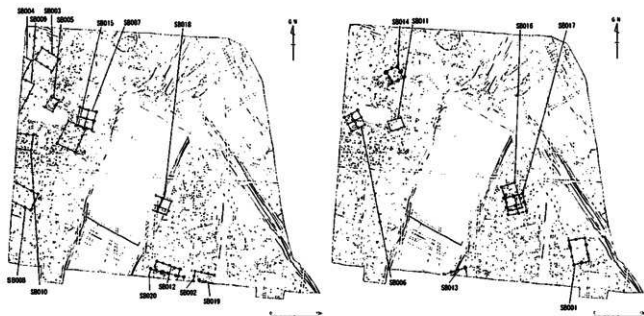
前期後半～中期に比定される遺構はなく、遺物も確認されていないことから、現状では、第1次調査地点に、当該期の遺構が、存在しなかった可能性がある。

次に確認されるのは、後期の竪穴建物跡で、玉作りをおこなっていたSH220である。前期で後期Ⅰ～Ⅱ期とした時期で、確実な遺構は、SH220の1棟のみである。後期Ⅰ～Ⅱ期の遺構としては、SH135が挙げられ、大分湾岸で製作された製塩土器が出土し、前段階(SH220)同様玉作りをおこなっていた竪穴建物跡である。SH140も同時期に比定され、甗、ミニチュア土器、製塩土器などの出土土器の組成がSH135と近似する。SH145は、出土土器から後期Ⅰ期に比定されるが、建物軸方向がSH135とほぼ同じであり、後期Ⅰ期の中でも、後期Ⅰ～Ⅱ期の建物の可能性がある。SH145は、主柱穴の確認されている竪穴建物跡の中で、唯一2本柱である。これは、建物面積が狭いことに起因すると考えられるが、この狭い建物の中で、2基の地床炉を確認している。このような建物の様相から、SH145は、SH135などと機能分化し、併存していたと想定される。そして、玉作り工房であるSH220・SH135は、後期Ⅰ期(TK47～TK10)に比定され、この時期の当調査地点は、玉作りをおこなう集落であったと考えられる。

第30表 聖穴聖物施設および出土聖物一覧

| 遺跡番号             | 建物輪<br>方 向 | 東西<br>(m) | 南北<br>(m) | 面積<br>(㎡) | 建替え<br>(回) | 内 部 施 設    |            |            | 外 部 施 設    |            |            | 物 遣        |            |            |            |            |            |            |            |            |            |
|------------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|                  |            |           |           |           |            | 主柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) | 土柱穴<br>(本) |
| SH360<br>(SD360) | N-38°-W    | 5.33      | -         | -         | -          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH105            | N-6°-E     | 4.7       | 5.63      | 26.46     | 1          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH110            | N-28°-W    | 5.74      | 5.77      | 33.12     | 1          | 4(8)       | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH220            | N-17°-W    | -         | 4.21      | -         | (1)        | 4(6)       | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH135            | N-14°-E    | 5.77      | 5.7       | 32.89     | -          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH140            | N-32°-W    | 5.2       | 5.73      | 29.8      | (1)        | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH145            | N-19°-E    | 2.85      | 3.6       | 10.26     | -          | 2          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH100            | N-3°-E     | 4.8       | 5.0       | 24.0      | 2          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH130            | N-21°-E    | 5.43      | 5.5       | 29.87     | 1          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH150            | N-18°-W    | 5.55      | 7         | 38.85     | -          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH155            | N-12°-E    | -         | 4.26      | -         | -          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH160            | N          | -         | 6.2       | -         | -          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH280            | N-5°-W     | -         | -         | -         | -          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH555            | N-11°-W    | 4.72      | 5.47      | (25.82)   | -          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH170            | N-14°-W    | -         | 5.65      | -         | -          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH210            | N-13°-W    | 3.82      | 4.3       | (16.43)   | 1          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH370            | N-14°-W    | 5.01      | 5.29      | (26.50)   | -          | 4          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH660            | N-11°-E    | -         | -         | -         | -          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH670            | N-14°-E    | -         | -         | -         | -          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |
| SH1000           | N-11°-E    | -         | -         | -         | -          | -          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          | ●          |





第205図 竪立柱建物跡 建物軸別遺構配置図 (1/800)

後期Ⅱ-1期に比定される遺構は、SD270のみである。SD270は、区画溝と考えられるが、区画されていた遺構は、現段階で確認されていない。簡素な遺構としてはSD270のみだが、当該期に比定される可能性のある遺構として、SB007・SD270と遺構主軸を同じくするSH100が挙げられる。Ⅱ-2期に比定される建物跡は、前段階に比べ増加する。しかし、重複する建物が多く、実際に同時併存していた竪穴建物の棟数は、数棟と推察され、建物位置を移動しての建替えが頻繁におこなわれていたと考えられる。

後期Ⅱ期には、建物跡として、竪穴建物跡に加え、竪立柱建物跡が検出されている。竪立柱建物跡の建物軸方向は、幾つかの方位に集約される (Fig. 1・2、第205図)。他の遺跡では、同時期の竪立柱建物跡の建物軸が、一致する傾向にあり、当該遺跡でも同様の様相を示している可能性がある。竪穴建物跡と竪立柱建物跡とで、重複関係があるものに関しては、竪穴建物跡は竪立柱建物跡より古く、集落内の建物構成が、竪穴建物から竪立柱建物へと遷移していったことが、把握される。建物跡の分布については第Ⅲ章2で述べているが、竪穴建物跡と竪立柱建物跡とは偏りが見られ、調査区北西部分では、竪穴建物跡のない空間地に、竪立柱建物跡が分布しているように見受けられる (第201図左)。よって、竪穴建物跡と重複しない竪立柱建物跡については、併存していた可能性がある。当該遺跡では、同時併存していた竪穴建物跡は数棟と考えられる。しかし、後期Ⅱ期では、竪穴建物数棟に竪立柱建物が加わり、その後、竪立柱建物だけの建物構成へと変遷していったと推察される。

### (3) 古墳時代の若宮八幡宮遺跡第1次調査地点の位置づけ

若宮八幡宮第1次調査地点は、第Ⅱ章で述べたように、周囲を旧河道に囲まれた微高地上に位置し、上野台地北側に広がる低湿地帯の中では、数少ない安定した土地である。また、当時の海岸線も当該調査地点の近くまで迫っていた可能性がある。希少な微高地である上、旧河道沿いであり、海岸に近いことから、立地的に交通の要衝であった可能性は容易に想像できる。さらに、近年の調査成果から、当該調査地西側の大道路地区は、当時、農業生産の場であったことが明らかとなっており、若宮八幡宮遺跡第1次調査地点は、上野台地北側に広がる低湿地域の開発の拠点であったと考えられる。

玉作りに使用される石材は、大分平野及び、佐賀県などの周辺地域からの供給が考えられるが、砥石の中には、天草石製のものもあり、熊本などの遠方との繋がりも指摘される。時期は、弥生時代のものになるが、全

山所サスカイト、姫島産黒曜石、腰形産黒曜石なども存在する。竪穴建物跡（SH140・SH160）から出土した土器の中には、豊前地方で見られる口縁部が内湾する器形を呈する土器が出土している。また、SH135、SH140などから出土する製塩土器は、大飯湾岸で製作されたと考えられる。以上のことから、立地的にも交通の要衝である若宮八幡宮遺跡第1次調査地点は、広範囲に及ぶ交易圏・流通網の中にあつたと考えられる。

現在、大分平野において、確認されている古墳時代の集落は、前期や後期を主体としている。下部遺跡や植田市遺跡では、古墳時代中期の竪穴建物跡が若干確認されているが、平野内で古墳時代中期の大規模集落は、確認されていない。北ノ後遺跡や毛井遺跡B地区といった、弥生時代から遺構が確認されるような遺跡においても、弥生時代終末～古墳時代前期の集落が確認された後、中期に集落はなく、後期段階に再び集落が形成される。また、後期には集落数が増加し、さらに建物数も、前段階より増加する傾向にある。近年、城原・里遺跡において、7世紀前半の建物群が確認されているが、すでに指摘されているように、多くの集落遺跡は、6世紀の終わりに、集落としての機能を停止する。次に、建物跡などが確認される遺跡が出現するのは、7世紀後半になってからのことである（坪根1997年）。若宮八幡宮遺跡第1次調査地点も、同様の傾向を示す。弥生時代に集落として機能し、古墳時代初頭～前葉にかけて3棟の竪穴建物跡が確認された後、中期の遺構は検出されず、後期段階に再び、集落として機能する。特に、後期後半に、建物数が増加する傾向にある。そして、7世紀前半の遺構はなく、次に確認されるのは、7世紀後半に比定される道路状遺構である。

若宮八幡宮遺跡第1次調査地点で確認された古墳時代の集落は、遺跡の消長という点において、大分平野の他の集落と同様の推移をみせる。しかし、集落内の様相は、玉作り工房の存在、大飯湾岸で製作された製塩土器の出土、竪穴建物跡内部に地床が6世紀後半まで存在するなど、他の集落と明らかに様相を異にする。そして、当集落は、大分平野の中で、交通の要衝、開発拠点、玉作りといった特定の役割を担った集落であると思われる。

### 3. 結び

古墳時代後期後半まで竪穴建物跡に地床が残る原因、若宮八幡宮遺跡で生産された玉の流通範囲・流通状況、当集落の消長が大分平野において同時代の集落の消長と同じ様相を示す原因など、古墳時代においても、解決されなければならない課題は多い。しかし、これらは、古墳時代の大分平野内における遺跡の消長を含め、古墳時代の若宮八幡宮遺跡を取り巻く、政治的・社会的背景が明らかになることによって、解決されようと考えられる。

そして、遺跡の範囲は、地形的制約から、調査地点のある微高地上を越えるとは考えられないため、周辺調査の蓄積によって、微高地上における遺構の分布状況、土地の利用状況などが明らかとなり、弥生時代に端を発する、集落の変遷と様相が明確されることが望まれる。

今後、当調査地点西側の発掘調査が検討されており、さらなる調査の進展が期待される。

#### 参考文献

- 大分県教育委員会 1999『馬牲遺跡・北ノ後遺跡・乙院屋敷遺跡』
- 大分県教育委員会 2002『毛井遺跡B地区』
- 大分県教育委員会 1994『植田市遺跡』
- 大分県教育委員会 1990『下部遺跡群』大分市下部地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報1
- 大分県教育委員会 1991『下部遺跡群』大分市下部地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報2
- 大分県教育委員会 1992『下部遺跡群』大分市下部地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報3
- 大分県教育委員会 2005『下部遺跡群Ⅲ』

大分市教育委員会 2005『海部の道跡1』

大林 元 2006「古墳時代西日本を中心とする製塩土器の用途について－東海地方内陸部出土製塩土器考察の準備作業として－」『研究紀要』12号 静岡県埋蔵文化財調査研究所

大分市教育委員会 2005『東田室道跡2』

坪根 伸也 1997「豊後大分平野における古墳時代から古代にかけての道跡様相－大分市羽屋・井戸道跡の検討から－」『第41回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代から古代における地域社会』

# 報告書抄録

| ふりがな    | わかみやばちまんぐういせきだい1じはっくつしょうさ      |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
|---------|--------------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|-----------------|
| 書名      | 若宮八幡宮遺跡第1次発掘調査                 |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 副書名     | 上野ヶ丘中学校の校舎建替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 巻次      | —                              |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| シリーズ名   | 大分市埋蔵文化財発掘調査報告書                |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| シリーズ番号  | 第67集                           |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 編集者名    | 水町 裕子                          |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 編集機関    | 大分市教育委員会                       |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 所在地     | 〒870-0046 大分市荷揚町2番31号          |                    |                                                                |                   | TEL (097) 534-6111                      |                               |                                  |                 |
| 発行年月日   | 2006年3月31日                     |                    |                                                                |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 所収遺跡名   | 所在地                            | コード                |                                                                | 北緯                | 東経                                      | 調査期間                          | 調査面積                             | 調査原因            |
|         |                                | 市町                 | 遺跡番                                                            |                   |                                         |                               |                                  |                 |
| 下志村遺跡   | 大分県<br>大分市<br>上野町<br>4番5号      | 44210              | 332182                                                         | 33度<br>13分<br>39秒 | 131度 37<br>分00秒                         | 2003.07.<br>28～200<br>4.03.31 | 2700㎡                            | 校舎建<br>替え工<br>事 |
| 所収遺跡名   | 種別                             | 主な時代               | 主な遺構                                                           |                   | 主な遺物                                    |                               | 特記事項                             |                 |
| 若宮八幡宮遺跡 | 包蔵地                            | 弥生時代<br>古墳時代<br>近世 | 溝状遺構<br>井戸遺構<br>貯蔵穴跡<br>独立柱建物跡<br>竪穴建物跡<br>溝状遺構<br>水田遺構<br>造成土 |                   | 弥生<br>土<br>須中<br>近<br>世<br>石・<br>磁<br>玉 |                               | 古墳時代後期の土<br>作りの土房跡を確認<br>するにいった。 |                 |

大分市埋蔵文化財発掘調査報告書 第67集

## 若宮八幡宮遺跡第1次発掘調査

上野ヶ丘中学校の校舎建替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日

2006年3月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-0025 (097) 534-6111

印刷

速印刷株式会社

大分市下郡3055-8